

新潟市文化財センター年報

第8号

—令和元（2019）年度版—

2021

新潟市文化財センター

新潟市文化財センター年報

第8号

—令和元（2019）年度版—



西蒲区 茶院A遺跡出土の「宅」墨書土器（平安時代）

2021

新潟市文化財センター

新潟市文化財センター

【設 置】

新潟市文化財センターは、埋蔵文化財及び有形民俗文化財を保存し、活用を図ることにより、これらに対する市民の関心及び理解を深め、もって市民文化の向上に資するため、『地方教育行政の組織及び運営に関する法律』第30条の規定に基づき設置された教育機関です。

【事 業】

- ① 埋蔵文化財の調査及び研究に関すること。
- ② 発掘調査などにより出土した考古資料の収集及び保存並びに公開、そのほかの活用に関すること。
- ③ 有形民俗文化財の保存及び活用に関すること。

新潟市内には旧石器時代から江戸時代に至る770か所の遺跡が知られています（令和2年3月末）。平成17（2005）年の14市町村による広域合併後の各種開発事業などの増加に伴い、発掘調査も増加の一途をたどりました。その後も継続して発掘調査は一定数行われており、毎年新たに遺跡も発見され、遺跡数も年々増加しています。また、それらに伴う出土遺物や記録類も増えています。

文化財センターは各種開発事業や史跡整備などに伴う発掘調査を行い、埋蔵文化財の調査研究・収蔵保管・展示活用を進めていくために平成23（2011）年7月に開館しました。

文化財センターには、民俗資料収蔵庫も併設しており、敷地内には新潟市指定文化財の旧武田家住宅や畜動舎を移築復元しています。



新潟市文化財センター及び旧武田家住宅

例 言

- ・本書は、新潟市文化財センター（以下「文化財センター」）及び文化スポーツ部歴史文化課（以下「歴史文化課」）の主に埋蔵文化財に係る令和元年度の業務年報である。Ⅰに新潟市の埋蔵文化財行政の概要、Ⅱに各種開発事業に伴う埋蔵文化財に係る事前審査、Ⅲに文化財センター業務年報、Ⅳに新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場業務年報、Ⅴに資料紹介や研究ノートなどの研究活動について収録している。
- ・『新潟市文化財センター年報』（以下『年報』）は平成25年から刊行され、本書は第8号にあたる。文化財センター開館までの新潟市の埋蔵文化財行政の概要及び経緯、文化財センターの概要については、第1号〔渡邊・八藤後ほか2014〕に記載されている。
- ・本書は文化財センター・歴史文化課埋蔵文化財担当職員が分担執筆した。執筆者の氏名は執筆者が替わる各文章の末尾に記載した。なお、全体の統一を図るために内容が変わらない範囲で編集者が字句の修正を行った。ただし、Ⅴについては各執筆者の研究成果の側面があるため、特に統一を図っていない。
- ・本書に記載されている施設名及び所属などについては、本書刊行当時のものである。
- ・本書における調査面積などは、小数第2位を四捨五入して表記している。
- ・『年報』第6号まではⅡ2に主要な試掘・確認調査の概要を掲載していたが、『年報』第7号からは実際に調査を担当している本発掘調査のみ記載している。
- ・Ⅲ2の「調査位置図」は、新潟市地形図（10,000分の1）を使用しており、縮尺は10,000分の1、地図の上位が北である。
- ・図・表番号は、章ごとに1から付している。ただし、Ⅴは節ごとに番号を付している。
- ・掲載遺物の実測・トレースなどは文化財センターで行った。
- ・本書の編集は相田泰臣・田中真理・八藤後智人が行った。

目 次

Ⅰ 新潟市の埋蔵文化財保護行政について	1
Ⅱ 開発事前審査	2
1 事前審査内容	2
Ⅲ 文化財センターの事業	7
1 本発掘調査の概要	7
2 令和元年度の本発掘調査	8
3 整理作業の概要	11
4 資料の収蔵・保管	12
5 資料の公開・展示	13
6 教育普及活動	17
7 保存処理	22
8 決算額	22
Ⅳ 新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場	24
1 資料の公開・展示	24
2 教育普及活動	29
3 古津八幡山遺跡保存活用計画の推進	32
Ⅴ 研究活動－資料報告・研究ノート－	33
1 南区馬場屋敷遺跡下層出土の木製品	33
2 資料報告 茶院A遺跡工事立会遺物	109
引用・参考文献	115
付録（各表）	116

I 新潟市の埋蔵文化財保護行政について

概要 新潟市では、「文化財に関する事項」は『行政組織規則』により市長部局の歴史文化課が主に補助執行することとされている。そのうち埋蔵文化財については、歴史文化課及び文化財センターが所管している。事務分掌は、開発事前審査、試掘・確認調査、工事立会、古津八幡山遺跡を除く史跡管理を歴史文化課が、本発掘調査、保存処理、収蔵・保管、展示・活用、史跡古津八幡山遺跡の保存・活用などを文化財センターが行っている。

開発事前審査 開発事前審査では、民間開発や公共工事に対する事前協議を行い、『新潟市試掘確認調査基準』（平成19年4月1日施行）に基づいて試掘・確認調査の要否を判断している。また、本市は政令指定都市のため、『文化財保護法』（以下『法』）第93条及び第96条に基づく事務については、新潟市教育委員会が『新潟市埋蔵文化財取扱要綱』（平成19年4月1日施行）に基づいて『法』に伴う指示を行っている。

本発掘調査 本発掘調査は、民間や国・県などの原因者から新潟市が受託して「埋蔵文化財本格発掘調査事業」として実施している。本市が原因者の場合は、関係各部署からの依頼を受託して同様に実施している。

令和元年度の埋蔵文化財本発掘調査と整理作業に係る事業費は表1のとおりである。令和元年度に本発掘調査を実施した事業は内容欄に本発掘調査と記載した。

埋蔵文化財 新潟市内には、埋蔵文化財包蔵地が770か所存在する（令和2年3月31日時点）。令和元年度は、試掘調査による新発見遺跡が5か所ある。今後は大規模な圃場整備事業も見込まれ、試掘調査などによってさらなる遺跡の増加が予測される。

本発掘調査件数 平成17年度に広域合併が行われてから令和元年度までの本発掘調査件数は表2のとおりである。令和元年度の本発掘調査件数は2件と少なかったが、15年間では85件行っており、平均すると年間約5～6件の本発掘調査を実施していることになる。

全体の件数では、平成19・20年度が10件と最も多く、それ以降、件数は減少傾向にあるが、1件あたりの本発掘調査の内容では、個人住宅などの小規模なものから、道路建設などの大規模なものまであり、必ずしも件数の減少が調査面積の減少を示してはいない。

種別で見ると、新潟市による道路改良関係（政令指定都市指定以前は新潟県土木事務所）や新潟県地域振興局（以

前は新潟県農地事務所）による圃場整備関係に伴う本発掘調査が定期的に行われており、民間開発関係による本発掘調査は不定期に行われている（図1）。

今年度の本発掘調査は少なかったが、本発掘調査は毎年一定件数実施しており、今後も同様の傾向が続くものと想定される。なお、令和元年度は個人住宅建設に伴う本発掘調査はなかったが、民間開発によって突発的に件数が増大する可能性も十分あり、文化財センターとして本発掘調査に対応できる体制を今後も維持していく必要がある。（相田泰臣）

表1 令和元年度新潟市本発掘調査・整理作業事業費一覧

調査番号	原因者	事業名	遺跡名	内容	事業費(円)	調査面積(m ²)	担当
2019001	新潟市	横越地区雨水調整池整備事業	曾我墓所遺跡	本発掘調査	141,000,000	3,718	澤野慶子
2019002	新潟市	主要地方道新潟中央環状線建設事業	通正遺跡	本発掘調査	175,000,000	3,000	立木宏明
2009002 2010002 2011006	新潟市	大沢谷内遺跡発掘調査事業	大沢谷内遺跡	整理作業 報告書刊行	6,700,000	-	相田泰臣
2017002	県地域振興局	両新地区は場整備発掘調査事業	細池寺道上遺跡	報告書刊行	21,000,000	-	立木宏明 奈良佳子
2017003	新潟市	主要地方道新潟中央環状線建設事業	浦木東遺跡	報告書刊行	1,100,000	-	金田拓也
2017004	新潟市	亀田道下遺跡発掘調査事業	亀田道下遺跡	報告書刊行	1,100,000	-	澤野慶子
2017005	個人	小規模緊急発掘調査事業	秋葉遺跡	整理作業	2,993,309	-	今井さやか
2017006	個人	小規模緊急発掘調査事業	程島跡	整理作業	5,728,647	-	龍田優子
2018002	個人	小規模緊急発掘調査事業	原遺跡	整理作業	4,524,999	-	立木宏明
2018003	個人	小規模緊急発掘調査事業	原遺跡	整理作業	4,524,999	-	立木宏明
2018005	新潟市	砂崩前線遺跡発掘調査事業	砂崩前線遺跡	整理作業 報告書刊行	15,160,000	-	速藤恭雄
合 計					374,306,955		

表2 新潟市本発掘調査件数（平成17～令和元年度）

種 別	年 度													小 計		
	平 成												令 和			
	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28			29	30
民 間	2	5	3	1	0	0	1	0	1	0	1	0	3	2	0	19
県地域振興局(県農地)	2	2	2	2	2	1	3	5	3	1	2	1	1	0	0	27
県土木	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
新潟市	1	1	5	7	2	3	1	3	2	2	0	2	2	3	2	36
合 計	7	9	10	10	4	4	5	8	6	3	3	3	6	5	2	85

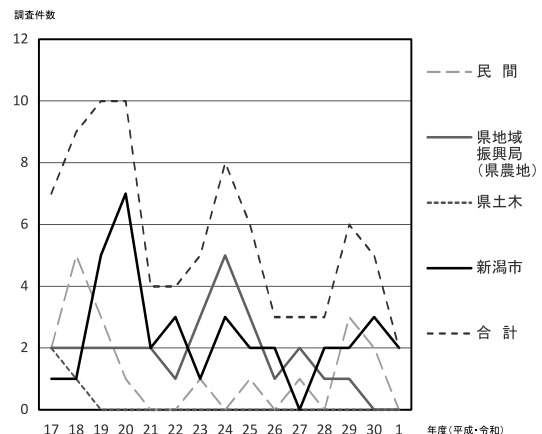


図1 新潟市本発掘調査件数の推移（平成17～令和元年度）

II 開発事前審査

1 事前審査内容

(1) 開発事前審査

概要 新潟市は、国内でも有数な規模を誇る越後平野の中央に位置する。市域の大半を占めるこの越後平野は、長い年月をかけて信濃川・阿賀野川などの大河川が運んできた土砂により形成された沖積平野である。新津や角田・弥彦の丘陵地帯、新潟砂丘（新砂丘Ⅰ～Ⅲ）に代表される砂丘地帯のように標高の高い地域もあるが、大半は低湿地帯である。丘陵を除く地域には鳥屋野潟や福島潟などに代表される潟湖が多数存在し、かつては洪水など水害の多い地帯であった。江戸時代には、新田開発に伴い潟や沼などの水抜き工事が行われており、明治・大正・昭和へと引き継がれた。特に1950年代以降の土木技術の発展に伴う土地改良の結果、湿地帯は徐々に解消されていった。

遺跡（埋蔵文化財包蔵地）は、その大半が地中に埋まっており、地表面観察からの把握は困難である。長年の耕作などにより地表面に露出してきた遺物を丹念に観察・収集し、遺跡の所在把握に取り組んできたが、機械掘削が主体となっている現在の工事では、存在が把握されないまま地中にある遺跡に、直接掘削が及ぶ機会が増大している。すでに周知化されている遺跡及び未周知遺跡の把握・周知・保護は行政の責務と考える。

このような変化に対応しつつ迅速に保護対応を図るため、本市では以下のような取り組みを実施している。

公共事業 国・県機関の実施する土木事業については、年に1度、新潟県教育庁文化行政課が一括して関係機関に照会し、得られたデータを県下の市町村に提供している。審査及び事業者との協議は該当自治体が行っている。

国・県機関実施事業のうち、令和元年度の新潟市関連分は44件であった。前年度は56件なので12件の減である。内訳は表1に示した。県事業中の7件は圃場整備事業に係る事業で、継続して協議を行っている。遺跡に該当する工事については『法』第94条通知が行われている。市の実施する土木・建築事業については、年度ごとに市内全部署へ照会をかけ、その回答をもとに協議を行っている。

規模を問わず、原則全ての事業を収拾するため、審査件数が数百件と膨大になり、短期間での審査・協議が困

難となっている。また、年度途中で生起する小規模事業は事業課の協力を得て早期から情報提供いただき協議している。

民間事業 事業計画地における遺跡の有無、もしくは保護協議の対象地であるかを、歴史文化課窓口及びFAXで対応している。

建築事業については、建築確認申請を提出する際、本市独自の施策として同申請書に「建築確認申請事前調査報告書」の添付を義務付けている（担当は建築部建築行政課）。その事前調査項目に「埋蔵文化財の有無」があり、建築主は歴史文化課へ照会して確認番号を取得する必要がある。その時点で遺跡に該当するかどうか把握できる仕組みとなっている（なお、公共の建築事業についても「計画通知」段階で同様の措置を取っている）。照会目的は専用住宅建築に係る建築確認番号取得や、土地取引もしくは不動産鑑定評価など計画段階での事前調査であり、電柱、看板などがこれに続く。特にFAXでの照会は、民間事業者にかなり定着してきており、日々の審査業務時間は増大している。

開発行為については、各区の『開発審査協議会設置要領』に規定されているとおり『都市計画法』第32条による事前協議書が各区役所建設課に提出された後、歴史文化課を含む市内関係各課に意見照会されるため、全ての案件について取扱い方針の審査と協議を行っている。また、開発行為事前協議時の事前相談が開始された段階で、各区建設課から事業者に対し歴史文化課へも連絡を取るよう指導する対策が取られている。

さらに、本市では土木事業が農地内で行われることが多い。その場合、事前に『農地法』に係る転用許可申請・届出の提出が必要であることから、市内に6つある農業委員会事務局（北区・中央・秋葉区・南区・西区・西蒲区）に歴史文化課への情報提供を依頼し、全件について審査の上、取扱い方針を決定し、必要なものについては事業者と協議を行っている。

このように、民間事業者の行う各種開発などは、許認可事務を担当する市内各部署などと緊密に連携して事前把握を行っている。しかし、専用住宅建築を含む民間事業は、決定してから実施までが速く、試掘・確認調査の実施とその結果を踏まえた協議時間が非常に短い。制度と実行力にバランスが保てるような体制の強化が急務である。

令和元年度 令和元年度の協議実績の概要は以下のとおりである。

国・県事業の件数については先に触れたとおりである。国関係では取扱いが必要となったものはなかった。県関係では、圃場整備及び地盤沈下対策関係について協議対象とした。

圃場整備は、新潟県新潟地域振興局の所管事業であり、同局の農林振興部の所管区域には江南区・秋葉区が含まれ、巻農業振興部の所管区域には西区・西蒲区が含まれている。平成28年度までは巻農業振興部管内の整備計画について主に協議対応してきたが、平成29年度に農林振興部管内でも複数地区で整備が計画され、こちらについても協議対応が必要となった。各区での計画地はいずれも大面積で、市単独の対応が困難になったことから、新潟県教育庁文化行政課・県農地部・新潟地域振興局の担当課、新潟市の4者で、埋蔵文化財保護と整備事業の進捗について調整会を持つこととなった。調整会では市内で実施の整備計画の全容が示され、関係各課は長期的な対応が必要になることを確認した。

市事業の審査件数は487件であり、平成30年度の426件から61件の増となっている。主な内訳としては、水道関係156件（全体の約32.0%）、道路関係202件（同約41.5%）、下水道関係84件（同17.2%）、その他公共施設関係45件（同約9.3%）などとなった。公共施設関係はほとんどが改修工事や設計であった。

民間事業に係る事前審査については表2に示した。平成30年度とほぼ同傾向であるが、案件ごとの重複を除いた実数は8,517件（平成30年度8,947件に比して430件の減）であった。内訳をみると、開発行為は増（平成30年度の72件から80件）、農地転用は減（同577件から468件）、建築確認申請に係る審査件数は減（同4,198件から3,743件）であった。開発行為では宅地造成が最も多く、福祉施設・共同住宅がこれに続く。

(2) 試掘・確認調査

概要 事前審査・協議において、遺跡の有無を事前に把握する必要があると判断した場合は試掘調査、すでに周知遺跡となっているが、その詳細な内容が不明な場合は確認調査を実施している。経費は市の事業「市内遺跡範囲等確認調査事業」として公費から支出している（事業費の約50%は文化庁の補助を受けている）。原則として事業者へ経費負担を求めている。

試掘調査については、公共事業はもちろん、民間事業の場合もほとんどは事業者の理解と協力を得て実施している。以前はまれに試掘調査の実施を拒否される場合があったが、近年はほぼ全ての案件で承諾が得られている。

表1 令和元年度公共事業事前審査主体別内訳

事業主体	審査件数	新発見遺跡 ()は遺跡範囲変更	試掘調査の 協議をしたもの	94条通知
国	12	0	0	0
県	32	5 (2)	6	21
市	487	0	41	12
計	531	5	47	33

表2 令和元年度民間事業事前審査件数

区名	審査種別					審査・ 照会件数	【法】 93条届出
	建築確認	窓口・FAX 照会	32条照会	農地転用	文書照会		
北区	342	340	8	53	2	745	5
東区	603	704	11	39	0	1,357	4
中央区	733	1,102	8	23	0	1,866	5
江南区	450	389	13	44	1	897	53
秋葉区	400	348	9	80	0	837	44
南区	190	188	10	59	4	451	1
西区	792	861	14	155	2	1,824	3
西蒲区	233	282	7	15	3	540	9
合計	3,743	4,214	80	468	12	8,517	124

※審査種別の各項目は次のとおりである。「建築確認」は照会用紙による建築確認申請事前調査報告書に係る照会。「窓口・FAX照会」は「建築確認」以外の照会用紙による照会。「32条照会」は「都市計画法」第32条に係る公文書による照会。「農地転用」は「農地法」第4条・第5条に係る公文書による照会。「文書照会」は「32条照会」、「農地転用」以外の公文書による照会。

表3 令和元年度試掘・確認調査、工事立会件数

区名	調査内容	事業者	件数		埋蔵文化財 検出件数	割合 (%)
			公共	民間		
北区	確認調査	公共	0	0	0	0
		民間	0	0		
	試掘調査	公共	0	2	1	50
東区	確認調査	公共	0	0	0	0
		民間	0	0		
	試掘調査	公共	1	4	1	25
中央区	確認調査	公共	0	0	0	0
		民間	0	0		
	試掘調査	公共	0	1	0	0
江南区	確認調査	公共	2	15	13	87
		民間	13	13		
	試掘調査	公共	2	9	2	22
秋葉区	確認調査	公共	2	4	2	50
		民間	2	2		
	試掘調査	公共	1	6	0	0
南区	確認調査	公共	0	0	0	0
		民間	0	0		
	試掘調査	公共	1	5	0	0
西区	確認調査	公共	0	1	0	0
		民間	1	1		
	試掘調査	公共	1	4	0	0
西蒲区	確認調査	公共	1	4	3	75
		民間	1	1		
	試掘調査	公共	2	5	1	20
合計	確認調査	公共	7	24	18	67
		民間	17	17		
	試掘調査	公共	8	36	5	11
工事立会	公共	28	64	9	14	
	民間	35	29			

※名勝の現状変更に係る工事立会（「法」第125条関連）

表4 令和元年度経費（調査支援委託費のみ 単位：千円）

調査内容		金額
試掘・確認調査 (民間開発・公共事業)	国庫補助対応	24,616
試掘・確認調査 (圃場整備対応)	国庫補助対応	32,413

表5 令和元年度試掘・確認調査一覧(調査番号順)

調査番号	遺跡名 遺跡番号	調査種別	開発種別 事業者	内容	調査地	種別	遺跡の時代	調査で 確認された時代	調査期間	調査 日数	調査面積 (調査対象面積) (㎡)	調査担当	調査員	検出遺構	出土遺物	取扱い	備考	
2019102	-	試掘調査	民間	倉庫	西蒲区 湊山字沢田 7827番 外	-	-	-	4/18・19	2	65.8 (7,632.22)	塚山えりか	-	なし	なし	取扱不要		
2019104	-	試掘調査	民間	ガス施設	西蒲区 舟岡字一妻割 231番 外	-	-	-	4/22	1	37.51 (2,274)	金田拓也	牧野耕作	なし	土師器・須恵器(古代)、 瀬戸・美濃焼(中世)	取扱不要		
2019105	大瀧遺跡 16	確認調査	民間	宅地造成	江南区 大瀧字天神湯 1277番 外	遺物包含地	平安・中世	奈良・平安・ 中世	4/25・26	2	37.51 (1,675.55)	金田拓也	牧野耕作	井戸・溝・ 性格不明遺構・ビット (古代)、竪石間遺構	土師器・須恵器(古代)、 瀬戸・美濃焼(中世)	継続協議		
2019106	-	試掘調査	民間	宅地造成	江南区 三好地 5139番 1 外	-	-	近世	5/8・9	2	45.76 (1,861.65)	金田拓也	-	土坑・ ビット(時期不明)、 土坑・性格不明遺構 (近世)	陶磁器・石製品(近世)	取扱不要		
2019107	-	試掘調査	民間	宅地造成	江南区 萩原町5丁目 212番 外	-	-	近世	5/8	1	37.51 (1,299.77)	金田拓也	-	溝(近世)	なし	取扱不要		
2019109	砂崩上/山道跡 401	確認調査	民間	個人住宅	江南区 砂山一丁目 699番14	遺物包含地	奈良・平安	古墳・平安	4/24・26	3	33.99 (251.74)	塚山えりか	-	土坑・性格不明遺構・ ビット	土師器(古墳)、土師器・須恵器 (古代)、竪石間遺構、石	取扱不要	工事立会	
2019111	(近世新町跡) 575	試掘調査	民間	集合住宅	西蒲区西町 816番10	港町跡	近世	近世	5/13・14	2	51.96 (1,286.18)	塚山えりか	-	なし	陶磁器・硯・木材(近世)	取扱不要	※1 遺物は造成機上から出土。	
2019112	川根谷内墓所遺跡 380	確認調査	民間	農業施設	江南区 横松二丁目 2383番 外	遺物包含地	平安・中世・ 近世	古代	5/10	1	7.5 (3,416)	塚山えりか	-	性格不明遺構(古代)	土師器(古代)	取扱不要	工事立会	
2019113	下郷中遺跡 796	確認調査	民間	宅地造成	江南区 横松東町一丁目 3677番 外	遺物包含地	平安	平安	5/15・16	2	19.42 (3,697.69)	塚山えりか	-	ビット(平安)	土師器・須恵器(平安)	取扱不要	工事立会	
2019114	-	試掘調査	民間	集合住宅	西蒲区 紫雲寺字中割 245番 1 外	-	-	-	5/22	1	25.95 (1,219.27)	塚山えりか	-	なし	なし	取扱不要		
2019115	日本遺跡 388	確認調査	民間	個人住宅	江南区 日本一丁目 2913番 1 外	集落跡	古墳・古代・ 中世	近世	5/14	1	8.75 (387.03)	金田拓也	-	性格不明遺構(近世)	陶器・鉄製品・礫(近世)	慎重工事		
2019116	-	試掘調査	民間	福祉総合 施設	秋葉区 車場一丁目 389番 1 外	-	-	近世	5/16	1	58.71 (5,297.98)	金田拓也	-	なし	磁器(近世)	取扱不要		
2019117	-	試掘調査	民間	宅地造成	南区 鷲ノ木新田字 新田大字 5422番 外	-	-	-	5/21・23	3	90.5 (9,628.09)	金田拓也	-	なし	なし	取扱不要		
2019118	-	試掘調査	民間	保育施設	西区 鳥原字成巻 242番 1 外	-	-	-	5/28	1	26.82 (1,895.94)	金田拓也	-	なし	なし	取扱不要		
2019121	木山遺跡 42	確認調査	民間	個人住宅	西区 木山字聖教寺 583番乙 外	遺物包含地	平安・鎌倉	-	5/30	1	17.82 (985.69)	金田拓也	-	なし	なし	慎重工事		
2019122	牛道遺跡 409	確認調査	民間	駐車場	江南区 曙町二丁目 乙418番 2 外	生産遺跡	平安	平安	6/4	1	35.39 (2,057.00)	金田拓也	-	ビット(平安)	土師器(平安)	取扱不要	工事立会	
2019123	-	試掘調査	民間	店舗	南区 上塩字タフ 197番 1 外	-	-	-	6/11・12	2	86.15 (12,884.83)	金田拓也	-	なし	なし	取扱不要		
2019125	-	試掘調査	民間	工場	西区 赤塚字下克所 5885番 外	-	-	-	6/6	1	35.99 (1,993)	金田拓也	-	なし	なし	取扱不要		
2019126	川根谷内遺跡 365	確認調査	公共	市道	江南区 曙町五丁目 38番15 外	遺物包含地	平安	平安	5/29	1	18 (225)	牧野耕作	-	なし	なし	慎重工事		
2019128	所島前遺跡 754	確認調査	民間	宅地造成	江南区 所島二丁目 乙157番 1 外	散布地→ 遺物包含地	縄文・古代・ 中世・近世	平安	6/17	1	35.02 (865.28)	金田拓也	-	井戸・溝・ 性格不明遺構・ビット (平安)、土坑・ 土坑・溝・ビット	土師器・須恵器(平安)、 陶器(中世)、土師 器・陶器(近世)	取扱不要	工事立会	遺跡の種別変更。
2019131	-	試掘調査	公共	学校	中央区 竹原一丁目 316番 1 外	-	-	-	6/17・20	4	161.85 (11,398)	牧野耕作	-	なし	なし	取扱不要		
2019135	下郷中遺跡 796	確認調査	民間	宅地造成	江南区 横松東町一丁目 3677番 1 外	遺物包含地	平安	平安	6/21	1	19.5 (3,690.09)	金田拓也	-	性格不明遺構・ビット (平安)	土師器・軽石(平安)、 陶磁器(近世)	取扱不要	工事立会	遺跡の範囲変更。
2019136	-	試掘調査	公共 (国)	気象台	西蒲区 開善 5899番 2 外	-	-	-	6/25・26	2	7.6 (130)	金田拓也	-	なし	なし	取扱不要		
2019139	-	試掘調査	公共 (市)	道路	西区 坂井地内	-	-	-	7/1・7/19	14	696.63 (43,000)	牧野耕作	-	なし	なし	取扱不要		
2019142	-	試掘調査	公共 (市)	道路	江南区 城所字三方口 甲229番 1 外	-	-	-	7/16・8/8	15	487.72 (13,000)	金田拓也	-	性格不明遺構(近世か)	なし	取扱不要		
2019145	-	試掘調査	民間	店舗	東区 東中野山一丁目 648番 2 外	-	-	中世・近世	7/30・31	2	61.15 (2,596.42)	金田拓也	-	なし	珠洲焼(調査地外からの搬入)、 陶磁器・土製品・石製品(近世)	取扱不要		
2019146	-	試掘調査	公共 (市)	道路	南区 大野ノ木新田	-	-	-	7/23・7/29	5	167.74 (53,626.62)	牧野耕作	-	なし	なし	取扱不要		
2019148	(駒込墓所遺跡) 364	試掘調査	民間	宅地造成	江南区 駒込二丁目 951番 4	遺物包含地	縄文・奈良・ 平安	平安	8/7	1	19.5 (906)	牧野耕作	-	土坑・溝(平安)	土師器・須恵器・石製品(平安)、 陶磁器(近世)、木製品	取扱不要	工事立会	遺跡の範囲変更。
2019149	川根谷内墓所遺跡 380	確認調査	民間	農業施設	江南区 横松二丁目 2383番 外	遺物包含地	平安・中世・ 近世	古代	8/19	1	2.99 (3,416)	牧野耕作	-	溝(古代)	なし	取扱不要	工事立会	
2019150	-	試掘調査	公共 (市)	道路	江南区 酒田字嘉瀬	-	-	-	8/20・9/5	8	420.78 (18,100)	牧野耕作	-	なし	なし	取扱不要		
2019152	小戸下遺跡 142	確認調査	公共 (市)	公有地売却	秋葉区 小戸下組字浄楽 918番 1 外	散布地→ 遺物包含地	平安・中世	平安・近世	8/20・21	2	42.61 (1,592.62)	金田拓也	-	なし	土師器(平安)、陶器(近世)	取扱不要	遺跡の種別変更。 土地の売却のため、取扱不要。	
2019153	滝谷遺跡 187	確認調査	公共 (市)	公有地売却	秋葉区 滝谷 24番	窯跡	平安	平安	8/22・23	2	44.07 (1,397.08)	金田拓也	-	なし	なし	取扱不要	土地の売却のため、取扱不要。	
2019154	-	試掘調査	民間	宅地造成	秋葉区 車場一丁目 1 外	-	-	近世	8/27・28	2	71.22 (3,506.13)	金田拓也	-	溝(近世)	陶磁器・石製品(近世)	取扱不要		
2019155	峰岡上町遺跡 731	確認調査	民間	個人住宅	西蒲区 峰岡上町 71番 3	集落跡	縄文・弥生・ 奈良・平安・ 近世	近世	9/3・4	2	38.79 (484.43)	金田拓也	-	なし	陶磁器(近世)	取扱不要	工事立会	遺跡の時代変更。
2019156	-	試掘調査	民間	宅地造成	江南区 萩原町四丁目 87番 1 外	-	-	平安・近世	9/9	1	18.6 (1,164.45)	金田拓也	-	溝(近世)	土師器(近世以降の堆積層及び 擾乱)、陶磁器(近世)	取扱不要	土師器は近世以降の堆積層及び擾 乱から出土。	
2019157	-	試掘調査	公共 (国)	国道	中央区 紫原江一丁目 301番 2 外	-	-	-	5/27・28	2	67 (1,990)	高橋保雄 工藤拓夫	-	なし	高橋保雄 工藤拓夫	取扱不要	※2 新潟県教育委員会による調査。	
2019162	藤原遺跡 15	確認調査	民間	集合住宅	秋葉区 大瀧字藤原 109番 1 外	遺物包含地	平安・中世・ 近世	平安・中世・ 近世	9/11	1	16.96 (1,037.11)	金田拓也	-	溝・性格不明遺構・ ビット(平安)、溝(近世)	土師器(平安)、土師器(中世)、 陶磁器・木製品(近世)	取扱不要	工事立会	
2019164	-	試掘調査	民間	工場	南区 上八枚字大田 821番 1 外	-	-	近世	9/12・13	2	64.35 (9,211)	金田拓也	-	なし	木製品(近世)	取扱不要		
2019168	地蔵院遺跡 522	確認調査	公共 (県)	園地整備	西蒲区 河合 358番 外	遺物包含地	平安	-	10/7・11/5	19	67.2 (1,069,000)	牧野耕作	-	なし	なし	継続協議	※3 2019158・199と一連の調査	
2019169	(馬場新田遺跡) 807	試掘調査	公共 (県)	園地整備	西蒲区 河合 358番 外	遺物包含地	奈良	奈良	10/9・11/12	13	648 (1,070,000)	今井さやか	-	なし	土師器(奈良)、木製品	継続協議	新発見遺跡。	
2019171	岡崎南遺跡 894	確認調査	民間	土地 区画整理	西蒲区 朝野字岡崎 3870番 外	遺物包含地	中世	-	10/1	1	18.6 (69,300)	金田拓也	-	なし	木製品(時期不明)	継続協議	遺跡の範囲変更。	
2019172	平道跡 128	確認調査	民間	個人住宅	秋葉区 小江戸町 1134番 平	集落跡	縄文	縄文	10/7	1	3.75 (348)	金田拓也	-	性格不明遺構・ビット (縄文)	縄文土器・石器・軽石・礫(縄文)	本発掘調査		
2019174	-	試掘調査	公共 (県)	園地整備	秋葉区 水田	-	-	-	10/8・11/5	15	618 (500,000)	塚山えりか	-	なし	なし	取扱不要		
2019175	茶院A遺跡 543	試掘調査	公共 (県)	園地整備	西蒲区 打根字 活35番 外	集落跡	古墳・奈良・ 平安・中世・ 近世	奈良・平安	11/11・12/9	14	510 (300,000)	塚山えりか	-	性格不明遺構(古代)	土師器・須恵器(古代)	継続協議	※3 2019227・229と一連の調査。	
2019177	-	試掘調査	民間	事務所	北区 正尺字龜塚 483番 外	-	-	-	10/21・25	4	147.82 (5,569)	金田拓也	-	なし	土師器(混ざりこみ)	取扱不要		
2019178	-	試掘調査	民間	保育施設	東区 石山一丁目 832番 5 外	-	-	-	10/29	1	33.33 (2,547.27)	金田拓也	-	なし	なし	取扱不要		
2019189	-	試掘調査	民間	土地 区画整理	南区 小新字六通 383番 外	-	-	-	11/5・20	9	375.39 (84,500)	金田拓也	-	なし	土師器(表採)、粘土塊・木製品 (時期不明)	取扱不要	土師器は表採。	
2019192	古津八幡山道跡 173	確認調査	公共 (市)	保存目的	秋葉区 古津地内	集落跡	旧石器・ 縄文・弥生・ 古墳・平安	縄文・弥生・ 近世	5/27・11/19	61	2124	相田泰臣 小林美土里	野穴遺物・土坑・溝・ ビット・性格不明遺構	取扱不要	現状保存	保存目的の範囲確認調査。		
2019198	(馬場中遺跡) 805	試掘調査	公共 (県)	園地整備	西蒲区 馬場	遺物包含地	中世	中世	10/7・11/5	19	67.2 (1,069,000)	牧野耕作	-	井戸(中世)	珠洲焼・土製品・木製品(中世)	継続協議	※3 2019168・199と一連の調査。 新発見遺跡。	
2019199	(馬場上遺跡) 806	試掘調査	公共 (県)	園地整備	西蒲区 馬場	遺物包含地	中世	中世	10/7・11/5	19	67.2 (1,069,000)	牧野耕作	-	井戸(中世)	白磁(中世)	継続協議	※3 2019168・199と一連の調査。 新発見遺跡。	
2019200	-	試掘調査	民間	農業施設	秋葉区 市之瀬字下土居下 1380番 2 外	-	-	-	12/10・11	2	57.68 (2,997.00)	金田拓也	-	なし	なし	取扱不要		

調査番号	遺跡名 遺跡番号	調査種別	調査者	開発種別 内容	調査地	種別	遺跡の時代	調査で 確認された時代	調査期間	調査 日数	調査面積 (調査対象面積) (㎡)	調査担当	調査員	検出遺構	出土遺物	取扱い	備 考
2019206	-	試掘調査	民間	宅地造成	江南区 茅野山二丁目 961番1 外	-	-	-	12/24	1	33.95 (1,012.45)	牧野耕作	-	なし	なし	取扱不要	
2019207	-	試掘調査	民間	宅地造成	東区 松崎二丁目 2828番1の内	-	-	-	12/24	1	47.46 (1,415.45)	金田拓也	-	なし	土器(時期不明)	取扱不要	
2019211	岡崎遺跡 794	確認調査	公共 (市)	市道	江南区 新野山二丁目 2742番	遺物包含地	縄文・弥生・ 古墳・平安	平安	2/12・13	2	320 (300)	金田拓也	-	なし	土師器・須恵器・製鉄関連遺物 (平安)、陶磁器(近世)	継続協議	調査番号2018128の追加調査
2019212	-	試掘調査	民間	土地 区画整理	江南区 亀田早通	-	-	-	2/5・25	10	415.9 (142,000)	牧野耕作	-	なし	木製品(時期不明)	取扱不要	
2019213	堂中遺跡 802	確認調査	公共 (県)	圃場整備	西蒲区 西郷	遺物包含地	古墳	古墳	1/28・30	3	381 (10,000)	牧野耕作	-	なし	土師器・石製品(古墳)	工事立会	遺跡の範囲変更。
2019214	駒込墓所遺跡 364	確認調査	民間	個人住宅	江南区 駒込二丁目 345番1	遺物包含地	縄文・奈良・ 平安	縄文・古代	2/4・25	2	19.69 (311.54)	塚山えりか	-	なし	土坑(近世)、ビット (時期不明)	工事立会	
2019215	-	試掘調査	民間	宅地造成	秋葉区 北上二丁目 56番3 外	-	-	-	2/6	1	27.17 (1,192.68)	塚山えりか	-	なし	なし	取扱不要	
2019216	砂崩上ノ山遺跡 401	確認調査	民間	個人住宅	江南区 砂山一丁目 650番5	遺物包含地	奈良・平安	-	2/7	1	8.6 (207.62)	塚山えりか	-	なし	なし	慎重工事	
2019218	-	試掘調査	民間	共同住宅	秋葉区 新津原町 収番	-	-	-	2/20	1	21.9 (705.2)	塚山えりか	-	なし	なし	取扱不要	
2019220	(木崎柳原遺跡) 809	試掘調査	民間	宅地造成	北区 木崎字柳原 1181番1 外	遺物包含地	縄文	縄文	2/27・28	2	61.38 (1,778.89)	塚山えりか	-	なし	縄文土器、土器(近世)	継続協議	新発見遺跡。
2019222	-	試掘調査	公共 (国)	国道	中央区 長崎町 84番1 外	-	-	近世	12/10・11	2	46 (2,554)	高橋保雄 土藤拓大	-	なし	陶磁器(近世)	取扱不要	※2 新潟県教育委員会による調査。
2019223	前山遺跡 11	確認調査	民間	個人住宅	江南区 北前山 395番2 外	遺物包含地	古墳・奈良・ 平安	-	3/13	1	63 (207.11)	牧野耕作	-	なし	土師器(平安)	慎重工事	
2019224	-	試掘調査	民間	店舗	江南区 横越中央一丁目 467番2 外	-	-	-	3/5・6	2	20 (4716.52)	塚山えりか	-	なし	なし	取扱不要	
2019225	-	試掘調査	民間	宅地造成	南区 白根水通町 290番1 外	-	-	-	3/10・11	2	49.87 (5,539.11)	金田拓也	-	性格不明遺構 (時期不明)	なし	取扱不要	
2019227	茶院C遺跡 568	試掘調査	公共 (県)	圃場整備	西蒲区 打越乙字 356番 外	集落跡	古墳・奈良・ 平安・中世・ 近世	奈良・平安	11/11・12/9	14	510 (500,000)	塚山えりか	-	性格不明遺構(古代)	土師器・須恵器(古代)	継続協議	※3 2019175・227・229と一連 の調査。 茶院C遺跡は茶院A遺跡に統合し、 茶院C遺跡は採捨する。
2019228	狐島遺跡 732	試掘調査	公共 (県)	圃場整備	西蒲区 打越乙字 356番 外	集落跡	古墳・奈良・ 平安・中世・ 近世	奈良・平安	11/11・12/9	14	510 (500,000)	塚山えりか	-	性格不明遺構(古代)	土師器・須恵器(古代)	継続協議	※3 2019175・227・229と一連 の調査。
2019229	(囿内遺跡) 808	試掘調査	公共 (県)	圃場整備	西蒲区 打越乙字 356番 外	集落跡	古墳・奈良・ 平安・中世・ 近世	奈良・平安	11/11・12/9	14	510 (500,000)	塚山えりか	-	性格不明遺構(古代)	土師器・須恵器(古代)	継続協議	※3 2019175・227・228と一連 の調査。 新発見遺跡。

※1 近世新潟町跡推定範囲内の周知化しない試掘調査についても、範囲内と判断できるように遺跡名と遺跡番号を記載している。近世新潟町跡の取扱いの経緯は、『年報』第1号に記載されている〔渡邊2014a〕。
 ※2 調査番号：2019157・2019222は新潟県教育委員会が実施した試掘調査のため、新潟市が実施した試掘調査に含まれない。
 ※3 埋蔵文化財情報管理システムの運用上、同一の調査でも遺跡が複数に分かれる場合は、遺跡ごとに調査番号が付けられている。

試掘調査の意義と効果に対する理解が事業者に浸透してきていると思われる。

令和元年度 表1・3のとおり、試掘調査36件、確認調査24件、計60件の調査を実施した。平成30年度の件数と比較すると試掘調査が9件の減、確認調査が4件の増となっている。公共事業に伴う試掘調査では道路・圃場整備事業が多く、民間事業に伴う試掘調査は宅地造成や店舗建設が多い。また、確認調査では専用住宅が多い。道路建設や圃場整備事業など1件当たりの事業規模(調査対象面積)が大規模なものは調査期間も長期に及び、市職員の現地調査日は平成30年度並みに費やしている。

地域別では、秋葉区・江南区が多い。遺跡数も多いが、両区は公共事業・民間事業ともに他の区より多い。

今年度の試掘調査で新しく発見された遺跡は、木崎柳原遺跡(北区)・潟頭新田遺跡・馬堀中組遺跡・馬堀上組遺跡・囿内遺跡(西蒲区)の計5遺跡である。西蒲区の遺跡は圃場整備に伴う試掘調査で発見された遺跡である。

(3) 工事立会

概要 工事立会は、遺跡の範囲内で行われる各種土木工事などに対し、原則として事前の試掘・確認調査で遺跡の内容を十分把握したうえで、『埋蔵文化財の保護と発掘調査の円滑化について(通知)』(平成10年9月29日付庁保記第75号庁保記第75号 各都道府県教育委員会教育長宛文化庁次長通知、以下『文化庁標準』)及び『発掘調査の要否等の判断基準』(平成11年9月10日付教文第578号、以下『新潟県基準』)に従って実施している。

具体的には、以下の通りの判断基準で実施している。

・「土木工事等により、明らかに遺跡の一部が破壊されるが、掘削範囲がきわめて狭小(『新潟県基準』により原則として掘削幅1m以下)であるため、記録保存を目的とした本発掘調査の実施が困難であるもの」

・「掘削が遺物包含層等に及ばず、保護層も確保できる見込みであるが、施工が設計通りであるか立会によって確認する必要が認められる場合」などである。

工事立会は、『法』第93条の届出に対する指示として、あるいは、同第94条の通知に対する取扱い勧告として事業者へ通知する。事業者は工事日程が決定次第当課へ連絡する。工事立会は、事業者の工程に従って新潟市の埋蔵文化財担当専門職員が現地に訪れている。

特に長期間にわたる大規模な工事の場合は、事業者の協力を得て、あらかじめ施工者代理人を交えた打合せを綿密に行うようにしている。これにより、保護施策の意義を理解してもらうことができ、工程の一部変更などの早期連絡体制が強化されてきている。

工事立会により遺物や遺構が発見された場合は、その場で記録を取り、出土遺物や記録類は、試掘・確認調査に準じた取扱いとしている。

近年の課題は、圃場整備などに伴う長期間の工事立会において市職員の人数に限られる中、対応に困難な場合が生じている。また作業員を委託するなど経費も相当にかかってきている。人員体制など今後検討していく必要がある。事業者の理解と協力が欠かせないので、今後も丁寧な説明を心掛けて行く必要がある。

令和元年度 表3・6のとおり64件の工事立会を行った。平成30年度の83件から19件の減である。西蒲区での

圃場整備関係が対象面積も大規模で長期間に及んでいる。ほかは個人住宅関係・下水道・水道などの案件が多い。最近は、NTT電話柱の工事立会增加傾向にある。
(朝岡政康)



試掘調査風景 (2019117・鷺ノ木新田地区)



工事立会風景 (2019127・茶院A遺跡)

表6 令和元年度工事立会一覧 (調査番号順)

調査番号	道路名		開発種別	所在区	調査期間	調査担当	検出 遺構	出土 遺物
	遺跡番号	事業者 内容						
2019101	真田郷遺跡 793	民間	個人住宅	秋葉区	5/9	金田拓也	×	×
2019103	山木戸遺跡 112	民間	個人住宅	東区	4/1	諫山えりか	×	×
2019108	腰廻遺跡 157	民間	宅地造成	秋葉区	4/9-22.5/29.6/3-7	牧野耕作	×	×
2019110	結七島遺跡 209	公共 (市)	道路	秋葉区	5/14-15-20-22-23-28、 6/5-17-20	金田拓也	×	×
2019119	川根谷内墓所遺跡 380	民間	農業施設	江南区	5/21	金田拓也	×	×
2019120	細池寺道上遺跡 151	公共 (外)	電話柱	秋葉区	5/23	金田拓也	×	×
2019124	日本遺跡 398	民間	個人住宅	江南区	5/27	金田拓也	×	○
2019127	茶院A遺跡 543	公共 (県)	圃場整備	西蒲区	6/3-7-10-14-17-21-24- 28.7/1-2-4-5-8-12-16- 20-22-26-29.8/1-2-5-8- 20-23-26-28.10/1-4-7- 11-15-18-21-23-24-28- 30-31.11/13-15-18-20- 21-25-26-28-29.12/2-5、 3/10-13-17	諫山えりか	○	○
2019129	牛道遺跡 409	民間	駐車場	江南区	6/17	金田拓也	×	×
2019130	砂崩上ノ山遺跡 401	民間	個人住宅	江南区	11/1-7	金田拓也	×	×
2019132	亀田城山A遺跡 383	民間	個人住宅	江南区	6/20-21	金田拓也	×	×
2019133	前山遺跡 11	民間	個人住宅	江南区	4/4.5/30-31	金田拓也	○	○
2019134	福島遺跡 552	公共 (県)	圃場整備	西蒲区	5/7-8	金田拓也	×	×
2019137	下郷中遺跡 796	民間	宅地造成	江南区	6/29.7/1-6-10-11-16-17- 22-24-25-29-31.8/1-3-5- 9-19-20	金田拓也	○	○
2019138	木山遺跡 42	公共 (外)	電話柱	西区	6/28	金田拓也	×	×
2019140	所島前遺跡 754	民間	宅地造成	江南区	7/8-9-11-22	金田拓也	×	×
2019141	江内遺跡 193	公共 (外)	電話柱	秋葉区	7/16	金田拓也	×	×
2019143	結七島遺跡 209	公共 (外)	電話柱	秋葉区	7/9	金田拓也	×	×
2019144	亀田道下遺跡 768	民間	個人住宅	江南区	7/22	金田拓也	×	×
2019147	砂崩上ノ山遺跡 401	民間	個人住宅	江南区	10/11	金田拓也	×	×
2019151	所島前遺跡 754	民間	個人住宅	江南区	8/7-8	金田拓也	×	×
2019158	駒込墓所遺跡 364	民間	宅地造成	江南区	9/4	金田拓也	×	×
2019159	程島前跡 168	民間	個人住宅	秋葉区	9/5	金田拓也	×	×
2019160	亀田道下遺跡 768	民間	個人住宅	江南区	9/14	金田拓也	×	×
2019161	亀田道下遺跡 768	民間	個人住宅	江南区	9/16	金田拓也	×	×
2019163	下郷南遺跡 758	民間	個人住宅	江南区	9/11-12	金田拓也	×	×
2019165	結七島遺跡 209	公共 (外)	電話柱	秋葉区	9/17-18	金田拓也	×	×
2019166	腰廻遺跡 157	民間	集合住宅	秋葉区	9/24-25-28	金田拓也	○	×
2019167	砂崩上ノ山遺跡 401	公共 (市)	水道	江南区	9/25-26-27-30	金田拓也	×	×
2019170	下郷南遺跡 758	公共 (市)	下水道	江南区	10/8-11-15-18	金田拓也	×	×
2019173	名勝 旧齋藤氏邸 庭園	公共 (市)	透水性調査	中央区	1/17-25	朝岡政康	×	×
2019176	丸山遺跡 13	公共 (外)	電話柱	江南区	10/18	金田拓也	×	×
2019179	漆山上山遺跡 750	公共 (県)	圃場整備	西蒲区	10/19-21-24.11/13	金田拓也	×	○
2019180	島瀬遺跡 623	公共 (県)	圃場整備	西蒲区	10/24-26-28-29.11/14-15	金田拓也	×	○
2019181	砂崩上ノ山遺跡 401	公共 (市)	下水道	江南区	10/29	金田拓也	×	×
2019182	宮下遺跡 780	公共 (県)	圃場整備	西蒲区	10/25.11/6.11/26	金田拓也	×	×
2019183	繁ノ木原遺跡 771	公共 (県)	圃場整備	西蒲区	10/25.11/26	金田拓也	×	×
2019184	秋葉遺跡 182	民間	個人住宅	秋葉区	5/23	牧野耕作	×	×
2019185	仲歩切遺跡 572	公共 (市)	道路	西蒲区	11/5-7-11-20	金田拓也	×	×
2019186	仲歩切遺跡 572	公共 (市)	圃場整備	西蒲区	11/6-7-9-11-12-21-22	金田拓也	×	○
2019187	西江浦遺跡 150	公共 (県)	圃場整備	秋葉区	11/11	金田拓也	×	×
2019188	細池寺道上遺跡 151	公共 (県)	圃場整備	秋葉区	11/8-9-11-15-18-20	金田拓也	×	○
2019190	所島前遺跡 754	公共 (市)	下水道	江南区	11/11-12-14	金田拓也	×	×
2019191	結七島遺跡 209	公共 (市)	水道	秋葉区	11/18.12/9-13-16-25	金田拓也	×	×
2019193	道上荒田遺跡 548	公共 (県)	圃場整備	西蒲区	11/27	金田拓也	×	×
2019194	仲歩切遺跡 572	公共 (県)	圃場整備	西蒲区	11/27	金田拓也	×	×
2019195	桑山前田遺跡 798	公共 (県)	圃場整備	西蒲区	11/27	金田拓也	×	×
2019196	前山遺跡 11	民間	個人住宅	江南区	12/12-13	金田拓也	×	×
2019197	大沢谷内遺跡 342	公共 (市)	農業用排水路	秋葉区	12/12-13-17-19-21	金田拓也	×	×
2019201	狐島遺跡 792	公共 (県)	圃場整備	西蒲区	12/18-21-23	金田拓也	×	×
2019202	宮上南遺跡 789	公共 (市)	圃場整備	西蒲区	1/31.2/1-20.5/18	金田拓也	○	○
2019203	正尺A遺跡 291	民間	個人住宅	北区	12/18-19	金田拓也	×	×
2019204	仲歩切遺跡 572	民間	ガス	西蒲区	12/16-17	金田拓也	×	×
2019205	真木江向遺跡 801	公共 (県)	圃場整備	西蒲区	12/18	金田拓也	×	×
2019208	大瀧遺跡 16	民間	個人住宅	江南区	1/6	牧野耕作	×	×
2019209	寺山遺跡 20	民間	個人住宅	東区	12/24	金田拓也	×	×
2019210	宮上遺跡 803	公共 (市)	圃場整備	西蒲区	1/8-9-14-15.2/11-12-17-25	金田拓也	×	×
2019217	法花鳥居A遺跡 239	民間	個人住宅	北区	2/10	金田拓也	×	×
2019219	砂崩上ノ山遺跡 401	民間	給水管	江南区	2/13	金田拓也	×	×
2019221	駒込墓所遺跡 364	民間	個人住宅	江南区	2/13	諫山えりか	×	○
2019226	道上遺跡 213	公共 (市)	下水道	秋葉区	2/26	金田拓也	×	×
2019230	駒込墓所遺跡 364	民間	個人住宅	江南区	3/27-30-31	諫山えりか	×	○
2019231	名勝 白山公園	公共 (市)	東屋改築	中央区	1/15-16	朝岡政康	×	×
2019232	名勝 白山公園	公共 (市)	藤棚改築	中央区	2/19-20	朝岡政康	×	×

Ⅲ 文化財センターの事業

1 本発掘調査の概要

(1) 本発掘調査について

埋蔵文化財包蔵地は法により保護の対象となっている。現状のまま保存され、後世に継承されることが望ましいが、工事によって掘削されるなど、現状保存が不可能な場合は、記録による保存を目的とした発掘調査が必要となる。これを本発掘調査と呼んでいる。本発掘調査は報告書の刊行をもって完了する。

新潟市では、『法』第94条の通知については、事前に試掘・確認調査を実施して遺跡の内容などを把握し、文化庁の示した標準（『文化庁標準』）及びそれを受けて細目を設定した新潟県教育委員会の基準（『新潟県基準』）に則して取り扱い意見を付して県教育委員会へ副申している。

一方、『法』第93条の届出については、『新潟県基準』とこれを参考に新潟市が定めた『新潟市埋蔵文化財事務取扱要綱』（平成19年4月1日施行）に則して取り扱いを決定し、届出者へ通知している。

本発掘調査が必要な場合は、最小限の規模を目指して開発事業者などと遺跡の取扱いについて協議しているが、公共事業では各種法令に基づき設計されていることから、設計変更し遺跡の現状保存を図ることが困難な場合が多い。民間事業でも大規模な設計変更はできないのが現状である。

本発掘調査実施にあたっては、『法』第99条により、新潟市教育委員会が直営体制で実施している。

新潟市では、歴史文化課が教育委員会事務を補助執行しており、歴史文化課埋蔵文化財担当が本発掘調査について事業者との全体協議を担当し、文化財センターが本発掘調査を担当している。しかし、調査の件数・規模に対し、現体制では調査担当（正）及び調査員（副）となる

市職員は人数が限られている。また、現場作業と並行して整理・報告書作成作業も進める必要があるため、正副職員体制で本発掘調査を行うことが困難となっている。このため、民間調査組織を導入し、調査員として調査業務の一端を担ってもらっている。調査担当は、本発掘調査全体管理のほか民間調査組織の監理も求められる。

(2) 令和元年度の本発掘調査

表1に示したとおり、2遺跡で本発掘調査を行った。道路建設に係る調査1件、雨水調整池建設に係る調査1件で、計2件である。いずれも市の建設事業に係る調査である。

江南区の道正遺跡は新潟中央環状線建設に係る調査で、遺跡は平安時代・古墳時代・縄文時代が層位的に検出されており、令和元年度は上層の平安時代について調査を実施した。古墳時代・縄文時代は令和2年度に調査を予定している。調査面積は3,000㎡である。

江南区の曾我墓所遺跡は雨水調整池建設に係る調査で、調査対象面積は約7,000㎡である。遺跡は奈良～平安時代である。沖積地に立地する遺跡の特性から遺構検出の難度が高く、単年度での調査完了が困難と判断されたことから、2か年計画とし、令和元年度は3,718㎡を調査した。（朝岡政康）

(3) 令和元年度の本発掘調査現地説明会

令和元年度は曾我墓所遺跡と道正遺跡で現地説明会を開催した（表2）。両遺跡ともそれぞれ70名を超える参加があり、市民の遺跡や地域の歴史に対する関心の高さがうかがえる。（相田泰臣）

表2 令和元年度本発掘調査現地説明会参加者数

年月日	遺跡名	参加者数（人）
2019/10/19(土)	曾我墓所遺跡	97
2019/10/19(土)	道正遺跡	70

表1 令和元年度新潟市本発掘調査一覧（調査番号順）

調査番号	遺跡名	調査回数(次)	発掘調査面積(㎡)	調査地	調査の原因	調査担当	調査員	発掘調査期間	遺跡の時代	主な遺構	主な遺物	位置番号(図1)
	遺跡番号											
2019001	曾我墓所遺跡 379	2	3718.0	江南区 横越3939外	雨水調整池建設 (公共事業)	澤野慶子	遠藤恭雄、 脇本博康・高柳俊輔・阿部司 (藤吉田建設)	6/3～12/16	古代・近世	竪穴状遺構・掘立柱建物・ 井戸・土坑・溝(古代)	土師器・須恵器・金属製品・鍛冶 関連遺物・石製品・木製品(古代)	1
2019002	道正遺跡 795	2	3000.0	江南区 割野字道正 2870外	道路整備 (公共事業)	立木宏明	奈良佳子、 藤本隆之・山中悟郎・櫻井和哉 (麻ノガミ)	2019.6.1～ 2020.3.25	縄文(晩期)・ 古墳(前期)・ 古代(平安)	土坑・性格不明遺構・ 溝状遺構・ヒット・畦畔 (古代)・畦畔(中世以降)	縄文土器・石器・石製品(縄文)・ 土師器(古墳)・土師器・須恵器・ 土製品・石製品・木製品(古代)	2

2 令和元年度の本発掘調査

令和元年度に本発掘調査を行った遺跡は2遺跡（曾我墓所遺跡・道正遺跡）であり、その調査概要を調査番号順

に次項より記す。

なお、概要掲載遺跡の位置を図1、一覧を表1に示した。各項題は、調査名であり、末尾括弧内は調査番号である。（相田泰臣）



図1 令和元年度本発掘調査位置図（1/300,000）



現地説明会風景（曾我墓所遺跡第2次調査）



現地説明会風景（道正遺跡第2次調査）

(1) 曾我墓所遺跡 第2次調査 (2019001)

所在地 新潟市江南区横越6047 外
調査の原因 雨水調整池新設 (公共事業)
調査期間 令和元年6月3日～12月16日
調査面積 3,718㎡
調査担当 澤野慶子
調査員 遠藤恭雄、
脇本博康・高柳俊輔・阿部司
(株吉田建設)

処置 記録保存

調査に至る経緯 雨水調整池建設工事に伴い実施した試掘調査(第1次・2017250)の結果、奈良・平安時代の遺構・遺物が全域で検出され、隣接する曾我墓所遺跡が事業予定地まで拡大することが確認された。

調査の結果から事業予定地全域が本調査の対象となった。これを受けて平成30年10月9日付で東部地域下水道事務所より『法』94条の通知が提出された。その後、協議を進めたところ、本調査範囲が広大であるため調査は2年に分けて実施することになり、このうち令和元年度は事業予定地の東側半分を調査することとなった。これらを受け、令和元年5月27日付新歴F第26号で着手報告を提出し、本発掘調査を実施した(図1)。

位置と環境 遺跡は阿賀野川左岸の自然堤防上に立地する。現地の標高は3.9m前後で、現況是水田である。周辺の自然堤防上には下郷遺跡や下郷南遺跡といった古代・中世の遺跡が点在している。また、遺跡の北西約2.5kmには亀田砂丘が位置しており、縄文時代から平安時代の主要な遺跡が多く分布している。

検出遺構 遺構は竪穴状遺構5基、掘立柱建物2基、土坑91基、性格不明遺構20基、溝3条、ピット86基を検出した。遺構は調査区北側を中心に分布している。竪穴状遺構は焼土遺構を伴って検出しており、カマドを持つ竪穴建物と考えたい。また調査区北東部では隣接する複数の土坑から鉄滓やフイゴ羽口など、鍛冶に関わる遺物が出土している。このほか上層で井戸や土坑などの近世の遺構が検出された。土坑からは骨片や棺の一部、釘などが出土しているため、近世墓の可能性も考えられる。

出土遺物 8世紀から9世紀初頭の土器を中心にコンテナで187箱の遺物が出土した。主体となるのは8世紀の須恵器食膳具である。土師器は主に煮炊具が出土しており、この他に鍛冶関連遺物や石製品、近世陶磁器が確認された。須恵器は阿賀野川以北(以下、阿賀北)の地域や新津丘陵で製作されたものが多い。

まとめ 遺構の分布や遺物の出土状況から、遺跡の中心は調査区北東側にあると考える。また、カマドを

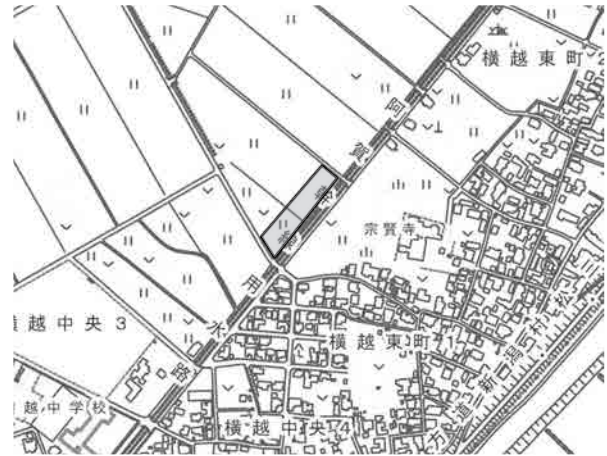


図1 調査位置図(1/10,000)



調査区遠景(北東から)



竪穴状遺構(SI181・南西から)

伴う竪穴状遺構(竪穴建物)が複数基確認されていることから、集落の中でも居住域にあたと推測される。

新潟市ではこれまで古代の竪穴建物の調査例は少なく、今回の調査は貴重な調査事例と言える。一方、阿賀北地域では同様の遺構が多く見つかっており、須恵器の産地と合わせて阿賀北地方との関係が注目される。また、曾我墓所遺跡は、遺跡の南を流れていた旧河道が阿賀野川に合流する地点に位置すると推測され、この付近が河川交通の要所であった可能性が考えられる。

なお、令和2年度には事業予定地の西側半分の調査を実施し、報告書は令和4年度に刊行する予定である。

(澤野慶子)

(2) 道正遺跡 第2次調査 (2019002)

所在地 新潟市江南区割野字道正2868 外

調査の原因 主要地方道新潟中央環状線道路改良工事
(公共事業)

調査期間 令和元年6月1日～令和2年3月25日

調査面積 3,000㎡

調査担当 立木宏明

調査員 奈良佳子、
藤本隆之・山中悟郎・櫻井和哉
(株ノガミ)

処置 記録保存

調査に至る経緯 主要地方道新潟中央環状線道路改良工事に先立って実施した試掘調査の結果、割野地域内で、遺物包含層が残存することが明らかになり、道正遺跡(縄文・古墳・平安時代)として周知化された。平成30年11月19日付で法『94条』の通知が事業者より提出され、その後の協議の結果、令和元年度は道路法線内の3000㎡について本発掘調査を実施することで合意に至った。平成31年2月13日付で本発掘調査依頼書が事業者より提出されたことを受け、令和元年5月31日付で着手報告を提出し、本発掘調査を実施した。

位置と環境 遺跡は東西を阿賀野川・信濃川、南を小阿賀野川に囲まれた沖積地に立地する。付近一帯は、標高1.2m前後の水田地帯である。遺跡地内で発見された埋没砂丘は、その立地から北東に連なる亀田砂丘前列(新砂丘I-2、形成年代約6,900~6,600年前)の延長線上に位置する埋没した砂丘列の一部と考えられる。

層序 基本層序はI層が客土(盛土層)、II層が旧耕作土、III層が水田床土、IV層が灰色シルト層で、河川の洪水堆積とみられる漸移層、V層が黒灰シルト層で平安時代の遺物包含層、VI層が青灰色シルト層で縄文・古墳時代の遺物包含層、その上面が平安時代の遺構確認面である。VII層で黒砂層になり、主に縄文時代の遺物が包含される。VII層以下が砂丘の形成層となる。今年度はVI層上面の平安時代の生活面を調査した。

検出遺構 遺構は土坑6基、性格不明遺構1基、溝状遺構5条、小土坑132基、畦畔7条の計151基が検出された。遺構の帰属時期は、中世以降の畦畔5条のほかはすべて平安時代である。

遺跡の基盤をなす埋没砂丘は、調査区のほぼ中央で比較的平坦な砂丘頂部をもつ。その規模は東西約60m、頂部と裾の比高差は約2mである(第2次調査終了時)。西側の急斜面では広範囲にわたる炭層が検出され、そこから、多量の土師器・須恵器片が出土し、管状土錘もまとめて出土した(SX7)。廃棄場、もしくは祭祀場と推定

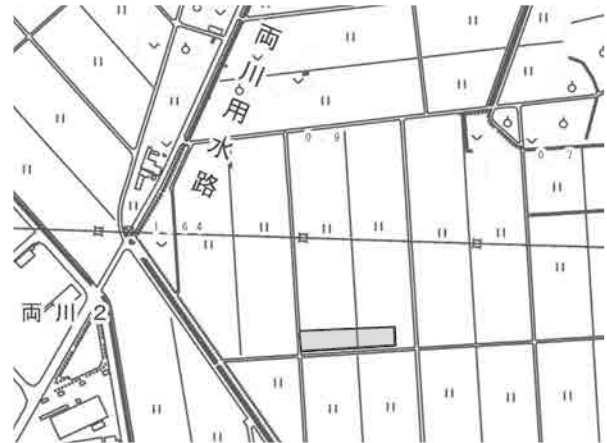


図1 調査位置図(1/10,000)



調査地全景(南から)



勾玉出土状況(VII層)

される。また、小土坑がまとまって検出された中央の平坦部では居住域が、畦畔が検出された東側の低地では、生産域が展開したと考えられる。

出土遺物 遺物はコンテナにして120箱出土した。V層からは平安時代の土師器・須恵器が、VI層以下を掘り抜いた層位確認トレンチや土側溝からは古墳時代の土師器が、VII層から主に縄文晩期中葉の土器が出土した。平安時代の石製品(磨石・敲石など)、縄文時代の石器(石鏃・磨製石斧など)も定量出土し、縄文時代の勾玉(長さ17mm、幅12mm)といった希少な遺物も出土している。

まとめ 今年度調査では、上層から埋没砂丘上に立地する平安時代の集落の一部を検出した。来年度はVI層以下の縄文・古墳時代の層位を主に調査する予定である。(立木宏明)

3 整理作業の概要

令和元年度に文化財センターが実施した本発掘調査などの整理作業の一覧を調査番号順に表3に、令和元年度に刊行した報告書を刊行順に表4に示した。

(1) 試掘・確認調査、工事立会、本発掘調査の再整理事業

試掘・確認調査、工事立会は、基本的に歴史文化課で実施し、出土遺物は調査担当の指示により文化財センターで水洗・注記・収蔵作業を行っている。令和元年度は、県営圃場整備事業関係の試掘・確認調査の対象面積が広く、歴史文化課だけでは手が回らなかったため、一部調査にも文化財センター職員が関わった。

本発掘調査以外の遺物は、一般的に公開されることなく収蔵されてしまう場合が多い(2017年度までは、本書『年報』で主要な試掘・確認調査及び工事立会について掲載していたが、前号から割愛している)。

令和元年度は前年度の試掘・確認調査、工事立会に伴う遺物の整理を行い、37調査分でコンテナ約45箱を収蔵した(古津八幡山遺跡確認調査を除く)。報告書刊行済みの掲載遺物は、コンテナ収納状況の点検を行い、接着剤や充填材の経年劣化により破損した資料の再接合などを適宜行っている。

(2) 整理作業

表3に示すとおり、複数の本発掘調査について整理作業を行っており、順次報告書を刊行している。

(3) 令和元年度刊行報告書

発掘調査は報告書の刊行をもって完了する。報告書は、調査終了後、可能な限り早期の刊行が望まれる。

表4に示したとおり、令和元年度に報告書を刊行した本発掘調査は5遺跡である。このうち、国道建設事業や県営圃場整備事業に伴いこれまでに継続して本発掘調査や報告書の刊行を行ってきた大沢谷内遺跡(2009002・2010002・2011006)と細池寺道上遺跡(2017003)について、それぞれ『大沢谷内遺跡VI』、『細池寺道上遺跡IX』として調査報告書を刊行した。これにより、大沢谷内遺跡は長期にわたる事業がひとまず完了した。

また、平成29年度に道路整備に伴い発掘調査を行った浦木東遺跡(2017003)と亀田道下遺跡(2017004)、同じく道路整備に伴い平成30年度に発掘調査を行った砂崩前郷遺跡(2018005)の調査報告書もそれぞれ刊行した。

なお、発掘調査報告書ではないが、令和元年度に「史跡古津八幡山 弥生の丘展示館」で開催した企画展の関連講演会3本とそれらのアンケート結果などを収録した記録集を刊行した(上記企画展などの詳細については、本書IV章や〔新潟市文化財センター2020〕を参照)。(相田泰臣)

表3 令和元年度整理作業一覧

遺跡名・事業名	調査回数	調査番号	調査原因	整理担当	主な作業内容
大沢谷内遺跡	15・17・19	2009002・2010002・2011006	道路整備	相田泰臣	報告書作成・刊行
細池寺道上遺跡	50	2017002	圃場整備	立木宏明・奈良佳子	報告書作成・刊行
浦木東遺跡	3	2017003	道路整備	金田拓也・澤野慶子	報告書作成・刊行
亀田道下遺跡	2	2017004	道路整備	澤野慶子・遠藤恭雄	報告書作成・刊行
秋葉遺跡	13	2017005	個人住宅建設	今井さやか	報告書作成
程島館跡	7・9	2017006・2018002	個人住宅建設	龍田優子	報告書作成
原遺跡	10	2018003	個人住宅建設	立木宏明	報告書作成
砂崩前郷遺跡	3	2018005	道路整備	遠藤恭雄・澤野慶子、重留康宏(株シン技術コンサル)	報告書作成・刊行
曾我墓所遺跡	3	2019001	道路整備	澤野慶子・遠藤恭雄、脇本博康・高柳俊輔・阿部司(株吉田建設)	基礎整理
道正遺跡	2	2019002	道路整備	立木宏明・奈良佳子、藤本隆之・山中悟郎・櫻井和哉(株ノガミ)	基礎整理
試掘調査・確認調査・工事立会・本発掘調査再整理事業	-	-	各種事業	相澤裕子	収蔵作業・台帳作成・遺物修復

表4 令和元年度刊行発掘調査報告書など一覧

書名	副書名	発行年月日	執筆者
浦木東遺跡 第3次調査	主要地方道新潟中央環状線浦木工区道路改良工事に伴う浦木東遺跡第3次発掘調査報告書	2019年9月30日	金田拓也・澤野慶子ほか
細池寺道上遺跡IX 第50次調査	県営ほ場整備事業(担い手育成型)両新地区に伴う細池寺道上遺跡第25次発掘調査報告書	2019年11月1日	立木宏明・奈良佳子ほか
砂崩前郷遺跡 第3次調査	市道砂崩南線建設事業に伴う砂崩前郷遺跡第2次発掘調査報告書	2020年2月29日	遠藤恭雄・澤野慶子ほか
亀田道下遺跡 第2次調査	市道亀田南線建設事業に伴う亀田道下遺跡第2次発掘調査報告書	2020年3月13日	澤野慶子・遠藤恭雄ほか
大沢谷内遺跡VI 第15・17・19次調査	一般国道403号小須戸田上バイパス整備工事に伴う大沢谷内遺跡第10・11・12次調査	2020年3月31日	相田泰臣・八藤後智人ほか
令和元年度 史跡古津八幡山 弥生の丘展示館 企画展関連講演会 記録集		2020年3月30日	小林美土里(編集)

4 資料の収蔵・保管

各項の概要及び基本的事項の詳細は、『年報』第1号に記載されている〔渡邊2014b〕。

(1) 収蔵方針

文化財センターは、新潟市内で発掘調査によって出土した遺物や、写真・図面などの記録類を一括集中管理している。

また、文化財センター開館前の平成22年以前の発掘調査によらない考古資料は、各区の博物館や資料館などで保管・管理が行われている。

(2) 収蔵・保管施設

収蔵・保管施設には、埋蔵文化財収蔵庫・特別収蔵庫1（木製品）・2（金属製品）・資料収蔵庫・図書室・民俗資料収蔵庫がある。民俗資料収蔵庫はⅢ4（6）に記載した。

埋蔵文化財収蔵庫 土器や石器など温湿度変化の影響を受けにくい資料を収蔵している。令和2年3月末時点でコンテナ・段ボール箱12,074箱収蔵されている。

特別収蔵庫1・2 保存処理が完了した木製品や金属製品などを収蔵している。令和2年3月末時点で特別収蔵庫1にコンテナ1,012箱（木製品）、特別収蔵庫2にコンテナ191箱（金属製品92箱、骨・骨製品99箱）収蔵されている。特別収蔵庫1では67箱増加したが、特別収蔵庫2ではコンテナの詰め替えを行ったため5箱減少した。

資料収蔵庫 発掘調査の図面や写真フィルム・測量成果簿、CD・DVDなどの記録類を収蔵している。

図書室 Ⅲ6（6）に記載した。

(3) 発掘調査番号

遺物や調査記録類をまとめるために、新潟市内における全ての発掘調査（試掘・確認調査、本発掘調査、そのほかに工事立会を含む）に対して年度ごとに調査番号（7桁）を付けている。

(4) 再整理作業

文化財センター開館以前の調査資料について、平成30年度も継続して台帳整備などの作業を行っている。また、報告書刊行済みの資料は、適宜点検を行い、接着剤や充填材の経年劣化による破損が認められるものについて修復を進めた。

(5) 収蔵資料のデジタル化及びデータベース化

保存と活用のために、遺物・遺構に関しては台帳を作成し、図面や写真などの記録類はデジタル化されている。

発掘調査図面は、殆どが業者に委託したデジタルデータ（CADデータ）が存在する。

写真に関しては、発掘調査終了後速やかにデジタル化

を行っており、データ形式も汎用性を考えてtiffデータとしている。

発掘調査報告書に関しては、印刷業者に編集データを入稿する前もしくはその後にpdfデータを作成している。収蔵図書に関しても書誌データ（CSV形式）を継続して登録している。（今井さやか）

(6) 民俗資料など

民俗資料収蔵庫には、旧黒埼町で使用され保管されてきた農具・漁労具・生活用具などの民具が収蔵されている。平成23年の開館以来、民俗資料に関しては整理作業がほぼ手つかずのままであったが、平成29年10月より本格的に再整理作業を開始した。

民具収蔵庫内を11のブロックに分け、ブロックごとに所在確認や、旧黒埼町時代に作成された台帳との照合作業を進めている。台帳に掲載されている整理番号の重複や、実物の所在が確認できないもの、添付されている写真と実物との相違など、今後解決しなければならない諸問題が明らかになっている。当センターの令和元年度における民具の収蔵数は、台帳記載分で2,123件であり、未整理分も含めると約3,000件になる。令和2年3月時点で、909件の所在確認と台帳の照合作業が終了した。これとは別に、作業の過程でデータのない民具が現時点で484件ある事も判明している。

また、文化財センターに隣接する旧木場小学校校舎は、「大形民具収蔵庫」として利用され、文化財センターの民具は20件所蔵されている。敷地・建物を文化財センターが、収蔵品の民俗資料は歴史文化課・新潟市歴史博物館が管理している。（久住直史）

(7) 埋蔵文化財情報管理システム

埋蔵文化財の管理と活用、デジタル化した記録類のデータ管理を目的として、平成27年6月1日より『埋蔵文化財情報管理システム』を活用している。遺跡管理のための地理情報管理システム（GIS）と発掘調査記録や収蔵品管理のためのデータベースの機能を併せ持ったシステムである。このシステムは新潟市の統合型GISのサブシステムとして構築されている。

システムの機能としては、「遺跡管理」「発掘調査管理」「埋蔵文化財保護業務」「出土品管理」「記録類（図面）検索」「記録類（写真）検索」「遺物検索」「木製品、金属製品検索」「図書検索」「地図表示」を備えている。

運用は開始されたが、「出土品管理」「記録類（図面）検索」「記録類（写真）検索」「遺物検索」「木製品、金属製品検索」の記録類などをエクセルデータで一括取り込みが可能にするための機能については、現在も構築作業中である。（今井さやか）

5 資料の公開・展示

(1) 展示概要

『新潟市文化財センター条例』の設置目的にある「埋蔵文化財及び有形民俗文化財を保存し、及びこれらの活用を図る」主な事業の一つとして埋蔵文化財・有形民俗文化財の展示を行っている。詳しい方針及び概要については、『年報』第1号に記載している〔今井2014a〕。

平成26年度から文化財センター企画展を開催し、令和元年度で6年目を迎えた。内容については、市内8区の遺跡について時代や地域に偏りがないようテーマを選び全3回開催した(表5)。今年度は、北区、西蒲区の遺跡をそれぞれ取り上げた。館外展示は1か所で行った。また企画展示の扱いはないが、当館のボランティアによる活動を紹介する「ボランティア活動作品展」と「黒埼地域の明治・大正・昭和のお宝展」を開催した。なお、企画展と館外展示事業は、経費の50%について国の補助金「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」を受けた。

展示室1 導入展示室兼、展示室2の前室としての機能を有している。「歴史を伝える出土品の世界」と題して、市内で出土した縄文時代から近世の土器陶磁器、縄文時代から近世の木製品を、壁一面に展示している。また、緒立遺跡出土の網代や御井戸遺跡の木柱などの大形木製品や市内出土の木簡レプリカ104点、近世新潟町出土の陶磁器をケースにて展示している。なお、令和元年度は展示の変更を行わなかった。

展示室2 「新潟市文化財センターの活動」、「遺跡が語る新潟市の歴史」、「企画展示コーナー」の大きく3つの展示に分かれている。「新潟市文化財センターの活動」の一角には平成28年度より「日本遺産関連展示」コーナーを設置して、「秋葉遺跡」と「大沢谷内遺跡」を通年展示し紹介している。展示室中央の企画展示コーナーでは令和元年度に3回の企画展を開催した。各展示詳細についてはⅢ5(2)～(4)に記載する。また、当館のボランティアが活動の中で製作した土器や裂き織などを展

示する「ボランティア活動作品展」を初めて開催した。ボランティアの方々が発表の場を求めていたことから実現し、力作ぞろいの展示となったが、折しも新型コロナウイルスが蔓延しはじめ、外出自粛もあったため、多くの方に見ていただけなかったことは残念であった。

エントランス エントランスでは、大形の土器や速報性のある出土品を展示している。令和元年度は引き続き角田沖から揚がった縄文土器を展示した。また大展示ケースでは、速報展示は行わなかったものの、所蔵する民俗資料を活用した「黒埼地域の明治・大正・昭和のお宝展」を開催した。

館外展示 令和元年度は文化財センター及び弥生の丘展示館の企画展以外に新潟市江南区郷土資料館からの申し出による館外展示「江南区最新発掘調査速報展」を行った。砂崩前郷遺跡や上ノ山遺跡など江南区内で行った発掘調査の最新出土遺物を展示し、好評だった。

まとめ 来館者アンケートからは「(常設展示の)年代の表示がわかりにくい」、「展示室入口のドアが暗色でわかりにくい」、「近代遺跡についての企画展を行って欲しい」などの声が寄せられた。

また、2月末より新潟市内においても新型コロナウイルス罹患患者が出はじめたため、アルコール消毒液の設置、展示室空調の外気取り入れ機能を開館時間中常時稼働し換気を行うなどの対策をとった。(今井さやか)



展示風景(ボランティア活動作品展)

表5 令和元年度文化財センター企画展など一覧

企画展名	会期	企画担当	入館者数(人)	関連講演会・イベント			
				演目	年月日	講師	参加者数(人)
砂丘と遺跡Ⅲ—阿賀北の砂丘上の遺跡—	2019/4/16(火) ~7/15(月・祝)	今井さやか 遠藤恭雄	2,703	古代の阿賀北—北方社会との接点を探る—	2019/5/19(日)	加藤 学氏 (福島県教育庁文化財課)	49
				展示解説	2019/5/19(日)	今井さやか	25
小学生の?からさぐるにいがたのれきし	2019/7/23(火) ~11/4(月・祝)	今井さやか 龍田優子	3,997	-	-	-	-
成熟した狩猟・採集社会—縄文時代晩期の角田山麓 御井戸遺跡から—	2019/11/19(火) ~2020/3/15(日)	前山精明 龍田優子	1,900	御井戸遺跡と越後平野の縄文社会	2020/1/19(日)	前山精明	92
				展示解説①	2019/12/15(日)	前山精明	3
				展示解説②	2020/1/19(日)	前山精明	60
				展示解説③	2020/3/1(日)	前山精明	9
黒埼地域の明治・大正・昭和のお宝展	2020/3/20(金・祝) ~2020/4/5(日)	久住直史	113	-	-	-	-
ボランティア活動作品展	-	今井さやか	-	-	-	-	-

(2) 企画展1 「砂丘と遺跡Ⅲ
—阿賀北の砂丘上の遺跡—」

会 期 平成31年4月16日(火)

～令和元7月15日(月・祝)

担 当 今井さやか・遠藤恭雄

入館者数 2,703人

展示概要 新潟市には、海岸に並行した10列の砂丘とその砂丘に阻まれ排水不良となった海岸平野が広がっている。砂丘上には古くは6,500年前の縄文時代から多くの遺跡がある。本展示は砂丘上に立地した遺跡を紹介するシリーズ第3弾にあたる。令和元年度は北区を中心とする阿賀野川右岸(通称:阿賀北)の砂丘上の遺跡を紹介した。

展示構成

- 1) 福島潟の成り立ちとめぐみ
- 2) 北方とのつながり—松影遺跡
- 3) 海岸部の製塩遺跡—出山遺跡
- 4) 縄文時代・弥生時代の遺跡—鳥屋遺跡・引越遺跡
- 5) 古代の河川交通—駒林川沿いの遺跡
- 6) 赤塚に多い中世遺跡—中世
- 7) 砂丘から砂州へ—近世
- 8) 近代から現代の砂丘利用

主要展示 1) では、砂丘を含む自然環境の解説として福島潟の成り立ちや、漁業や鳥類など福島潟のめぐみと生業について紹介した。一方、砂丘による排水不良の例として昭和42年の羽越水害について写真パネルによる展示を行った。2) の北方とのつながりでは市内の畠山祐二氏採集の松影D遺跡の古墳時代前期の赤彩された土師器鉢(北区郷土博物館所蔵)をはじめ、新潟県による松影A遺跡発掘調査出土の東北系の土師器を展示し、砂丘上に良好に残る北方とのつながりを示す遺物が出土した遺跡の紹介を行った。3) では古代の生業として製塩・製鉄遺跡について紹介した。製塩遺跡では海岸部の砂丘の出山遺跡について紹介を行い、同じく畠山氏のコレクションから東港太郎代遺跡や神谷内遺跡出土の製塩土器について合併後はじめて展示を行った。製鉄遺跡では新五兵衛山遺跡の炉壁や鉄滓を展示した。4) からは小展示ケースを使用し、縄文時代から中世までの北区の遺跡を紹介した。縄文時代晩期の鳥屋遺跡は「鳥屋式土器」の標式遺跡であり、土器に注目が集まりがちではあるが、調査では大量のシジミのほか魚骨・植物遺体が多く出土している。これらの食物残渣から季節性を考えるとほぼ一年を通して居住していることが言える。弥生時代の遺跡では引越遺跡を紹介した。引越遺跡は新発田川の河川改修の際に採集された弥生土器が北区郷土博物館

に収蔵されている。明治44年の地図によると河川の脇には引越山と呼ばれる標高20mの砂丘の山が存在したが、前述した羽越水害の際に土囊用として山が崩されている。5) では砂丘ではない立地の遺跡として駒林川沿いの自然堤防上の遺跡を紹介した。上土地亀遺跡、浦木東遺跡などの古墳時代の遺跡のほか、古代の城の渦遺跡を紹介した。同じく中世の遺跡として砂丘上の横井遺跡、阿賀野川沿いの下前川原遺跡の展示を行った。

関連講演会

演 目 古代の阿賀北—北方社会との接点を探る—
講 師 加藤 学氏

(福島県教育庁文化課※新潟県教育庁文化行政課より災害復興支援のため派遣)

日 時 令和元年5月19日(日)

午後1時30分～午後3時30分

参加者数 49人

日本海沿岸道路関係の発掘調査を担当した加藤氏から、松影A遺跡の調査成果を中心に古代の阿賀北地域の特徴と古代の律令国家の中での位置づけについて解説をしていただいた。

展示解説 講演会終了後に企画展担当者による展示解説を行い25名の参加があった。

入館者の声 「遺跡の立地状況が理解できた。また、当時の社会・経済に関心を持つことができた」、「低湿地に早くから人々が住むことができたのも砂丘列が関係していることがよくわかった」などの感想が寄せられた。

ま と め 砂丘への関心が高くなっていることから、遺跡にも目を向けてもらうよう企画したシリーズ展示であったが、これまでに展示されなかった遺跡を紹介するよい機会になった。特に北区郷土博物館に収蔵されている畠山コレクションは、氏の几帳面な整理により資料価値が高いため、もっと活用されてよいと感じる。最後に展示にご協力いただいた北区郷土博物館館長部珠世氏に深く感謝申し上げます。(今井さやか)



企画展1 関連講演会のようす

(3) 企画展2 「小学生の？からさぐる にいがたのれきし」

会 期 令和元年7月23日(火)～11月4日(月・祝)

担 当 今井さやか・龍田優子

入館者数 3,997人

展示概要 文化財センターに来館した小学生から寄せられた様々な疑問に答える形で展示を構成した。イラストを多くし、小学生向けのやさしい言葉での解説、ハンズオンや記念撮影コーナーなどを取り入れた。

展示構成

- 1) どんなもので食べていたの
- 2) 昔の人のオシャレは？
- 3) 本物のヒスイをあててみよう
- 4) 石材あてクイズ
- 5) どうして遺跡があるってわかるの？
- 6) 病気になったらどうしたの？
- 7) 文字はいつから使っていたの？
- 8) この●こは誰のもの？
- 9) 学芸員のイチオシ遺跡

主要展示 1) では調理する道具が土器から鉄鍋への変化、また食膳具についても民具のお膳を展示し、身近な食事の風景が変わっていることを紹介した。2) では縄文時代の人のオシャレとして耳飾などを展示。現在のアクセサリと並べての展示で、親近感を持ってもらえたと感じる。3) は最も人気の展示で、職員などが集めたヒスイの中からヒスイではない石を当てるクイズを実施。4) では縄文時代の人々が使用目的によって石材を選んでいてを紹介し、併せてクイズ形式にしたが、小学生にはやや難しかったようだ。5) では「どうして遺跡があるってわかるの？」という疑問に対し、表面採集や試掘調査などの調査の手順について紹介した。6) ではまじない札の展示のほか、各時代の平均寿命の比較をパネルで展示した。7) では木簡のほか墨書土器を展示し、文字資料により新潟市では飛鳥時代頃から文字を使用していることを説明した。8) では御井戸遺跡から出土した糞石を展示。こちらも身近なもののため、非常に人気があった。9) では文化財センターに勤務する学芸員のイチオシの遺跡と遺物の紹介を行った。またその遺跡への思い入れや、考古学を目指したきっかけを併せて紹介し、展示に興味を持った子どもたちが学芸員という仕事について将来の選択肢の一つにもらえるようにとの願いを込めた。

このほか、須恵器と土師器を触り比べるハンズオンコーナーや復元貫頭衣と土器を持って記念撮影ができるコーナーなど体感型の要素を取り入れた。

入館者の声 「子ども向け展示ではあったが、あまり歴史を知らない大人にとってもわかりやすい解説だった」などの感想が寄せられた。

まとめ 普段は体験コーナーで体験だけして帰っていくような小学生が、展示室にも足を向けてくれるようになった。どこのコーナーから見はじめてもよいアラクルトのような展示にした結果、興味のある場所だけ見るような姿も多かった。特に本物のヒスイあてクイズと記念撮影コーナーが人気で、「見るだけ」「読むだけ」の展示はやや敬遠される傾向にあった。またイラストを多用し、文字を読めなく(読まなく)ても、イラストで内容がわかるように工夫した。

小学生向けの展示だったことから、講演会や展示解説会を行わなかったが、イベントに組み込む形で解説会などを開催したほうがよかったと感じる。(今井さやか)



人気だった記念撮影コーナー



企画展2 ポスター

(4) 企画展3 「成熟した狩猟・採集社会
—縄文時代晩期の角田山麓
御井戸遺跡から—」

会 期 令和元年11月19日(火)
～令和2年3月15日(日)
担 当 前山精明・龍田優子
入館者数 1,900人

展示概要 西蒲区に所在する縄文時代晩期の御井戸遺跡は、1991年から2002年にかけて行われた発掘調査で巨大木柱群や木製容器・食料残渣などが出土した。当時、青森県の三内丸山遺跡とともに植物の資源利用が分かる遺跡として全国的に注目された。企画展では、最新の調査成果から見えてきた縄文時代終末の社会について、1,000点を超える出土品を通じて紹介した。

展示構成

- 1) 御井戸遺跡の成り立ちと集落の構造
- 2) 木柱と板
- 3) なりわい
- 4) 糞石
- 5) 樹木の利用
- 6) 精製土器と粗製土器
- 7) 石器の製作・流通
- 8) 漆器作りとアスファルトの加工
- 9) 第二の道具
- 10) 縄文から弥生へ

主要展示 3) ではトチの実をはじめとする大量の種実や動物遺体から、縄文晩期集落の食生活や日常的な活動範囲を推測した。5) では出土した石斧で加工された工程進度の異なる木製容器が作業を中断するたびに水漬保管されていた状況を紹介した。8) では縄文時代を代表する交易品のアスファルトを自給的に加工していた可能性を指摘した。また、出土したベンガラ塊などから漆器作りを行っていたことを示した。

関連講座 企画展の関連講座を開催した。

演 目 御井戸遺跡と越後平野の縄文社会
講 師 前山精明
日 時 令和2年1月19日(日)
午後1時30分～3時30分
参加者数 92人

御井戸遺跡から出土した多くの巨大な木柱や出土品などを紹介し、越後平野の縄文晩期の社会について解説した。参加者は皆、熱心に聞き入っていた。

展示解説 展示担当による展示解説を3回開催した。

日 時 令和元年12月15日(日)・令和2年3月1日(日) 午前10時～・午後1時30分～
令和2年1月19日(日) 講座終了後
参加者数 3人(12/15)、60人(1/19)、9人(3/1)

入館者の声 「こんなに巨大な柱がたくさん出土していることに驚いた」、「木製容器などに見られる石斧の加

工痕がとても鮮明だ」など大変好評であった。

関連企画 新潟市遺跡発掘調査速報会2019の午後の部でミニシンポジウムを開催した。パネラーに寺崎裕助氏(新潟県考古学会会長)、荒川隆史氏((公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団)、渡邊裕之氏(新潟県教育庁文化行政課)、前山精明(調査担当)、司会には石川日出志氏(明治大学文学部教授)を迎え、御井戸遺跡から見えてきた縄文時代終末期のあり方について考えた。

日 時 令和2年2月23日(日) 午後0時30分～
参加者数 147人

参加者の声 「角田山麓にこんな遺跡があるとは知らなかった」、「御井戸遺跡のすごさを再認識した」、「史跡として整備される日待ち遠しい」など大好評であった。

まとめ 発掘調査から約20年が経過したが、当時の資料を再検討し最新の調査成果として多くの初公開資料とともに展示した。知られざる遺跡ではなく、発掘調査をして何が分かったのか、今後も継続して伝えていく必要性を痛感した。(龍田優子)



チラシ表



企画展3 関連講座のようす

6 教育普及活動

(1) 公開講座

文化財は地域の成り立ちなどを知る上で重要な役割を担っている。文化財センターでは市民が地域の歴史や文化に対する理解を深められるように、収集している考古資料・民俗資料を積極的に公開・活用し、様々な講座・体験イベントを実施している。以下、令和元年度に実施した公開講座の概要について述べる（表6）。

講座 考古学と民俗学関連の講座を行った。考古学関連の講座では企画展の内容に関連した講座を行った。詳細は各企画展の頁を参照いただきたい。民俗学講座については、専門家を講師に招き2回の講座を行った。

また観察再現講座と題して、遺物を観察し当時の技術と工夫を体感する講座を開催した。令和元年度も引き続き縄文土器を観察して再現する講座を年2回行った。

体験イベント 子ども向け歴史体験「の字状石製品づくり」「土笛づくり」「藍の生葉染め体験」を夏休みに開催した。今年度は新たに「土笛づくり」を開催した。申込みが多く定員を超過したため、2回開催のところを3回に増やして対応した。

旧武田家住宅を会場に地域の方々との交流を目的としたイベントとして、「旧武田家住宅で民具と民話を楽しむ会」と「旧武田家住宅で民具とお茶を楽しむ会」を開催した。

速報会 令和元年度の遺跡発掘調査速報会では、午前を報告の部とし、3遺跡の報告を行った。午後の講演の部では「縄文晩期の拠点集落御井戸遺跡を探る」と題したミニシンポジウムを開催した。開催が2月最終週で、折しも新型コロナウイルスが新潟にも拡大していた中での開催となり、感染防止対策として手指消毒をしてからの入場を徹底した。

出前講座・職員派遣 文化財センターでは、依頼に応じて研究団体、地方自治体、市民団体などへ職員派遣を行っている。令和元年度は、市役所他部署からの依頼で講座や学習会といった利用が目立った。特に広聴相談課と行った「遺跡発掘のお仕事ってどんなことをしているの？」では、実際に曾我墓所遺跡の見学をしたほか、土器を洗う体験や土師器と須恵器の仕分け体験を行い大変好評だった。

区役所・公民館からの依頼としては西蒲区（西川地区）、南区で地域の遺跡を知るための講座を求められた。学校対象の派遣としては、6学年「大昔の暮らし」で3件、3学年の「昔の暮らし」において出前授業を10件行った（表7）。

(2) 施設利用

文化財センターでは展示見学のほかに、研修室の一部を「体験コーナー」として、新潟や埋蔵文化財に関連した体験学習ができる場所として設けている。この体験コーナーでは、「開館時間中であれば、いつでもだれでも予約なしでできる個人向け体験」と、「予約をいただいた団体向けの体験」の2種類がある。いずれも材料費相当の負担をいただいている。また、無料の体験として新潟市から出土した土器をもとに制作した「土器パズル」が5点ある。

平成29年度から月別体験メニューとして、通常体験「勾玉・和同開珎づくり・銅鏡づくり」に加え、「火起こし体験・土器づくり体験・裂き織体験」などを月別に行っている。令和元年度の総体験参加者数は個人1,926名（前年度2,491名）、団体3,680名（前年度3,091名）であり、団体の体験者数が過去最高となった。しかし、新型コロナウイルスの流行に伴い2020年2月より土器パズル体験を休止、3月からは体験コーナー自体を閉鎖している。また、旧武田家住宅及び体験広場（芝生）の貸出（有料）を行っている。利用状況は表8・9のとおりである。

(3) 入館者数

当センターの入館者数は表10のとおりで9,577人である。平成30年度の11,970人と比べて大幅に減少した。

入館者のアンケートからは、「現在発掘調査中の場所などをセンター内に表示して欲しい」、「夏休みに（火起こし体験でなく）ものづくり系の体験を充実して欲しい」、「館内に物販やカフェが欲しい」などの提案や要望をいただいた。

アクセス方法や経路への要望は、開館から10年近く経つが、依然として多くの方から寄せられている。また、良い点としては「素人でも親しみが持てる」、「随所にある手作りのラミネート解説が温かみがあってよい」との感想をいただいた。

提案・要望に関しては、発掘調査情報など実現可能なものについて今後改善を図っていきたい。

開館から令和元年3月末までの累計入館者数は102,326人である。

(4) 団体見学・施設見学

小学校や子ども会などの子どもが主体の団体では、見学だけではなく体験活動を組み込むことが多い。特に小学校では社会科の授業として春先には6学年の歴史で、秋から冬にかけては3学年の昔のくらしの学習で利用する傾向にある。令和元年度では、小学校・中学校の利用は33校で平成30年度の35校よりわずかに減少した。

（今井さやか）

表6 令和元年度公開講座一覧

観察再現講座			
年月日	内 容	講 師	人数
2019/6/1 (土)	秋葉遺跡縄文土器をつくる 【大人向け】3週連続(6/1、6/8、6/15)	まいぶんポートボランティア	10
2019/11/2 (土)	津南町沖ノ原遺跡の火焔型土器をつくる 【大人向け】5週連続(11/2、11/9、11/16、11/23、11/30)	まいぶんポートボランティア	10
民俗講座・イベント			
年月日	内 容	講 師	人数
2019/5/25 (土)	民俗講座「黒埼地域の服装文化」	長井久美子氏(元新潟県民俗学会会員)	22
2019/7/6 (土)	旧武田家住宅で民具と民話を楽しむ会	新潟民話の語り手交流会黒埼とんと	75
2019/9/21 (土)	民俗講座「農村部の堀と船—新潟市西区木場地区の事例を中心に—」	岩野邦康氏(新潟鉄道資料館)	26
2019/9/29 (日)	旧武田家住宅で民具とお茶を楽しむ会	清水宗君氏(江戸千家新潟白会)	54
2019/12/7 (土)	切り絵で正月飾りをつくる	坂井輪切り絵同好会	18
夏休み子ども歴史体験			
年月日	内 容	講 師	人数
2019/7/28 (日)	の字状石製品をつくる	龍田優子・前山精明	16
2019/8/4 (日)	土笛づくり	龍田優子・前山精明	49
2019/8/10 (土)	藍の生葉染め体験	今井さやか・まいぶんポートボランティア	35
新潟市遺跡発掘調査速報会			
年月日	内 容	パネリスト・発表者	人数
2020/2/23 (日・祝)	ミニシンポジウム 縄文晩期の拠点集落 御井戸遺跡を語る	石川日出志氏(明治大学教授)・ 寺崎裕助氏(新潟県考古学会会長)・ 荒川隆史氏(公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団)・ 渡邊裕之氏(新潟県教育庁文化行政課)・前山精明	147
	報告 古津八幡山遺跡 —明らかになってきた弥生時代の大形堅穴住居とその周辺—	相田泰臣	
	報告 道正遺跡 —砂丘上に新しく発見された古代・古墳・縄文時代の遺跡—	立木宏明	
	報告 曾我墓所遺跡 —阿賀野川沿いで見つかった古代の掘立柱建物と堅穴状遺構群—	澤野慶子	
ボランティア養成講座			
年月日	内 容	講 師	人数
2019/6/23 (日)	オリエンテーション 新潟市の遺跡概説	今井さやか	5
2019/6/30 (日)	展示解説 体験活動(勾玉づくり)	今井さやか	6

表7 令和元年度職員派遣、出前講座一覧

年月日	内 容	会 場	依 頼 者	派遣職員名
2019/4/13 (土)	八幡山遺跡について	新潟地域交流センター	新潟文芸協会	相田泰臣
2019/4/17 (水)	遺跡について(縄文時代の暮らし)	青山小学校	青山小学校	今井さやか
2019/4/26 (金)	亀田砂丘について(遺跡について)	亀田西中学校	亀田西中学校	今井さやか
2019/5/8 (水)	新潟市の遺跡について(大昔の暮らし)	亀田小学校	亀田小学校	今井さやか
2019/5/21 (火)	遺跡について(縄文時代の暮らし)	小瀬小学校	小瀬小学校	今井さやか
2019/6/30 (日)	昔の暮らしについて	小合地域コミュニティセンター	小合地域コミュニティ協議会	今井さやか
2019/7/24 (水)	遺跡について(古津八幡山遺跡)	金津コミュニティセンター	金津コミュニティ振興協議会	相田泰臣
2019/7/29 (月)	勾玉づくりと古代体験	小針青山公民館	小針青山公民館	今井さやか
2019/8/1 (木)	動く市政教室「遺跡発掘の仕事を学ぶ」	曾我墓所遺跡	広聴相談課	遠藤恭雄・澤野慶子
2019/8/7 (水)	動く市政教室「遺跡発掘のお仕事ってどんなことをしているの?」	曾我墓所遺跡	広聴相談課	遠藤恭雄・澤野慶子
2019/8/8 (木)	縄文土器づくり体験教室	江南区郷土資料館	江南区郷土資料館	今井さやか
2019/8/9 (金)	新潟市の遺跡について(大昔の暮らしと勾玉体験)	亀田市民会館	梅見台2丁目育成会	今井さやか
2019/8/21 (水)	勾玉づくり・縄文火おこし体験教室	江南区郷土資料館	江南区郷土資料館	久住直史
2019/8/23 (金)	あつまれそのキッズ 勾玉をつくろう!	曾野木地区公民館	曾野木地区公民館	今井さやか・久住直史
2019/9/12 (木)	西区農政商工課「黒埼南 文化堪能ツアー」	的場遺跡、緒立遺跡	西区農政商工課	今井さやか
2019/9/19 (木)	西区農政商工課「黒埼南 文化堪能ツアー」	的場遺跡、緒立遺跡	西区農政商工課	今井さやか
2019/9/27 (金)	昔の暮らしについて	鎧郷小学校	鎧郷小学校	今井さやか
2019/10/24 (木)	新潟市の遺跡(勾玉づくり)	中之口東小学校	中之口東小学校 もの作りクラブ	龍田優子
2019/10/24 (木)	西川地区公民館 地域の歴史・文化講座 「西蒲原の古墳・史跡について」	西川地区公民館	西川地区公民館	相田泰臣・小林美土里
2019/10/31 (木)	西川地区公民館 地域の歴史・文化講座 「角田山麓の古墳を訪ねて学ぶ」	西川地区公民館	西川地区公民館	相田泰臣・小林美土里
2019/11/7 (木)	西川地区公民館 地域の歴史・文化講座 「市文化財センターと黒埼地区の遺跡を訪ねて学ぶ」	西川地区公民館	西川地区公民館	相田泰臣・小林美土里
2019/11/22 (金)	巻地区長寿大学 第3回学習会 西蒲の古墳時代を中心に「大昔の知られざる西蒲」について学ぶ	巻地区公民館	巻地区公民館	相田泰臣
2019/11/26 (火)	昔の暮らしについて	早通南小学校	早通南小学校	今井さやか・久住直史
2019/12/3 (火)	南区地域学「川に囲まれた宝島! しろねワンダーランドへ」	白根学習館	白根地区公民館	渡邊朋和
2019/12/17 (火)	昔の暮らしについて	両川小学校	両川小学校	久住直史
2019/12/19 (木)	昔の暮らしについて	牡丹山小学校	牡丹山小学校	今井さやか・久住直史
2020/1/24 (金)	昔の暮らしについて	大形小学校	大形小学校	今井さやか・久住直史
2020/1/28 (火)	昔の暮らしについて	鳥屋野小学校	鳥屋野小学校	今井さやか
2020/1/29 (水)	昔の暮らしについて	根岸小学校	根岸小学校	久住直史
2020/1/30 (木)	昔の暮らしについて	鳥屋野小学校	鳥屋野小学校	久住直史
2020/2/6 (木)	昔の暮らし「民具の学習」	立仏小学校	立仏小学校	久住直史
2020/2/12 (木)	昔の暮らし	青山小学校	青山小学校	今井さやか

表8 令和元年度体験利用人数

個人

メニュー	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
勾玉づくり	85	115	32	82	321	46	30	42	38	47	36	-	874
鑄造体験(和同開珎)	30	41	14	16	101	22	9	7	5	11	9	-	265
鑄造体験(鏡)4・12月	30	-	-	-	-	-	-	-	19	-	-	-	49
火起こし(5・8月)	-	124	-	-	239	-	-	-	-	-	-	-	363
弓矢体験(6・3月)	-	-	37	-	-	-	-	-	-	-	-	-	37
袈き織り(6・12・1月)	-	-	-	-	-	-	-	17	-	-	25	-	42
土器・土偶づくり(7・9・10・1・2月)	-	-	-	195	-	26	13	-	-	62	-	-	296
合計	145	280	83	293	661	94	52	66	62	120	70	0	1,926

団体

メニュー	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
勾玉づくり	216	329	23	176	39	28	62	10	0	0	0	-	883
鑄造体験(和同開珎)	60	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	60
土器・土鈴・土偶づくり	99	121	40	16	189	149	0	0	25	21	0	-	660
弓矢体験	65	38	24	0	165	169	0	0	0	34	0	-	495
火起こし	324	483	24	198	212	279	62	0	0	0	0	-	1,582
合計	764	971	111	390	605	625	124	10	25	55	0	0	3,680

※出前講座分は含まない

表9 令和元年度旧武田家住宅利用状況

年月日	利用者名	目的
2019/8/20(火)	個人	お茶の稽古
2019/9/8(日)	うたごえの集い実行委員会	うたごえの集い
2019/9/28(土)	黒崎南小学校	ふれあいスクールまめっ子 活動

表11 令和元年度団体利用一覧

団体利用(学校)

年月日	団体名	利用内容	人数
2019/4/16(火)	味方小学校(南区)	見学・火起こし・勾玉・土器に触れる	17
2019/4/19(金)	香南小学校(西蒲区)	見学・火起こし・土偶・和同開珎	60
2019/4/23(火)	山の下小学校(東区)	見学・火起こし・弓・土偶・土器に触れる	39
2019/4/23(火)	木山小学校(西区)	見学・火起こし・弓・土器に触れる	9
2019/4/24(水)	西内野小学校(西区)	見学・火起こし・勾玉	117
2019/4/25(木)	坂井東小学校(西区)	見学・勾玉	82
2019/5/9(火)	苜蓿小学校(西蒲区)	見学・勾玉	38
2019/5/9(木)	黒崎南小学校(西区)	見学・火起こし	33
2019/5/10(金)	内野小学校(西区)	見学・火起こし・土偶・土器に触れる	121
2019/5/14(火)	亀田東小学校(江南区)	見学・火起こし・勾玉	137
2019/5/16(木)	南中野山小学校(東区)	見学・火起こし・勾玉	56
2019/5/23(金)	紫竹山小学校(中央区)	見学・火起こし・勾玉	98
2019/6/6(木)	鈴鹿小学校(西蒲区)	見学・火起こし・弓・土器に触れる	24
2019/6/21(金)	黒崎中学校(西区)	総合学習(地域の歴史)	20
2019/7/2(火)	新津第一小学校(秋葉区)	見学	75
2019/7/9(火)	黒崎南小学校(西区)	見学	25
2019/7/17(水)	小針小学校(西区)	見学・勾玉	116
2019/7/18(木)	浜浦小学校(中央区)	見学・火起こし・勾玉・民具学習	60
2019/7/24(水)	高志中等教育学校(中央区)	見学・火起こし	6
2019/8/30(金)	東山の下小学校(東区)	見学・火起こし・弓・土偶・土器に触れる	170
2019/9/3(火)	女池小学校(中央区)	見学・火起こし・弓・土偶・土器に触れる	149
2019/9/3(火)	南万代小学校(中央区)	見学・民具学習	58
2019/9/6(金)	五十嵐小学校(西区)	見学・火起こし・土器に触れる	113
2019/10/4(金)	南万代小学校(中央区)	見学・火起こし・勾玉	65
2019/10/17(木)	黒崎南小学校(西区)	広場・木場小	22
2019/10/25(金)	新津第二小学校(秋葉区)	見学・民具学習	139
2019/11/8(金)	沼垂小学校(中央区)	見学・民具学習	75
2019/11/13(水)	黒崎南小学校(西区)	広場	20
2019/11/19(火)	山の下小学校(東区)	見学・民具学習	39
2019/11/29(金)	赤塚小学校(西区)	見学・民具学習	55
2019/12/6(金)	坂井東小学校(西区)	見学・民具学習	75
2019/12/10(火)	苜蓿小学校(西蒲区)	見学・民具学習	21
2019/12/18(水)	桃山小学校(東区)	見学・民具学習	101
合計			2,235

団体利用(学校以外)

年月日	団体名	利用内容	人数
2019/5/19(日)	デイサービスセンター西川(西蒲区)	見学	21
2019/5/24(金)	新潟大学考古学研究室(西区)	バックヤード見学等	12
2019/5/31(金)	生涯学習相談ボランティアひだまり(中央区)	見学	16
2019/6/7(金)	地域の茶の間 晴海・丘テラス(西区)	見学	14
2019/6/15(土)	新潟郷土史研究会(西区)	見学	25
2019/6/16(日)	臼井地区推進委員会(白根地区公民館)(南区)	見学	40
2019/6/18(火)	楽陽会(東区)	見学	15
2019/6/21(金)	アースサポート新潟西(西区)	見学・土鈴	10
2019/6/25(火)	アースサポート新潟西(西区)	見学・土鈴	12
2019/6/26(水)	アースサポート新潟西(西区)	見学・土鈴	7
2019/6/27(木)	アースサポート新潟西(西区)	見学・土鈴	11
2019/6/28(金)	クロスバールにいがたLの会(中央区)	見学	33
2019/6/28(金)	地域の茶の間 清心町自治会 清寿会(西区)	見学	21
2019/7/31(水)	上大川前通3.4・川端町2.3.4町内こども会(中央区)	見学・火起こし・土偶	16
2019/8/1(木)	動く市政教室 遺跡発掘の仕事を学ぶ	見学	29
2019/8/3(土)	大湯浦村地区子供会(西蒲区)	見学・勾玉・土鈴	15
2019/8/7(水)	動く市政教室 遺跡発掘のお仕事ってどんなことをしているの?	見学	22
2019/8/9(金)	柳広瀬(西区)	見学	10
2019/8/17(土)	升商団地(西蒲区)	見学・土鈴	10
2019/8/21(水)	神道寺こども会(中央区)	見学・火起こし・勾玉	25
2019/9/8(日)	うたごえの集い(西区)	見学	30
2019/9/11(水)	動く市政教室 新潟市内の歴史文化施設をめぐろう!	見学	20
2019/9/12(木)	西区農政商工課	見学	17
2019/9/15(日)	学校町子供会(西蒲区)	見学・火起こし・勾玉	21
2019/9/18(水)	西区農政商工課	見学	18
2019/9/19(木)	動く市政教室 新潟市内の歴史文化施設をめぐろう!	見学	32
2019/9/23(月)	オハナさきがけ(中央区)	見学・勾玉	16
2019/9/25(水)	奥山荘郷土研究会(胎内市)	見学	14
2019/9/25(水)	漆山コミュニティ協議会(西蒲区)	見学	12
2019/9/28(土)	黒崎南小まめっ子クラブ(西区)	弓	32
2019/10/18(金)	木場保育園(西区)	広場	25
2019/10/25(金)	江東コミュニティ協議会連絡会(中央区)	見学	20
2019/11/7(木)	巻郷土資料館友の会(西蒲区)	見学	17
2019/11/20(水)	計測自動制御学会APMF2019事務局(つくば市)	見学・勾玉	10
2019/11/21(木)	西内野(老) 松葉会(西区)	見学	23
2019/12/5(木)	黒崎南小2学年学年行事(西区)	見学・土鈴	51
2020/1/15(水)	黒崎南小学校 市小研特別支援教育部(西区)	見学・会議	36
2020/1/18(土)	茨島子供会(西蒲区)	見学・弓・土鈴	34
合計			792



夏休み子ども歴史体験「藍の生葉染め体験」



ミニシンポジウム「縄文晩期の拠点集落 御井戸遺跡を探索」



職員派遣「西川地区公民館 地域の歴史・文化講座」



出前授業（小学校3年生）「昔のくらし」

(5) 資料利用

A 手続きに関する条例・規則

特別利用許可 文化財センター内で考古資料の熟覧・実測・撮影などを行う場合：『新潟市文化財センター条例』及び『新潟市長から委任を受けた新潟市文化財センター管理に関する規則』により許可申請書を新潟市教育委員会宛に提出する。

貸出許可 考古資料の寄託・借用・貸出などをする場合：『新潟市文化財センター考古資料の寄託・借用及び貸出に関する規則』により許可申請書などを新潟市教育委員会宛に提出する。

寄附申込 考古資料の寄附申込みをする場合：『新潟市物品管理規則』により物品寄附申込書を新潟市長宛に提出する。

民俗資料 民俗資料の利用・貸出をする場合：『新潟市物品管理規則』により許可申請書を新潟市長宛に提出する。

なお、分析資料提供・掲載許可手続き、写真データの提供及び掲載許可申請については『新潟市文化財センター考古資料の寄託・借用及び貸出に関する規則』で対応している。

B 利用件数

以下、令和元年度の各利用件数について記す（表12）。

特別利用許可 考古資料に関して熟覧・実測・撮影の利用件数は10件（前年度比2件増）である。

貸出許可 考古資料と民俗資料の貸出許可は、博物館などでの常設展示に伴う年度単位の貸出と企画展などの短期間の貸出がある。前者では次年度も引き続き貸出を希望する場合は年度ごとに手続きを行っている。

公民館などでは地域の歴史に親しみを感じてもらう観点からその地域の遺跡から出土した遺物の貸出を行っている。資料の貸出期間などは『新潟市文化財センター考古資料の寄託・借用及び貸出に関する規則』に規定されている。常設展示に伴う長期貸出6件（前年度比1件増）、企画展などに伴う短期貸出2件（前年度比7件減）である。

掲載許可 文化財センターが保管する写真や報告書などの掲載資料の提供を希望する場合や申請者が貸出を受けて撮影したものを印刷物などで使用する場合がある。利用件数は11件（前年度比2件減）であった。

寄附申込 採集資料や歴史関係書籍などを個人から1件受理した（前年度比8件減）。（平山千尋）

表12 令和元年度資料対応件数一覧

考古資料

特別利用許可

件数	申請者	資料	数量(点)	来館日	備考
1	個人	西郷遺跡 土器	967	2019/6/17(月)・7/1(月)	縄文時代晩期から弥生時代にかけての穀物利用研究
2	個人	緒立遺跡B・C地区 土器	34	2019/7/7(日)	煮炊き用土器のスコケ観察に基づく、米調理方法の復元研究
3	個人	御井戸遺跡 土器	13	2019/7/14(日)・7/15(月)	煮炊き用土器のスコケ観察に基づく、米調理方法の復元研究
4	個人	塩辛遺跡 他 土器・木器	5	2019/7/25(木)	個人研究に係る資料調査
5	個人	近世新潟町跡 他 漆器関係資料	252	2019/7/25(木)	個人研究に係る資料調査
6	個人	豊原遺跡 他 縄文土器	190	2019/7/29(月)～8/2(金)	個人研究に係る資料調査
7	個人	南赤坂遺跡 他 の字状石製品	2	2019/8/29(木)	個人研究に係る資料調査
8	テレビ新潟放送網	下稲場遺跡 土器・石器・石製品	5箱	2019/9/24(火)	テレビ新潟「夕方ワイド新潟一番」の「バスで行こうぜ!」にて使用
9	個人	緒立C遺跡 土器	12	2019/10/9(水)	卒業論文作成に係る資料調査
10	個人	大沢谷内遺跡 他 漆塗壁飾	5	2020/3/30(月)	関東地方の遺跡から出土する漆塗壁飾との比較研究

貸出許可

件数	申請者	資料	数量(点)	貸出期間	備考
1	医療法人社団 福慈会 理事長 坂本長逸	諏訪畑遺跡 土器	5	2019/4/1(月)～2020/3/31(火)	常設展示
2	新潟市北区郷土博物館 館長 木村隆行	烏屋遺跡 石器 他	35	2019/4/1(月)～2020/3/31(火)	常設展示
3	新潟市歴史博物館 館長 伊東祐之	笹山前遺跡 他 土器 他	224	2019/4/1(月)～2020/3/31(火)	常設展示
		的場遺跡 土錘・石錘	48		
		近世新潟町遺跡 陶磁器・泥面子	27		
		山木戸遺跡 陶磁器	19		
4	中之口資料館 市長 中原八一	茶院A遺跡 土器 他	8	2019/4/1(月)～2020/3/31(火)	常設展示
5	江南区郷土資料館 市長 中原八一	砂崩遺跡 他 土器 他	78	2019/4/1(月)～2020/3/31(火)	常設展示
6	新潟大学学術情報基盤機構旭町学術資料展示館 館長 郷 晃	大沢遺跡 他 土器 他	117	2019/6/3(月)～2020/3/31(火)	常設展示
7	島根県立古代出雲歴史博物館 館長 今岡 充	大入C遺跡 他 製鉄炉剥ぎ取り模型 他	5	2019/6/12(水)～2019/9/30(月)	企画展「たたら一鉄の国 出雲の実像―」展示
8	新潟県埋蔵文化財センター指定管理者公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 理事長 稲荷善之	南赤坂遺跡 他 磨製石斧 他	10	2019/7/16(火)～2019/12/26(木)	企画展「海をわたったヒスイ」展示

掲載許可

件数	申請者	資料	数量(点)	許可日	備考
1	島根県立古代出雲歴史博物館 館長 今岡 充	大入C遺跡 遺構 写真データ	2	2019/4/1(月)	企画展「たたら一鉄の国 出雲の実像―」図録掲載・展示パネル作成
2	株式会社スリーシーズン 代表取締役 松本兼二	山谷古墳 測量図	1	2019/5/10(金)	講談社「考古学から学ぶ古墳入門」掲載
3	株式会社 雄山閣 代表取締役 宮田哲男	佐渡近海発見の弥生土器 写真データ	1	2019/7/9(火)	『季刊考古学別冊 29号』掲載
4	株式会社 悠工房 代表取締役 清水証善	大沢谷内遺跡 木簡 写真データ	1	2019/8/9(金)	中学生用学習教材に掲載
5	南魚沼市教育委員会 教育長 南雲権治	南赤坂遺跡 縄文土器 他 写真データ	2	2019/12/24(火)	『六日町史』掲載
6	神奈川県教育委員会 教育長 桐谷次郎	御井戸遺跡 クルミ集積 他 写真データ	2	2019/10/8(火)	令和元年度かながわの遺跡展「縄文と弥生―時代と文化の転機を生きた人々」図録掲載・展示パネル作成
7	株式会社ベネッセコーポレーション 著作権申請窓口 責任者 源根秀実	大沢谷内遺跡 木簡 写真データ	1	2019/10/15(火)	中学生向け通信教育教材に問題資料の一部として掲載
8	十日町市博物館 館長 佐野誠一	豊原遺跡 シカの骨出土状況 写真データ	1	2020/2/5(水)	常設展「縄文時代と火焔型土器のクニ」展示解説パネル作成
9	株式会社スタッフラビ 代表 池田睦也	御井戸遺跡 アスファルト加熱土器 写真データ	1	2020/2/26(木)	NHK総合テレビジョン「チコちゃんに叱られる」にて使用
10	個人	大沢谷内遺跡 木簡 写真データ 他	2	2020/3/12(木)	<목간으로 백제를 읽다 (木簡で百済を読む)> 掲載
11	株式会社 エスアンド 代表 小籠不二人	馬場屋敷遺跡 他 木簡 他 写真データ 他	17	2020/3/26(木)	河出書房新社「まじないの文化史」掲載

寄附申込

件数	申込者	資料	数量(点)	申込日	備考
1	個人	歴史関係書籍	2,502	2020/3/12(木)	
		歴史関係書籍以外	5		

(6) 図書の収蔵と閲覧

A 収 蔵

図書室の面積は89.33㎡で、室内には単式固定5段8連1台、複式移動7段7連5台、複式7段8連6台の棚が列設置されている。棚段数は総数で1,202段、約5万冊の図書の収蔵が可能である。なお、分類整理作業が必要な図書や登録未了図書に関しては、隣接する埋蔵文化財収蔵庫の棚に仮置きし、登録の終わったものから順次配架している。

図書の収蔵状況は、旧市町村で所蔵していた発掘調査報告書が合併に伴い集められた結果、新潟県内の発掘調査報告書には複本が多数生じることになった。複本があり利用頻度の高い報告書は、文化財センター図書室のほか、調査研究室と保存処理室、そして秋葉区にある弥生の丘展示館に置いて利用している。また、県内外の研究者などから寄贈される本が増大したため、埋蔵文化財収蔵庫の一部にも配架することとした。

書誌情報の入力作業は、司書（臨時職員）1名を雇用して継続して行っている。書誌情報の入力は、平成21年度に構築し、平成27年度に再構築が完了・運用した埋蔵文化財情報管理システム（Ⅲ4（7）参照）を利用している。入力作業と併せ、図書の管理のために寄贈者印・所蔵印を押捺し、3段ラベルとバーコードを貼っている。なお、令和2年3月末までの入力数（複本は除く）は55,392冊である。

B 利用状況

図書室には2名分の閲覧スペースがあり、平成24年6月から閲覧と著作権法の範囲内でコピーサービス（有料）を開始した。平成28年4月1日からは、土曜日・日曜日・祝日の図書室利用を事前申し込み制としている。

令和元年度の図書室利用人数とコピーサービス利用人数は表13のとおりである。前年度比では利用者数は28人減、コピーサービス利用人数は5人減である。コピー申込冊数は10冊であり、内訳は発掘調査報告書8冊、縣市町村史2冊である。なお、収蔵図書は発掘調査報告書などの発行部数の少ない稀覯本がほとんどのため、館外貸出は行っていない。（八藤後智人）

表13 令和元年度図書室・コピー利用者数

月	図書室利用（人）	コピー利用（人）
4	6	0
5	0	0
6	0	0
7	2	2
8	3	1
9	1	0
10	1	0
11	0	0
12	2	2
1	4	2
2	0	0
3	0	0
合計	19	7

7 保存処理

(1) 木製品の保存処理について

処理の概要 文化財センターでは、木製品の保存処理は資料の形態・材質・劣化度を考慮しPEG（ポリエチレングリコール）含浸法を中心に行っている。

また、PEG法では漆被膜がはがれてしまう漆器、PEGの色により墨痕が見えにくくなってしまう墨書のある遺物、金属と一体となっている木製品についてはトレハロース含浸法で行っている。詳細な方針及び方法については、『年報』第1号に記載されている〔今井2014b〕。

令和元年度 令和元年度には15遺跡24調査分927点の木製品の保存処理を行った（表14）。

大栄寺溝口政勝墓（1994008）など市町村広域合併前の3調査のほか、県から譲与を受けた小坂居付遺跡（2009007）出土木製品の保存処理をPEG含浸法で行った。これらの処理はPEG含浸処理装置において行うが、厚みが5cm以下の小形木製品については、プラスチック製密閉容器を使ったPEG含浸を温風定温乾燥機内で行っている。また、旧新潟税関跡出土の金属付き建築材をトレハロース含浸法によって処理を行った。

(2) 金属製品・その他の保存処理について

処理の概要 文化財センターでは、木製品の保存処理の含浸期間中に金属製品の保存処理を行うというサイクルで業務を行っている。保存処理を行う順序は、原則調査年次が古いものからとしている。詳細な方針及び方法については、『年報』第1号に記載されている〔今井2014b〕。また、本調査において脆弱遺物が出土した際に取り上げと仮強化処理を行っている。

令和元年度 令和元年度は、沖ノ羽遺跡（2003002、2004001、2005002、2006005、2007004、2008002）出土鉄製品を中心に4遺跡12調査分300点の保存処理を行った（表14）。青銅製品の保存処理は行わなかった。

(3) 保存処理外部委託について

PEG処理法に向かない木製品や大形の木製品など文化財センターで保存処理ができないものについて、外部委託を行っている。令和元年度は仲歩切遺跡（2014178）の木柱1点と林付遺跡（2010001）の木柱13点の保存処理を外部に委託した（表15）。（今井さやか）

8 決算額

令和元年度における文化財センター決算額は表16のとおりである。（飯塚和美）

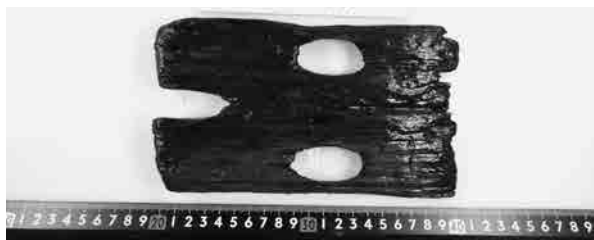
表14 令和元年度木製品、鉄製品保存処理一覧

木製品					
遺跡名	調査番号	材質	器種	処理方法	点数(点)
大沢谷内遺跡	1989001	木製品	杭	PEG	1
大栄寺溝口正勝墓	1994008	木製品	板状	トレハロース	1
旧新潟税関跡	1997142	木製品	杭ほか	トレハロース	5
善久地区試掘	2003131	木製品	棒状ほか	PEG	2
大沢谷内遺跡(立会)	2005229	木製品	底板ほか	PEG	4
腰廻遺跡(立会)	2005277	木製品	底板	PEG	1
駒首湯遺跡	2006008	木製品	柱根ほか	PEG	23
西郷遺跡	2006012,2007011	木製品	柱根ほか	PEG	4
養海山遺跡	2006013	木製品	棒状	PEG	1
近世新潟町跡	2006015	木製品	杭	PEG	1
中之口ほ場試掘	2006176	木製品	板状	PEG	1
大沢谷内北遺跡	2007002	木製品	柱根ほか	PEG	15
手代山北遺跡	2008003	木製品	杭ほか	PEG	2
近世新潟町跡	2008142	木製品	舟材ほか	PEG	5
砂堀遺跡(試掘)	2008242	木製品	板状	PEG	1
小坂居付遺跡	2009007	木製品	杭ほか	PEG	728
小坂居付遺跡	2009007	木製品	下駄ほか	トレハロース	13
大沢谷内遺跡	2010002	木製品	柱根ほか	PEG	8
大沢谷内遺跡	2010004	木製品	柱根ほか	PEG	6
大沢谷内遺跡	2012001	木製品	柱根ほか	PEG	29
大沢谷内遺跡	2013001	木製品	柱根ほか	PEG	7
細池寺道上遺跡	2014001	木製品	棒状ほか	PEG	5
細池寺道上遺跡	2016002	木製品	杭ほか	PEG	26
細池寺道上遺跡	2017002	木製品	曲物側板ほか	PEG	37
細池寺道上遺跡	2017002	木製品	部材	トレハロース	1
合計					927

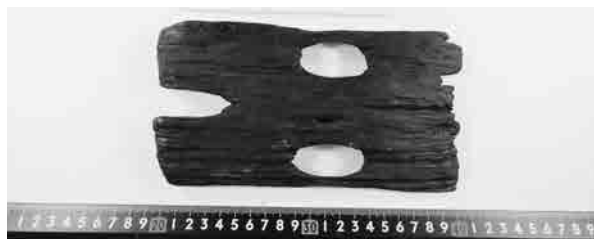
鉄製品					
遺跡名	調査番号	材質	器種	処理方法	点数(点)
大蔵遺跡	1989008	鉄製品	釘ほか	クリーニング・樹脂含浸	25
東園遺跡	2000001	鉄製品	釘ほか	クリーニング・樹脂含浸	15
結七島遺跡	2001004	鉄製品	釘ほか	クリーニング・樹脂含浸	2
沖ノ羽遺跡	2003002	鉄製品	鋳造品	クリーニング・樹脂含浸	2
沖ノ羽遺跡	2004001	鉄製品	釘ほか	クリーニング・樹脂含浸	20
沖ノ羽遺跡	2005002	鉄製品	釘ほか	クリーニング・樹脂含浸	72
沖ノ羽遺跡	2006005	鉄製品	釘ほか	クリーニング・樹脂含浸	17
沖ノ羽遺跡	2007004	鉄製品	釘ほか	クリーニング・樹脂含浸	79
沖ノ羽遺跡	2008002	鉄製品	刀子ほか	クリーニング・樹脂含浸	23
沖ノ羽遺跡	2007004,2008002	鉄製品	釘ほか	クリーニング・樹脂含浸	44
福島地内園場試掘	2017207	鉄製品	板状鉄製品	クリーニング・樹脂含浸	1
合計					300

表15 令和元年度外部委託保存処理一覧

遺跡名	調査番号	点数	備考	委託先	金額(円)	合計(円)
仲歩切遺跡	2014178	1	木柱	(公財)元興寺文化財研究所	1,596,672	1,596,672
林付遺跡	2010001	13	木柱	株式会社吉田生物研究所	2,224,200	2,224,200



木製品 保存処理前(小坂居付遺跡・2009007)



木製品 保存処理後(小坂居付遺跡・2009007)



鉄製品 保存処理前(沖ノ羽遺跡・2007004)



鉄製品 保存処理後(沖ノ羽遺跡・2007004)

表16 令和元年度文化財センター決算額

■歳入 (一般会計)	
区分	決算額(円)
○使用料及び賃借料	749,900
文化財センター設備使用料	3,400
行政財産使用料	746,500
○国庫補助金	53,040,000
市内遺跡範囲等確認調査	36,382,000
両新地区ほ場整備発掘調査	1,016,000
古津八幡山遺跡及びガイダンス施設の保存・活用事業	2,975,000
文化財センター保存処理・活用事業	8,617,000
史跡古津八幡山遺跡確認調査事業	4,050,000
○諸収入	20,138,230
受託事業収入	18,900,000
両新地区ほ場整備発掘調査	18,900,000
小規模緊急発掘調査	0
雑入	1,238,230
コピー代実費	1,830
文化財センターその他雑入	657,300
弥生の丘展示館その他雑入	579,100
合計	73,928,130

■歳出 (一般会計)	
区分	決算額(円)
○市内遺跡範囲等確認調査事業	60,113,593
市内遺跡範囲等確認調査事業費	2,873,357
市内遺跡範囲等確認調査事業費(ほ場整備等)	57,240,236
○埋蔵文化財本格発掘調査事業	34,246,955
両新地区ほ場整備発掘調査費	21,000,000
小規模緊急発掘調査費	13,246,955
○史跡古津八幡山遺跡確認調査事業	19,565,684
○文化財センターの管理運営	56,764,537
○古津八幡山遺跡及びガイダンス施設の管理運営	18,199,047
合計	188,889,816

IV 新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場

史跡古津八幡山遺跡は新潟市秋葉区に所在する弥生時代後期の高地性環濠集落及び新潟県内最大規模の古津八幡山古墳などからなる遺跡であり、平成17年7月に国史跡に指定されている。

現在は「新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場」として、保存・整備・管理・活用が行われており、歴史の広場は遺跡を当時の姿に復元した「史跡公園」とそのガイダンス施設「史跡古津八幡山 弥生の丘展示館」からなる。

平成28年度には史跡の保存・活用の指針となる保存活用計画を策定した〔相田・金田ほか2017〕。令和元年度は前年度に続き、平成29年度に設置した「古津八幡山遺跡保存活用計画等推進委員会」と、その下部組織としての「古津八幡山遺跡調査指導部会」によって保存活用計画を推進した。この詳細についてはIV 3に記載している。

史跡古津八幡山遺跡及び整備の概要、古津八幡山遺跡歴史の広場の詳細な施設情報については、『年報』第1号に記載されている〔渡邊2014c〕。また、これまでの経過も『年報』第1～7号のとおりである。



古津八幡山遺跡航空写真（北東から）

1 資料の公開・展示

(1) 概要

弥生の丘展示館は、展示室や体験学習が主な施設で、古津八幡山遺跡に関わる展示を行っている。

常設展 展示室には古津八幡山遺跡から出土した旧石器時代から平安時代の土器や石器などを500点以上展示するほか、弥生時代のムラの様子を縮尺300分の1の復元ジオラマ模型で再現している。また、遺跡への親近感や理解が深まるように、考古イラストレーターの高川和子氏による時代ごとの復元画を展示ケースの壁面前面に展示している。そのほか、ガイダンスシアターでは、65インチの大形モニターで、古津八幡山遺跡の概要やこれまでの調査成果などを映像で見ることができる。

企画展 古津八幡山遺跡歴史の広場の全面供用開始を記念して、平成27年度から企画展を開催している。展示室の中央部分に展示ボードと展示ケースを設置し、企画展コーナーとして利用している。令和元年度は3回の企画展（表1）のほかに、第3回となったフォトコンテストの受賞作品展を開催した。各展示の詳細についてはIV 1（2）～（5）に記載する。

また、各企画展では、関連した講演会や講座を開催しているが、企画展会場である弥生の丘展示館には、講座などが行える大人数の収容空間がない。そのため、各講演会・講座は、西区木場の文化財センターで行っている。

なお、各講演会・講座の当日資料は新潟市のホームページで公開しているほか、内容とアンケート調査の結果をまとめた記録集を作成して、市内の図書館や3回全ての講演会・講座に参加した人へ配布した。（田中真理）

表1 令和元年度弥生の丘展示館企画展一覧

年度毎の番号	企画展名	会期	企画担当	入館者数(人)	関連講演会・イベント			
					演目 イベント名	開催日	講師	参加者数(人)
1	古津八幡山遺跡発掘調査速報展	2019/4/23(火) ～6/2(日)	相田泰臣	9,034	展示解説	2019/4/28(日)	相田泰臣	14
2	弥生時代から古墳時代の 大形建物 —古津八幡山遺跡の大形竪穴 住居と掘立柱建物を考える—	2019/6/11(火) ～10/27(日)	相田泰臣	27,823	「北陸における弥生時代後期から古墳時代前期 の大型建物とその背景—新潟県を中心に—」	2019/9/1(日)	滝沢規朗氏 (新潟県教育庁文化行政課埋蔵文化財係長)	45
					展示解説①	2019/8/11(日)	相田泰臣	13
					展示解説②	2019/10/20(日)		17
3	邪馬台国の時代7 弥生時代後期の北越と北陸・ 長野との交流 —天王山式土器から考える—	2019/11/6(水) ～2020/3/29(日)	渡邊朋和	8,577	「弥生時代における北陸西部と下越地方の交流」	2019/11/17(日)	久田正弘氏 (石川県埋蔵文化財センターグループリーダー)	51
					展示解説①	2019/11/10(日)		4
					展示解説②	2019/12/8(日)	渡邊朋和	4

(2) 企画展1「古津八幡山遺跡発掘調査速報展」

会 期 令和元年4月23日(火)～6月2日(日)

担 当 相田泰臣

入館者数 9,034人

展示概要 古津八幡山遺跡は、標高約50mの丘陵上にある弥生時代後期の大規模な高地性環濠集落で、古墳時代には県内最大の古墳である古津八幡山古墳が築かれる。当時の日本列島の社会情勢を考える上で核となる重要な遺跡であることから、平成17年に国の史跡に指定された。

国史跡古津八幡山遺跡では、史跡をより適切に保存・活用していくため、史跡内外における遺跡の状況を把握することを目的とした保存目的の発掘調査を平成29年度から行っている。平成29・30年度は標高約25mの遺跡北東域において発掘調査を実施した。本企画展は、その発掘調査成果の速報展として企画・開催した。

展示構成

- 1) 古津八幡山遺跡の概要
- 2) 平成29・30年度確認調査の概要
- 3) 古津八幡山遺跡の土地利用について
- 4) 県内の竪穴住居・掘立柱建物とその比較

主要展示 2) 平成29・30年度確認調査の概要では、今回の調査で見つかった古津八幡山遺跡で最大となる大形竪穴住居や、新たに確認された掘立柱建物などについて紹介した。また、古津八幡山遺跡でこれまでに見つかっている竪穴住居の一覧も提示した。

3) 古津八幡山遺跡の土地利用については、環濠集落として機能している弥生時代後期と、環濠が埋まった後の弥生時代終末期との遺構の分布を示し、両時期の土地利用の変化などについて確認した。

4) 県内の竪穴住居・掘立柱建物とその比較では、県内の弥生時代後期・終末期における主要な竪穴住居と掘立柱建物の一覧を示すとともに、古津八幡山遺跡の大形竪穴住居や掘立柱建物などと比較を行うことで、それら建物の性格について推論を試みた。また、建物や土地利用の動態が、当時の社会情勢を反映したものと捉えた。

展示解説 展示担当による展示解説を1回開催した。

日 時 令和元年4月28日(日)午後1時30分～

参加者数 14人

まとめ 古津八幡山遺跡の発掘調査速報展は、令和元年度に新たに始めた企画である。古津八幡山遺跡の保存・活用目的の発掘調査は来年度以降も継続するので、今後も調査成果の速報展を継続していきたい。

(相田泰臣)



展示風景 (展示室)



展示風景 (展示室)



展示風景 (展示室)



展示解説風景 (展示室)

(3) 企画展2「弥生時代から古墳時代の大型建物
—古津八幡山遺跡の大型竪穴住居と
掘立柱建物を考える—」

会 期 令和元年6月11日(火)～10月27日(日)
担 当 相田泰臣
入館者数 27,823人

展示概要 古津八幡山遺跡では、平成29・30年度の発掘調査において、本遺跡で初となる掘立柱建物や、最大の竪穴住居が見つかるなど大きな発見があった。

これらは、弥生時代から古墳時代へと移りかわっていく当時の社会情勢の一端を示していると考えられる。

これまでの調査で明らかとなった古津八幡山遺跡における建物の構造や変遷などを確認し比較するとともに、他遺跡や他地域の動向も踏まえながら、大型竪穴住居や掘立柱建物が出現した背景について探った。

展示構成

- 1) 古津八幡山遺跡の概要
- 2) 平成29・30年度確認調査の概要
- 3) 新たに見つかった掘立柱建物
- 4) 新たに見つかった大型竪穴住居
- 5) 古津八幡山遺跡の土地利用
- 6) 県内の竪穴住居・掘立柱建物とその比較
- 7) 県外の建物の事例
- 8) 古津八幡山遺跡の動向

主要展示 4) 新たに見つかった大型竪穴住居では、平成29・30年度の発掘調査で発見された1辺9.5mと古津八幡山遺跡で最大となる大型竪穴住居のこれまでの調査成果や出土遺物の位置づけなどについて解説した。

また、6) 県内の竪穴住居・掘立柱建物とその比較では、県内の同時期の遺跡でこれまでに調査されている主要な竪穴住居や掘立柱建物の形態や規模、特徴などを確認し、古津八幡山遺跡と比較した。

最後に、8) 古津八幡山遺跡の動向では、古津八幡山遺跡における弥生時代の集落の出現から廃絶の動向について、建物や環濠、墓、出土遺物、麓の遺跡の動向などを含めて確認・紹介した。

関連講演会 企画展の関連講演会を開催した。

演 目 北陸における弥生時代後期から古墳時代前期の大型建物とその背景
—新潟県を中心に—
講 師 滝沢規朗氏
(新潟県教育庁文化行政課埋蔵文化財係長)
日 時 令和元年9月1日(日)
午後1時30分～3時30分
会 場 文化財センター研修室

参加者数 45人

展示解説 展示担当による展示解説を2回開催した。
日 時 令和元年8月11日(日)・10月20日(日)
午後1時30分～

参加者数 13人・17人

まとめ 企画展では、平成29・30年度の発掘調査で見つかった古津八幡山遺跡の大型竪穴住居と掘立柱建物を中心に、県内の事例との比較・検討を行うことで、古津八幡山遺跡の動向や特徴について確認した。

滝沢氏の講演会では広い視野から詳細な比較・検討が行われ、弥生時代から古墳時代への移行期における古津八幡山遺跡をはじめとする県内各遺跡の特徴や他地域も含めた動向、今後の課題などについて分かりやすく解説して頂き、大変好評であった。(相田泰臣)



展示風景(展示室)



関連講演会風景(文化財センター研修室)



展示解説風景(展示室)

(4) 企画展3「邪馬台国の時代7 弥生時代後期の北越と北陸・長野との交流
—天王山式土器から考える—」

会 期 令和元年11月6日(水)
～令和2年3月29日(日)

担 当 渡邊朋和

入館者数 8,577人

展示概要 東北や阿賀北で作られた天王山式やその直前の土器(天王山式系列土器)に類似する土器が、北陸の富山県・石川県・福井県や長野県北部(長野市周辺松本市など)で出土する。弥生時代後期初め(紀元1世紀)頃の事である。

この頃、東北北部や阿賀北の人々が何かを求めて北陸や長野県北部へ行ったのではないかと考えられる。その証拠になるのが、この天王山式系列土器である。

弥生時代後期、北陸では縄文のつけられない土器が普通なので、縄文の施文された天王山式系列土器は、阿賀野川以北の東北に由来する人々が直接・間接に北陸や長野県北部へ来たことを証明している。

北陸へは日本海沿いに、長野県北部へは信濃川を遡るか、北陸経由で往来したものと推察される。

天王山式系列土器の文様の比較から東北と北陸・長野との交流の謎に迫った。

北陸の天王山式系列土器に多い頸部重菱形文や上胴部に入れられるS字状連繫文・山形文・円台形連結文や鋸歯文の系譜を遺物とパネルから説明した。北陸と類似する文様は、青森県や秋田県など東北北部に見られることから、日本海を介した広域の往来があったものと考えられる。

S字状連繫文は、北陸から長野県・群馬県で見ついている。また、富山県魚津市佐伯遺跡出土の鉢に酷似する鉢が茨城県大洗町髭釜遺跡で出土しており、北陸・長野・群馬・茨城のルート線上に巴形銅器や鉄器も出土していることから、東北系集団が日本海側から太平洋側へかけての鉄器の物流に関わった可能性を推察した。

主要展示 北陸 富山県・石川県・福井県、長野県、新潟県の天王山式系列土器および当該期前後の石器。

石川県万行遺跡・矢田遺跡・能登町大槻3号墳・杉谷チャノバタケ遺跡・水白モンショ遺跡

富山県佐伯遺跡・江上A遺跡・江上B遺跡・飯坂遺跡・二ツ塚遺跡・下老子笹川遺跡・加納谷内遺跡・上野A遺跡・頭川遺跡・四方背戸割遺跡、長野県吉田高校グラウンド遺跡

新潟市石動遺跡などの天王山式系列土器やアメリカ式石鏃

関連講演会 企画展の関連講演会を開催した。

演 目 弥生時代における北陸西部と下越地方の交流

講 師 久田正弘氏(石川県埋蔵文化財センター調査部
県関係調査グループ グループリーダー)

日 時 令和元年11月17日(日)
午後1時30分～3時30分

会 場 文化財センター研修室

参加者数 51人

展示解説 展示担当による展示解説を2回開催した。

日 時 令和元年11月10日(日)・12月8日(日)
午後1時30分～

参加者数 4人・4人

ま と め 企画展をきっかけに、北陸出土の天王山式系列土器が東北日本海沿岸の影響だけではなく、更に広域に及んでいることに気づききっかけとなった。2020年度の企画展「天王山式土器からみた東日本の弥生社会—古津八幡山遺跡成立期の動向—」の前座とも位置付けることができる内容であった。

講演会は、弥生時代における北陸西部と新潟の交流について、多岐にわたる文化要素の比較から詳細な解説を加えたもので、大変に丁寧でわかりやすいと好評だった。

(渡邊朋和)



展示風景(展示室)



関連講演会風景(文化財センター研修室)

(5) 第3回フォトコンテスト展

会 期 令和元年4月23日(火)～

令和2年3月29日(日)

担 当 相田泰臣

展示概要 古津八幡山遺跡の魅力を再発見し、遺跡を広く知ってもらう目的で開催した第3回フォトコンテストの受賞作品展である。第3回フォトコンテストは計70作品の応募があり、その中から専門の審査員による選考で、入賞作品5点と入選作品8点の計13点の受賞作品を決定した。その受賞作品について、古津八幡山弥生の丘展示館の体験学習室壁面で展示を行った。



展示風景 (体験学習室)



弥生の丘展示館賞
「新緑の頃」(撮影者: 佐々木進氏)



新潟フジカラー賞
「西高東低」(撮影者: 小山 覚氏)



グランプリ
「静寂を刻む影」(撮影者: 是永 進氏)



新潟市文化財センター長賞
「散歩中にバッテリー」
(撮影者: 斎藤 優氏)



古津八幡山遺跡賞
「望郷」(撮影者: 杉野秀一氏)

ま と め 平成30年度に行った第3回フォトコンテストでは、市内在住者を中心に多数の応募があり、写真撮影や受賞作品展によって遺跡や弥生の丘展示館の利用者増に寄与した。また、フォトコンテストの作品募集において、複数のコンテスト情報サイトなどに取り上げられ、遺跡の広報にも一役買った。フォトコンテストは今回をもって一旦中止となるが、今後は別の会場でこれまでの受賞作品の出張展示を行うなどして、より多くの方が古津八幡山遺跡を知り、また遺跡の魅力を再発見するきっかけになるよう活用していきたい。(相田泰臣)

2 教育普及活動

(1) 体験学習

弥生の丘展示館では、個人が来館すればいつでも体験できる事前申込み不要の体験学習メニューを月ごとに決めている(表2・3)。これは、季節やこれまでの状況から、年度ごとに変えている。

令和元年度の体験学習の参加者数は、個人7,053人(前年度比2,772人増)、団体1,204人(同2,137人減)、全体8,257人(同635人増)であり、参加者数は前年度よりも団体では減少したが、個人・全体では増加した。個人の体験学習参加者が大きく増加しており、弥生の丘展示館を見学して体験学習も行う来館者が増えてきていると言える。

団体の利用は、概ね10人以上の場合に事前の申し込みをお願いしている(表4・5)。令和元年度は団体利用件数33件(前年度比24件減)、利用人数971人(同1,123人減)であった。団体分類別にみると、小学校の利用は平成30年度よりも減少した(前年度比団体利用件数1件減、利用人数416人減)。中学校の利用もわずかに減少した(前年度比団体利用件数1件減、利用人数29人減)。小学校に関しては、体験学習の時間までとれないという理由から、広場のみを利用する団体もあり、今後は団体向けの利用方法についても検討していく必要がある。

(2) イベントなど

令和元年度も引き続きイベントや体験学習、企画展の情報などをまとめた年間スケジュールを作成し、配布した。また、新潟県教育庁文化行政課が年2回発行している『まいぶんナビ』に、企画展やイベントなどの情報を提供し掲載してもらっている。

イベントは、市報や新潟市の公式ホームページなどで広報し、参加者を事前に募集して月に2回から3回程度実施している(表6)。許容人数の関係から、20人以下と少人数のイベントが多いが「弥生時代の姿を考える」や「弥生の水田再現」は恒例のイベントとなり、複数回にわたって参加されている方が目立つ。また平成29年度から始めた「アンギン」作りも好評で、材料のカラムシ収穫から編みまで複数回の日程で行った。

当日受付のものでは、6月に新潟県立植物園をメイン会場として行う「にいつ花ふるフェスタ」の協賛イベントとして、「花と遺跡のふるさとフェスタ」を開催し、延べ701人(前年度比495人減)の方々が参加した。当日は、拓本しおり作り・弓矢体験などの体験学習のほか、遺跡ガイドツアーや古津八幡山遺跡発掘調査現場の公開を実施した。また、史跡公園へ足を運ぶ人を増やす試みとしてスタンプラリーも行った。10月には新潟県埋蔵文化財セ

ンターと連携した「まいぶん祭り」を開催した。これは、「花と遺跡のふるさと公園」内において、新潟県立植物園主催の「秋の植物園祭り」や秋葉区役所主催の「アキハアウトドアスポーツフェスタ」と同日開催で行う連携イベントである。当日は参加者数473人(前年度比339人増)と台風のため屋外イベントを中止した平成30年度より大幅に増加した。

さらに、平成30年度に続き、「第3回古津八幡山遺跡フォトコンテスト展」を開催した(IV1(5))。

(3) 入館者数

令和元年度の弥生の丘展示館入館者数(表7)は、個人48,455人(前年度比8,192人増)、団体971人(前年度比1,123人減)、全体49,426人(前年度比7,069人増)であった。前年度よりも入館者数が大きく増加したが、団体の入館者数は減少した。

個人の入館者数の増減は、従前の傾向では隣接する新潟市新津美術館で開催された展覧会の影響が非常に大きい。特に親子連れを対象とした展覧会の場合、弥生の丘展示館の入館者数も増加する傾向にある。令和元年度の弥生の丘展示館における入館者数の増加は、新津美術館で6月～9月にかけて開催された展覧会「帰ってきた!魔法の美術館」の影響が大きかったと考えられる。なおその期間中、入館者の増加が見込まれたことから団体利用を一部制限しており、団体入館者数の減少の要因となったと推測される。

冬季(12～3月)の入館者は5,272人(前年度比3,532人減)で、例年と同様に夏季に比べると減少傾向がみられる。ただし、新型コロナウイルスの感染拡大により、1月末にはWHOから緊急事態が宣言され、2月には政府からイベントなどの自粛・延期・規模縮小、都市部では不要不急の往来自粛が要請された。弥生の丘展示館においても予防対策のためイベント及び体験学習の受け入れを中止した。今年度の冬季における入館者数の減少については、これらの要因による影響が大きいと言える。

(田中真理)



イベント「弥生の水田体験①」(田植え)

表2 令和元年度弥生の丘展示館体験学習（事前申込み不要）一覧

無料/有料	メニュー	料 金 (円)	所要時間 (分)
無料	火起こし体験	-	15
	弓矢体験	-	10
	石斧体験	-	10
	クラフトづくり	-	無制限
	土器バズル	-	10
	ぬりえ	-	10
有料	土偶・土笛・土鈴づくり	100	30~60
	土器づくり	200	60~120
	勾玉・管玉づくり	200	60
	鹿角ペンダントづくり	200	60
	鹿角(先端)ペンダントづくり	500	60
	銅鏡づくり	500	60
	銅鐸づくり	1,000	30
	アンギン編み(小)	300	120以上
アンギン編み(大)	500	120以上	



イベント「花と遺跡のふるさとフェスタ」

表3 令和元年度弥生の丘展示館体験学習（事前申込み不要）参加者数

月	体験学習メニュー		参加者数(人)				
	屋内体験 (有料)	野外体験 (無料)	個人	団体	合計	1日 平均	累計 (開館から)
4	土器・土偶・土笛・土鈴作り	弓矢体験	1,262	48	1,310	50.4	1,310
5	勾玉・管玉・鹿角ペンダント	石斧体験	2,303	148	2,451	87.5	3,761
6	土器・土偶・土笛・土鈴作り	火起こし体験	371	71	442	17.0	4,645
7	銅鏡・銅鐸・勾玉・管玉・鹿角ペンダント	弓矢体験	986	157	1,143	42.3	6,931
8	勾玉・管玉・鹿角ペンダント	石斧体験	1,041	0	1,041	37.2	7,967
9	土器・土偶・土笛・土鈴作り	火起こし体験	141	567	708	28.3	8,675
10	土器・土偶・土笛・土鈴作り	弓矢体験	117	59	176	6.8	9,027
11	銅鏡・銅鐸・勾玉・管玉・鹿角ペンダント	火起こし体験	247	126	373	14.9	9,773
12	銅鏡・銅鐸・勾玉・管玉・鹿角ペンダント	石斧体験	218	28	246	10.7	10,265
1	銅鏡・銅鐸・勾玉・管玉・鹿角ペンダント	クラフト体験	219	0	219	9.1	10,703
2	アンギン編み、勾玉・管玉・鹿角ペンダント	クラフト体験	148	0	148	6.2	10,993
3	※新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため中止。		-	-	-	-	-
	合 計/平 均		7,053	1,204	8,257	26.9	-

表4 令和元年度弥生の丘展示館団体利用一覧

小・中学校・その他学校

来館日	団体名	人数 (人)
4月16日(火)	桜ヶ丘小学校(中央区)	広場のみ
4月16日(火)	木戸小学校(東区)	広場のみ
4月17日(水)	亀田西小学校(江南区)	広場のみ
4月23日(火)	笹口小学校(中央区)	51
5月9日(木)	新津第2小学校(秋葉区)	65
5月9日(木)	巻北小学校(西蒲区)	広場のみ
5月15日(水)	金津中学校(秋葉区)	22
5月17日(金)	坂井輪中学校(市内班自主研修)(西区)	10
5月30日(木)	新飯田・庄瀬・茨曾根小学校合同(南区)	46
6月7日(金)	日和山小学校(中央区)	広場のみ
6月18日(火)	岩室小学校(西蒲区)	26
7月2日(火)	小合東小学校(秋葉区)	広場のみ
7月12日(金)	金津小学校(秋葉区)	52
9月6日(金)	五十嵐小学校(西区)	121
9月19日(木)	大野小学校(西区)	54
9月19日(木)	小須戸小学校(秋葉区)	41
9月25日(水)	立仏小学校(西区)	広場のみ
9月27日(金)	東青山小学校(西区)	96
10月17日(木)	小須戸小学校(秋葉区)	36
11月1日(金)	早通小学校(江南区)	36
合 計		656

小・中学校以外

来館日	団体名	人数 (人)
5月8日(水)	富岡市文化財保護課(群馬県)	13
6月19日(水)	救世軍新潟小隊(中央区)	22
6月19日(水)	林退会 新潟県協議会	22
6月30日(日)	新潟ロイヤルライオンズクラブ	28
7月30日(火)	動く市政教室(中央区)	22
9月7日(土)	NPO法人アキハロハスAkiha森のようちえん(秋葉区)	8
9月8日(日)	新中野山自治会(東区)	67
10月17日(木)	大人塾	17
10月19日(土)	秋葉区自治協議会(事務局:秋葉区役所地域総務課)	29
10月25日(金)	江東コミュニティ協議会連絡会(中央区東出張所)	24
11月2日(土)	クラブツーリズム歴史への旅	21
11月17日(日)	新津本町2丁目PTA	14
12月11日(水)	新潟市消費者協会新潟支部	28
合 計		315

表5 令和元年度弥生の丘展示館分類別団体利用数

分類名	団体利用数(件)	人数
保育施設・幼稚園	1	8
小学校	18	624
中学校	2	32
大学	0	0
其他学校	0	0
動く市制教室	1	22
市関係	0	0
行政・議会関係	1	13
自治会・町内会など地域コミュニティ関係	3	110
各種サークルなど	2	45
企業企画ツアーなど	1	21
企業	0	0
福祉施設	0	0
その他	4	96
合計	33	971

表6 令和元年度弥生の丘展示館イベント・体験学習(事前募集)・公開講座一覧

開催日	内容	人数
4月21日(日)	発掘体験	17
5月12日(日)	弥生の水田再現①	11
6月2日(日)	花と遺跡のふるさとフェスタ	701
6月16日(日)	弥生の水田再現② ※強風雨により中止	0
7月7日(日)	弥生の水田再現③	11
7月17日(水)	アングン①	7
9月3日(火)	アングン②	8
9月15日(日)	弥生の水田再現④	10
10月6日(日)	まいぶん祭り	473
10月13日(日)	ドングリを食べよう① ※台風19号により中止	0
11月3日(日)	弥生の水田再現⑤	4
11月10日(日)	ドングリを食べよう②	12
11月19日(火)	アングン③	8
12月8日(日)	ドングリを食べよう③	10
1月12日(日)	弥生の餅つき	492
3月15日(日)	ミニチュア土器づくり ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	0
合計		1,764

表7 令和元年度弥生の丘展示館入館者数

月	開館日数	入館者数(人)				
		個人	団体	全体	1日平均	累計(開館から)
4	26	4,079	51	4,130	158.8	304,280
5	28	5,578	156	5,734	204.8	310,014
6	26	5,826	98	5,924	227.8	315,938
7	27	6,924	74	6,998	259.2	322,936
8	28	11,414	0	11,414	407.6	334,350
9	25	2,617	387	3,004	120.2	337,354
10	26	2,658	106	2,764	106.3	340,118
11	25	2,613	71	2,684	107.4	342,802
12	23	1,474	28	1,502	65.3	344,304
1	24	2,534	0	2,534	105.6	346,838
2	24	1,287	0	1,287	53.6	348,066
3	25	1,451	0	1,451	58.0	349,517
合計/平均	307	48,455	971	49,426	161.0	

3 古津八幡山遺跡保存活用計画の推進

(1) はじめに

平成28年度に策定した『国史跡 古津八幡山遺跡保存活用計画』〔相田・金田ほか2017〕（以下、保存活用計画）などを推進していくため、令和元年度は「古津八幡山遺跡保存活用計画等推進委員会」（以下、推進委員会）及び古津八幡山遺跡の確認調査に関する指導や助言を受けるため「古津八幡山遺跡調査指導部会」（以下、調査指導部会）を同日に1回開催した（表8）。

なお、3月に予定していた2回目の推進委員会・調査指導部会については、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、郵便やメールなどを利用しての議題報告ならびに委員意見の聴取を行った。

(2) 令和元年度古津八幡山遺跡確認調査について

保存活用計画に沿って史跡古津八幡山遺跡をより適切に保存・活用していくため、史跡内外の遺跡の状況を把握することを目的とした確認調査を平成30年度に引き続いて行った（第22次調査）。

調査地は平成30年度と同様、古津八幡山遺跡北東域の史跡指定地外で、標高約50mの遺跡最高所から北東へ一段下がった丘陵中腹域、標高約25mの平坦面及び緩斜面域に位置する。調査期間は途中の中断を含め令和元年5月27日から11月19日で、調査面積は約186㎡である。

調査の結果、これまでに見つかった一辺9.5mの大形竪穴住居（SI1）の形状や規模がより明らかになり、上屋を支える柱が5本以上の構造になることも判明した。

また、大形竪穴住居と一部重複する一辺4.0mの竪穴住居（SI465）の形状や規模などが明らかになったほか、大形竪穴住居よりも新しい時期の竪穴住居であることが確定した。なお、大形竪穴住居周辺域における遺構の分布状況についても確認した。

令和2年度は大形竪穴住居の構造についてさらに確認するとともに、尾根北側における遺構の広がりなどについても把握していく予定である。

(3) おわりに

今年度の調査成果については、10月6日に開催した周辺施設などとの連携イベント「花と遺跡の秋まつり2019」において現地説明会を開催し、合計125名の参加があった。また、2月23日に文化財センター主催の新潟市遺跡発掘調査速報会で報告した。

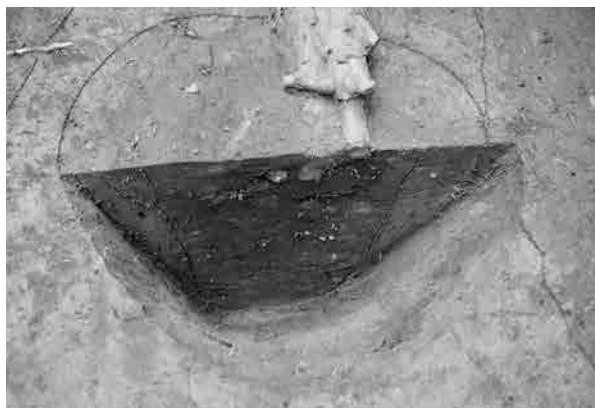
なお、経年劣化や風雪等の影響で史跡公園内の復元竪穴住居の茅葺屋根の一部に損傷が生じていたことから、7棟のうち6棟について、茅葺屋根の葺き替え工事等を実施した。加えて防虫・防腐処理も行った。（相田泰臣）

表8 古津八幡山遺跡保存活用計画等推進委員会・同調査指導部会の経過

開催日	名称	開催数 (通算)	協議・検討事項
2019/9/30 (月)	推進委員会	第4回	・令和元年・2年度の保存管理関係、整備関係、活用関係について ・発掘調査の現地見学・指導、茅葺屋根修繕住居の現地確認
	調査指導部会	第6回	



大形竪穴住居（SI1）調査風景



大形竪穴住居（SI1）柱穴断面



推進委員会・調査指導部会のようす



推進委員会・調査指導部会のようす

V 研究活動－資料報告・研究ノート－

1 南区馬場屋敷遺跡下層出土の木製品

はじめに

馬場屋敷遺跡は、新潟市南区(旧白根市)庄瀬に所在し、信濃川・中ノ口川に囲まれた白根郷に位置する低湿地遺跡である。昭和58(1983)年に圃場整備事業に伴って発掘調査が行われた。調査報告書が既に刊行されているが、掲載されている遺物はごく一部に限られている〔川上・遠藤1984〕。これは、発掘調査が行われてから短期間に報告書が出されたためにやむを得ないことであった。それでも、洪水で一気に埋没し、当時そのままに林立して見つかった木柱、敷物・間仕切りのある建物跡、串が圍繞した特殊遺構などの類例の少ない遺構、膨大な量の木製品とその種類の豊富さ、茅札・呪符木簡類から、馬場屋敷遺跡がただならぬ遺跡であることを知るには十分であった。洪水で埋まった中世の屋敷がそのままの状態で見つかり、特殊な建物跡や木簡の様相から、中世の研究者間では越後における最重要遺跡の一つとして認識されている。

馬場屋敷遺跡が発掘調査されてから40年近くが経過し、この間に近接する浦廻遺跡〔新潟県教育委員会2003〕・小坂居付遺跡〔新潟県教育委員会2012〕といったほぼ同時期中世の遺跡が相次いで発掘調査された。そして、これらの遺跡からも木製品などの中世の遺物が大量に出土した。先行調査事例として馬場屋敷遺跡が取り上げられることが多いが、膨大な量の木製品などの遺物が出土しているにも関わらず、ごく一部しか報告書に掲載されなかったために、遺跡の全容がわからないことが比較研究の際に支障になっていたと思われる。

再整理作業の経緯については、以前にも触れられているので〔相澤2014〕重複するが、今回資料報告するに至った経緯について簡単に記しておこう。新潟市は平成17(2005)年に13市町村の広域合併が行われ、それぞれの市町村に在籍していた埋蔵文化財専門職員11名が歴史文化課に異動するとともに、旧市町村にあった緊急発掘調査で出土した考古資料を全て一括集中管理することになった。合併以前には、馬場屋敷遺跡出土の木簡や陶磁器類などは、「しろね大風と歴史の館」に展示され、展示資料以外は同館の倉庫に収蔵されていたが、平成23(2011)年に新潟市文化財センターが開館する際に、合併時の「行政が緊急発掘調査を行った資料は一極集中して、保存管理し、活用を図る。」という基本方針に基づいて、センタ

ーに移管することになった。文化財センターに設けた年間を通して温度・湿度管理のできる木製品・金属製品それぞれの特別収蔵庫は、馬場屋敷遺跡出土資料と古代の木製品・金属製品が多量に出土した西区の場遺跡出土遺物の収蔵保管を目的としたことであった。

広大な沖積地が広がる新潟市の遺跡からは、一般の遺跡では腐食して残ることの少ない木製品などの脆弱遺物が出土することが多い。現在、文化財センターでは市内の遺跡の特色を紹介するために、馬場屋敷遺跡の木製品を市内出土木製品の代表的な遺物として導入展示室の壁面全体を使って展示を行っている。

(1) 馬場屋敷遺跡の再整理作業

再整理作業は渡邊朋和(新潟市文化財センター)と相澤裕子(同)が担当し、発掘調査図面・写真フィルムの整理、木製品・陶磁器・金属製品・石製品の整理を行った。本来であれば、遺跡・遺構図面を図示した上で、出土遺物を報告すべきであるが、諸般の事情から今回は木製品に限定し報告することとした。いずれ、遺構図面や、陶磁器・金属製品・石製品なども報告する予定である。

出土遺物は3,017点が白根市指定文化財に指定され、平成17(2005)年の合併後は新潟市指定文化財として引き継がれ現在に至っている。

木製品の実測・トレースは臨時職員(現 会計年度任用職員)が行い、トレース図をスキャンしてデジタル化し、画質調整のうえ、縮小し、イラストレーターで版下を作成した。当初、主要遺物の縮尺を1/3で、柱など大形品は1/8、木簡は1/2で掲載する予定でトレースを行ったが、頁数を圧縮するために、1/3で掲載予定の図を1/4とすることになった。線が細くなってしまい、外形線の太さの統一が取れず、見苦しくなっているのはこのためである。

遺物の分類作業や実測作業は、渡邊・相澤の指示のもと、小野里絵梨子・森岡綾子・北見順子・須貝律子(文化財センター)が行った。版下の作成には田中真理(文化財センター)の全面的な協力があつた。

また、8容器のうち、挽物漆器8_1 椀、8_2 皿、8_3 鉢、8_15_1 合子(図12_174~図13_232)については、清水香氏(新潟大学)に原稿をご執筆いただき、該当部分の文末に文責を明記した。

なお、挽物漆器の木取りについては、「放射状組織を年輪と誤認して図化した例は少なくない」〔奈良国立文化財

研究所1993)と書かれているように、新潟県内の報告書に掲載された挽物漆器の実測図の木目も誤認が多いという久田正弘氏の厳しい指摘がある〔久田2017〕。

2017年に文化財センターで開催した企画展『木製品から見た中世のくらし—南区の低湿地遺跡—』の際に、挽物のモデルを作成し、横木取りの場合でも縦(縦)木取りの場合でも原則として木目は縦・斜めになることを展示で紹介し、研究者からは一定の評価を頂けた〔伊藤2018〕。改めて新潟県内の報告書に掲載された挽物漆器の実測図を見ると、誤認しているものが多い。今回の資料報告では、保存処理された挽物漆器の木取りの認定が難しく軽率には判断できないこと、横木取りでも、縦木取りでも木目は原則として縦又は斜めになるので、挽物漆器の断面図に木目を入れないこととした。

(2) 遺跡概要

馬場屋敷遺跡は、新潟市南区(旧白根市)庄瀬字庄用ほかに所在し、現在の信濃川河道西岸から約1kmに位置する。沖積地上の海岸低地に比べてわずかに高い自然堤防上又は三角州末端に立地しているものと考えられる。

一帯は、昭和4(1929)年に耕地整理事業が行われたが、発掘調査当時、遺跡周辺は畑地のほとんどがそのままに残されていたというから、周囲の水田よりも幾分か高かったと考えられる。

県営圃場整備事業に伴い、昭和56(1981)年7月24日、昭和57(1982)年8月16日～21日、10月18日～23日、11月15日～19日に試掘・確認調査〔白根市教育委員会1983〕、昭和58(1983)年8月1日～11月22日に本発掘調査が行われた〔川上・遠藤1984〕。

馬場屋敷遺跡は、試掘・確認調査では上層のみ確認していたが、本調査着手後に上層の下約1.5mに下層があることが判明し、下層の本調査を実施した。発掘調査面積約1,554㎡、遺跡範囲は南北約130m、東西約50m、面積約7,500㎡と推定されている。

馬場屋敷下層遺跡という名称が度々使われているが、文化財保護法上の遺跡名称は馬場屋敷遺跡である。「馬場屋敷遺跡下層」が正しい。

報告書によれば、基本層序は、

- 1層：耕作土層 層厚平均20cm
- 2層：赤茶褐色砂質土層(上層 包含層)
層厚平均45cm
- 3層：赤茶褐色粘質土層 層厚平均50cm
- 4層：暗灰褐色粘質土層 層厚平均30cm
- 5層：黒色腐植土層(下層 包含層) 層厚15cm
- 6層：灰色粘土層(下層 包含層・遺構確認面)

層厚平均50cm

7層：青灰色粘土層 となっている。

耕作土直下35cmの深さから室町時代(15～16世紀)の遺構・遺物が検出され(上層)、5層目以下から鎌倉時代(13世紀末～14世紀初頭)の遺構・遺物が検出された(下層)。

報告書や図面から読み解くと、発掘調査当時、地表面(水田面)は標高3.4～3.7m、下層確認面は標高1.7～2.1mで、上層は2層中、下層は5・6層であったと推察される。

昭和29(1954)年、本遺跡の北北西約8kmにある味方排水機場遺跡で地下19mの深さから縄文時代後期初頭の三十稲場式土器が出土した。3,500年間で19m沈降したとすると、100年間で約50cm沈降したことになる。距離的には多少離れているが、この沈降速度を参考にすると、馬場屋敷遺跡が存続していた約700年前の標高は現在よりも約3.5m高かったと推定できる。

下層で検出された遺構には、建物跡1棟、溝2条、特殊遺構(特殊遺構1～5)5基がある。溝は建物跡に伴う可能性の高いL字状の1号溝(SD1)、建物跡南側に建物跡の方位と概ね同じ方位の2号溝(SD2)である。

2号溝は報告書の断面図から読み解くと、東側のAラインの溝底が標高0.83m、西側Bラインの溝底が標高1.29mで、西側が高く東側が低い。信濃川への排水を目的としている溝であったと推定される。

建物跡に重複して特殊遺構3・4の2遺構が検出されており、特殊遺構の方が新しい。特殊遺構5のように建物跡と同時期に機能していたと推定される遺構もあるが、建物の廃絶・遺棄後に、特殊遺構が構築された可能性が高いと考えられる。

馬場屋敷遺跡下層から出土した陶磁器・土師器などの点数は表1のとおりである。青磁10点、白磁2点、中国産灰陶磁器1点、瀬戸美濃焼3点、珠洲焼の壺・甕・播鉢・鉢類293点、中世土師器皿343点で、中世土師器の皿が多い割には陶磁器の点数が少ない。珠洲焼は吉岡編年Ⅲ期〔吉岡1994〕の資料が主体で、後に触れる紀年銘木簡と合致する。

この他、砥石16点、金属製品26点(刀子5点、錐1点、鎌点1、鋸1点、轆1点など)、銭貨162枚の遺物が出土している。銭貨は43種あり、開元通寶(初鑄年621年)から淳祐元寶(初鑄年1241年)までの年代幅を持つ。

土師器皿が多いのは居住者の階層の高さを示唆する可能性が高く、木製の折敷と箸が多いことも同様に階層の高さとして指摘できるであろう。一方で、陶磁器の点数が少ないのは、建物の廃絶・移転に際して持ち去られた

表1 馬場屋敷遺跡下層 陶磁器・土師器出土点数

種別	器種	点数
青磁	碗	10
白磁	碗	1
	皿	1
珠洲焼	壺	182
	甕	17
	壺・甕	6
珠洲系陶器	甕	5
越前焼	甕	1
褐釉陶器	壺	3
珠洲焼	片口鉢・播鉢	70
	鉢	18
珠洲系陶器	播鉢	23
中国産灰釉陶器	合子	1
瀬戸・美濃焼	天目茶碗	1
	瓶子	2
中世土師器	皿	343
合計		684

総重量 27746 g

のか、陶磁器を多数所有できない階層であったかのいずれかである。

生産関係の遺物は多くなく、曲物の挟み板？、紡織関係資料程度である。下駄や歯の出土点数が多く、下駄生産を行っていた可能性が指摘されたことがあったが、全て使用されたもので、下駄作りを行っていた証拠はない。木製品には加工痕を残すもの、転用材を用いたものが多く認められるが、専業として一定の種類の木製品を作っていた可能性は低いと考えている。

この他に、題箋軸が8点程出土しており、文書を保有していたことを推察させる。

(3) 馬場屋敷遺跡下層の年代と周辺の遺跡

馬場屋敷遺跡下層からは、正応2(1289)年～延慶3(1310)年の紀年銘木簡が6点出土しており、出土遺物からも13世紀末～14世紀初頭の遺跡であることが確認される(表2)。紀年銘木簡6点中5点が茅札などの生活空間に残された木簡であることを考慮すれば、その後の特殊遺構とされた祭祀空間に代わった時期は14世紀初頭以降を主とした時期に下る可能性があると言えよう。

馬場屋敷遺跡の下流に位置する北西約6kmには浦廻遺跡〔新潟県教育委員会2003〕、北西約10kmには小坂居付遺跡〔新潟県教育委員会2012〕があり、馬場屋敷遺跡に年

代的に近いので、簡単に概要を記しておこう。

まず、浦廻遺跡では、「南無阿弥陀佛」や「南無大日如来」と記された卒塔婆、「急々如律令」などの呪符、「妙法蓮華経」の経文が記された柿経など葬送・供養儀礼に関連するものや、元應2(1320)年の年号が記された木簡など108点、漆器約20点が、人骨と共に出土している。日常生活で使用したと考えられる木製品も多量に出土しており、近接して集落があった可能性が高い。

小坂居付遺跡では、元亨3(1323)年や、元亨5(1325)年の年号が記された茅札、稲の品種を記した種子札などが出土し、13世紀から14世紀代の屋敷と水田跡が5面以上確認されている。洪水堆積層が3層も覆っており、珠洲焼は馬場屋敷遺跡よりも編年的に下るⅣ期が中心でⅤ期の資料も含むので、下限は15世紀中頃まで下るものと考えられる。

3遺跡から出土した紀年銘木簡で見れば、馬場屋敷遺跡が最も古く、約10年後の浦廻遺跡、さらにその3・4年後の小坂居付遺跡と続くことになる。3遺跡は40年に満たない年代幅の中に収まることになり、近接する3遺跡の比較研究をすることによって明らかになることが多いと思われる。何よりも3遺跡を評価する際に重要なことは、台地上の遺跡では遺存しない木製品が大量に残され、当時使われていた道具類がほぼそのまま残されているという情報量の豊富な点である。

(4) 木製品

馬場屋敷遺跡下層出土の木製品は、切り屑などを除いて、総点数7,260点が伝わっている。保存処理がされた木製品は木簡など少く、ほとんどが自然乾燥状態にある。このために、針葉樹材は歪みが少ないが、広葉樹材は歪みの激しいものが多く、元来の形状が大きく損なわれている。

木製品は、〔伊東隆夫・山田昌久編『木の考古学』海青社2012〕の分類に準じて整理をおこなった。『木の考古学』は通史的な木製品の分類を目的としているために、中世の馬場屋敷遺跡の場合には該当しないものもあるが、基本的にこの分類基準で、分類整理・集計を行った(表3)。

図版もこの分類順に図示しているが、図版のレイアウト上、順不同になっている部分もある。また、特殊遺構1～5出土木製品と木簡は最後に掲載した。

遺物番号は全て通し番号とし、遺物番号の下に出土グリッド・遺構名を記した。注記が消えていたり、無かったりして不明のものも多かった。また、既刊報告書に記載されている表の出土位置「出土区」と違うものもあったが、遺物そのものの注記や、保存処理をした際のカー

表2 馬場屋敷遺跡周辺の紀年銘木簡

紀年銘	西暦	遺跡名	木簡番号	釈文	種別	地名
正応二年	1289	馬場屋敷遺跡	8号木簡	「[] [] □応二年□□□ 〔正 _カ 〕 「(花押)(焼印) 」	茅札?	
正応四年正月廿二日	1291	馬場屋敷遺跡	2号木簡	「こ川のうらの、かや かるへし(花押) 」 「志やうをう四年 正月廿二日 (花押)(焼印)」	茅札	こ川のうら
正応四年八月十八日	1291	馬場屋敷遺跡	6号木簡	「□□郎 かや□事ハ、たい 〔の〕 へい一、御□く一、□□□□ ほ□□□わんの事に」 「し□□□応四年 〔や〕〔う _カ 〕 八月十八□ 」 〔日〕	茅	
正応五年十月五日	1292	馬場屋敷遺跡	3号木簡	「こいつミのかやの ふた 正応五年十月五日」 「(花押)(焼印) 」	茅札	こいつミ
正応六年二月 日	1293	馬場屋敷遺跡	1号木簡	「よしへのかやのふた 正応六年二月日 」 「(花押)(焼印) 」	茅札	よしへ
延慶三年二月九日	1310	馬場屋敷遺跡	5号木簡	「<あておろす ふ子満きの事 かわし也八十□□事 二郎む□三□(花押)」 〔ま _カ 〕 「<ゑきやう三年 二月九ぬか 」		
元應二年	1320	裏廻遺跡	29号木簡	「南無 「元應二年□□ 〔十月 _カ 〕		
元亨三年七月	1323	小坂居付遺跡	1号木簡	「<吉ゑのかや 七月中 元亨三年 (花押)<」 「< (花押)<」	茅札	吉ゑ
元亨五年 月五日	1325	小坂居付遺跡	4号木簡	「<よしゑのかやふ たの事 元亨五年□月五日<」 「< (花押)<」	茅札	よしゑ

表3 馬場屋敷遺跡下層木製品集計表

分類群	記号	器種名	点数	焼痕	重量 (g)	遺物番号
1 工具	1_7	刀子 柄 鞘	10	3	85	1~11
	1_8	不明柄	4		130	13・14
	1_16	発火具 火きり杵 白	6	5	77	15~19
2 農耕土木具	2_1_4	鍬 鋤 身 柄	8		360	20~25
	2_11	鎌 谷地鎌含む	14	2	356	26~32・34
	2_16	田下駄	15	1	2,276	35~46
3 編み具 紡織具	3_2	木針 (茅針)	19		133	47~64
	3_3	紡錘車	14		60	65~76
	3_4	糸巻具	9	2	153	77~84
	3_5_2	緯打具	3		141	85~87
	3_9	その他 手押木	6		213	88~93
	3_9	その他 整経具	4		41	94~97
3_9	不明	2		2	98・99	
4 運搬具	4_1	天秤棒	2		188	100・101
5 漁労具	5	漁労具	2		11	102・103
7 服飾具	7_1_1_1	連菌	2		35	106・107
	7_1_1_3	下駄・差菌 (菌)	60		2,373	132~155
	7_1_1_4	下駄・差菌 (台)	57	1	1,729	104・105・108~131
	7_1_3	板草履	83		293	156~170
	7_3_2	櫛	3			171~173
8 容器	8_1	椀 (漆塗)	43	4		191~227
	8_2	皿 (漆塗)	27			174~190
	8_3	鉢 (漆塗)	5			228~230
	8_8	箱	89	19	1,645	236~296
	8_10	桶 底板 蓋板	7		130	315~320
	8_15_1	合子 (漆塗)	2	2		231・232
	8_16	曲物側板	123	38	492	297・299~302
	8_17	曲物底板 (蓋板)	83	12	1,970	303~314・321~353
	8_20	その他・不明 (漆塗)	3	3	202	233~235
8_20	その他・不明	6		201		
9 調理加工具	9_2	しゃもじ (籠杓子)	9		83	354~362
10 食事具	10_1	箸	2,708	142	1,861	367~405
	10_5	膳	4	1	52	366
	10_6	折敷	77	5	1,394	406~436
12 調度	12_5	燭台・灯明台	5	1	118	437~443
13 祭祀具	13_1	串 (小)	667	3	1,633	448~579
	13_1	串 (中)	355	32	3,550	580~688
	13_1	串 (大)	44	4	2,521	689~731
	13_2_1	形代 (武器形)	39	3	305	732~769
	13_2_1	形代 (人形)	80	7	673	776~848
	13_2_5	形代 (鳥形)	4		48	772~775
	13_2_6	形代 (舟形)	2	1	52	770・771
18 遊戯具 日用品	18_9	羽子板	9	2	114	849~856
19 計量具 文房具	19_10	木簡	77	2	132	857~899・1203~1246
	19_11	軸 題箋軸	9	2	9	900~908
20 建築部材	20_1	柱	94	1		1064~1089
	20_4	壁	13			1202
21 施設材 器具材	21_4	板	7		4,701	910・911・1090~1098
	21_5	棒 (小)	1,446		2,249	
	21_5	棒 (中)	575		6,745	
	21_5	棒 (大)	56	7	3,733	912~919
	21_5_1_5	棒 (その他)	7	1	77	
	21_7_3	水口の水門	1		209	909
22 土木材	22_3	矢板	13	1	1,115	920~928
25 その他	25_1_3	加工材 削りかす	-		9,234	
	25_1_4	加工材 残材	229	18	2,737	
	25_1_4	加工材 残材 竹材	13		24	929~1063
		薄板 (加工痕有)	409		1,195	
	薄板 (加工痕無)	1,067		6,077		

総点数 (切り屑等を除く) : 7260点
総重量 (柱等を除く) : 70443 g

ドや遺物カードに書かれた出土位置を優先した。元々の注記は馬場屋敷遺跡を示す「B」と書かれていたが、市内の他遺跡との区別がつかないので馬場屋敷遺跡下層を省略した「BBY下」と改めた。ただし、本報告では、この「BBY下」と「1区」を省略して記述している。なお、木簡は木簡番号も併記している。箸・串・棒など出土点数の多いものは、グリッドごとの点数・重量を集計したが、紙数の制約があり図示はしなかった。

次に分類に従って、遺物の概要を記す。また、木材加工技法の分類・用語は原則として、〔成田寿一郎『日本木工技術史の研究』法政大学出版局1990〕の木材加工技法の分類(表4)に拠った。なお、実測図の●は広葉樹を示す。

1 工具

1_7 刀子 (図1-1~11) 柄又は鞘1・5・10・11は、削り込みのあるもの。1は釘孔があるので柄であろう。2~4・6~8は釘孔のみ確認できるもの。

1_8 不明柄 (図1-13・14) 基部に孔が穿たれた棒状の木製品。柄ではないかもしれない。

1_16 発火具 (図1-15~19) 15~17は火きり白、18・19は火きり棒である。焼痕が認められる。

2 農耕土木具

2_1_4 鍬・鋤の身・柄 (図1-20~25) いずれも広葉樹で歪みが激しい。21・22は鍬身。金属の刃を取付けたアタリがU字状に残り、柄を取付けた柄孔は台形。

20はヘラ状の木製品で、広葉樹であることから細鍬身と考えた。23~25は中央に長方形の孔が穿たれた鋤柄の握りであろう。鋤身は

確認されていない。

本遺跡では農耕土木具が著しく少なく、集落移転の際に、移転先で優先して使用するために持ち出された可能性を考慮する必要があるかもしれない。

2.11 鎌 (図1-26~32・34) 先端に縦のスリットを入れ、孔が穿たれた棒状の木製品。断面形は楕円形を呈する。30には鎌身と考えられる金属製品が残っている。

26・27・29・30は木柄の中程にも孔が見られる。30は鎌柄の目釘孔が2つになる例で、26・27も長い鎌柄に対応するものと考えられるが、29に穿たれた中程の孔は用途不明。29~31には柄の下方寄りに鋸歯状の刻みが彫られており、低湿地仕様の滑り止めであろう。32は下端が膨らむ例で小形品。34は全長48cm以上の大形品である。民俗例にみる「ヤチキリ鎌」の可能性はある。

2.16 田下駄 (図2-35~図5-46) 比較的厚手の板材を用いた長さ30cm弱の大形の下駄。連歯が6点(36・40・41・43・44・46)、無歯が2点(42・45)ある。41は遺存状況が悪く旧状がわからない。前緒孔は台の中央に穿たれるのが通例だったようで、台の左右に偏る例は36・39に見られるだけである。

36は現状では裏面の上下に幅3cm、長さ14cmの板材が新しい木釘で留められているが元来の姿は不明。前緒孔が2箇所、後緒孔が3箇所ある。

35・38・39の3点は所謂「ナンバ」型の田下駄。表面にU字形の足枠、裏面に突起が彫られている。いずれも材は広葉樹で、出土状況の写真を見ると良好な遺存状況であったようだが、その後の自然乾燥により現在の状態は極めて悪い。35は何片にも割れ、38は薄く拉げている。39は田下駄に転用された際の新たな孔が穿たれているが、足枠の痕跡、裏面の突起から「ナンバ」型田下駄が転用されたことがわかる。

大きさは上下20cm程度、左右の長さ(幅)は35が47cm、38が40cm、39は足枠部分で線対称に反転すると44cm程度になる。民俗事例によれば足枠はU字形の部分に踵をあて、足枠に穿たれた孔に紐を通し、足首を縛って固定した。裏面の突起は足先側にはなく、踵側に付けられていることになる。

新潟県内では古代から中世の16例があり(表7、図52・53)、このうち新潟市内で13例が出土している。中でも秋葉区大沢内遺跡では6例あり、図・表に示した以外にも2004年の試掘調査時に出土した未報告資料(未成品)が1点ある。民具の場合、足枠は別木を後から取り付けられた例が一般的ようだが、遺跡出土資料は足枠と裏面の突起は一木から彫り出されている。

「ナンバ」型田下駄は古代から中世の農具で、奈良時

表4 木材加工技術の分類

大分類	中分類	小分類	適用すべき工具または技法・補助材
除去加工	分断	伐る	石斧(磨斧)・鉄斧(与岐)
		載る	鉦・鉄斧(鑿)・鉄 ※鉄は切屑が出ない
		割る・剥く	鉄斧(鑿)・鉦・木箭(楔)・鑿・小刀・庖丁 ※屑が出ない
		挽く	鋸類 ※横引鋸:古墳時代末期頃から、縦挽鋸:14世紀頃から
	賦形	削る・研る	鉦・鑿・鉦・鑿・鉦・鉦(台鉦) ※台鉦:15世紀頃から
		削る	鑿・剝小刀・柳刃(生反)
		穿つ	鑿・錐類
	表面整成	削る	鋸・鉦・鑿・直正台
		刮ぐ	こさげ刃 ※刃を立てて、引っ掻くようにして削りとること
		擦る	錘・木賊・砥石・砂
集成加工	接着	固着	膠・漆・飯糊(そつくい)・植物および動物蛋白
		張(貼)る	植物蛋白類
	緊結	結ぶ・縛る	蔓・紐・針金・植物繊維・樹(桜)皮 ※針金は明治以後
		釘着・螺着	釘・鏝・螺子(木螺子)
		縫う	紐・桜皮類
	嵌合(組立)	継ぐ	長さの継足し、柄継ぎその他各種
		接ぐ	T・L形接ぎ、柄組みその他各種 ※接ぐを仕口ともいう
編組	編む・組む	網代組・籠編みなど	
塑性加工	曲げる・伸ばす	煮る・蒸す・熱する	
	矯める・弾ませる	乾かす	

(成田寿一郎『日本木工技術史の研究』1990 法政大学出版局に拠る、一部改変)

代は幅が25cm程の短幅タイプ、平安時代に幅が40cm以上の長幅タイプが出現し、中世は長幅タイプだけになるようだ。柏崎市箕輪遺跡(図52-2)・新潟市大沢谷内遺跡(図52-3)は未成品。石川県内では弥生時代終末期から古墳時代にかけて短幅タイプが出土しているが〔林2013〕、新潟県内では古墳時代に遡る例は現状では確認されない。

会津地域では田植え前の代掻きに刈敷とよぶ草や木の若芽を緑肥として踏みこむ代踏み用、湿田の稲刈りにはまらぬために使用する2種類があり、前者は大形でオオアシ(大足)と呼ぶ地方が多く、後者は小形の下駄状のものが多い〔佐々木1990〕。

『会津農書』(1684)でも「谷地田ハ馬にて搔事不成。南蛮、大足にて踏に寄て小切を念を入れてすへし。」とあり、ナンバとオオアシを代踏みに用いた事がわかる。農書記載のナンバと伝世資料の同定は佐々木長生が丹念に行っており〔佐々木1990〕、遺跡出土の足枠のある田下駄は『会津農書』記載のナンバでよい。新潟県内では会津地域のように近世まで伝わる資料はない〔農山農村文化協会1982・佐々木1990〕。

3 編み具・紡織具

3_2 木針 (図5-47~64) 先端が尖り、先端部寄りに直径1~2cm程度の孔が穿たれた厚さ約1cm、幅2~3cmの細長い板材。屋根を葺く際に、紐を通して茅の結束に用いられた「カヤ針」と考えられる。最も遺存状況の良好な54は現存長34cmある。孔は1孔が一般的のようだが2孔のものも見られる(55)。また、両端が尖るものが2点あり(56・57)、用途が異なるのかもしれない。木針は茅札木簡の評価をする際に重要な遺物であろう。

3_3 紡錘車 (図5-65~76) 中心に孔が穿たれた円盤状の薄板で、紡錘車の紡輪である。棒は不明。直径8cm前後が多い。いずれも針葉樹で薄く軽く、小形曲物の底板・蓋も含んでいるものと思われる。孔の開かない69、ケビキを残す76は未成品であろう。70は孔が長方形、71は周囲に調整痕を残す、72・73は多角形をなすものである。

3_4 糸巻具 (図6-77~84) 77~80は糸巻具の枠木である。84は枠木とそれを固定する横木が組合さった例で、枠木は一般的なものに比べ太く、全面が焼けて炭化している。横木には中央に軸棒を通す直径2.5cm程の孔、木釘を打ち付けたような小孔が残る。

81~83には端部にV字状の切込みがあり、糸巻きではないか考えたものである。

3_5_2 緯打具 (図6-85~87) 布送具・経緯打具の可能性のあるものをまとめたが、確定的ではない。87は側縁が直線状になっていないので、武器形の形代の可能性もある。

3_9 その他 (図6-88~93) 鎌倉市佐助ヶ谷遺跡の「手押木」に類似するもの。3~4cm前後の材を台形状にし、底辺を平坦にしている。「手押木は『手押台』と呼ばれる長方体の台の上においた『紡錘』(糸をつむぎ、巻き取るのに使う細長い道具)の軸棒をこすって回転させ、糸に撻りをかける道具である。」[斉木1993]とされている。

3_9 その他 (図6-94~97) 薄板に概ね均等な間隔で孔が穿たれているもので整経具と考えたもの。96は孔が不均等で、孔の大きさも他に比べ大きい。

3_9 その他 (図6-98・99) 張手棒の可能性はあるものだが、長さ10cm程度と短い。

4 運搬具

4_1 天秤棒 (図7-100・101) 長軸端部の際に三角形の切込みを持つもので、天秤棒と考えたが、曲物製作時に用いた木挟みの可能性もある。2点とも反対側の端部は欠損している。

5 漁労具

5 漁労具 (図7-102・103) 浮子(102)・網針(103)が1点ずつある。本遺跡では土錘が1点もなく、河川が近いのに漁撈関係遺物が少ないことが、この遺跡の特徴の一つとして上げられる。

7 服飾具

7_1_1_1 連歯下駄 (図7-106・107) 大形品は田下駄としたので、連歯下駄は長さ13cmの幼児用が2点ある以外にない(106・107)。使用により歯がほとんど摩耗していること、後緒に沿って小孔が多く穿たれるなど、2点は酷似しており一対になる可能性が高い。

7_1_1_3 差歯下駄 差歯 (図9-132~図10-155) 台形状の下駄の差歯。針葉樹材を用いている。上端幅約9cm、高さ10~12cm、下端幅約16cmで、柄は2つが多く、1つのものは132のみで少ない。132は上幅7cmで他より小形である。外形は台形状に強く開くものの他に、135・138のように直線状に立ち上がるものもある。

砂粒を噛んでいるもの(140・141・146・149・151・152)、使用により前後に片減りしているもの(133・136・146・151)、加工痕を残すもの(140)がある。

歯は60点と多数出土しているが明確に製作過程がわかるものはない。

本来であれば、台に対し差歯が2倍の数量なければならぬのに、出土点数は歯と台がほぼ同数であった。歯が摩耗した場合に、歯のみを差し替えたのなら、台に対し歯は2倍以上の数が必要ならぬ。残された台と歯の数だけを見ると、本遺跡で歯を差し替えていた可能性は低いと言わざるを得ない。歯は良材を用いているので、摩耗してしまった差歯を他に転用したために遺跡に残されなかった可能性も考慮する必要があるかもしれないが、推論の域を出ない。

7_1_1_4 差歯下駄 台 (図7-104・105・108~図9-131)

台は全て広葉樹と思われ、自然乾燥によって大きく歪んでいる。長さ22~23cm、最大幅9cm前後で、最大幅は歯の上端幅と概ね一致する。前緒は全て左右の中央に穿たれている。

柄穴のないもの(陰卯)は104・105のみで、他は柄孔が認められる(露卯)。柄穴は前2孔・後1孔は108・109の2点のみ、他は前2孔・後2孔で、2つの柄が大半を占める歯の量比と合致する。本遺跡では前後2孔の露卯差歯下駄が一般的であったと言えよう。

近接する浦廻遺跡・小坂居付遺跡と比較すると、連歯下駄が少ない一方、露卯差歯下駄が著しく多いと言える。

7_1_3 板草履 (図11-156~170) 針葉樹の薄板を用いた

草履芯。2枚一組で使用された。長軸と直交方向に藁あるいは藁と考えられる繊維痕の残るものがある(159・164・170)。大きさは長さ22~23cm、幅(左右併せて)10cm前後。先端内寄りに1対の小孔があり、小孔部下方に小さな切込みが認められるものがある(159・164・166・167)。側縁の中程よりも下には切り取り部があり、その形状は三角形(156~163)・台形(164・165)・方形(166・167)の3種が認められる。156は長さ18cm程度で他よりも一回り小形のもの。

浦廻遺跡・小坂居付遺跡の例は、上端中央部がV字状になるものが一般的だが、本遺跡では同じ形態のものは159・169と少なく、水平になるものが多い。

7_3_2 櫛(図11-171~173) 横櫛で、3点とも白木。

(渡邊朋和)

8 容器

8_2 皿(漆塗)(図12-174~190) 174~189は口径9cm前後、底部径7cm前後、器高約1cmの小形の皿である。内面や底部は平滑で、内外面には工具痕が残る。底部は平坦で、189のみ底部外縁に高さ0.1cm以下の高台が削り出されている。塗りは内外面黒色が主体で181・187・189は内外面が褐色、188のみ内面赤色、外面黒色であるが、著しく変形していることから、本来の形状を復元することができない。なお、皿のほとんどが底部を中心に漆塗膜を失っており、木地が痩せ、変形している。

182~187は内面に赤色で植物を中心とした文様が描かれており、183の高台外縁には一部赤色の漆が付着している。178・181・187は底部に轆轤爪と推測される痕跡を確認できる。

190は口縁部と高台を欠損、残存する胴部の立ち上がり外側に開き、見込みに主要な文様が施されることから皿と判断した。内外面は赤色の塗りで、見込みを朱色で縁取る黒色の円で区画し、その内側に径2.8cmの全菊(朱色)と半菊(黒色)を3単位で描き、その間を朱色と黒色の植物文様で隙間なく装飾している。花卉の外縁には重ね塗りの痕跡があり、細い筆を使用して花卉の太さを調整しつつ、0.1cm以下の間隔で中央に向かって集中するように描かれている。本遺跡では塗りや文様に使用される黒色以外の色調には、赤色(暗赤色)と朱色(明赤色)があり、塗りや文様は赤色が主体であるが、219・224といったごく少数の資料で塗りや文様に朱色が認められる。これは顔料(ベンガラ・水銀朱)の違いを反映していると考えられるが、化学分析を行っていないため、ここでは色調のみを示す。なお、内外面赤色塗りで塗りや文様に3色を用いるのはこの資料のみである。

8_1 椀(漆塗)(図12-191~図13-227) 191~227は椀と判断した。皿と同じく木地や漆塗膜が欠損・変形している資料が大半で、200~203は火を受けて一部あるいはほとんどが炭化し、204~215は著しく変形していることから、図示した形状が使用時の器形と大きく異なる可能性がある。

椀は口径約12~14cm、高台径7cm前後、器高約3~5cm、底部外縁に高さ0.1~0.2cmの低い高台をつくり、内外面黒色で、赤色の文様が描かれるものも多く、全体に工具痕が認められる。194・204は内面が褐色、218~220は内外面黒色、内外面に赤色で草木や花をモチーフとする円と放射状の線で構成された文様が施される。223~227は内面赤色、外面は黒色で赤色の文様のみみられる。225は外面に3あるいは4単位の文様をもつ。

8_3 鉢(漆塗)(図13-228~230) 228は挽物の胴部で内外黒色、229は口径20cm前後の器である。木地の表面が平滑であること、一部黒色を呈する部分が下地の痕跡である可能性が高いことから、228・230と同様に、漆塗りの片口鉢や盥と判断した。230は口縁部で口径約30cm、内面赤色、外面黒色、皿や椀と比較して器壁が厚く径が大きいことから、片口鉢や盥といった器種が想定される。

8_15_1 合子(漆塗)(図13-231・232) 231、232は合子の蓋である。いずれも内外面黒色の塗りで、内面には工具痕が残る。231は口径5.3cm、232は口径7.1cm、欠損した部分が一部黒色に変色し、いずれも表面の塗膜に縮れが認められることから、火を受けたものと判断できる。合子は全国的に出土例が少ない資料である。

本遺跡から出土した漆塗りの挽物は、保存処理後に実測や観察を行っており、形状や年輪が明確ではないものが多い。なお、断面で観察した木取りは全て横木取りである。また、小坂居付遺跡でスタンプ文とされる資料(135・261)を確認したところ、その特徴を見出すことができず、本遺跡にもスタンプ文の資料は認められない。スタンプ文は鎌倉幕府とのつながりが強い拠点的な遺跡から出土するという指摘があり〔四柳2006:201頁、2009:118頁〕、政治的な解釈に関わる資料であることから、大武遺跡の報告で示される県内出土資料についても再確認の必要がある。皿・椀は内外黒色塗りの資料が主体であり、皿は内面、椀は内外面に文様があるものが含まれる。浦廻遺跡および小坂居付遺跡と比較すると、器種や形状、椀の文様モチーフ、色調などが類似する資料(本遺跡221・小坂居付遺跡137など)、が確認できることから、同じ13世紀末から14世紀代の資料群と推測される。

このうち、内外面赤色の塗りの上に、円で区画した見込み部分を、朱色と黒色で塗り分けた菊花(全菊・半菊)

の意匠を3単位用いて、間を植物文様で埋め尽くすように描いた皿(190)は、類例が少ない特別な資料である。管見の限り、中世・近世の出土資料で、これほど精緻な文様をもつ資料はごく一部であり、13・14世紀代であればさらに希少な事例といえる。

なお、赤色の塗りに朱色と黒色で文様が描かれた資料は、佐助ヶ谷遺跡や由比ヶ浜南遺跡など、14～15世紀代の遺跡から少数出土している。

本遺跡出土の皿(190)と椀(218)、小坂居付遺跡SR1(2層)出土の漆塗膜の放射性炭素年代測定を行ったところ、14世紀～15世紀第1四半期という結果であった。なお、小坂居付遺跡は水漬けの漆塗膜、本遺跡の資料は全て保存処理済み(PEG)であることから、塗膜にPEGが残存し、年代測定に影響がでている可能性は残る。しかし、190とその他の皿・椀の塗りや文様の色調が類似しており、共存遺物には16世紀以降と判断できるものはみられない。皿(190)の年代については文様や形状で判断できないことから、今後、同時代の資料との形状や意匠の比較および理化学分析を含む考察を行う予定である。(清水 香)

8_8 箱(図14-236～図15-296) 針葉樹の板材に木釘痕を残すもの。木釘により釘着され箱状になっていたと考えられる。木釘そのものが遺存しているものも多い。板の厚さは0.6～1cm程度と薄い。柾目材が主で、板目材が若干ある。

木釘による釘着方向により、a類：木釘孔が板材に直角に穿たれたもの(236～273・290・292～294)。b類：木釘穴が板材の木口に穿たれているもの(274～289・291・295・296)に分類される。b類の中にはc類として、a類・b類の要素を併せ持ったものを抽出できる(277・278・282・284・285・288・295・296)。

277は二枚組接ぎ〔成田2005〕の箱の側板である。特殊遺構5の図43-1184も二枚接ぎ箱の側板であろう。277・278などからb類としたものは箱の側板の可能性が高いと考えられるが、他は底板か側板かは判然としない。

295・296は3方向に木釘b類、1方向に木釘a類があり、各所に焼痕がある。浦廻遺跡で「行火」とされた例に類似する。その他不明とした図34-997、施設材・器具材とした図40-1096も木釘孔が残り、大形の箱状製品であった可能性が高い。

8_10 桶 底板・蓋板(図17-315～320) 315・316は比較的厚みのある底板で、周縁端部が上方へ開いており、側板に嵌る桶の底板と考えられる。この他に底板に直角に木釘が打たれているものがある(317～320)。317は一部に木釘が残るが、孔に沿って周囲が1cm程の幅で一段

剥られている。318も同じ作りのものである。317・318のような側板の結合の仕方は、桶・曲物にも類例を知らない。319・320は周縁に木釘孔のような孔があるが、転用後の加工かもしれない。

広島県草戸千軒遺跡には13世紀の結桶があり、本遺跡の例が結桶とすれば、東日本でも古い事例になろう。

8_16 曲物側板(図16-297・299～302) 釘穴が残るものは曲物の側板であろうが、小破片となった側板は折敷側板との判別が難しい。底板共々焼痕のあるものが多い。299は小判形を呈し、側板の小孔に棒状木製品(298)が差し込まれて、甌として使用されたと推定される。内面にケビキの見られるものがある(299・302)。

8_17 曲物底板(蓋板)(図16-303～図17-314・321～図19-353)

303～305は中央に摘みを付けた孔がある蓋や鍋蓋。特殊遺構5出土の図43-1186・1187も鍋蓋であろう。304や1187には中央付近に樺皮で綴じた跡が残るが、補修用のものとするよりは、折敷底板の転用材を用いたからであろう。図33-938は木釘で釘着した蓋の把手である。306は周縁に切込みがあり、中央に2孔が残る厚身のある円板で用途不明。

底板の木口に木釘が打たれている釘結合曲物(307～314)、樺皮で綴じた樺皮結合曲物(321～324)がある。323は周縁に直交する樺皮も残るが側板の結束に用いたものかはわからない。側板との結束方法が不明のものも多く(325～342)、未成品かと思われるもの(343～353)もある。347・352などは折敷底板を転用しているが、曲物底板の未成品かわからない。

8_20 その他・不明(漆塗)(図13-233～235) 器種不明の挽物で、3点とも被熱によって炭化している。また、広葉樹材のために歪みも激しい。3点とも黒漆が塗られていた痕跡がある。

233は底径19cmのわずかに上げ底となる無台底部で、底の厚さは1～2cmと分厚い。8mm程の厚さの器壁が立ち上がるが破損している。234も被熱、歪みが激しく、原形を留めていないが、底径17cmほどの挽物である。低い高台状の部分が残っている方を下として図化した。厚さ1cmほどで、内面は激しく炭化している。235も低い高台状の部分残り、推定底径約28cm、厚さは約1cmの挽物である。

9 調理加工具

9_2 しゃもじ(篋杓子)(図19-354～362) 薄板の先端を丸くし、基部を柄状に仕上げたもの。2孔の残る354・359・360は折敷底板の転用材と考えられる。356はアスファルト状の付着物が認められる。

近接する浦廻遺跡・小坂居付遺跡では、調理加工具に分類される脚の付く定型的な俎板が出土しているが、本遺跡では定型的なものではなく、刃物痕を残した転用材しかない。庖丁の柄もない。生活必需品であったために、建物移転の際に持ち出された可能性があるのではないだろうか。

10 食事具

10_1 箸 (図20-367~405) 針葉樹材を小割にして棒状に削ったもので、中央はおおむね方形、両端は削られて尖っている。完形・破片の総点数は2,708点。完形品は285点で、一方又は両端を欠損するもの、焼けた痕跡があるものなど様々である。完形品285点の長さは表5のとおりで、20~23cmに194点と70%近くがまとまる。30cm以上のものが3点あり箸の可能性はある。完形品の長さを21cmとすると、推定本数は1,282点と膨大な数があったこととなる。

出土重量の多いものからグリッド別に示すと、F 3 : 236g、H 3 : 210g、G 2 : 145g、F 4 : 117g、D 7 : 104g、G 4 : 93gなどとなり、後述する建物跡や、特殊遺構 2・3・4・5の近辺で多いように見受けられる。

10_5 膳 (図19-366) 366は隅が丸い小判形を呈し、長軸の両端の隅が花卉状に彫り出されている。縦に割れており、旧状が正方形であったか、長方形であったか分からない。背面には木目に直交する方向に、脚台が差し込まれていた溝状の柄穴が2条残る。

364・365は柄穴に差し込まれた脚と考えられるもので、364には円筒状部分の外周と上端に黒漆が塗られている。上端の柄が8mm程の板に差し込まれ、その板の上面も黒漆が塗られていたと推察される。

10_6 折敷 (図20-406~図22-436) 5mmほどの厚さの針葉樹材の剥ぎ板を方形に切って四隅を丸く落とし、表裏を平滑に仕上げたもの。1辺が直線状で、縁(側板)を結束した孔が1対見られるものを折敷とした。折敷底板である。4辺が残る412は長幅25.5cm、短幅22cmで

表5 箸の計測表

長さ (cm)	点数
14.0 ~ 14.9	1
15.0 ~ 15.9	2
16.0 ~ 16.9	8
17.0 ~ 17.9	4
18.0 ~ 18.9	13
19.0 ~ 19.9	35
20.0 ~ 20.9	75
21.0 ~ 21.9	70
22.0 ~ 22.9	49
23.0 ~ 23.9	20
24.0 ~ 24.9	4
25.0 ~ 25.9	4

正方形とはならないが、この形態が一般的なものかは分からない。側板が遺存しているものはなかった。曲物の側板とした中に折敷の側板を含んでいる可能性がある。側板を結束する位置は1辺に対し1箇所もしくは2箇所が決まっていない。孔は小さいので、木釘

や樺皮ではなく紐により結束されていたものと推察する。

3辺が残存し、大きさがわかる27点を1cm単位で計測すると、20cm大:2点、26cm大:15点、27cm大:6点、28cm大:4点と、26~28cmに21点がまとまる。

折敷には径3寸の小角、径5寸の中角、径8寸の大角の3種の法量があるとされている〔『貞丈雑記 七膳部』〕。本遺跡の折敷は大半が9寸以上になるので、大角に相当するものであろう。脚のついた痕跡は確認されないが、図22-444・445や446・447が折敷の脚の可能性はある。

折敷底板は針葉樹の柁目材が使用されていたので、使用後に様々なものに転用されている。刃物痕があり俎板に転用されたもの、2つあるいは3つに切断され接合したもの(410・424)があるが、後者は材を転用する目的で切断されたのか、廃棄に伴う行為なのか分からない。切断された同一個体が近くから出土しているようなので、もし後者であれば興味深い。

12 調度

12_5 燭台・灯明台 (図22-437~443) 437・438は中央に切込みのある同形同大の板を十字形に組み合わせたもの。437は長さ28cmの折敷底板の転用材を用いている。438は端部をU字状にした板材を組合せるもの。439・440も端部のV字状の切込み、中央の切込みがある。439・440は糸巻きの可能性もある。

441は10cmほどの円形の材に直径1cmの垂直の孔1つと斜めの孔を3箇所に入ったもので、燈明皿などを載せる台であろう。草戸千軒町遺跡では八角形で形態は異なるが、燈明皿を置くための細木が中央に斜めに装着されている例がある。

13 祭祀具

13_1 串小 (図23-448~図24-579) 先端(下端)を尖らせた棒状の木製品。古代であれば齋串とすべきであるが、中世の遺跡なので単に「串」とした。地面に刺して使用したことが推察される細杭状の木製品である。先端を尖らせた板状のものは「木簡」、先端を尖らせないものは「棒」とした。

後述する特殊遺構 2・3・4で「祭祀空間」を圍繞するように地面に打ち込まれているのはこの「串」である。

その他に分類した図34-972・991・図35-1010は側縁に多数の切込みを入れるもので、これらも祭祀用の串の可能性もあるかもしれない。

両端を尖らせる串小のうち細いものは、箸に分類した「菜箸」との判別が困難なものもある。太さなどから小・

中・大に3分類した。450～454は上部に切込みや、圭頭状頭部を作り出すもの。450～453は片側に切込みがあるもの、454は圭頭状の頭部の下に切込み(削りかけ)を入れるものである。

出土重量の多いグリッドを順に示すと、H 3 : 240 g、F 3 : 188 g、F 4 : 147 g、G 4 : 101 g、F 5 : 88 g、G 5 : 72 gとなり、建物跡周辺、特殊遺構 3・4・5 周辺で多い。箸が多く出土していた特殊遺構 2 の周辺は特段多くはない。

13_1 串中(図24-580～図26-688) 太さ2～3 cmで、長軸10cm未満のものから50cmほどのものがある。597・624・628・647は上部に切込みがある。出土重量の多いものからグリッド別に示すと、G 5 : 350 g、G 4 : 291 g、F 5 : 290 g、F 3 : 234 g、F 4 : 190 g、E 4 : 174 g、D 7 : 150 gとなる。建物跡、特殊遺構 2・3・4・5 周辺で多い傾向にある。

13_1 串大(図30-689～図28-731) 太さが約3 cm以上の太めの材で長軸15cmから1 m程度のものがある。707・725・728は上部に切込みがあるもの。出土重量の多いものからグリッド別に示すと、G 4 : 396 g、D 6 : 240 g、F 5 : 176 g、H 4 : 164 g、H 3 : 91 g、F 4 : 77 g、D 3 : 71 gとなる。箸や串小・串中同様、建物跡、特殊遺構 3・4・5 周辺で多いが、D 6 で多い傾向は他の器種には見られなかった特徴である。

13_2_1 形代(武器形)(図29-732～769) 先端が刀状になるもの、尖状になるものがある。732のように具象的な例から、かなり抽象的な例までを含む。抽象的に省略化された例は、違うものを含んでいるかもしれない。732・746・751は基部に孔が穿たれる。759～763は先端が篋状になる例。741・757などは折敷の転用材を用いたものであろう。

13_2_1 形代(人形)(図30-776～848) 切込みを入れることによって、頭部を作り出しているもの。串の先端部など、人形ではないものも含まれていると思われる。周囲を打ち欠いて頭状を呈する例が多い。鉛筆を削るように周囲を削ったり、切断面を残すものや、さらに切断面を削り調整を加えるものが見られる。本遺跡では具象的な人形は見られない。776以外は針葉樹が使われている。

13_2_5 形代(鳥形)(図29-772～775) 鳥形の可能性がある抽象的な例。775は広葉樹材で、頭部寄りに隅丸長方形の孔、頭部際にも小孔が穿たれている。

13_2_6 形代(舟形)(図29-770・771) 中央部を削り舟の形にしているもの。770は小形のもので、一方に孔が穿たれている。

18 遊戯具・日用品

18_9 羽子板(図31-849～856) 長軸の片側の幅が狭くなる板状のもの。849・850は刃物痕を残しており、俎としての使用が推察される。

19 計量具・文房具

19_10 木簡(図31-857～899、図45-1203～図49-1246) 幅3 cm、厚さ5 mm未満の薄板状木製品で文字・墨痕が確認できないものも木簡としたが、単なる薄板も含んでいるかもしれない。下端を尖らせるもの、表裏面を削って調整するものがある。文字が認められるものは1203～1246に図示した。

19_11 題箋軸(図31-900～908) 題箋軸と考えられるものであるが、全てを認定するには躊躇する。

20 建築部材

20_1 柱(図37-1064～図39-1089) 針葉樹・広葉樹材がある。芯持材(1078・1079・1081・1082・1085)は少なく、縦に分割した材を用いるものが多い。1086は八角柱の多面体になっている。

下部(基部)は削ったり、研ったりした調整痕を持つもの(1064・1065・1067・1070・1071・1073～1076・1081・1083・1084・1089)、鋸で挽かれた痕跡があるもの(1086)がある。1082・1088は現状は尖っているが、打込みの柱かはわからない。また、本遺跡では明確な礎板はない。1066には長軸に直交する溝が片面に研られている。

20_4 壁(図44-1202) G 4にある柱の西側で出土した網代(檜垣)である。壁または屋根・天井に用いられたものであろう。建物跡との関連が強いと報告書に記載されている。遺存状態が悪く、実測をすることができなかったため、報告書の図面を再トレースして掲載した。針葉樹の剥ぎ板で編まれている。

新潟市西区緒立C遺跡では中世の包含層から1.6m四方ほどの完形品が出土している〔黒埼町教育委員会1994〕。よく似た編み方をしており、外周に枳板が付いている。

21 施設材・器具材

21_4 板(図32-910・911・図39-1090～図40-1098) 1090は長辺側に2孔が穿たれているもの、1096は周囲の3辺に木釘孔が見られるものである。

21_5 棒(図32-912～919) 串の項で説明したように、先端を尖らせない棒状の木製品。何に使用されたか不明の様々なものがあり、総数も2,000点以上と膨大な点数になる。便宜上、太さ・長さで棒小・棒中・棒大に分類した。919は長軸両端に結束したような痕跡がある。特殊

遺構1を圍繞するのは先端が尖らない「棒」である(図41-1099~1104)。

棒小・棒中・棒大それぞれのグリッド別出土重量の多いものから順に示す。

棒小 F 3 : 262 g、H 3 : 195 g、F 5 : 147 g、F 4 : 115 g、D 7 : 99 g。

棒中 F 3 : 624 g、F 5 : 457 g、H 3 : 413 g、G 4 : 388 g、E 5 : 284 g

棒大 E 4 : 287 g、H 3 : 226 g、D 6 : 190 g、F 4 : 92 g、D 3 : 390 g。

21_7_3 水口の水門(図32-909) 厚さ約1cmの横板2枚を3箇所6本の縦長の材で表裏から挟み、木釘で釘着したもので、中央は横板がなく開いている。長軸31cm、短軸22cmほどである。

白根市史では「水口」とされている〔飯田1989〕。図面を90度回転させ、中央の開いている部分に同じ厚さの板を差し込んで、上下に開閉して使用したのであろうか。

22 土木材

22_3 矢板(図33-920~928) 先端を削って尖らせたもので串とするには厚く、幅のあるものを矢板とした。

25 その他(図33-929~図36-1063) 用途が不明のもので、特徴的な例について順不同で掲載した。

933・935~937は孔が穿たれたもの。木釘が残るものもある。939・945は中程に溝・柄が剥られている。929・941・943は下端が獣足状になっている。929は小坂居付遺跡〔新潟県教育委員会2012〕と大沢谷内遺跡〔新潟県教育委員会2015〕に酷似するものがあり、「脚?」と分類されている。947は下端に切込みがあり、図7-100・101のような形状になるが、転用品の可能性はある。

950は中央が長方形に刳られ、上端・下端に2cm程の幅の結束痕が残る。

951~960は下端が円錐形に削られて尖るもので、栓の可能性もある。965・966は同様の形状で長いもの。

961~964・967~970・975~978は先端が篋状になるもの。

979~987・999~1002は両端を丁寧削り仕上げたもの。断面形がコマボコ形・凸レンズ状を呈するものが目立つ。972・974・988~996・998・1003~1007・1010は切込み・柄があるものである。

971・973・997・1008・1011~1013・1017・1024~1027・1030~1033は釘穴・釘孔があるもの。1003・1004は祭祀用の串かもしれない。

972・991・1003・1004・1010は側縁に多数の切込みを

入れるが、これらも祭祀用の串の可能性もある。

1011・1012は同形同大で長軸端部に直径2cm程の円形の孔を開け、2つの釘孔を残し、反対側の端部をL字形に柄を作っているが、用途がわからない。

1034は広葉樹材の弓状の木製品。一方の端部には孔がある。

1035~1061は切込みや人為的な切断痕のある薄板である。見方によっては札・木簡・形代に分類されるものもある。

(5) 特殊遺構

次に、特殊遺構とされる遺構からまとめて出土した木製品について、報告書の記載を引用して見ていきたい。

特殊遺構1(図41-1099~1104) F 8に位置し、「細杭」9本が約1×0.5mの長方形に並び、中央部から骨片や炭がかたまつて出土した。細杭は2~3cmの太さで、確認面よりも上に7cm前後出しており、垂直に立っているものが多かった(1099~1104)。細杭の中には、1099のように下端を研って尖らせる「串」もあるが、ほとんどは本資料報告の「棒」に分類されるものであり、他の特殊遺構と異なることが特記される。

特殊遺構2(図41-1105~1136) D 7に位置し、「細杭」15本が約1×1mの不整形に並び、中央からは直径40cm程の曲物底板(1135)と屋根板材(1136)が出土した。細杭は確認面よりも3~10cm程出しており、垂直に立っているものが多く見られた(1118~1134)。細杭は下端を削って尖らせる「串」が大半である。1134は孔が穿たれており、何かの部材の可能性が高い。

特殊遺構2の東側には木片と木簡10点が散乱していた(6号・10号・12号・13号・14号・15号・19号・29号・31号・41号木簡か?)。ここから出土した木簡の種別を、後に記す相澤氏の分類に従えば、文書様のもの3点、呪符4点、不明3点となる。文書様木簡5点中の3点がここから出土していることになる。不明とされた14号・15号木簡も文書様木簡に分類されれば、さらに点数は多くなる。

また、特集遺構2のあるD7グリッドからは、箸104g(完形28本・欠損130本)、串小48g(16本)、串中150g(18本)、棒小99g(59本)、棒中252g(11本)、棒大84g(2本)などの多くの木製品が出土している。

なお、写真で示したように、特殊遺構2の下部には黒色・白色の土層が縞状に堆積している。

特殊遺構3(図42-1137~1153) G 4に位置し、建物跡の北側に位置している。建物跡よりも新しいと考えられる。「細杭」が約1.6×1.1mの長方形を示すような形で

真直に立ち、32本が出土した(1137~1153)。中央付近から炭化物が出土したが、遺物の出土はなかった。細杭は下端を削って尖らせた「串」が大半であるが、板状・棒状など様々なものがある。

特殊遺構 4 (図42-1154~1160) G 5に位置し、建物跡中央東側に位置しており、建物跡よりも新しいと考えられる。「細杭」6本が約1×0.8mの方形に並び、中央付近に曲物底板(1160)と、その下から長さ20cmの棒、礫6点がそれらを取り囲むように出土した。細杭は下端を削って尖らせた「串」に該当するものである(1154~1159)。

特殊遺構 5 (図42-1161~図44-1201) G 3に所在し、建物跡の北端に位置する。特殊遺構1~4と異なり、約2×1mの範囲に板状木製品が集積し、曲物や篋状木製品を伴っている。特殊遺構5は建物跡の「一構成遺構」と報告されているように、祭祀遺構ではないと考えられる。

箸(1161~1169)、串(1170~1182)、箱(1183・1184)、曲物底板(1185)、鍋蓋(1186・1187)、板(1188~1193・1199~1201)、柱・棒(1194・1195・1198)、槽(1196・1197)が出土している。

(6) 木簡

木簡(図45-1203:1号木簡~図49-1246:45号木簡)

文字・墨痕のある木簡である。16号木簡は13号木簡と接合したために欠番になっており、現在木簡番号で管理されている木簡は44点になる。木簡の積文は相澤史氏が中心になって再調査した成果による〔相澤2016〕。その際に解読できなかった6号木簡は2020年に長谷川伸氏(新潟市歴史文化課歴史資料整備担当)に依頼し、再調査を行った積文を掲載した。以下、木簡番号で記載する。

相澤氏は木簡の記載内容や形態などから次のように分類しているが、基本的に変わりはないであろう。

①茅札6点(1~4・7・8号)

②呪符24点(9・11・12・18・21~29・31~35・37・38・40・41・43・44号)

③文書様のもの4点(5・6・10・13号)

④種子札1点(30号)

⑤不明9点(14・15・17・19・20・36・39・42・45号)

木簡の実測図は右:表面、左:裏面と図示している。文書は縦書きの場合には右から左へ書き進めるからであり、積文に合わせてある。木簡は文字(墨痕)・焼印以外に、調整痕・使用痕を別図に図示している。積文は別掲しているので、ここでは遺物として観察所見を記す。榎目材・板目材の別を記したが、樹種同定をしていないので樹種は不明である。肉眼観察では全て針葉樹と思われる。榎目材を使用した木簡は折敷底板を転用したもの

が多く見られる。表裏・左右は表面に対しての記載である。また、孔を穿つ際にキリ状の工具を用いたと仮定し、孔の大きい方から小さい方へ工具が入れられたという前提で、穿孔方向を記した。

なお、各木簡の最後には出土地点を記した。「外溝」は報告書の第2号溝(SD2)の記載に「この溝の緩やかな立ち上がり部分より木簡類が出土している。」とあるので、第2号溝と思われる。出土位置が不明のものも数点ある。

なお、前述したように、2号溝は報告書の断面図から判断すると、東側のAラインの溝底が標高0.83m、西側Bラインの溝底が標高1.29mとなり、西側が上流で東側が下流になる。信濃川への排水を目的としている溝であろう。

1号木簡(図45-1203) 板目材で、上端際の中央に孔が裏面から表面に向かって穿たれている。また、裏面には上部に2箇所刺突痕、その下部には三日月状の布目の痕跡が見られる。外溝端出土。

2号木簡(図45-1204) 榎目材で、上端際に斜めに2孔が穿たれ、上端の断面形状が斜めになっているので、折敷底板の転用材であろう。2孔は側板を綴じたための孔である。裏面には刃物痕が見られる。外溝端出土。

3号木簡(図45-1205) 榎目材で、木簡上下の中央付近に表から裏面に孔が穿たれている。また、上端部には表裏面ともに切込みが見られる。孔は5mm程と大きめで木簡に伴うものと考えられる。外溝端出土。

4号木簡(図45-1206) 榎目材で、上端際の左側に裏から表にかけて1つの孔が穿たれている。外溝端出土。

5号木簡(図45-1207) 榎目材で、上端は緩く弧状をし、上端際左右に切込みがある。D2出土。

6号木簡(図46-1208) 榎目材で、2片に割れているものが接合した。腐植した植物痕が表裏面に付着している。材質もよく似ているので、接合は間違いのないものと考えられる。表裏に刃物痕があるが、何故か表面の刃物痕は2片で合わない。刃物痕ではなく、何かの圧痕の可能性もある。D7出土。

7号木簡(図46-1209) 榎目材で、上端際の左端に表から裏面に穿たれた孔が半分残る。E5出土。

8号木簡(図46-1210) 榎目材で、上端は圭頭状に削り、上端際中央に裏から表面に孔が穿たれている。6号木簡同様、腐植した植物痕が付着している。外溝端出土。

9号木簡(図46-1211) 板目材で、上端は緩く弧状に削り、左右に切込みがある。上端際中央に表から裏面に孔が穿たれている。G4出土。

10号木簡(図46-1212) 板目材で、2片が縦に割れ接合しているが、上部中央が欠損している。下方中央寄りに

孔があるが、意図的に穿たれたものか、自然によるものか判断できない。D 7 出土。

11号木簡（図46-1213） 柁目材で、表面右側縁が緩い弧状をなしており、折敷底板の転用材の可能性が高い。下端は刃物痕が残されており、人為的に切断された可能性が高い。G 4 出土。

12号木簡（図46-1214） 柁目材で、腐植のため遺存状況が良くない。上端の緩い山形の形状、上端際の孔が本来のものか判断ができない。図は木簡の下方に文字が書かれていないことを根拠に上下を決めたが、天地逆にすれば上に書かれた符籙は「山鬼」と正位に書かれていることになる。D 7 出土。

13号木簡（16号木簡が接合）（図46-1215） 柁目材で、縦に割れた2片が接合したことにより、現在は16号木簡が欠番になっている。表面の右が13号木簡、左が16号木簡とされていた。D 7 出土

14号木簡（図46-1216） 柁目材で、中ほどで折れて「く」の字状になっている。D 7 出土。

15号木簡（図46-1217） 柁目材で、下端に焼け痕がある。D 7 出土。

17号木簡（図46-1218） 柁目材で、上端は圭頭状に削り、上端の左際には切込みが残る。上端際の中央には表から裏面に孔が穿たれる。出土位置不明。

18号木簡（図47-1219） 柁目材で、上端は緩く弧状になる。上端際左右に2箇所の切込みが認められる。出土位置不明。

19号木簡（図47-1220） 柁目材で、腐植が進んでいるが、上端は緩く弧状になり、下端が尖るものと考えられる。D 7 出土。

20号木簡（図47-1221） 柁目材で、上端際に2孔、右側縁際に1孔が穿たれている。上端の孔は折敷にしては大きく、穿孔方向はわからない。木簡に伴うものと考えられる。左側縁の孔は裏から表に穿たれている。E 7 出土。

21号木簡（図47-1222） 板目材で、上端は圭頭状に削り、下端が尖るが、その端部を欠損する。F 4 出土。

22号木簡（図47-1223） 柁目材で、上端は圭頭状に表裏から削り、下端が尖る。出土位置不明。

23号木簡（図47-1224） 柁目材で、上端は圭頭状に削り、下端を尖らせる。上端左右には2箇所の切込みがあるが、表裏面とも右側から切り込まれている。下方左右には下端を尖らせる際の工具痕が鋸歯状に残る。下端が尖らない形状は本来のもの。G 3 出土。

24号木簡（図47-1225） 柁目材で、上端は緩く弧状となり、下端は尖る。F 3 出土。

25号木簡（図47-1226） 柁目材で、上端と下端の左隅に、

裏から表面にかけて2孔が穿たれている。上下端が表面に向かって斜めに仕上げられており、折敷底板を縦に截って転用している。裏面中央には刃物で削られたような調整痕が残っている。折敷としては長さ27.8cmになるので、本遺跡で最も多い大角に分類される大きさである。G 4 出土。

26号木簡（図48-1227） 柁目材で、上端は圭頭状に削り、上端左右に2箇所の切込みを入れるが、表裏面とも右側から切り込まれており、23号木簡と同じ手法である。下端が表面に斜めに仕上げられ、下端際の孔が認められることから折敷底板の転用材であることがわかる。腐食した植物痕が付着している。G 3 出土。

27号木簡（図48-1228） 柁目材で、上端を圭頭状に削り、上端左右に2箇所の切込みを入れる。23・26号同様に表裏面とも右側から切り込まれている。出土位置不明。

28号木簡（図48-1229） 柁目材で、上端は圭頭状に削り、上端左右に2箇所の切込みを入れる。右側縁が緩く弧状を呈しており、折敷底板の転用材の可能性が高い。H 3 出土。

29号木簡（図48-1230） 板目材で、上端は圭頭状に削り、上端際中央に角張った孔が穿たれている。D 7 出土。

30号木簡（図48-1231） 板目材で、歪んで中央が湾曲している。左右側縁ともに緩く弧状を呈している。D 5 出土。

31号木簡（図48-1232） 柁目材で、下端は緩く尖るが端部は腐食している。裏面に刃物痕が残る。D 7 出土。

32号木簡（図48-1233） 柁目材で、上端は緩く圭頭状に削る。下端端部が斜めに仕上げられているので折敷底板の転用材の可能性が高い。表面は全面に刃物による調整痕を残す。F 2 出土。

33号木簡（図48-1234） 柁目材で、縦に2つに割れている。上端を緩く圭頭状に削る。下端は人為的に切断されている。E 6 外溝出土。

34号木簡（図48-1235） 板目材で、上端は人為的に切断されており、下端も刃物で切断し、折り取ったように見える。F 6 外溝出土。

35号木簡（図48-1236） 柁目材で、上端を圭頭状に削り、下端が尖る。H 5 出土。

36号木簡（図49-1237） 柁目材で、腐食が進んでいる。上端は圭頭状になり、上端際に孔があるが、木簡に伴うものか判断できない。下端は尖る。出土位置不明。

37号木簡（図49-1238） 柁目材で、縦に2つに割れており、上端際中央には2片に跨るように孔があるが、本来のものかわからない。下端は人為的に切断されている。裏面には刃物痕が残る。F 3 出土。

38号木簡(図49-1239) 柁目材で、上端は人為的に切断されている。左側縁際に孔がある。F 3 出土。

39号木簡(図49-1240) 柁目材で、上端及び左側を欠損する。右側縁は弧状を呈している。G 4 出土。

40号木簡(図49-1241) 柁目材で、腐食が進んでいるが、下端が尖る形状であろう。出土位置不明、3層出土。

41号木簡(図49-1242) 柁目材で、上端は圭頭状に削られる。下端は尖状となるが端部を欠損する。D 7 出土。

42号木簡(図49-1243) 柁目材で、上端裏面を左右から斜めに削り、裏面には刃物痕が残る。他に比べ幾分厚い材が用いられている。E 4 出土。

43号木簡(図49-1244) 柁目材で、腐食が進んでいるが上端は緩く弧状になり、上端際の左右には2箇所切込みを入れている。出土位置不明。

44号木簡(図49-1245) 柁目材で、下端は尖り、上端を欠損するが、端部に刃物痕が残る、人為的に切断された可能性が高い。D 6 外出土。

45号木簡(図49-1246) 板目材で、大きくU字状に湾曲している。上端は削られ、下端には焼痕が残る。F 3 出土。

(7) 呪符木簡について

相澤氏が②呪符24点(9・11・12・18・21~29・31~35・37・38・40・41・43・44号木簡)としたもののうち、墨痕・文字の不鮮明な18・40・41・43・44号木簡5点を除く19点を分析対象とする。

馬場屋敷遺跡下層出土の呪符木簡については、水澤幸一氏が言及しているので〔水澤1996〕、該当箇所を引用しておこう。「52点もの木簡が出土している。この中には、正応二(1289)年~延慶3(1310)年銘を有する茅に関連する木札とともに、15点の呪符が確認された。その内容は、『蘇民将来』・六星(六鬼)の記号・『九々八十一』・四縦五横の記号・『急々如律令』・バンやアン(種字)・『南无大日如来』などの文字・記号が組合されて記されているものである。内訳は『蘇民将来』関連が7点、『九々八十一』が5点、『急々如律令』が4点と多く、無病息災・一族繁栄を願ったものとされている。けだしバンやアン・『南无大日如来』といった表現からは、真言密教との関連が考えられようか。」梵字を正しく理解し、真言密教との関連に初めて言及した文献ではないだろうか。

呪符木簡に書かれた文字・記号を便宜上宗教別に分けると、1陰陽道、2密教、3宿曜道、4道教、5その他に大別されるが、4密教以外の陰陽道・宿曜道・道教は渾然一体となっていたのが実態であろう。

1陰陽道関係は「五芒星」・「九字」などの記号、「蘇

民将来子孫」の文字がある。蘇民将来子孫は『備後国風土記逸文』・『牛頭天王祭文』の説話にあるように、疫病除けの呪句として現在の呪符にも用いられている。五芒星(桔梗文)・九字(四縦五横)も同じ由来である(注1)。

2密教関係は梵字の「バン」金剛界大日如来、「ア」胎藏界大日如来、南无大日如来の文字である。真言密教と関係がある(注2)。

3宿曜道関係は「六星」の図がある。元来、宿曜道の星図からきたものであるが、空海が伝えた『文殊師利菩薩及諸仙所説吉凶時日善悪宿曜經(宿曜經)』には、六星図は二十八宿の1つ牛宿、吉祥で牛頭の形をしており、牛頭天王と同一視されていたと考えられる。本来六星は二星が下になるように書かれるのに、本遺跡の木簡では天地逆に書かれており、九々八十一と同じように、牛頭天王を天地逆に書いていると考えられる。

4道教関係は「九々八十一」の文字で、逆さ文字で書かれているものもある。そして、いわゆる符籙である。符籙には様々なものがあり、現在にも伝わっているが解読ができない。

5その他としたのは「急々如律令」の文字。中国漢代の公文書の末尾に、「急々に律令のごとくに行え」の意味で書き添えた語が、後に呪文の終わりに添える悪魔祓いの語として用いられたとされるものである。

これらの要素を、上段に木簡の形状、下段に文字・記号を宗教別で分類し整理した(表6)。木簡の個体数で数えると、五芒星8点、九字1点、蘇民将来8点、六星7点、九々八十一7点、梵字「バン」金剛界大日如来9点、梵字「ア」胎藏界大日如来8点、符籙11点、急々如律令5点となる。

形状と宗教別の組合せにより、1a類・1b類・2a類・2b類・3類・4a類・4b類の7つに分類することができる(図50)。

1a類(9号木簡)、1b類(29号木簡):陰陽道由来の蘇民将来子孫・五芒星が書かれるもので、上端中央に孔や上端左右に切込みがあり、説話にあるように実際に紐を通して体に着けたことが想定されるもの。五芒星が書かれないものを1a類、五芒星も書かれるものを1b類とした。

1a類・1b類に該当するものは、新潟県内では阿賀野市壺本杉遺跡1号木簡〔笹神村教育委員会1999〕、腰廻遺跡4号・5号・6号木簡〔笹神村教育委員会2002〕などに類例がある。

2a類(22・23・24・26・28・38号木簡):五芒星・蘇民将来・六星・九々八十一、金剛界大日如来・胎藏界大日如来が書かれるもの。上端を欠損する1例以外は圭頭状

表6 馬場屋敷遺跡下層出土呪符木簡の系譜

分類	1a	1b	2a	2a	2a	2a	2a	2a	2b	3	3	3	4a	4a	4a	4b	4b	4b	4b	総点数	個体数		
木簡番号	9	29	22	23	24	26	28	38	35	27	25	37	34	31	21	32	33	12	11				
表裏		裏表	裏表	裏表	裏表	裏表	裏表	裏表	裏表														
形状	圭頭	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	/	/	◆	◆	◆				◆	◆	◆	◇		
	上端際の孔	●	●	●																			
	切込み	◀																					
	切込み(2段)				◀	◀		◀	◀			◀											
	下端が尖る			▼	▼	▼	▼	▼										▼					
	切断								×	×			×	×				×		×			
宗教	陰陽道	五芒星	★	★	★	★	★	★	★	/	/	★	★	★							12	8	
	陰陽道	九字										●									1	1	
	陰陽道	蕪民将来子孫	●	●	●	●	●	●	●			●									8	8	
	宿曜道	六星		●	●	●	●	●	●	●	●										7	7	
	道教	九々八十一		●	●	●	●	●	●	●	●										9	7	
	密教	「バン」金剛界大日如来		●	●	●		●	○	○		●	●	○	○							10(6)	9(5)
	密教	「ア」胎藏界大日如来		●	●	●		●	○	●		●	○	○								9(6)	8(5)
	道教	符籙								○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	11	11
その他	急々如律令										●	●	○	●	●						5(4)	5(4)	

○・◇は不確実なもの。
 総点数は、表・裏を個別に数えた場合。
 個体数は、木簡の表裏にある場合は併せて数えた場合。

になっており、切込みの無いものと切込みを2段入れ塔婆状になるものがある。下端は尖るもの、尖らないものがある。陰陽道に由来する文字・記号と密教に由来する梵字がともに書かれる。六星も宿曜道由来ではあるが、多用されるのは前述したように陰陽道の牛頭天王と同一視されていたからであろう。

便宜上、陰陽道・密教・宿曜道・道教と分けたが、当時は習合思想〔村山1987〕が盛んだったので、明確な宗教上の違いを意識していなかったのだろう。様々な呪いの文字・記号を記すことによって効力を高めることを期待していたと考えられる。

以上、1類から2 a類には符籙・急々如律令は書かれないことが特徴である。

新潟県内では、馬場屋敷遺跡下層出土のような、様々な宗教の呪句が書かれたことが明確な呪符木簡は少なく、本類が本遺跡で最も特徴的な呪符木簡と言えよう。三条市綾ノ前遺跡1号・2号木簡は表面に蕪民将来子孫也、裏面に五芒星・星を書く例、頭部が圭頭状で孔・切込みがない〔金子1993〕。

2 b類 (35号木簡)：五芒星と金剛界大日如来、符籙と六星が書かれるもの。陰陽道と密教、道教と宿曜道の要素が見られる。裏面は六星と符籙が組合さって書かれており、本遺跡では類例がない。符籙が単独で書かれていないことが特徴である。上端は圭頭状で下端が尖り、形状は2 a類の22・24号木簡に似る。

3類 (25・27・37号木簡) 前述した1 a類・1 b類・2 a類には符籙が書かれない。また、後述する4 a類、

4 b類は符籙、または符籙に急々如律令だけが書かれている。これらに対し、符籙と共に五芒星・蕪民将来など陰陽道由来の記号と文字、大日如来など密教由来の梵字、九々八十一の文字が書かれている、2 b類と4類の中間的なものを3類とした。

浦廻遺跡〔新潟県教育委員会2003〕では、後述する4 a類の呪符木簡が主体だが、「バン」金剛界大日如来+五星+急々如律令 (52号木簡)、「ア」胎藏界大日如来+急々如律令 (53号木簡) が2点出土しており、本類同様に中間的な様相の例であると考えられる。

4 a類 (21・31・34号木簡)：符籙と急々如律令だけが他を混じえずに書かれるもの。急々如律令が書かれるものは5例あるが、単独で書かれたものはなく、全て符籙と併記される。

浦廻遺跡の呪符木簡5点 (44・49号~51号・54号) は符籙と急々如律令だけが書かれる本類に属するものである。この他に県内では、新発田市空毛遺跡1号・2号木簡〔新発田市教育委員会2012〕、砂山道下遺跡3号・9号木簡〔新潟県教育委員会2006〕、阿賀野市腰廻遺跡13号木簡〔笹神村教育委員会2002〕、新潟市緒立C遺跡2号・3号木簡〔黒埼町教育委員会1994〕、長岡市大武遺跡1号木簡〔新潟県教育委員会2000〕などで、符籙と急々如律令が書かれた木簡が出土している。

34号は上下を人為的に切断しており、3類に含まれる可能性もある。人為的に切断されたものは2 a類 (38号)、3類 (37号)、4 a類 (34号)、4 b類 (33・11号) である。38号木簡以外は符籙が書かれたものである。

4 b 類 (11・12・32・33号木簡)：符籙だけが書かれたものである。33号の上端には五星が書かれる。

2 b 類・3 類とした中間的な少数の木簡以外、五芒星・蕪民将来子孫・六星などの陰陽道に由来する文字や記号、道教に由来する九々八十一、密教に由来する梵字は、符籙・急々如律令と一緒に書かれることはないようだ。符籙と急々如律令の記号・文字は他の記号・文字とは排他的な関係にあるといえよう。

馬場屋敷遺跡下層の呪符木簡の出土状況(図51)を見ると、2 a 類は北側の特殊遺構 5 付近の F 3・G 3・H 3 に集中し、4 a 類・4 b 類は南側の 2 号溝(SD 2)や特殊遺構 2 付近に多い傾向がうかがえる。

(8) おわりに

馬場屋敷遺跡の資料整理を行っていて、特殊遺構 2 や特殊遺構 5 の写真に見える縞状に互層堆積した白黒の土層がとても気になった。洪水などによる水成堆積層であることは明白だが、特殊遺構を取り囲んだ串状木製品や建物跡の柱よりも古いのか新しいのか、報告書から読み解くことはできなかった。当然、報告書に記載のとおり、特殊遺構 2 の串状木製品に囲まれた中にあった大形木製品をこの遺構に伴う遺物と見れば、それ以前に堆積した土層ということになる。特殊遺構が作られる前に、何度も洪水に見舞われ、その後にも洪水による水成堆積層に覆われたために、串や建物の柱が立ったまま見つかったのであろう。その原因となったであろう信濃川水系の洪水の記録、越後の地震の記録などを調べたが、結局、文献から特定することはできなかった。

近接する小坂居付遺跡では、噴砂?を地震によるものとし、放射性炭素年代測定法により噴砂の上が15世紀中葉～後半、下が13世紀末～14世紀末頃という数値が得られていること、そして南憲一氏の『新潟市域災害史年表』2002)を引用し、永仁元(1293)年4月13日、正平16(1361)年6月20日、応永9(1402)年におきた大地震のことが書かれた『北蒲原郡史 第3巻』1937)の記事を根拠に「応永9年の地震が最も可能性が高いと考えている。」とする推論を発掘調査報告書に書いている(佐藤2012)。報告書の引用文献に『北蒲原郡史』が載っていないので、おそらく原本にはあたっていないのであろう。

『北蒲原郡史』を孫引きすることも論外であるが、この『北蒲原郡史』が地震の根拠としている『新撰越後国年代記』[矢田・相沢2005]そのものが、慶應2(1866)年に紀興之が編纂した年代記であることが問題であろう。『新撰越後国年代記』は64冊もの既刊文献などを使用し

て編纂されたことが書かれているが、個々の記事の出典までは一々書かれてはいない。

矢田俊文氏が指摘するように「『越後国年代記』を使用するのであれば、紀興之が使ったもとの史料にまで遡って検討しなければならない。」[矢田2009]であろう。

災異史研究は、古くは〔小鹿島果『日本災異志』1894〕がある。近年では〔藤木久志編2007『日本中世気象災害史年表稿』高志書院〕が丁寧に纏められているが、同様にもとの史料に遡って検討しなければ使えないし、残念ながら直接・間接的にでも越後に関係する史料は多くはない。

越後と地理的に近い史料としては、福島県会津坂下町心清水八幡神社に伝わる『塔寺八幡宮長帳』[山口1976]がある。『異本塔寺長帳』[庄司1979]は編纂物なので2級史料となり検証が必要である。これらは、阿賀野川水系の遺跡の場合には慎重に検討を加えれば参考になる史料と考えられる。沖積地の発掘調査をしていると、洪水で一気に堆積したかと思われる砂層・粘土層を見ることが良くある。遺跡の消長を検討する際に、文献史料に明らかな埋蔵文化財専門職員が、文献自体の検証もせず安易に地震や洪水の記事に頼ることのないようにしなければならない。

木製品については、できるだけ多くの実測図を掲載するように努めた。分類も不十分で見苦しい図面であるが、今後他の遺跡から似たような遺物が見つかり、資料がある程度まとまってくれば、器種を同定することが可能になるであろう。また、焼痕のある木製品も多く見られ原図には記載したが、時間の都合から報告の際に表記を省略した。

馬場屋敷遺跡出土木製品は自然乾燥が大半なので、樹種同定をしていない。近年の調査でも、新潟県教育委員会が発掘調査した木製品は樹種同定を行っているのに、新潟市が調査した木製品はほとんど樹種同定を行っておらず、木製品の生産・流通・使用・廃棄に関する貴重なデータ見す見す失っていると言わざるを得ない。冒頭で新潟市の遺跡の特徴として、脆弱遺物である木製品が良好な状態で遺存していることを特記したが、その希少な遺物を正しく評価するには樹種同定は必須である。

呪符木簡に関する記述は、2017年に文化財センターで開催した企画展『呪いとまじないー今に伝わる中世の習俗ー』の研究成果の一部である〔渡邊2018〕。企画展では、きっかけとなった馬場屋敷遺跡下層の呪符木簡や新潟県内出土の呪符木簡約70点を集成し、展示を行うだけでなく、時代的・宗教的な背景についても調査を行っ

た。『新潟県神社寺院仏堂明細帳』の悉皆調査による牛頭天王信仰の調査などである。

馬場屋敷遺跡下層出土の呪符木簡については、宗教史の観点から非常に重要である。当時の宗教は、陰陽寮など国家が行っていた天体観測から派生した方位信仰や日食・月食などの天地変異をいかに解釈するかということに由来するものが多い。明治以降、国家神道を推進するいわゆる神仏分離令によって宗教が神と仏に単純化されたが、江戸時代以前は様々な宗教が習合した状態にあった〔村山1987〕。

牛頭天王信仰もそのような信仰の一つだった。明治元(1868)年の神仏分離と、明治3(1870)年の陰陽寮の廃止の影響で、疫病除の神が牛頭天王からスサノオノミコトに替えられた。現在も各地で行われている祇園祭・蘇民将来符・茅の輪くぐりなども本来は疫病除けに行われていたもので、元来は牛頭天王信仰に由来する。越後における牛頭天王信仰の起源が、馬場屋敷遺跡下層の呪符木簡によって鎌倉時代にまで遡ることが明らかになった意義は大きい。

なお、遺跡出土の呪符木簡、新潟県内における牛頭天王信仰・祇園社などに関しては別稿を予定しており、概要を記すに留めた。(渡邊朋和)

末筆ではありますが、資料整理・資料報告を行うにあたって、下記の方々にお世話になりました。感謝申し上げます。
相澤央・相澤裕子・赤澤徳明・飯村均・浅井勝利・伊藤啓雄・小田由美子・小野正敏・遠藤孝司・春日真実・角田徳幸・齋藤瑞穂・坂井秀弥・品田高志・鈴木俊成・須藤宏・高橋一樹・田中耕作・鶴巻康志・長谷川伸・林大智・久田正弘・水澤幸一・村木二郎・森行人・矢田俊文・山田昌久・吉田博行・四柳嘉章(敬称略)

注1 全国の古代から中世の呪符木簡を集成したが、「蘇」の文字を使った例が確認できなかったため、遺跡出土の木簡は「蘇民将来」を、それ以外の場合は「蘇民将来」の文字を用いて区別した。

注2 梵字については、水澤幸一氏にご教示を得た。

●引用参考文献

相澤央2010「Ⅱ各種調査の報告 馬場屋敷遺跡出土木簡について」『平成21年度新潟市文化財調査概要』新潟市教育委員会
相澤央2010「新潟・馬場屋敷遺跡(第7号)」『木簡研究』第32号
相澤央2016「中世の茅札と蘇民将来札－新潟市馬場屋敷遺跡出土木簡の再検討－」『木簡研究』第38号
相澤裕子2014「5 整理作業の概要」『新潟市文化財センター年報』第1号
秋田県教育委員会『秋田県文化財調査報告書第303集 洲崎遺

跡』2000
穴水町教育委員会『西川島遺跡 能登における中世村落の発掘調査』1987
飯田素州「第二編 中世」『白根市史 巻七通史』1989
伊藤啓雄2018「新潟市文化財センター企画展『木製品から見た中世の暮らし』」『新潟県考古学会連絡誌』第116号
潮田鉄雄1973『ものと人間の文化史 8 はさきの』法政大学出版局
大木金平1937「第6編 災異年表に関する部」『北蒲原郡史 第3巻』蓮池文庫
小鹿島果1894『日本災異志』思文閣
小野正敏編2001『図解・日本の中世遺跡』東京大学出版会
金子正典1993「新潟・綾ノ前遺跡」『木簡研究』第15号
川上貞雄・遠藤孝司1984『馬場屋敷遺跡等発掘調査報告書』白根市教育委員会
草戸千軒町遺跡調査研究所編『草戸千軒遺跡発掘調査報告Ⅰ～Ⅴ』1993～1996
黒崎町教育委員会『緒立C遺跡発掘調査報告書』1994
斉木秀雄1993「10染・紡織具」『佐助ヶ谷遺跡(鎌倉税務署用地)発掘調査報告書』佐助ヶ谷遺跡発掘調査団
笹神村教育委員会1999『県営圃場整備事業長起地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ 前田遺跡 壺本杉遺跡』
笹神村教育委員会2002『笹神村文化財調査報告書13 腰廻遺跡』
佐々木長生1990「門田条里制跡出土の田下駄について」『門田条里制跡発掘調査報告書』会津若松市教育委員会
佐瀬与次右衛門「会津農書」1982『日本農書全集第19巻』社団法人農山農村文化協会
佐藤友子2012「第三章 遺跡の概要」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第238集 一般国道8号 白根バイパス関係発掘調査報告書Ⅱ 小坂居付遺跡』新潟県教育委員会
新発田市教育委員会2012『新発田市埋蔵文化財調査報告43 空毛遺跡発掘調査報告書』
庄司吉之助1979「第3編資料 異本塔寺長帳の解説」『会津坂下町史 Ⅲ歴史編』会津坂下町史編纂委員会
白根市教育委員会1983『新潟県白根市馬場屋敷遺跡等遺跡範囲確認調査報告書』
奈良国立文化財研究所1993『木器集成図録－近畿原始編－』
成田寿一郎1984『木の匠－木工の技術史－』鹿島出版社
成田寿一郎1990『日本木工技術史の研究』法政大学出版局
成田壽一郎1995『木工諸職双書 木工指物』理工学社
成田壽一郎1996『木工諸職双書 木工挽物』理工学社
成田壽一郎1996『木工諸職双書 曲物・籠物』理工学社
成田寿一郎2005『木工工芸用語辞典』理工学社
新潟県教育委員会2000『新潟県埋蔵文化財調査報告書第97集 一般国道116号和島バイパス関係発掘調査報告書Ⅰ 大武遺跡Ⅰ(中世編)』
新潟県教育委員会2003『新潟県埋蔵文化財調査報告書第126集 一般国道8号 白根バイパス関係発掘調査報告書 浦廻遺跡』
新潟県教育委員会2006『新潟県埋蔵文化財調査報告書第164集 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XⅦ 野中土手付遺跡・砂山中道下遺跡』
新潟県教育委員会2012『新潟県埋蔵文化財調査報告書第238集 一般国道8号 白根バイパス関係発掘調査報告書Ⅱ 小坂居付遺跡』
新潟市教育委員会2015『大沢谷内遺跡Ⅳ 第19・20・21次調査』
畑大介2006「中世前期の村落祭祀と串状の木製品」『鎌倉時代の

考古学』高志書院
林淳・小池淳一編2002『陰陽道の講義』嵯峨野書院
林大智2013「北陸における木製品研究の現状と課題」『木製品から見た古代のくらし』鳥根県古代文化センター
東村純子2012『考古学からみた古代日本の紡織』六一書房
久田正弘2017「漆器の年輪について」『石川県埋蔵文化財情報』第37号
福井県教育委員会1979『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告Ⅰ 朝倉館跡の調査』
藤木久志編2007『日本中世気象災害史年表稿』高志書院
細井佳浩2012「新潟県における木製農具『ナンバ』について—小考—」『新潟考古』第23号
町田章・上原真人編集1985『木器集成図録 近畿古代編』奈良国立文化財研究所
水澤幸一1996「木製品からみた越後の祈り」『第9回 北陸中世土器研究会 飾る・遊ぶ・祈るの木製用具』北陸中世土器研究会
水澤幸一2007「浦廻遺跡にみる地表葬」『墓と葬送の中世』高志書院
南憲一2002『新潟市域災害年表』新潟大学積雪地域災害研究センター
村山修一1987『習合思想史論考』塙書房
矢田俊文・相沢央編2005『新潟大学大域プロジェクト研究資料叢刊Ⅳ 新撰越後国年代記』
矢田俊文2009『歴史文化ライブラリー264 中世の巨大地震』吉川弘文館
山口弥一郎1976「第6章 塔寺八幡宮長帳」『会津坂下町史Ⅱ 文化編』会津坂下町史編纂委員会
山梨県教育委員会1997『大師東丹保遺跡Ⅱ・Ⅲ区』
由比ヶ浜南遺跡発掘調査団2002『由比ヶ浜南遺跡〈第1分冊・本文編〉』
吉岡康暢1994『中世須恵器の研究』吉川弘文館
四柳嘉章2006『ものと人間の文化史131-1 漆1』法政大学出版局
四柳嘉章2009『漆の文化史』岩波書店
渡邊朋和2018「(4)企画展『古いと呪い—今に伝わる中世の習俗—』」『新潟市文化財センター年報』第5号

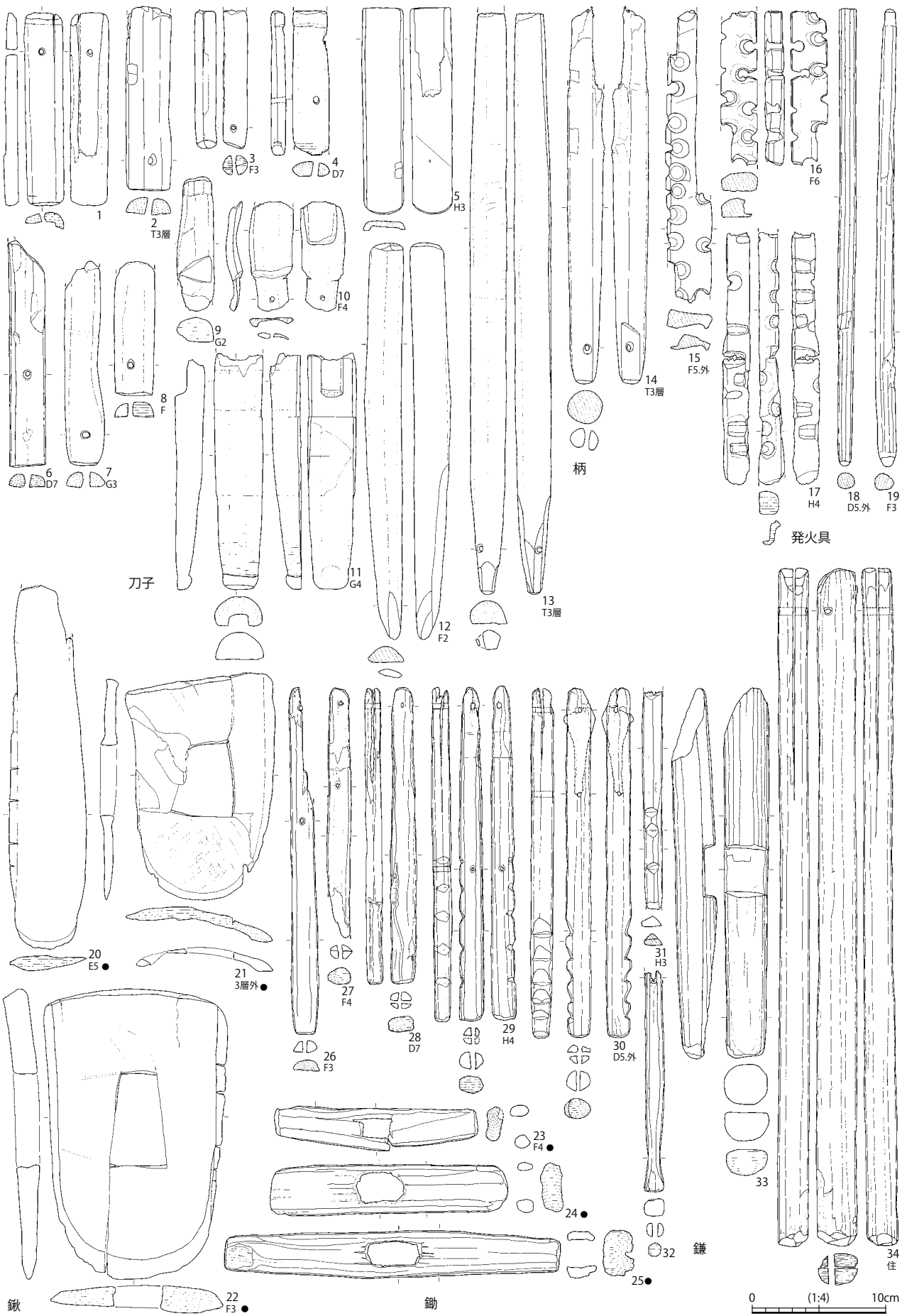


図1 木製品実測図 (工具、農耕土木具)

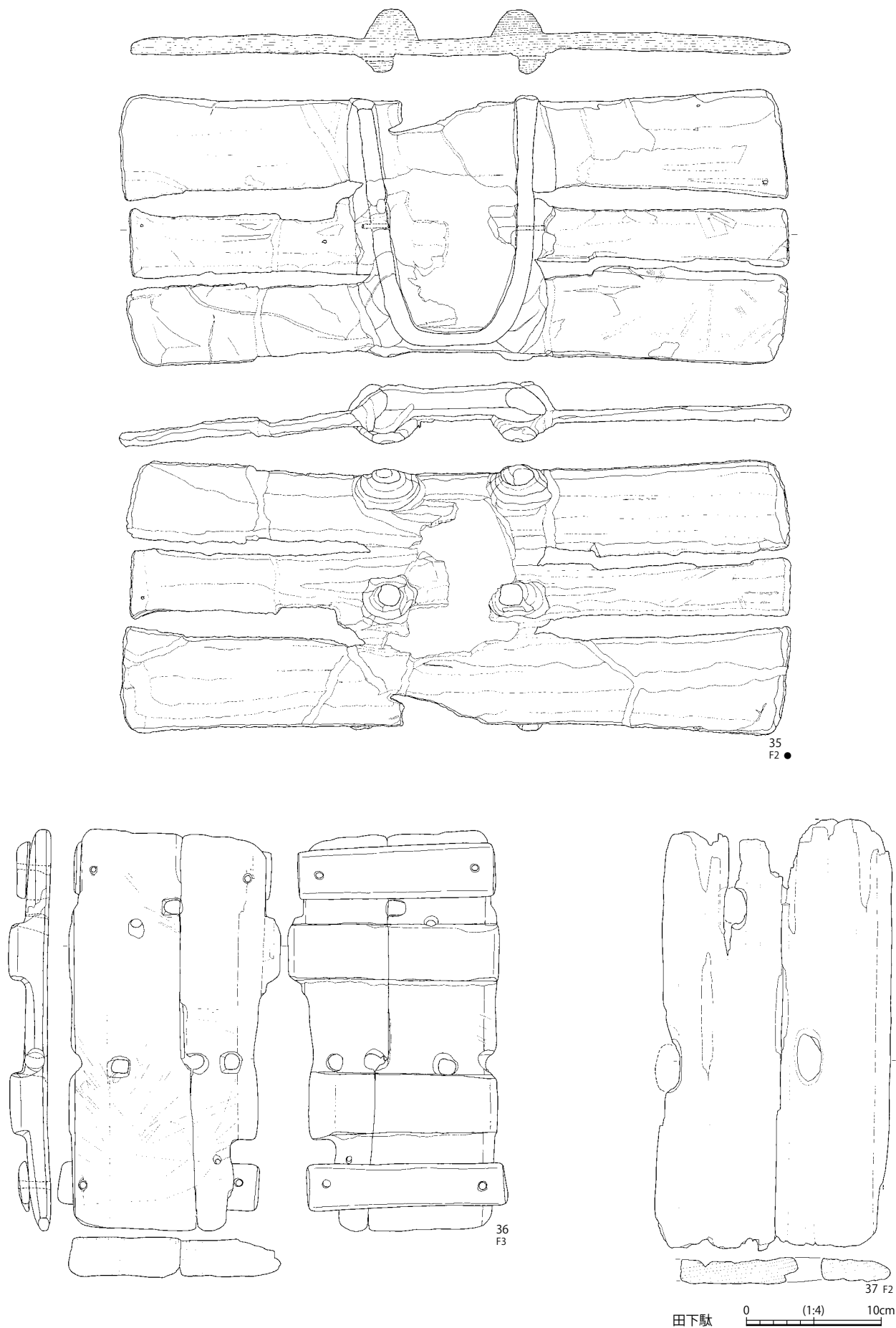
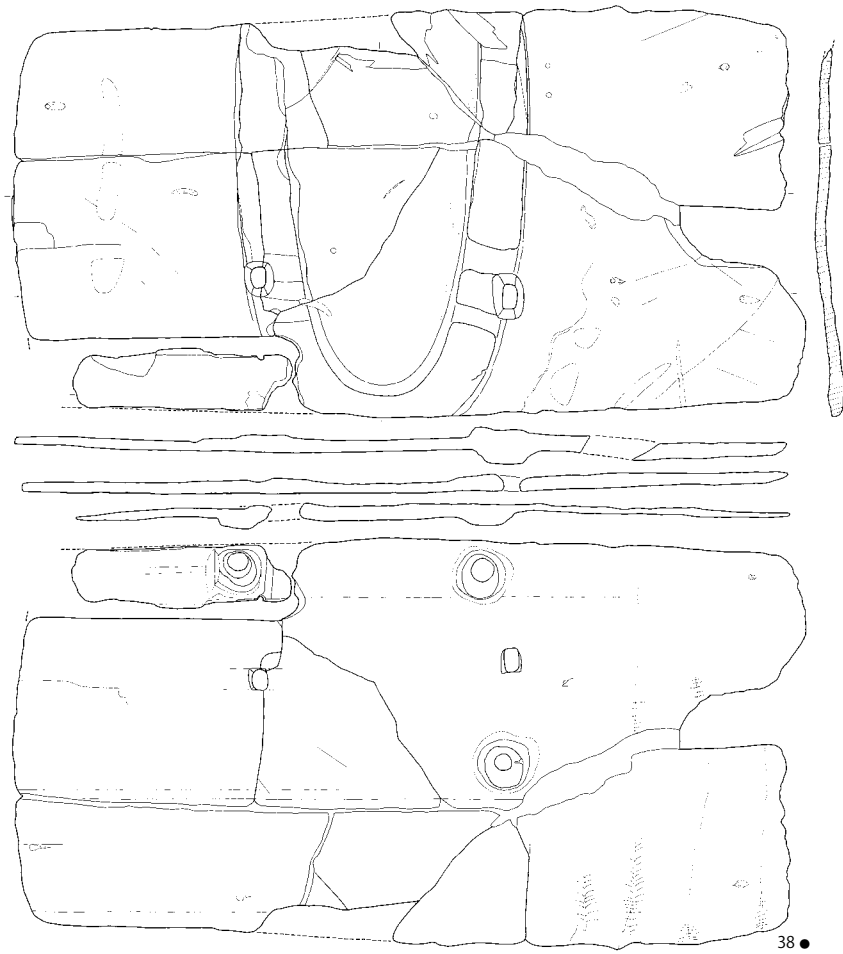
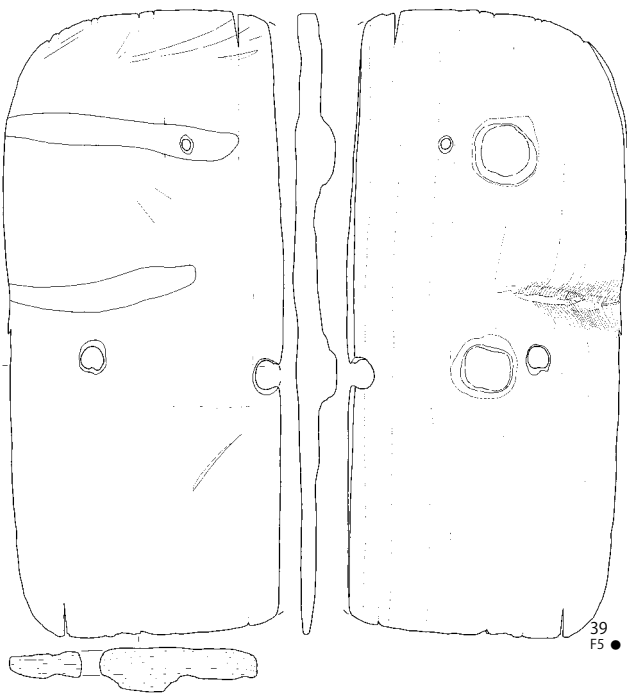


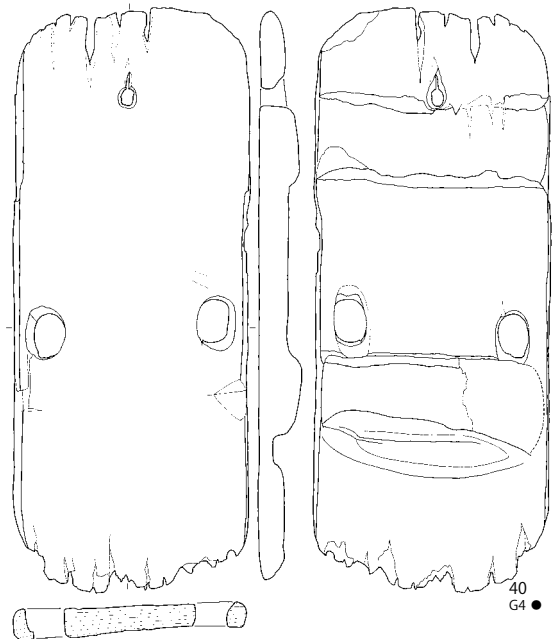
図2 木製品実測図（農耕土木具）



38 ●



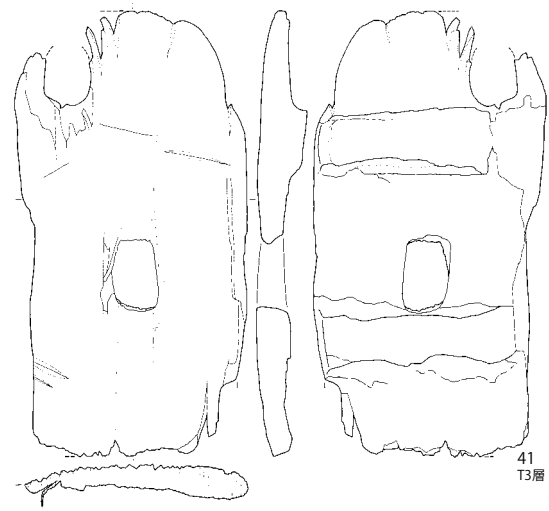
39
F5 ●



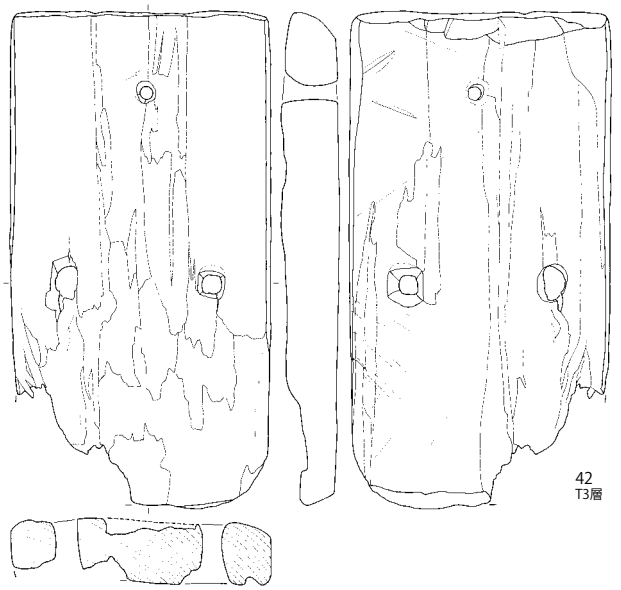
40
G4 ●

田下駄 0 (1:4) 10cm

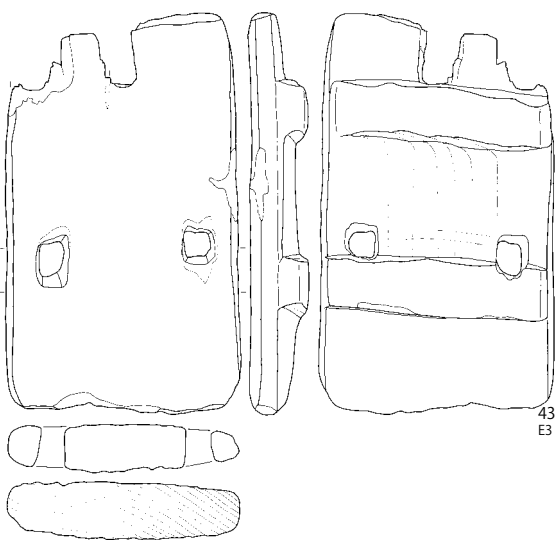
図3 木製品実測図 (農耕土木具)



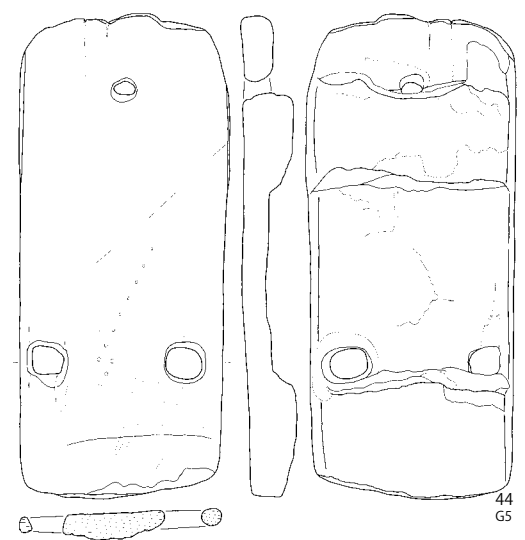
41
T3層



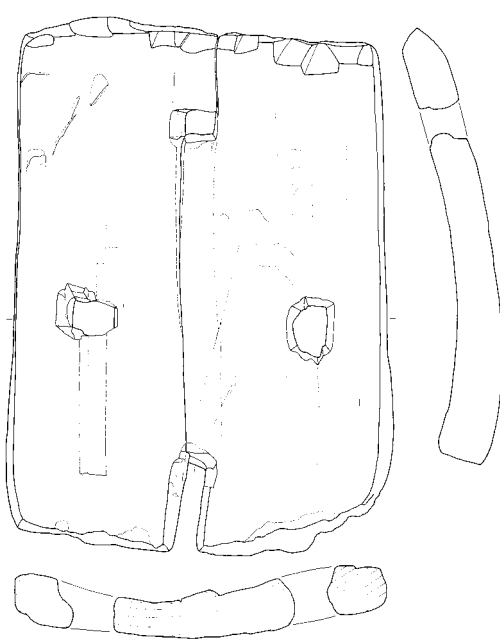
42
T3層



43
E3



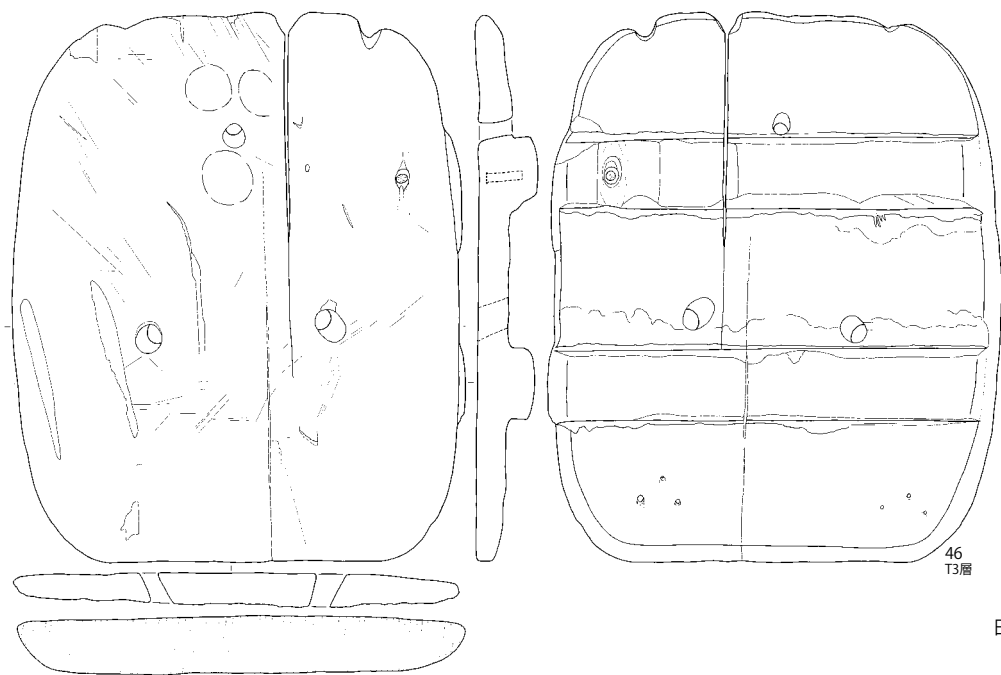
44
G5



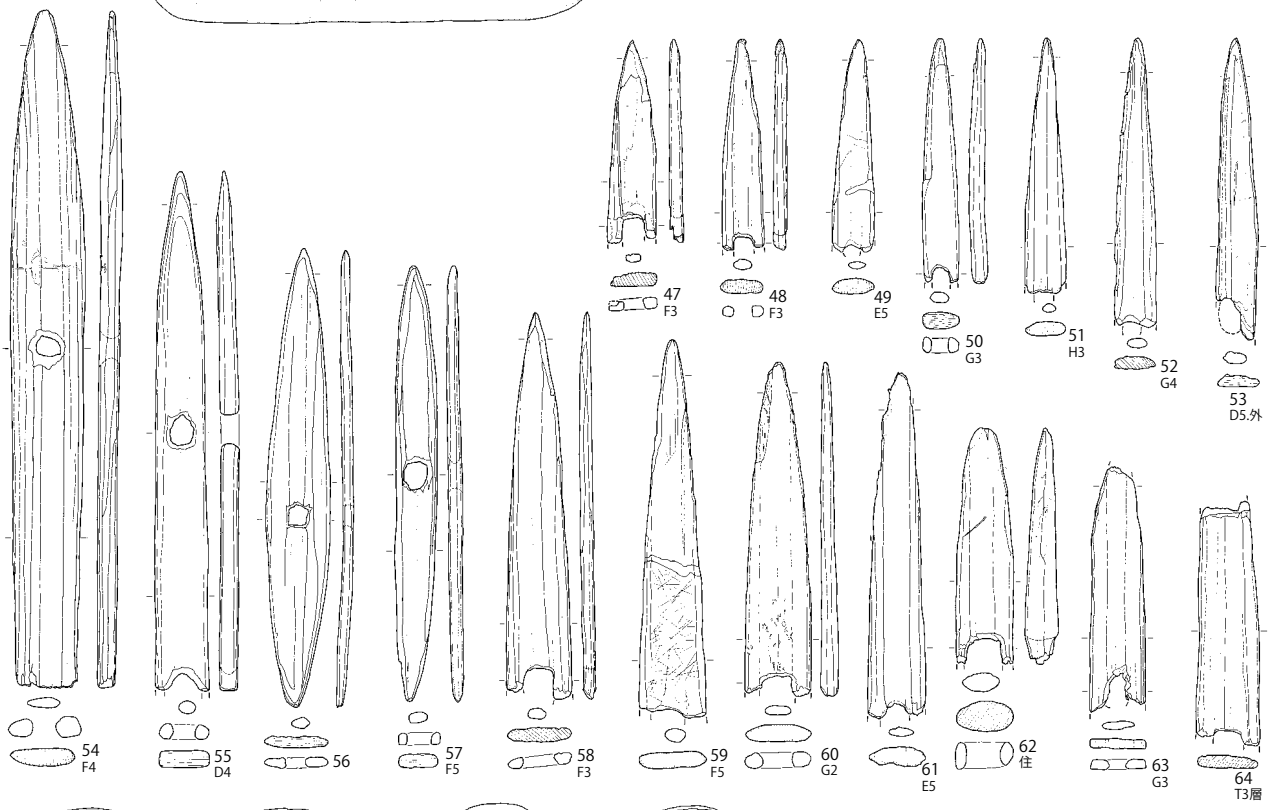
45
F5

田下駄 0 (1:4) 10cm

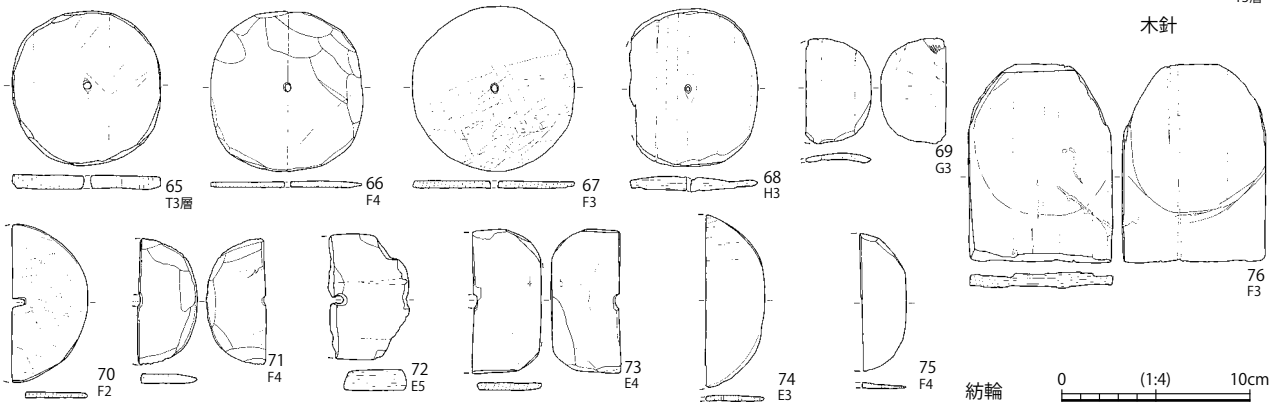
図4 木製品実測図 (農耕土木具)



田下駄



木針



紡輪 0 (1:4) 10cm

図5 木製品実測図 (農耕土木具、編み具・紡織具)

V 研究活動資料報告・研
究ノート

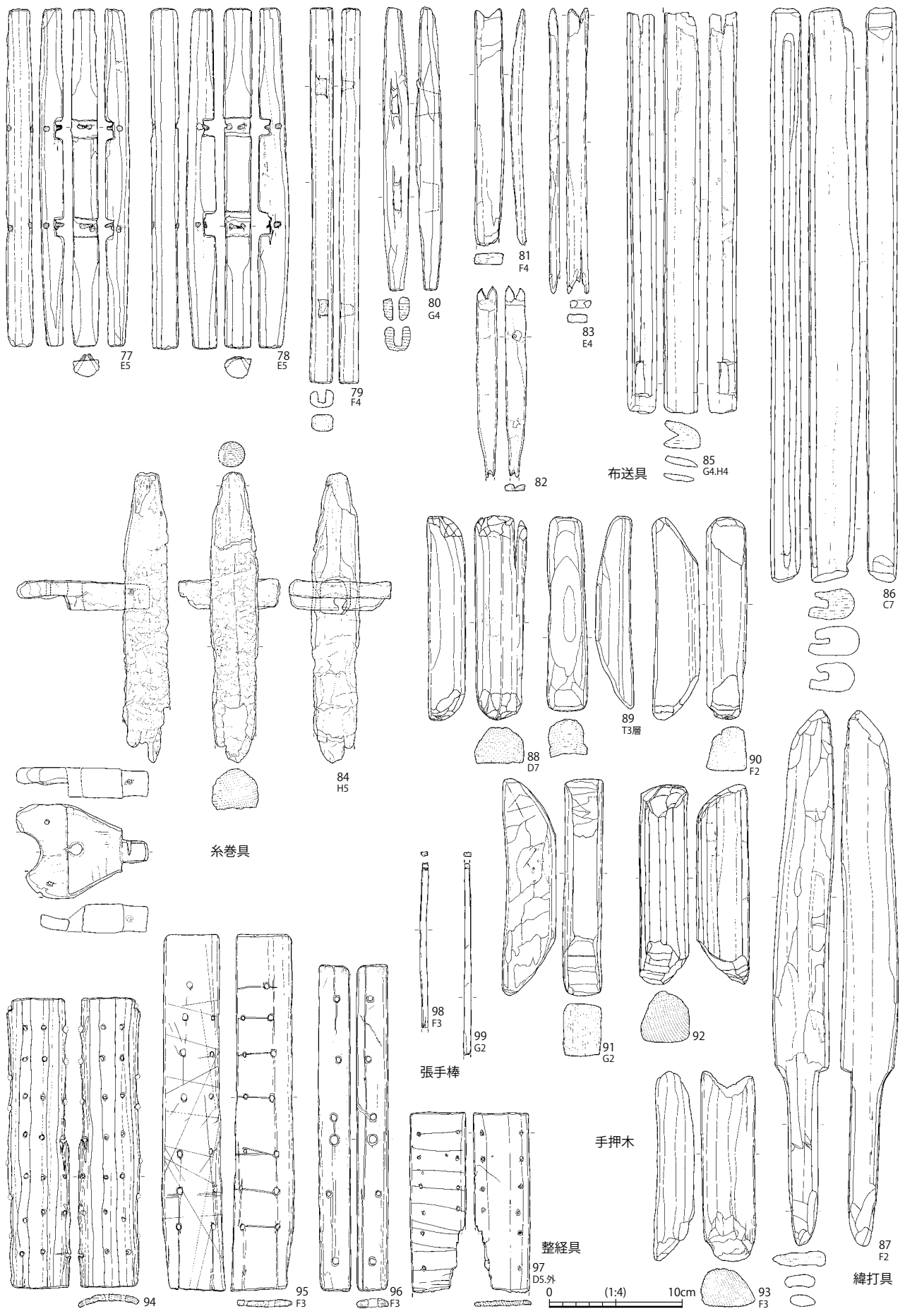


図6 木製品実測図 (編み具・紡織具)

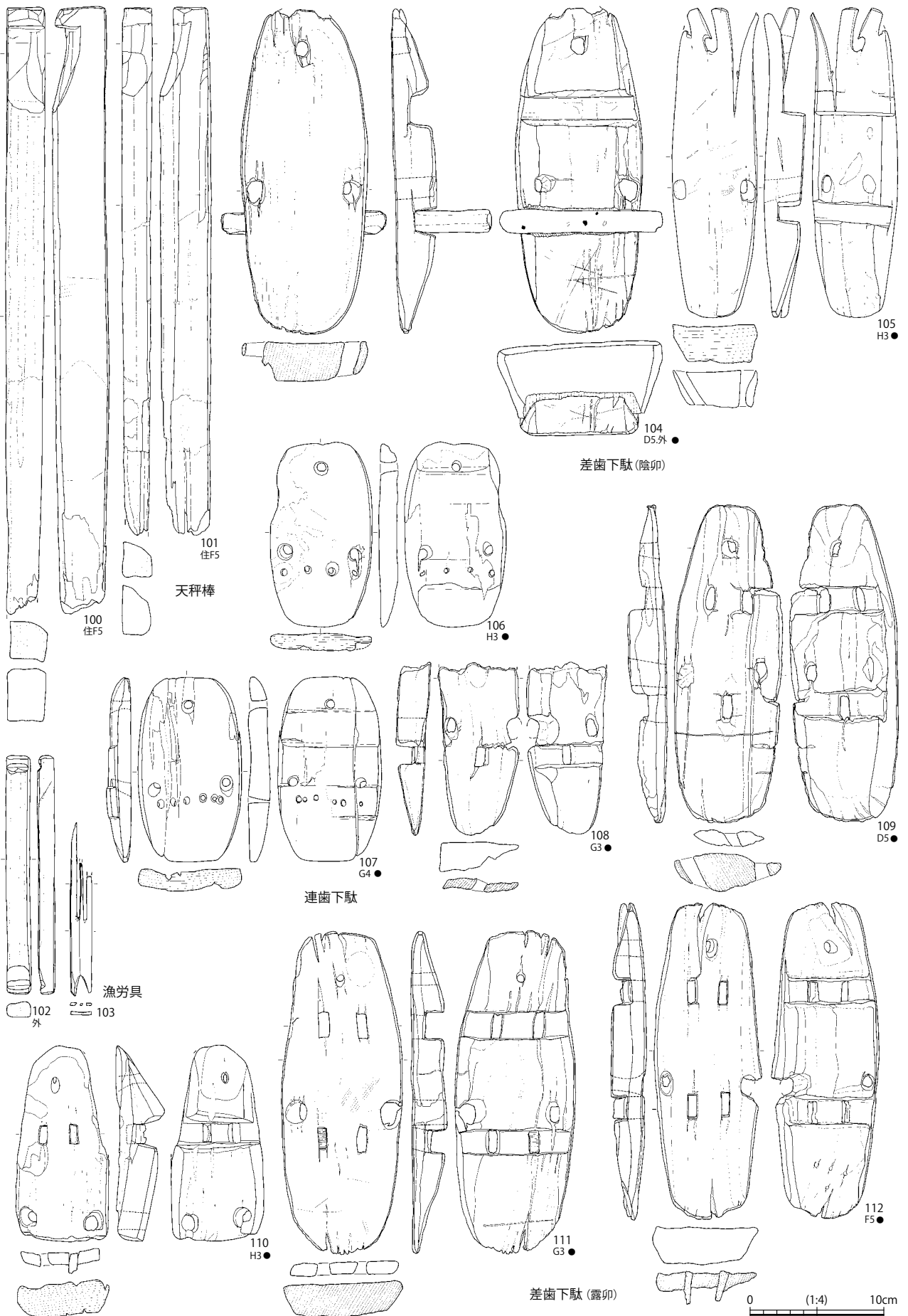


図7 木製品実測図 (運搬具、漁労具、服飾具)

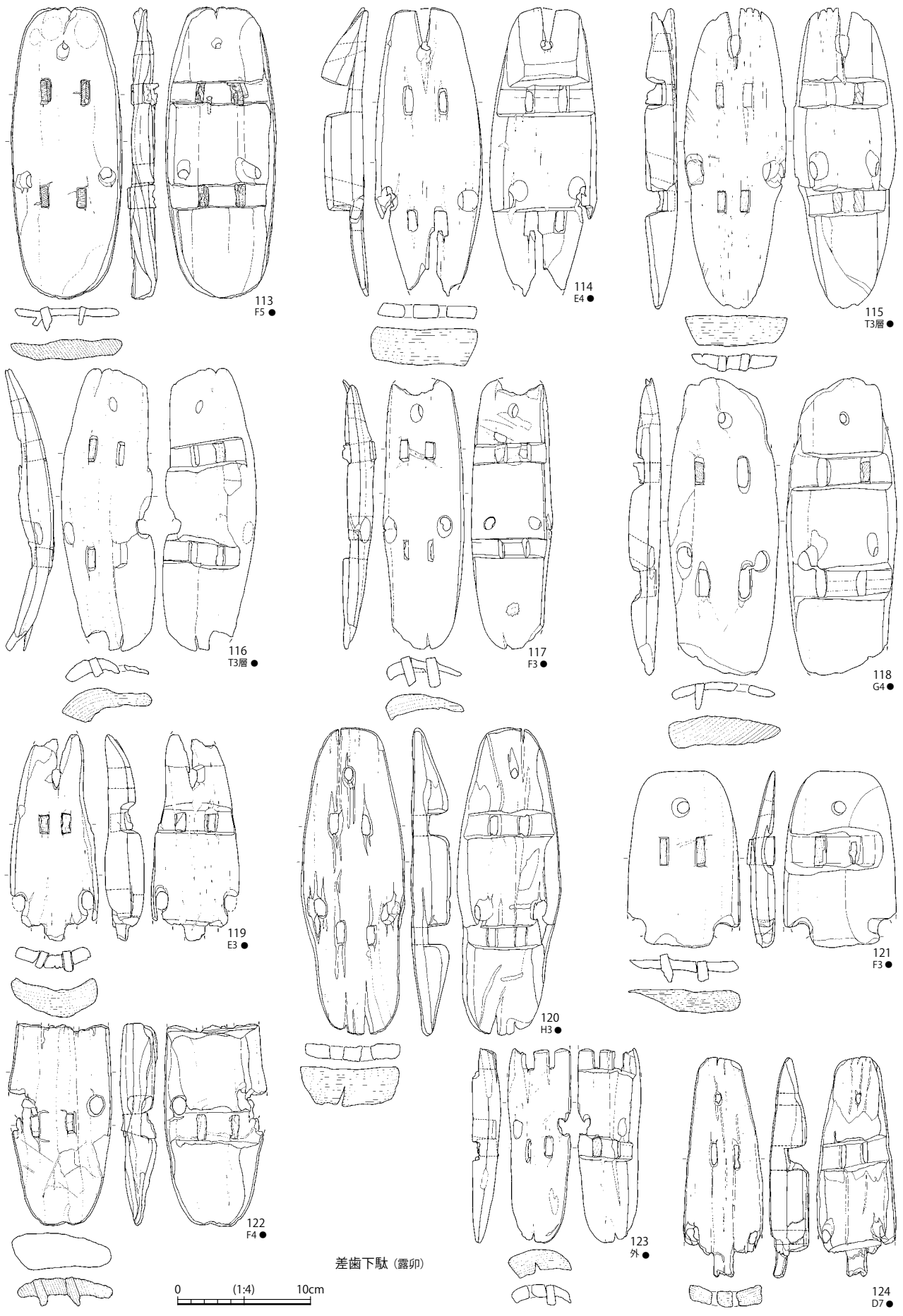
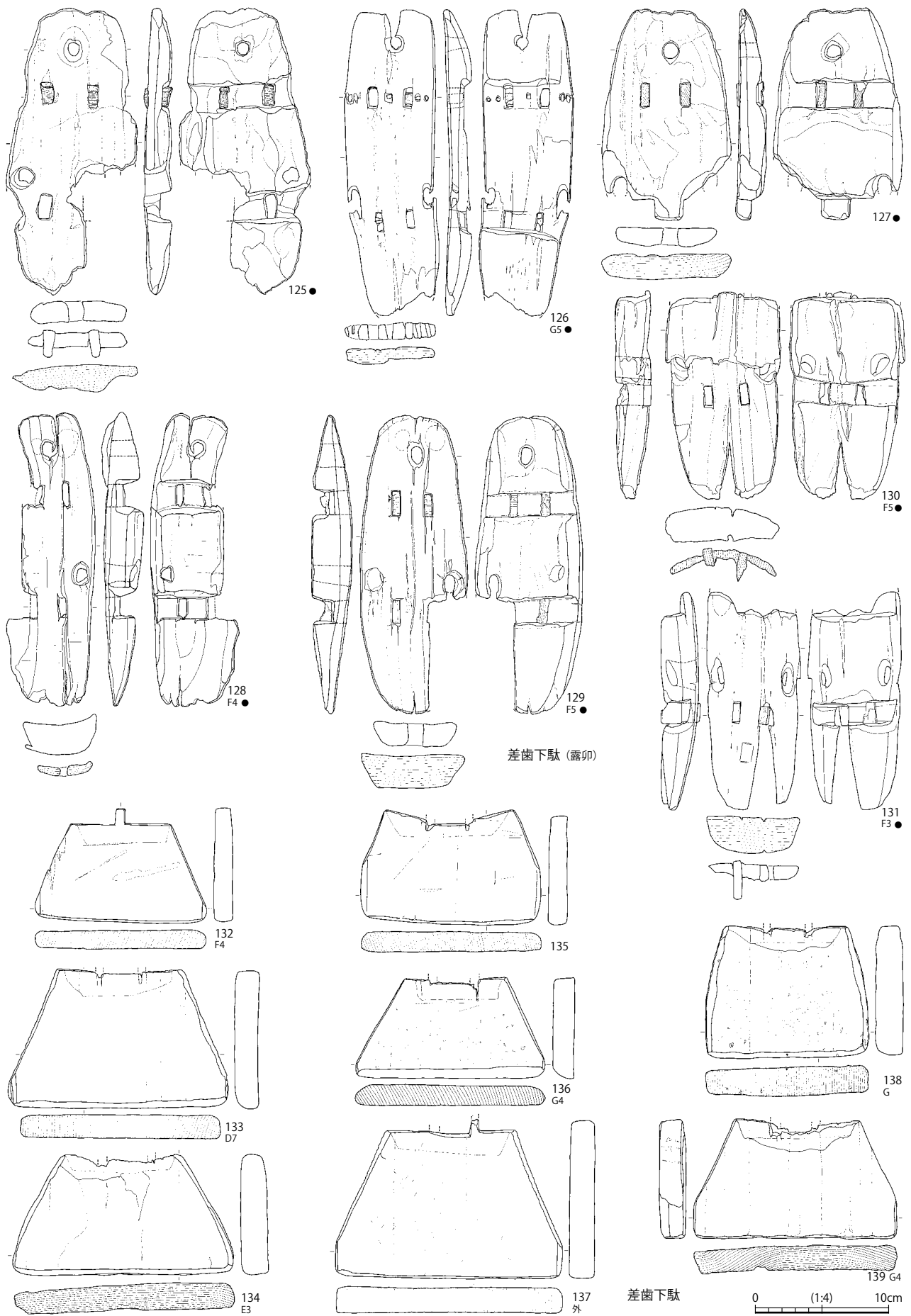


図8 木製品実測図 (服飾具)



差齒下駄 (露卯)

差齒下駄 0 (1:4) 10cm

図9 木製品実測図 (服飾具)

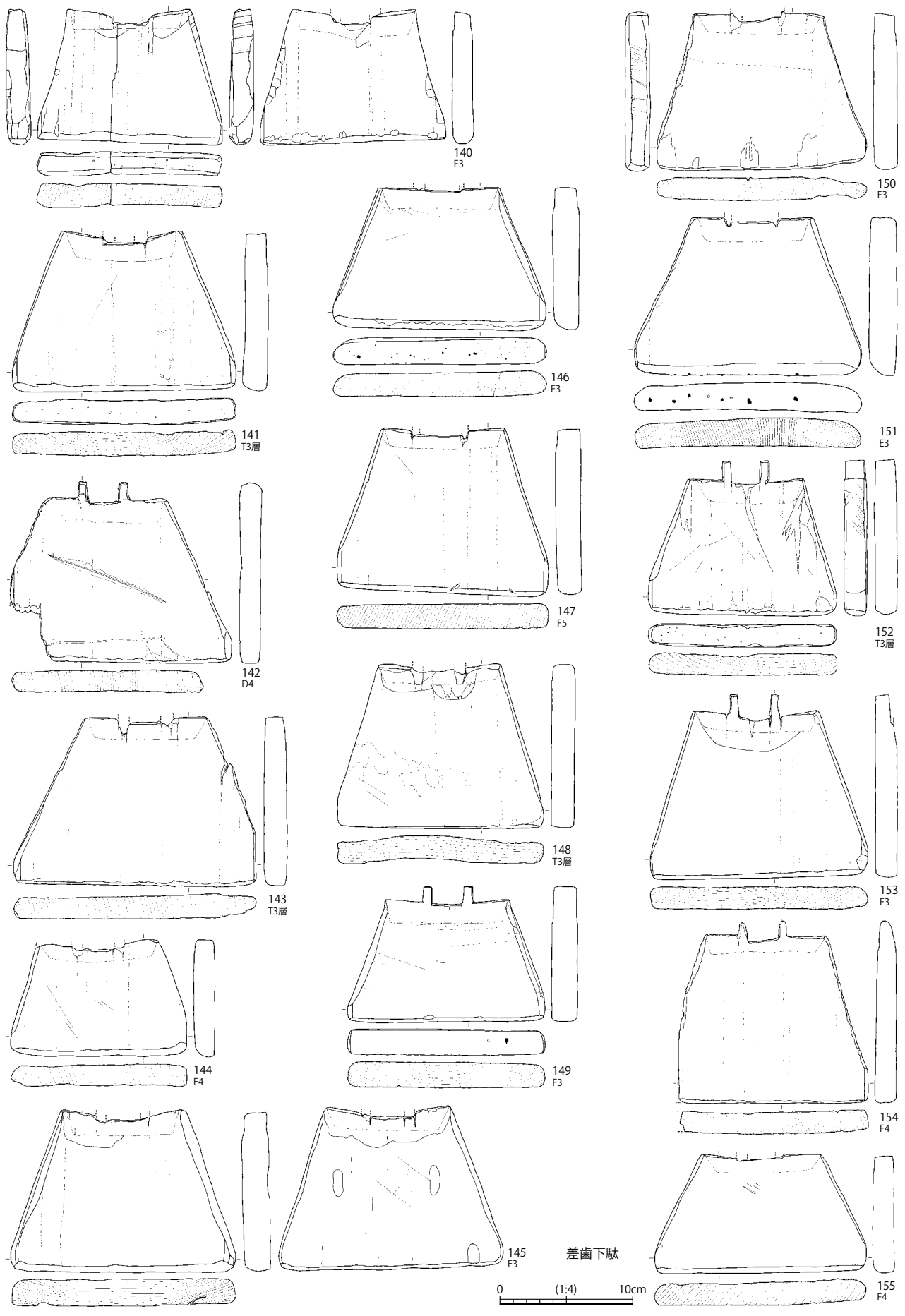


図10 木製品実測図 (服飾具)

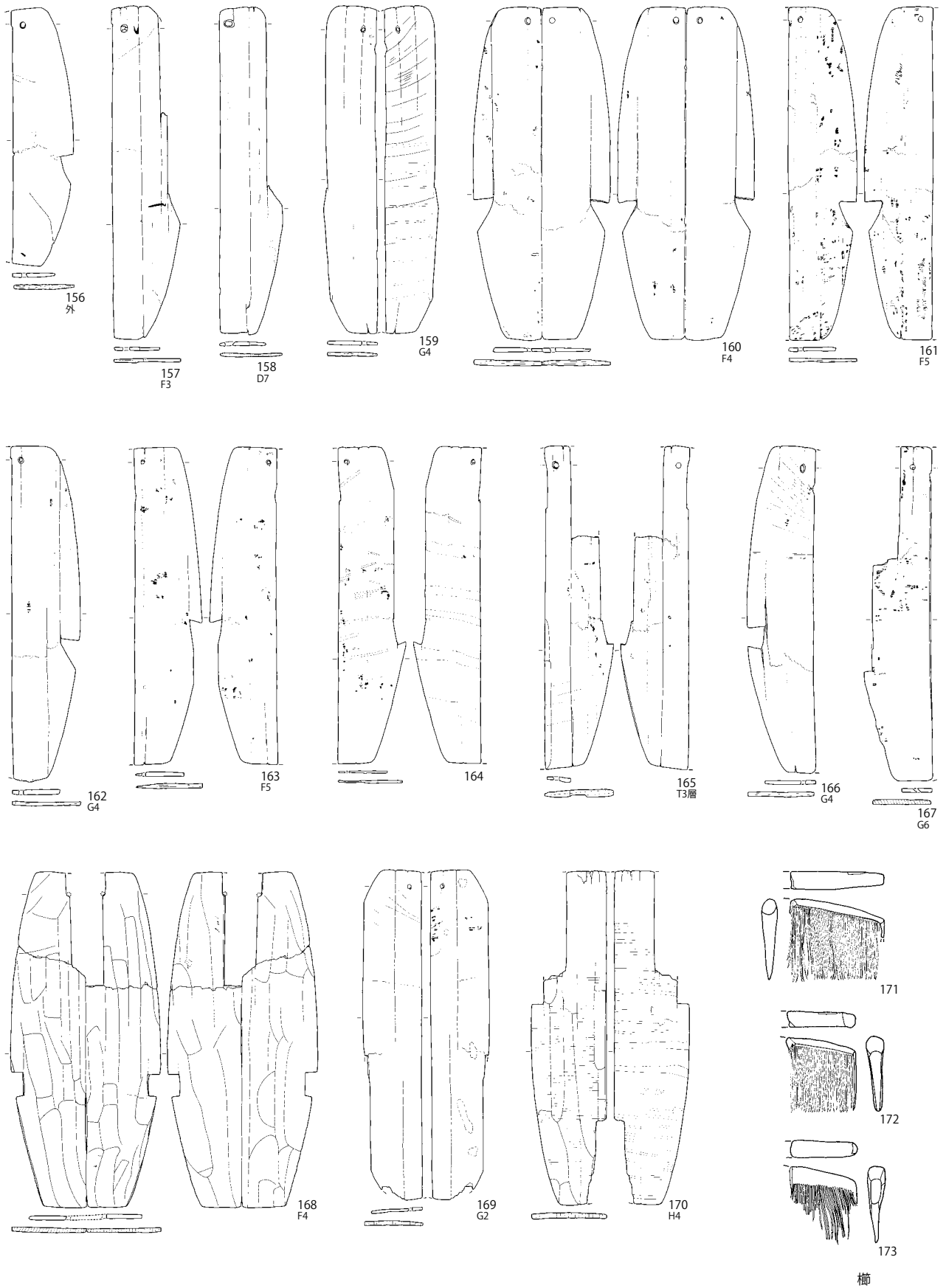


図11 木製品実測図 (服飾具)

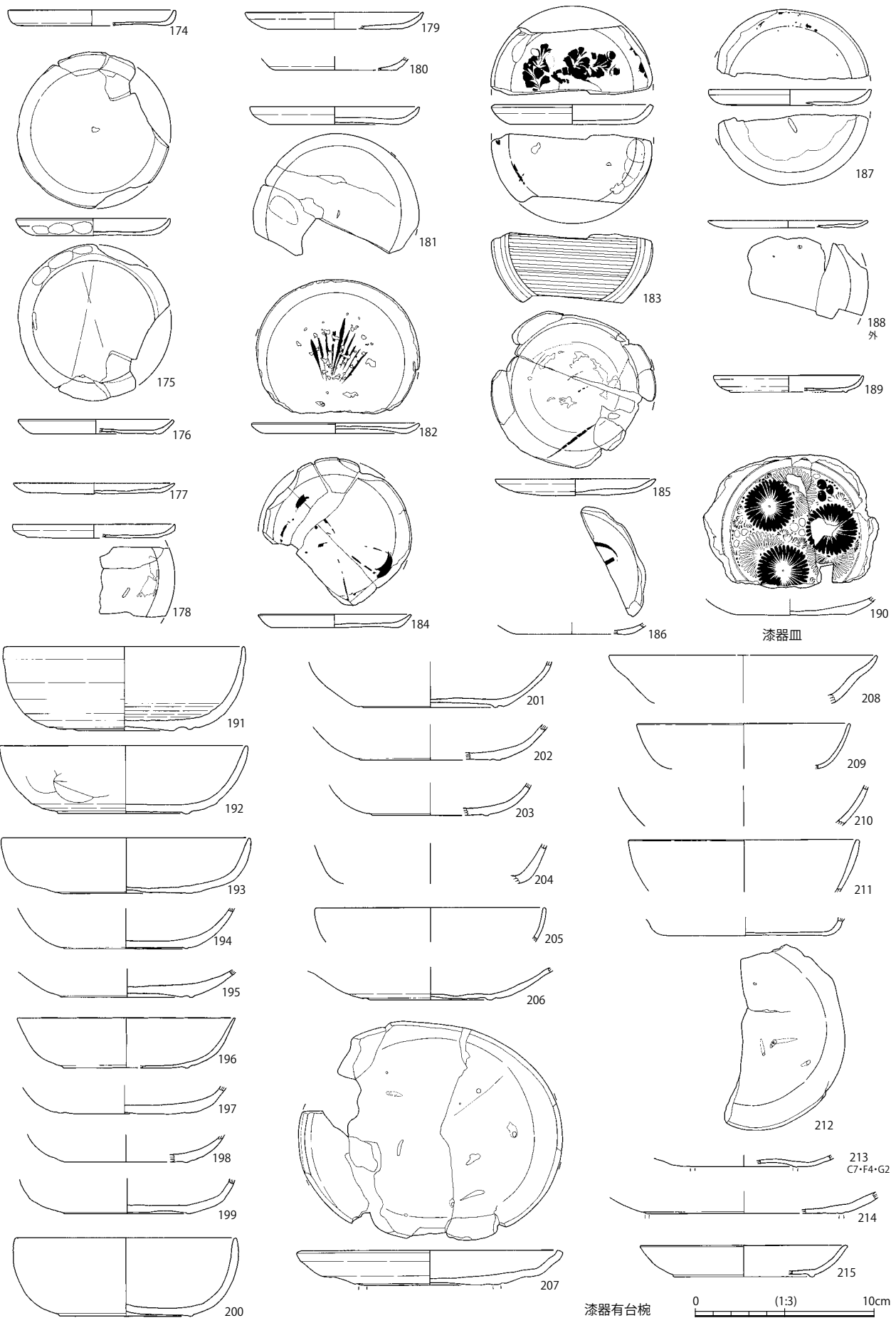


图12 木製品実測図 (容器)

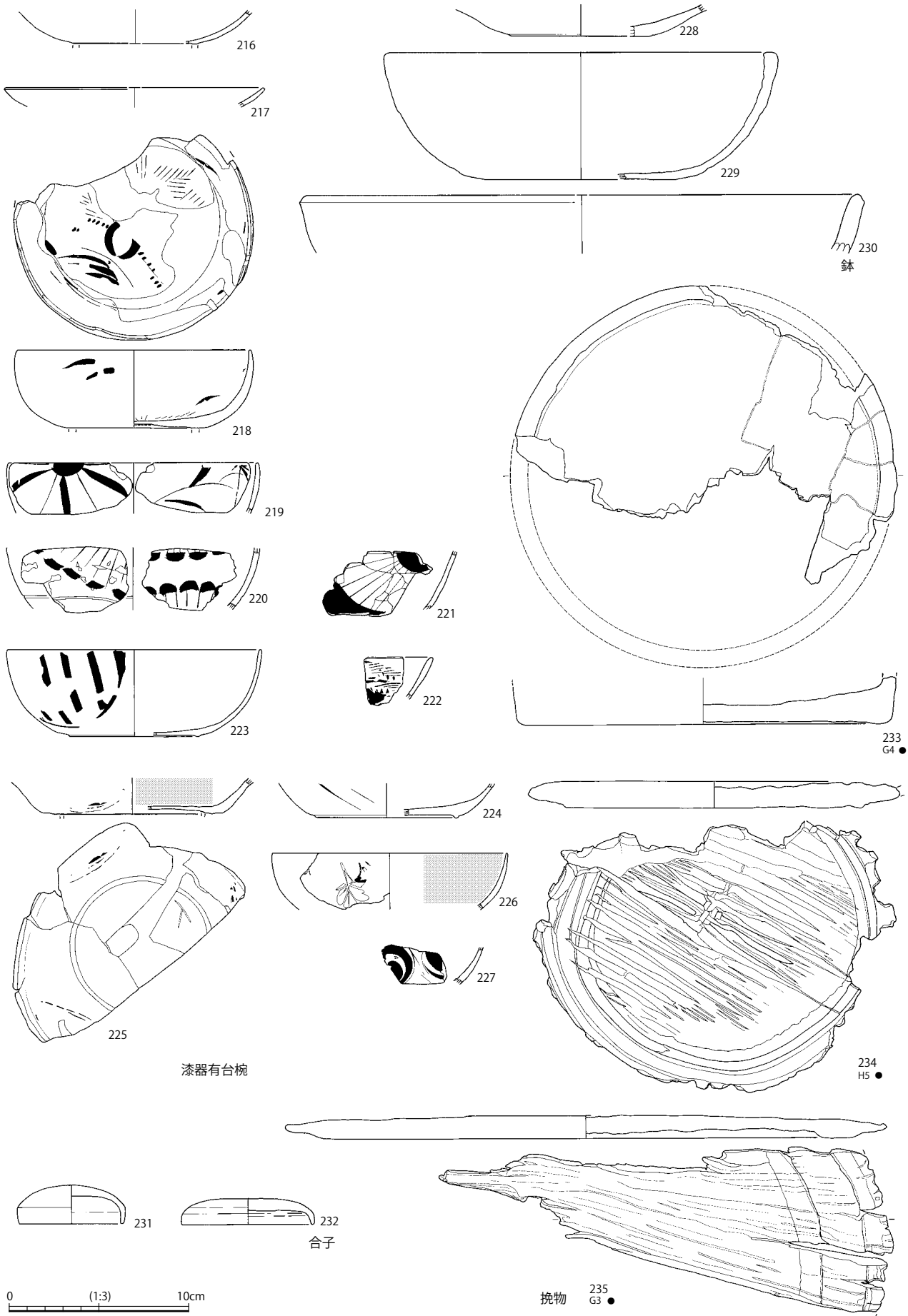


图13 木製品実測図 (容器)

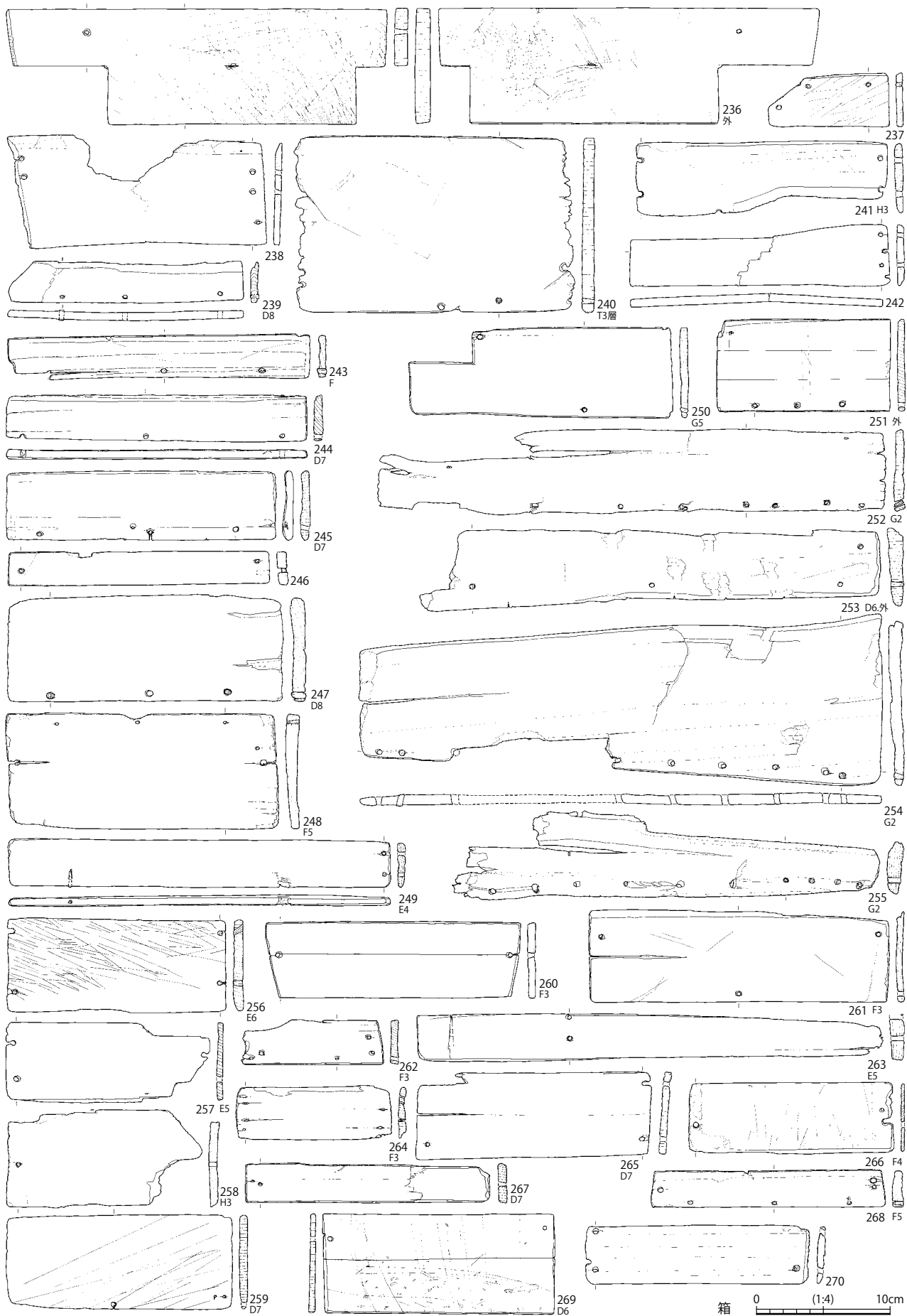


図14 木製品実測図 (容器)

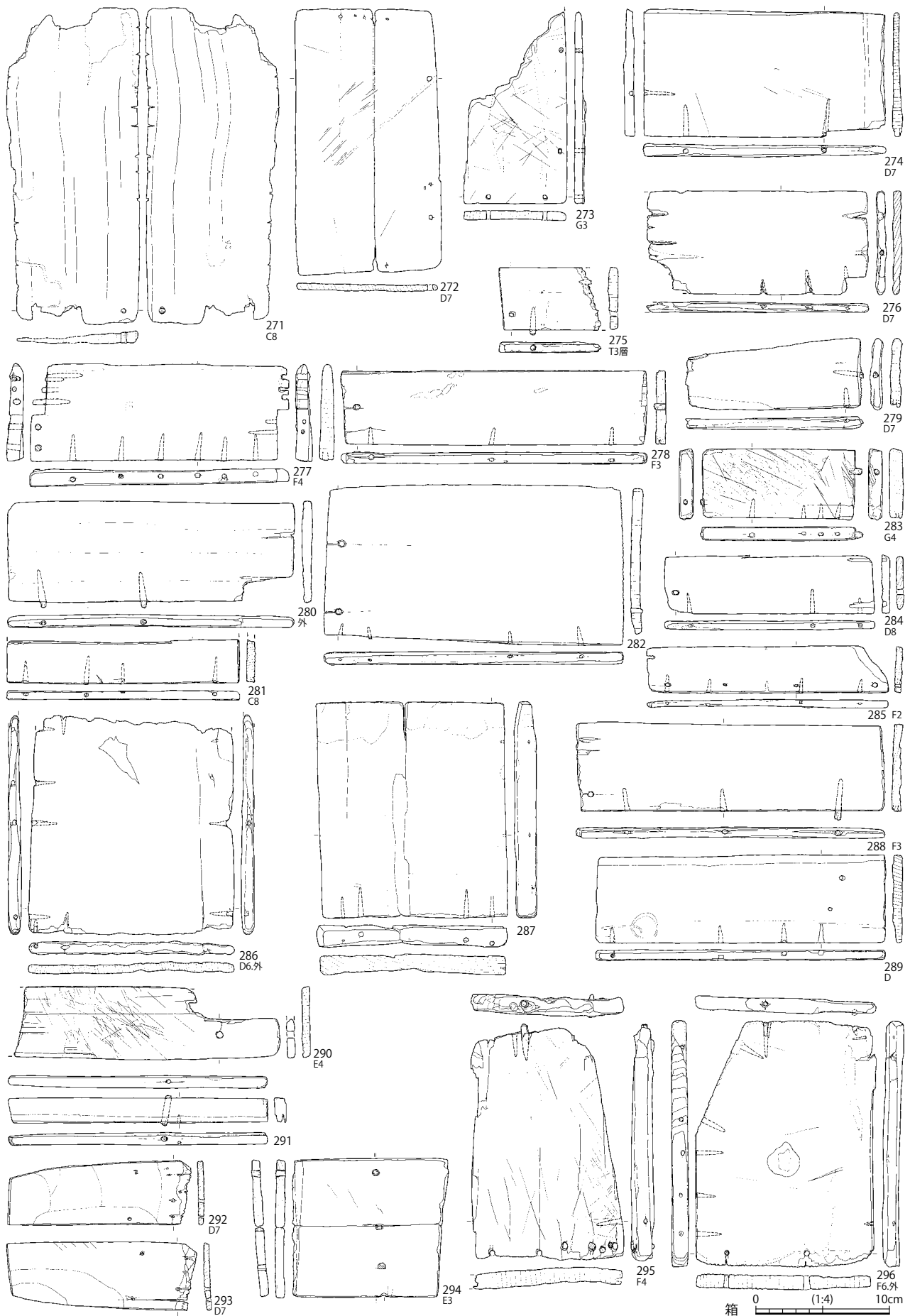


図15 木製品実測図 (容器)

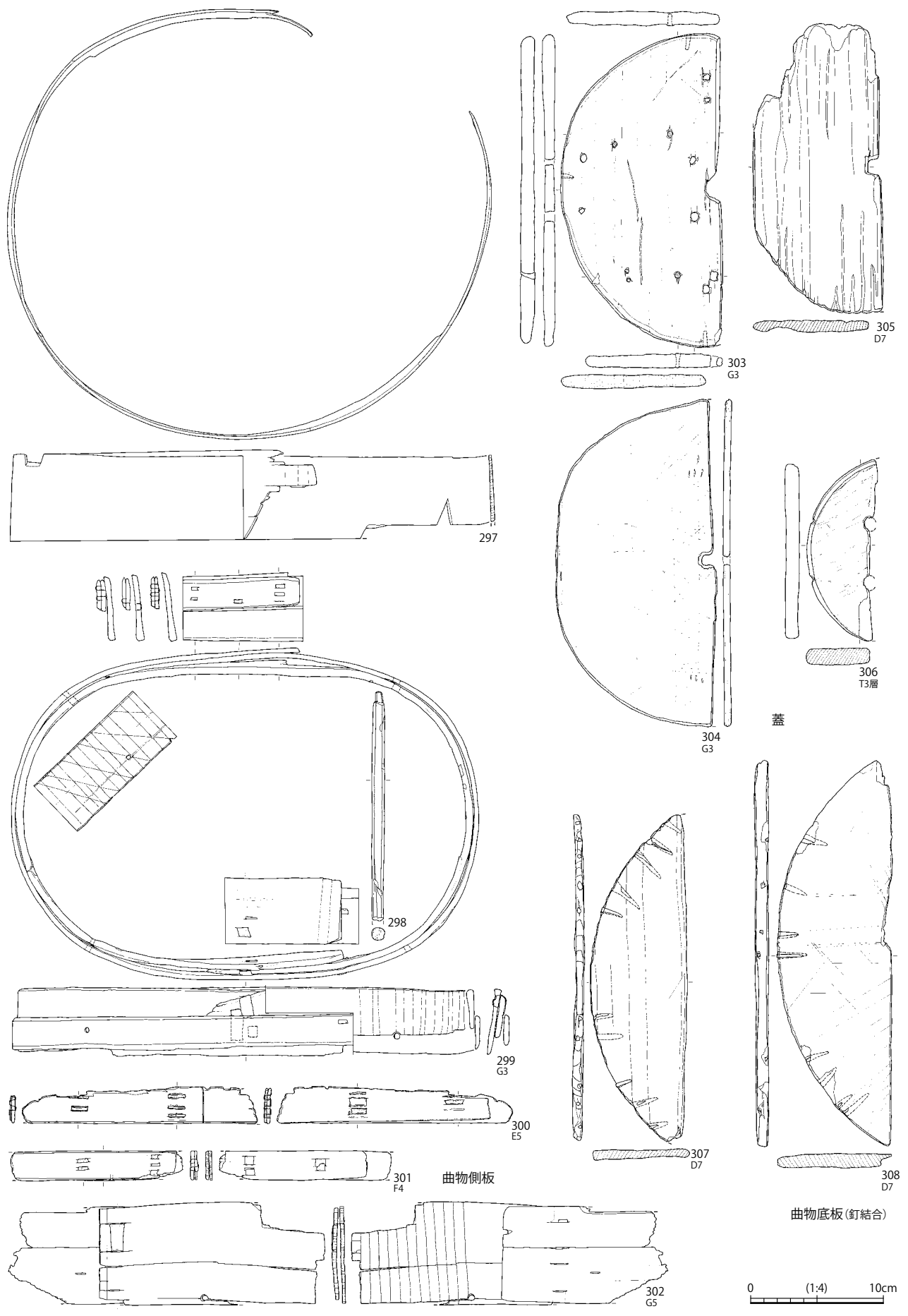


図16 木製品実測図 (容器)

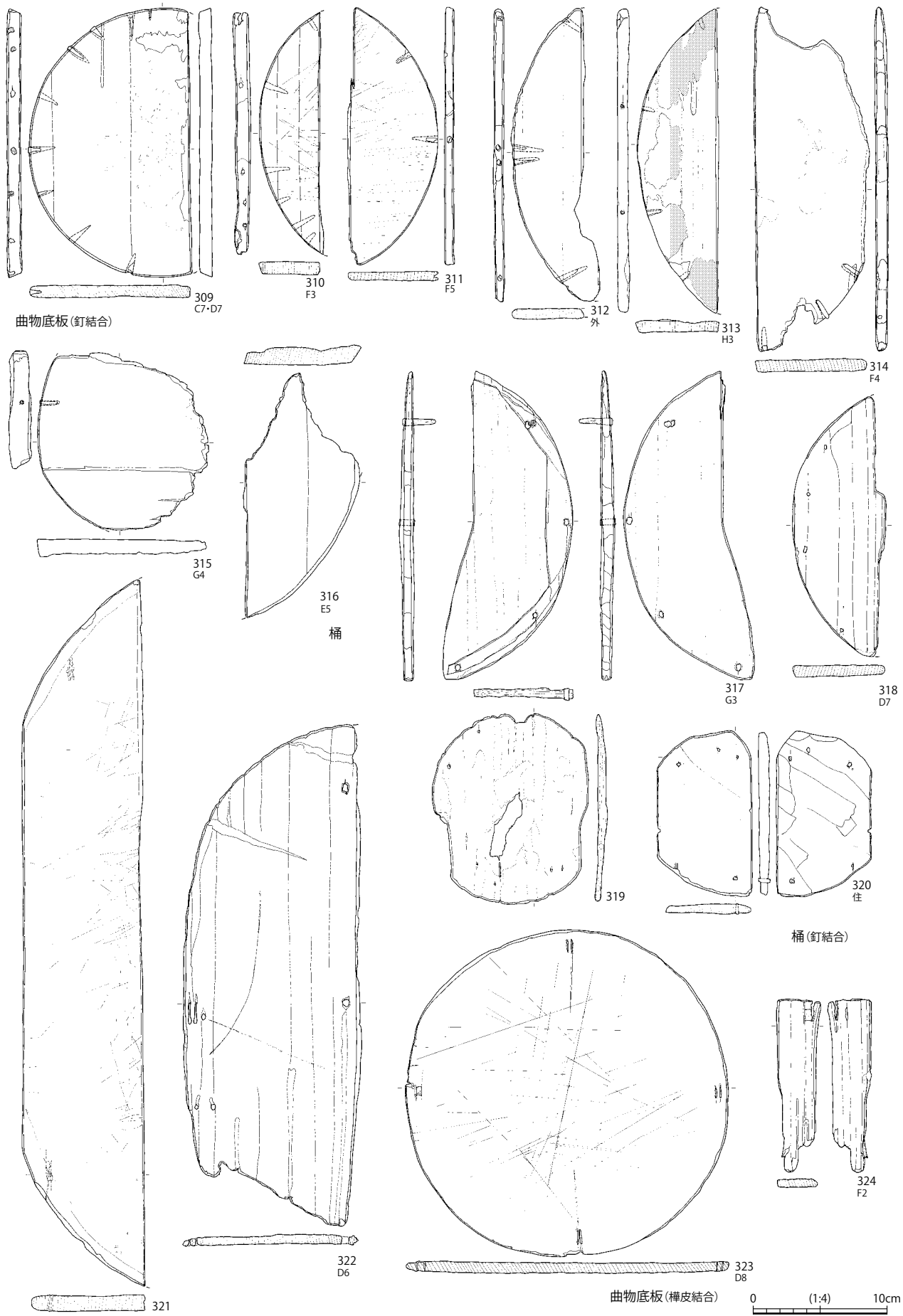


図17 木製品実測図 (容器)

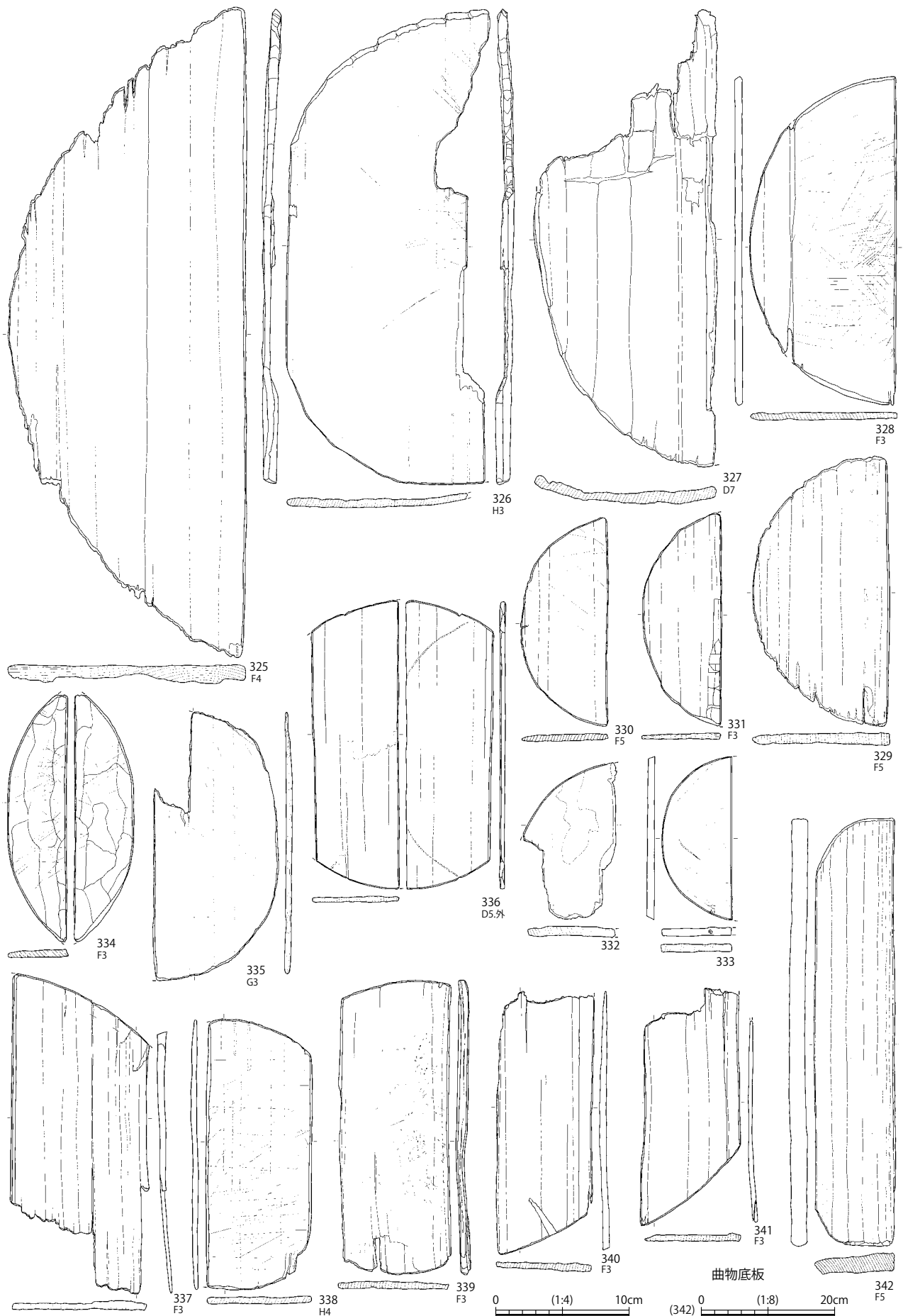
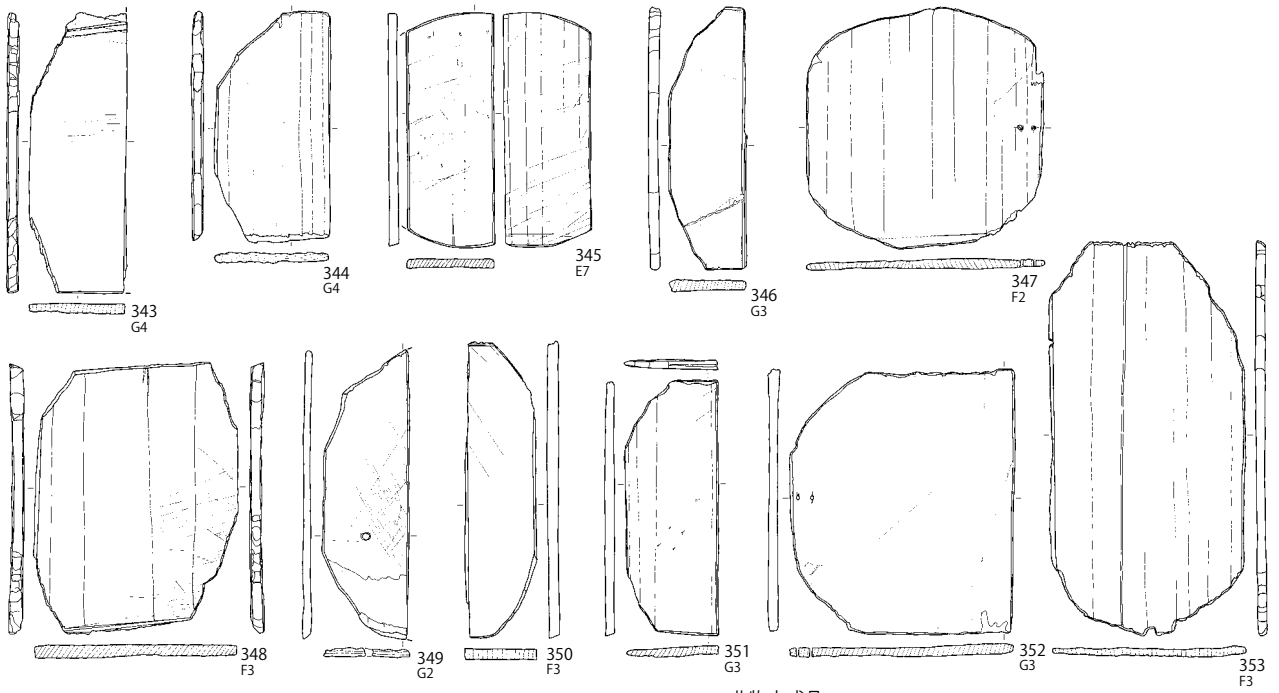
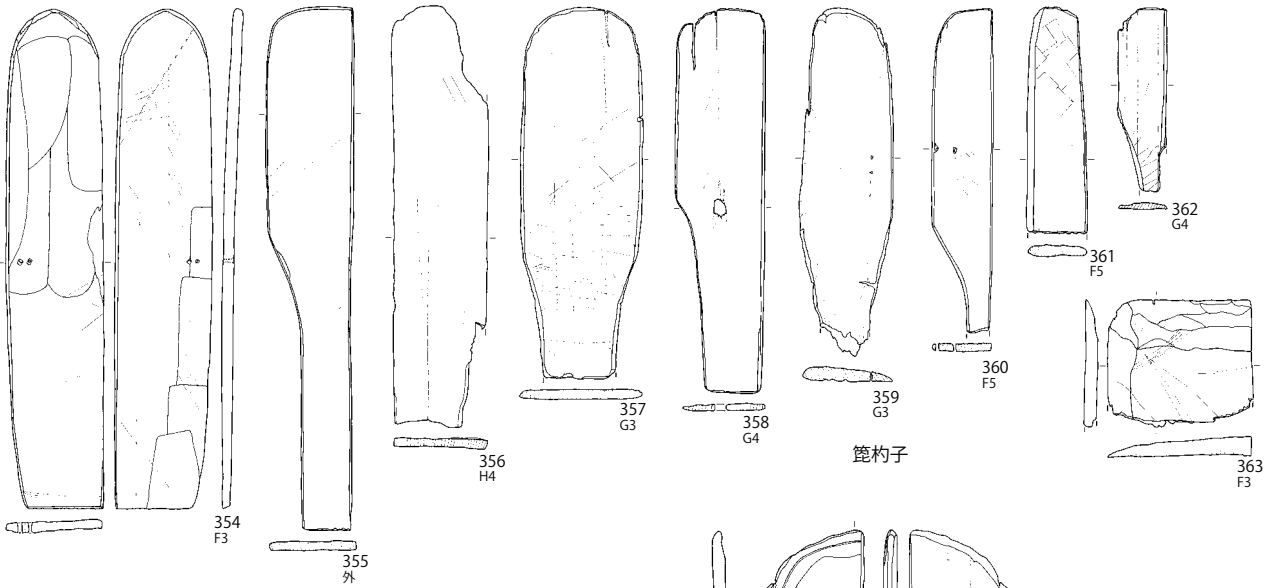


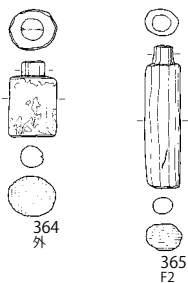
図18 木製品実測図 (容器)



曲物未成品



籠杓子



脚



膳

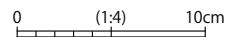


図19 木製品実測図 (容器、調理加工具、食事具)

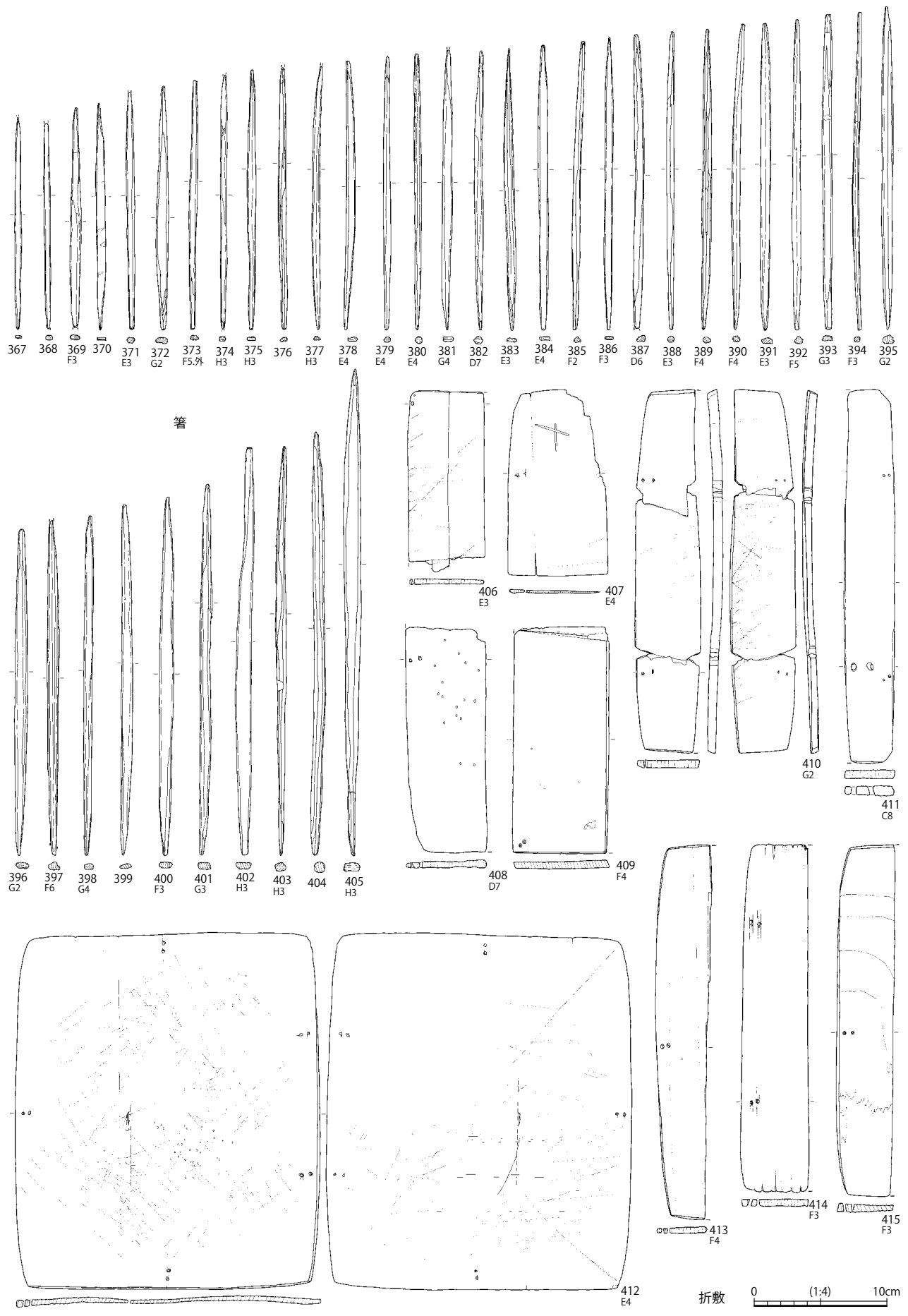


図20 木製品実測図 (食器具)

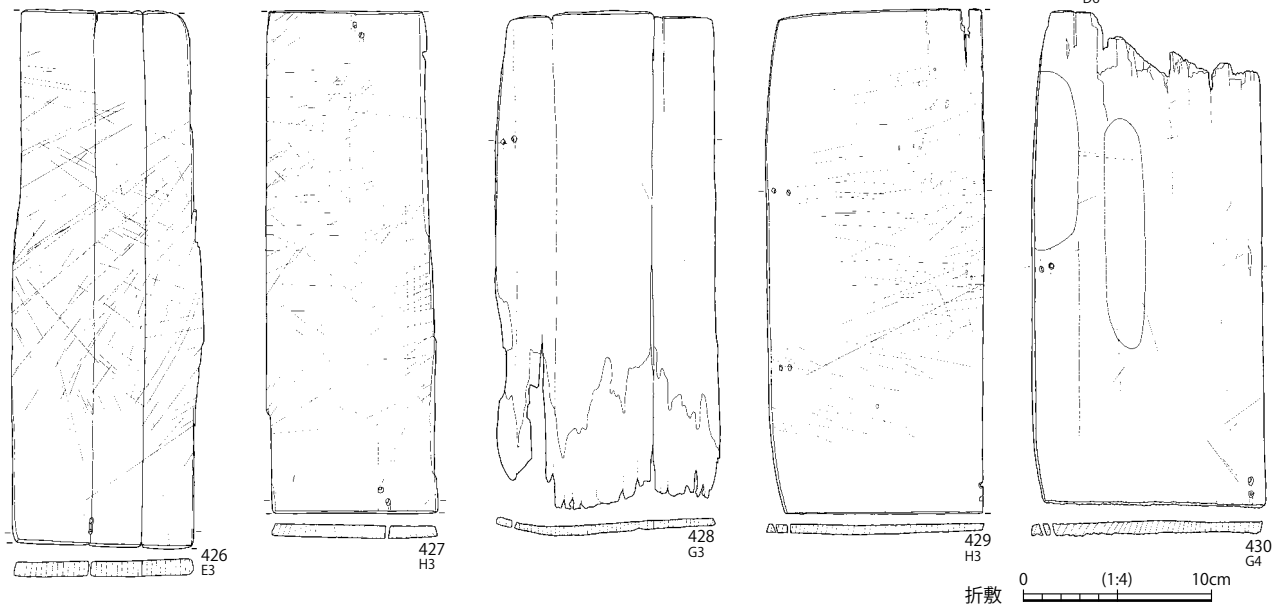
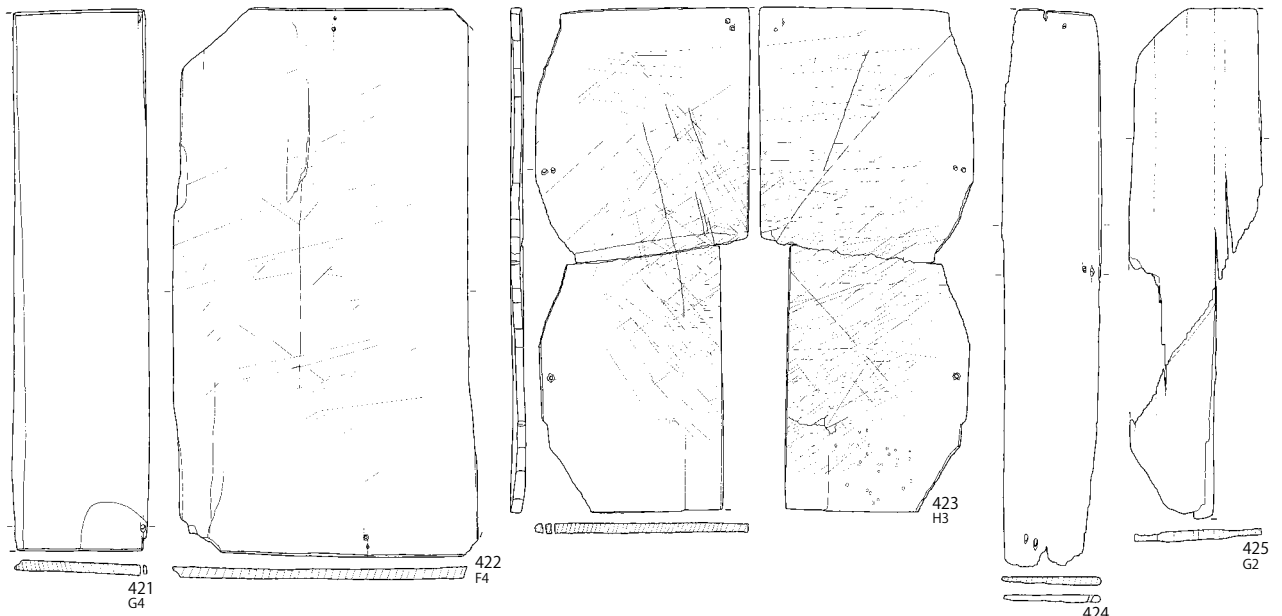
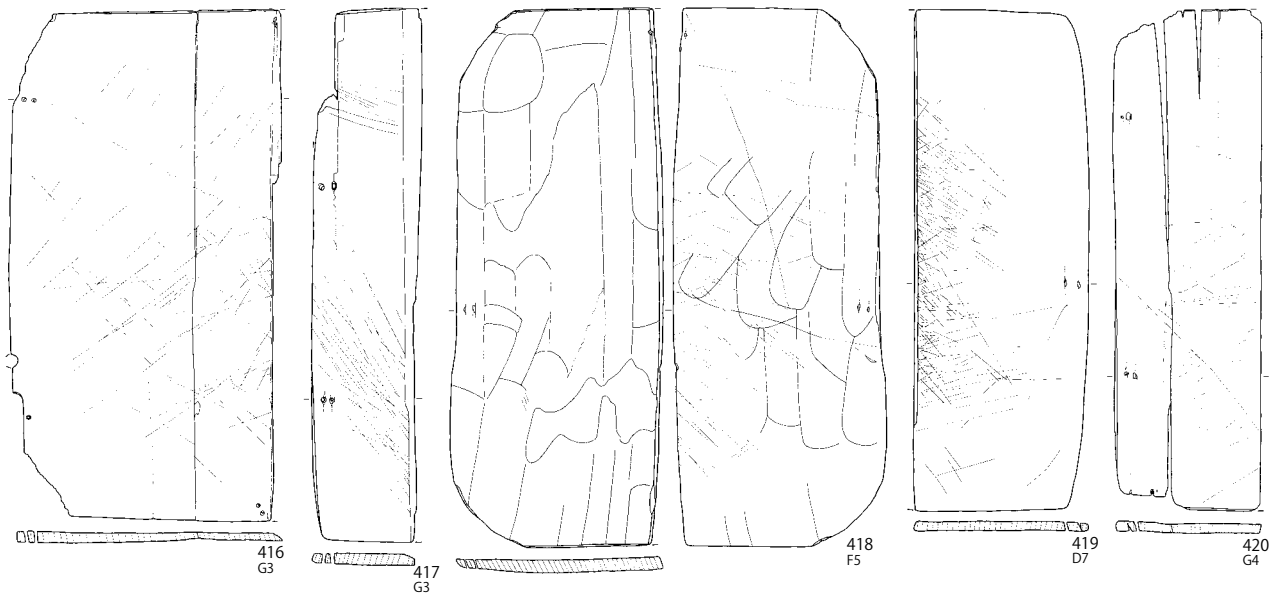
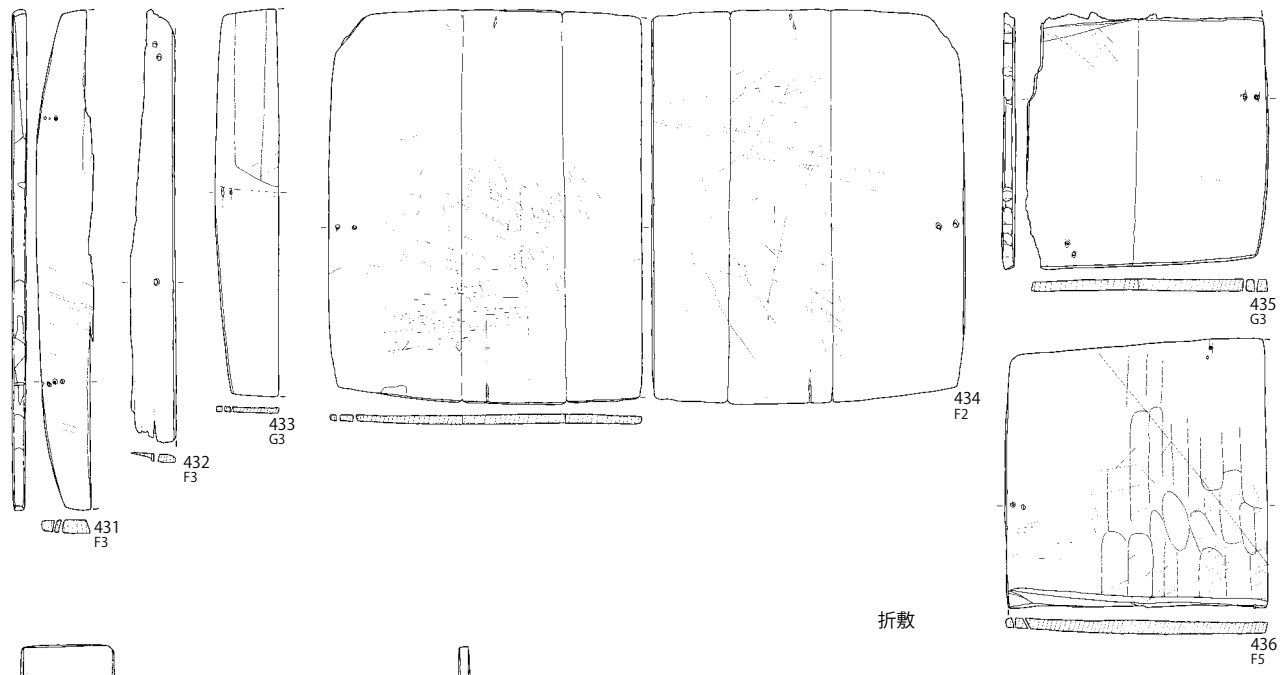
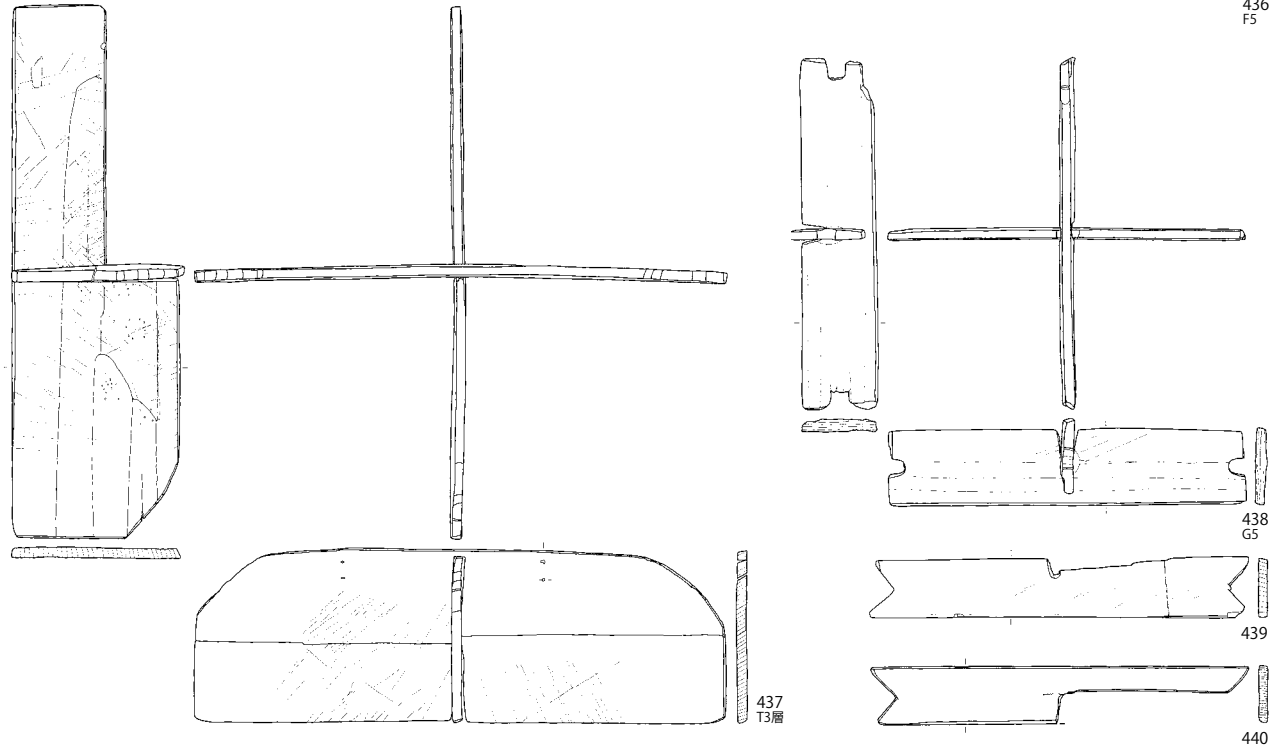


図21 木製品実測図 (食事具)



折敷



燭台・灯明台

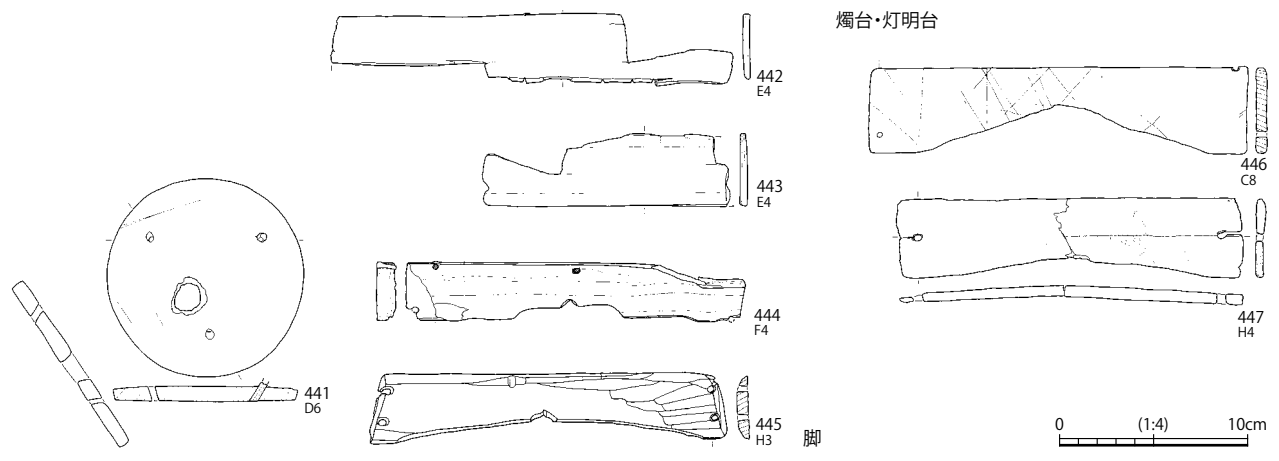


図22 木製品実測図（食事具、調度）

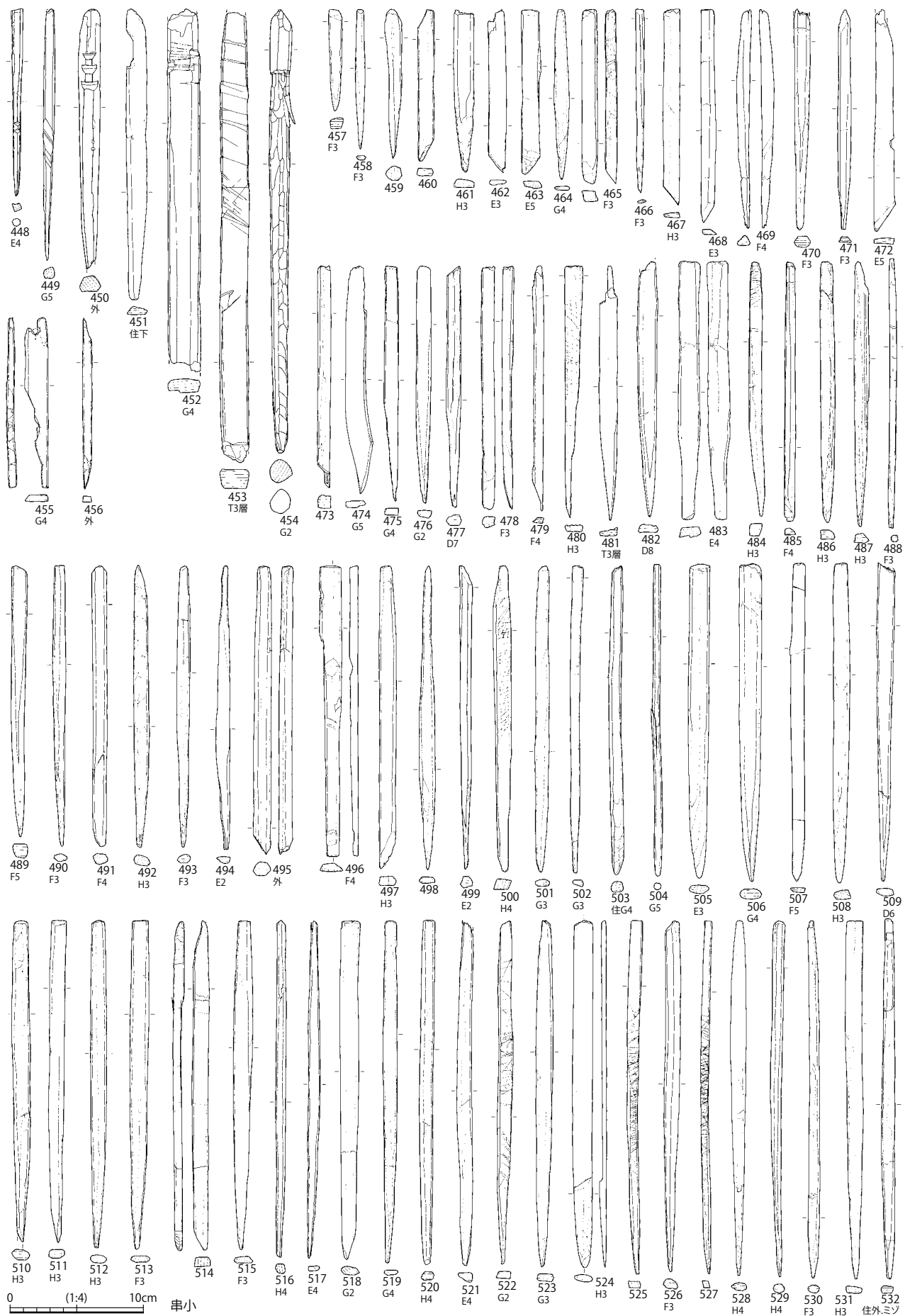


図23 木製品実測図 (祭祀具)

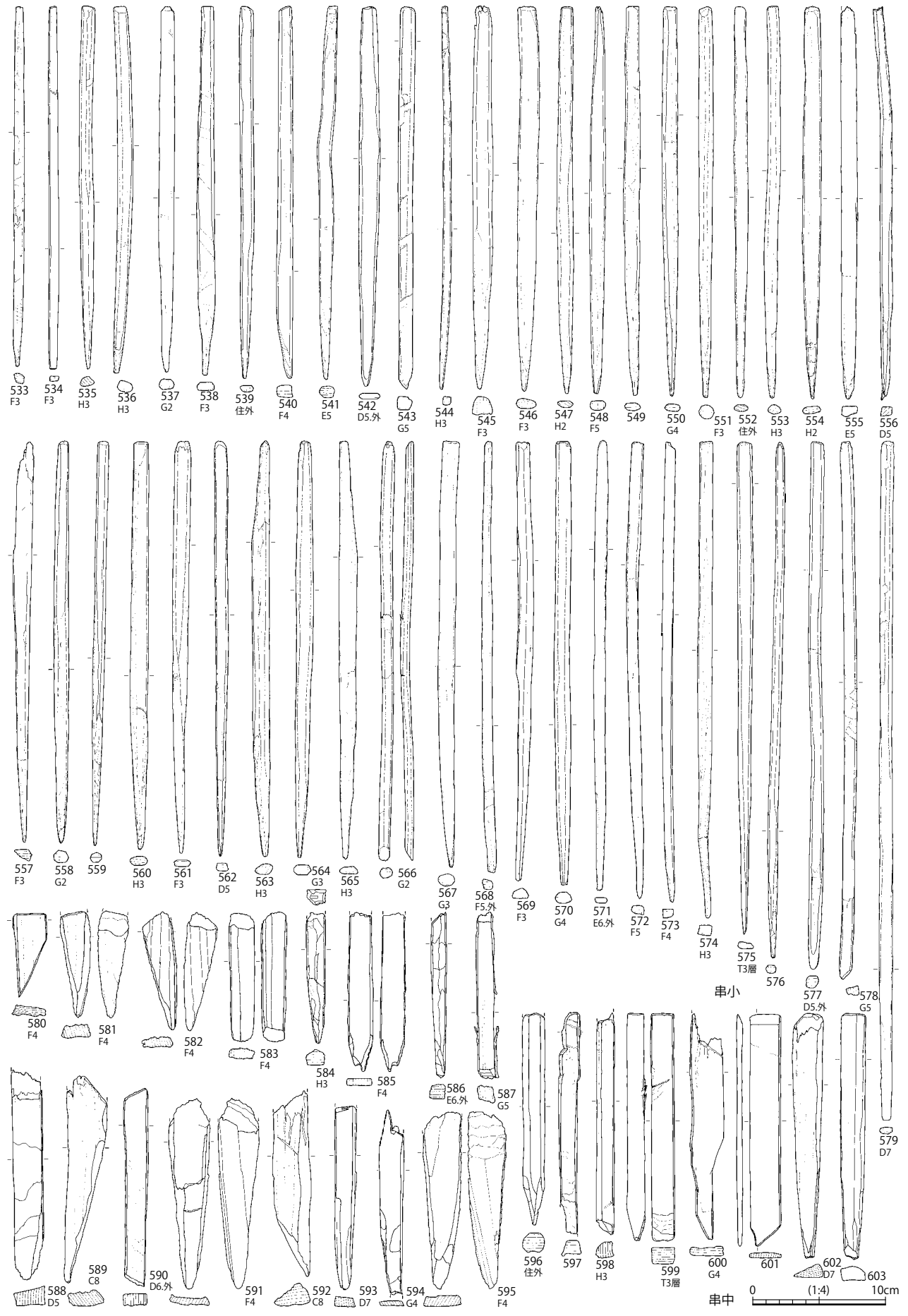


図24 木製品実測図 (祭祀具)

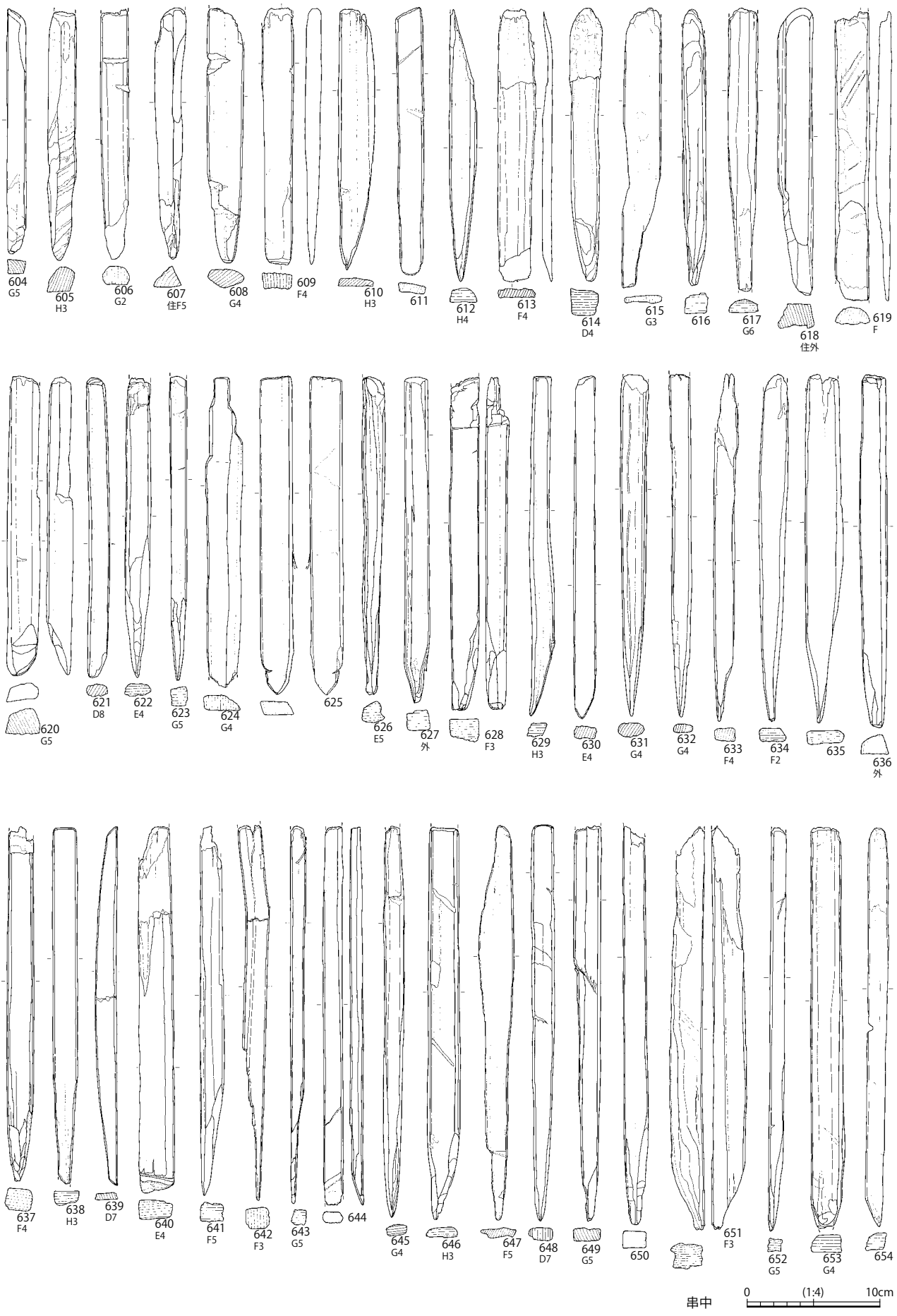


図25 木製品実測図 (祭祀具)

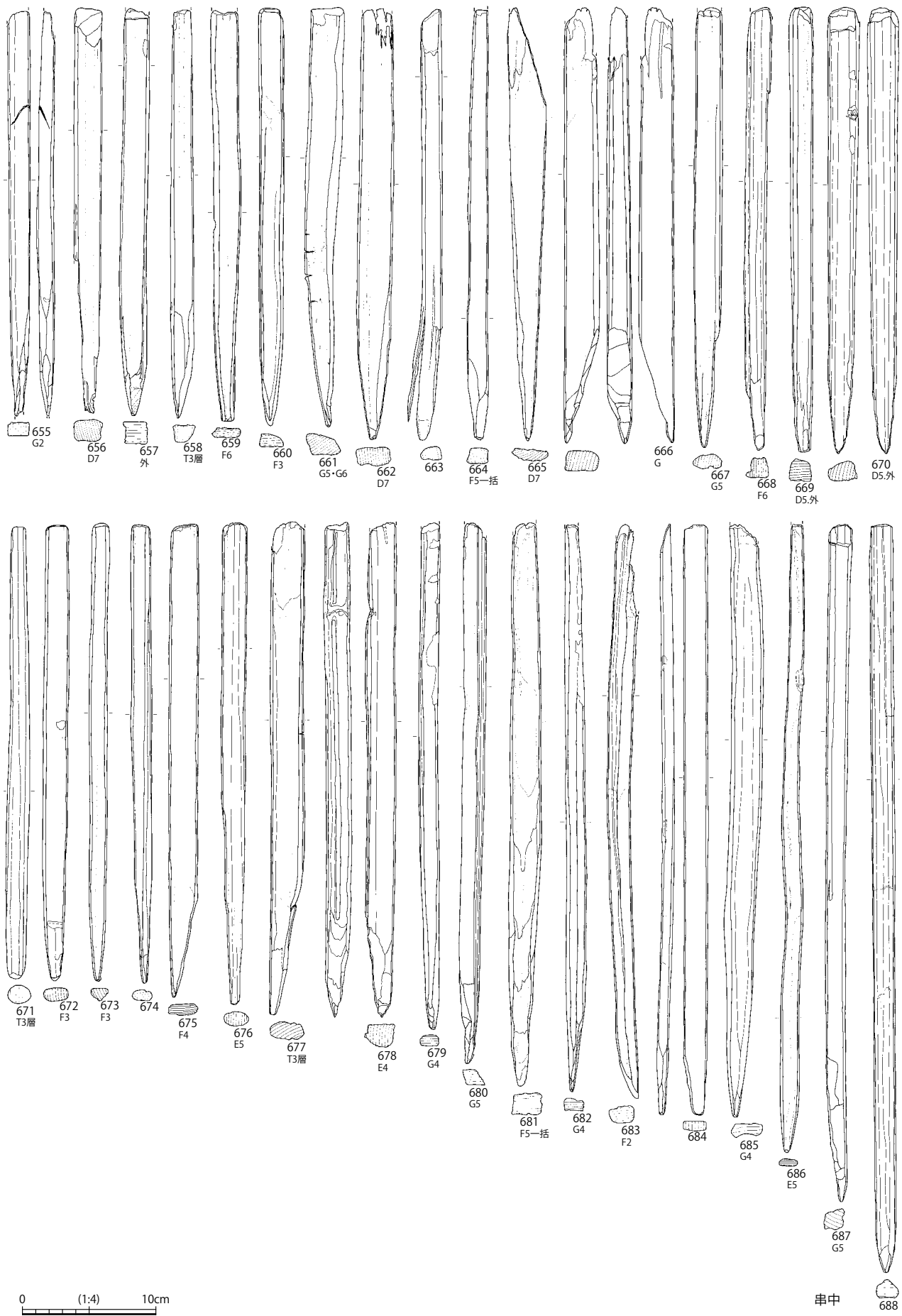
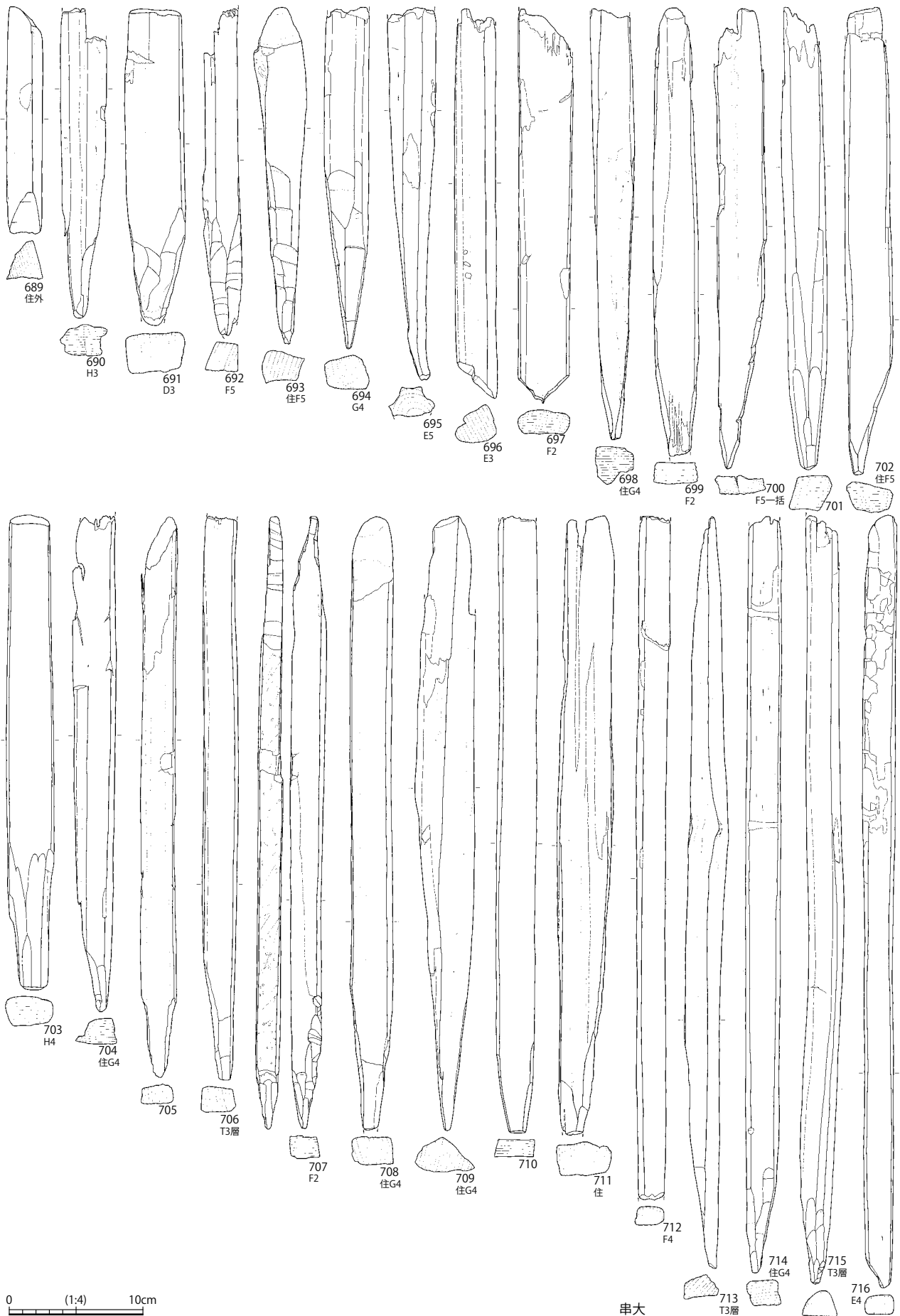


図26 木製品実測図 (祭祀具)



串大

図27 木製品実測図 (祭祀具)

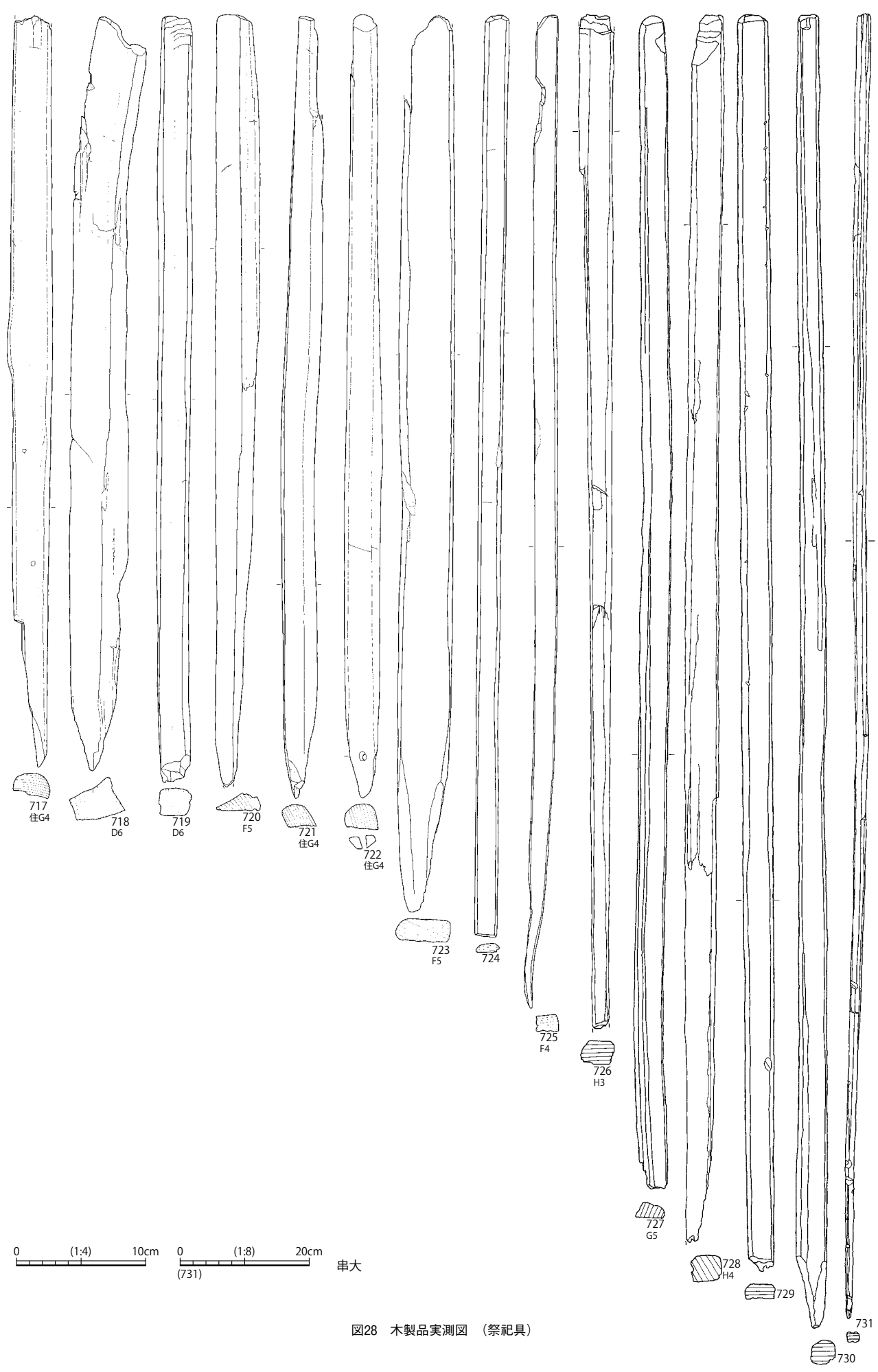


図28 木製品実測図 (祭祀具)

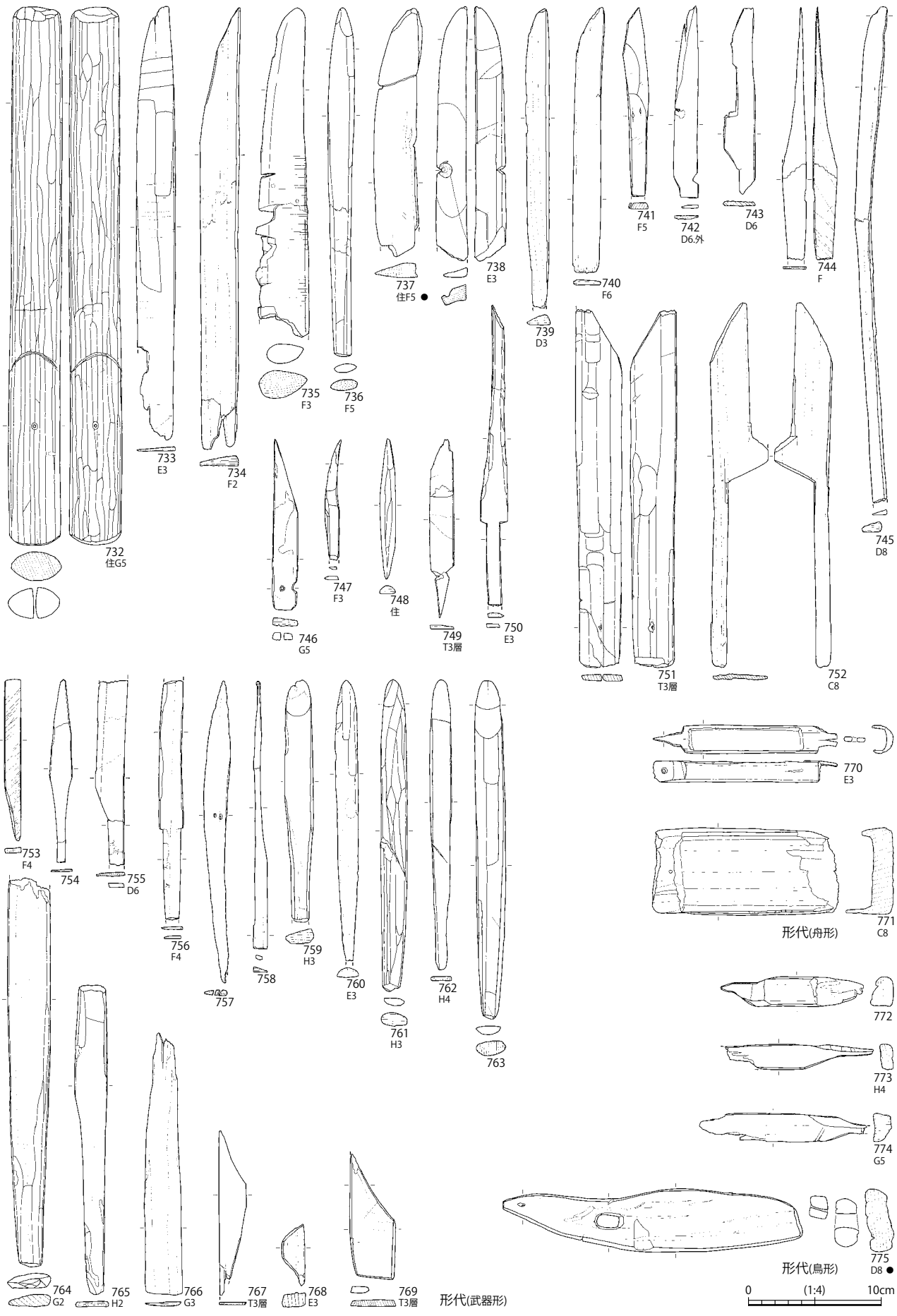


図29 木製品実測図 (祭祀具)

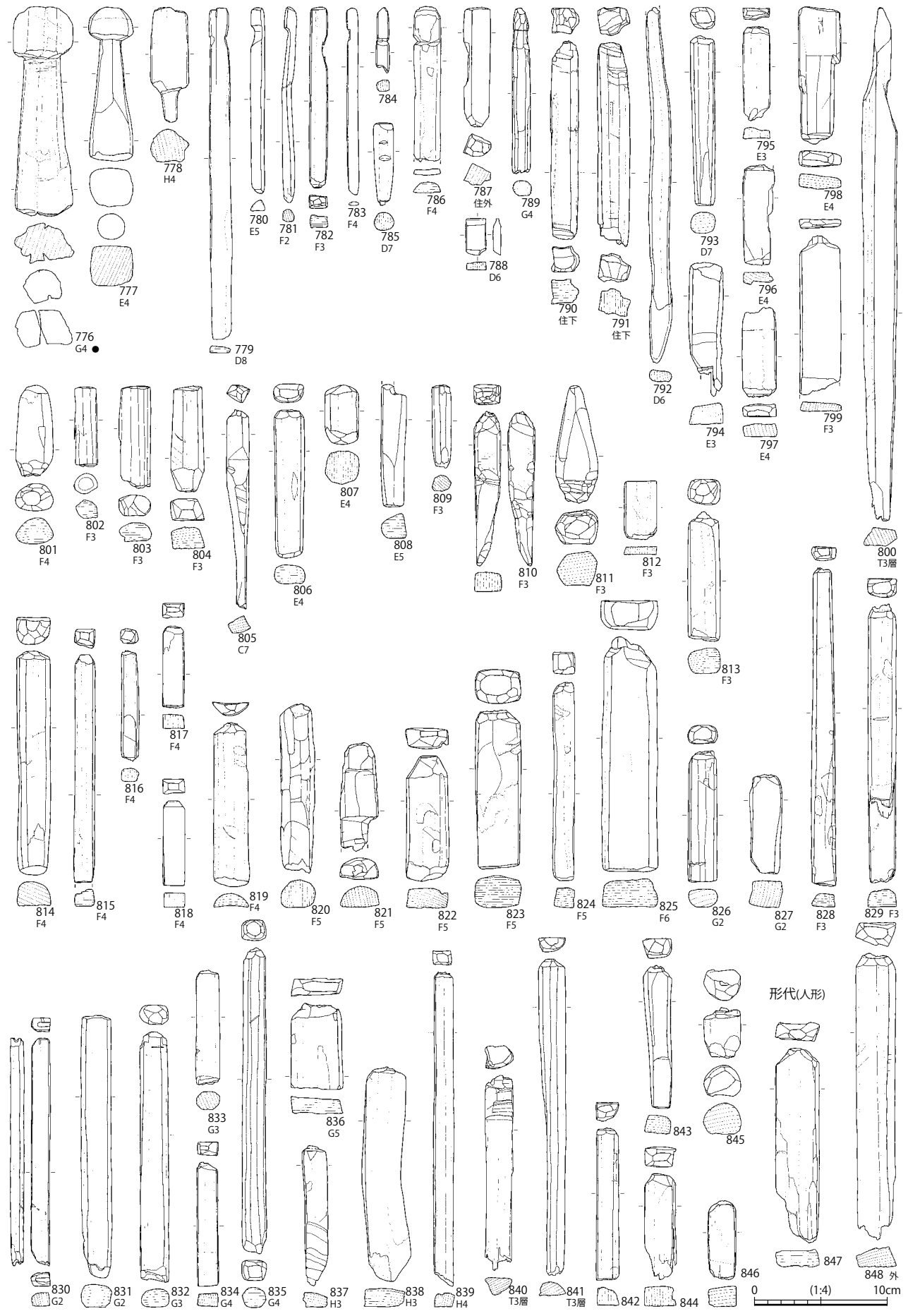
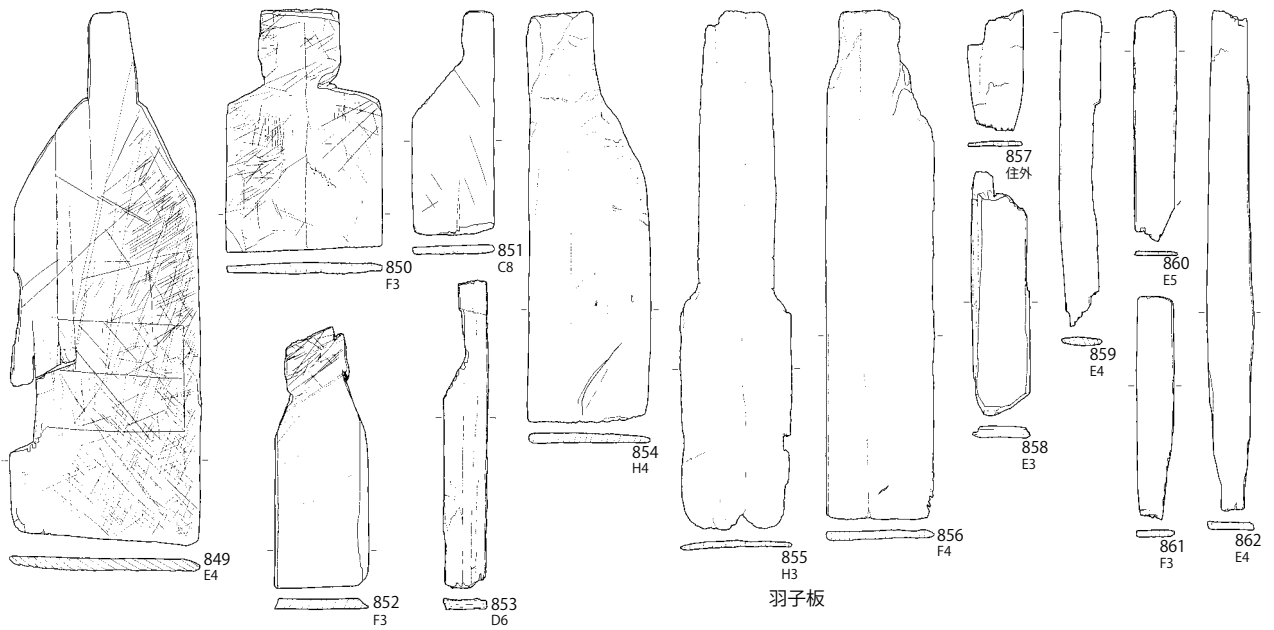
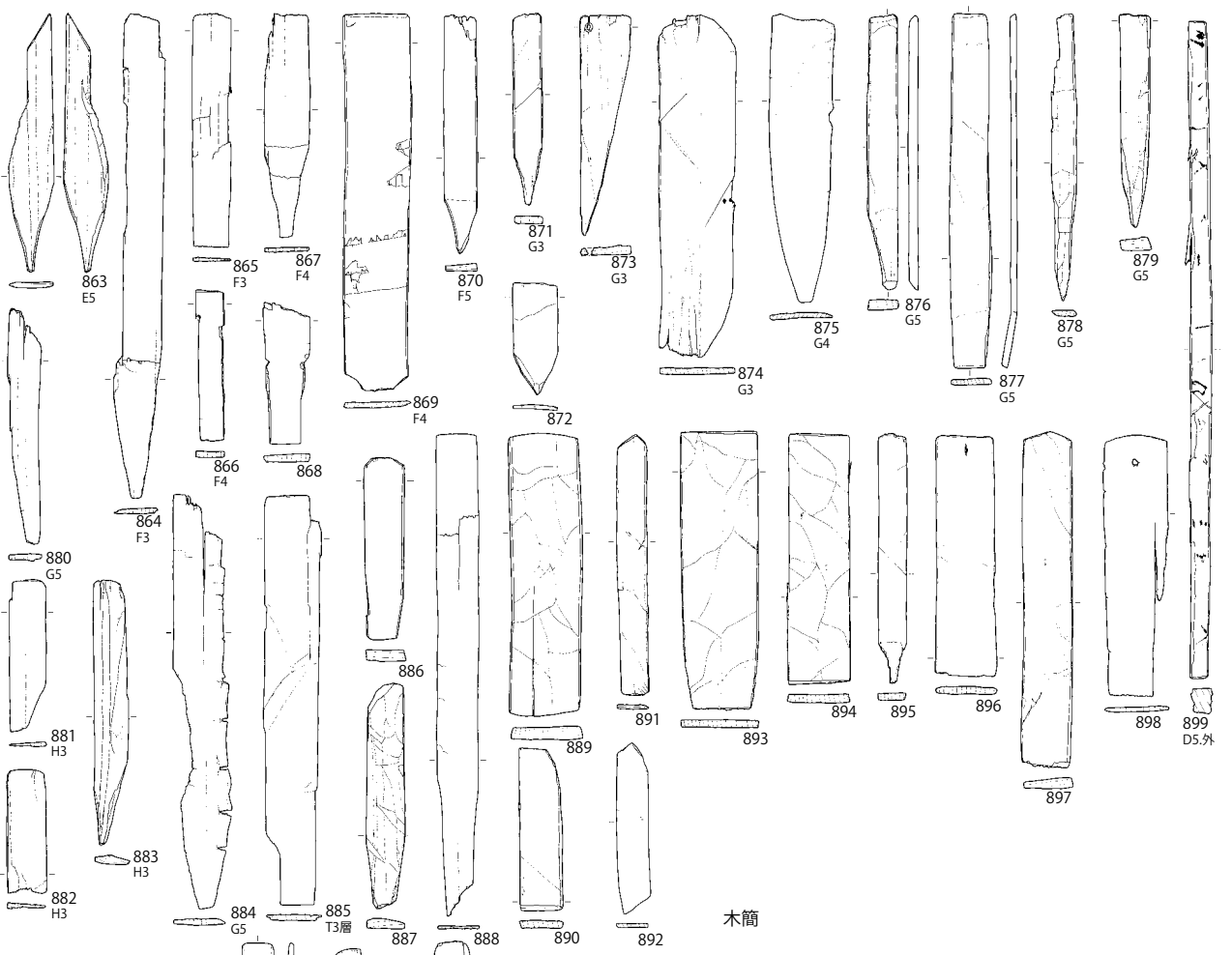


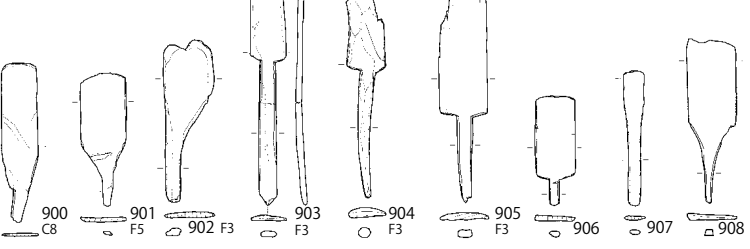
図30 木製品実測図 (祭祀具)



羽子板



木筒



題箋軸

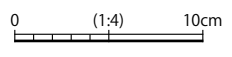
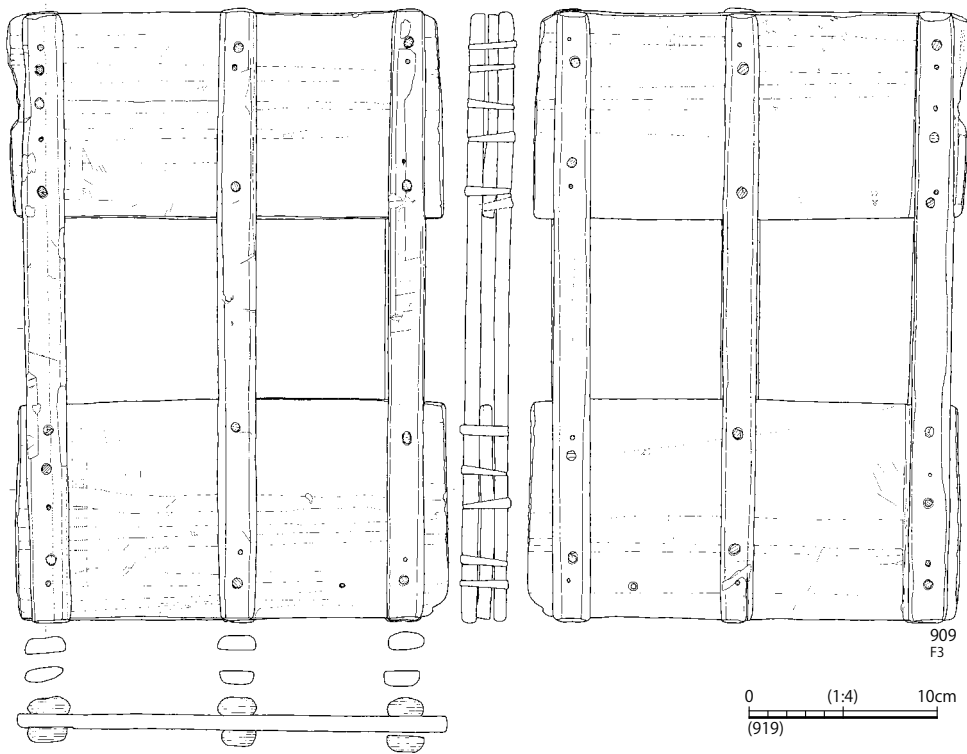
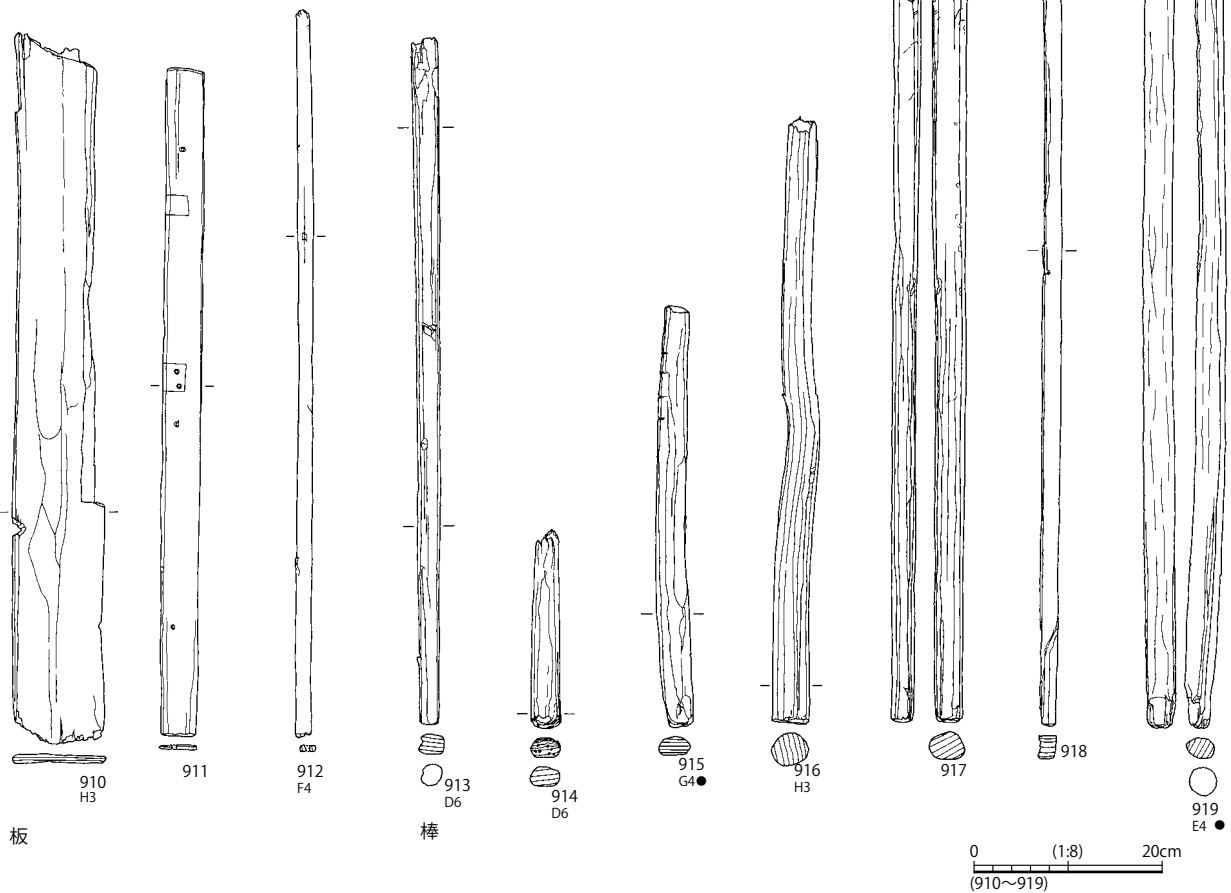


図31 木製品実測図 (遊戯具・日用品、計量具・文房具)



水口の水門



板

棒

図32 木製品実測図 (施設材・器具材)

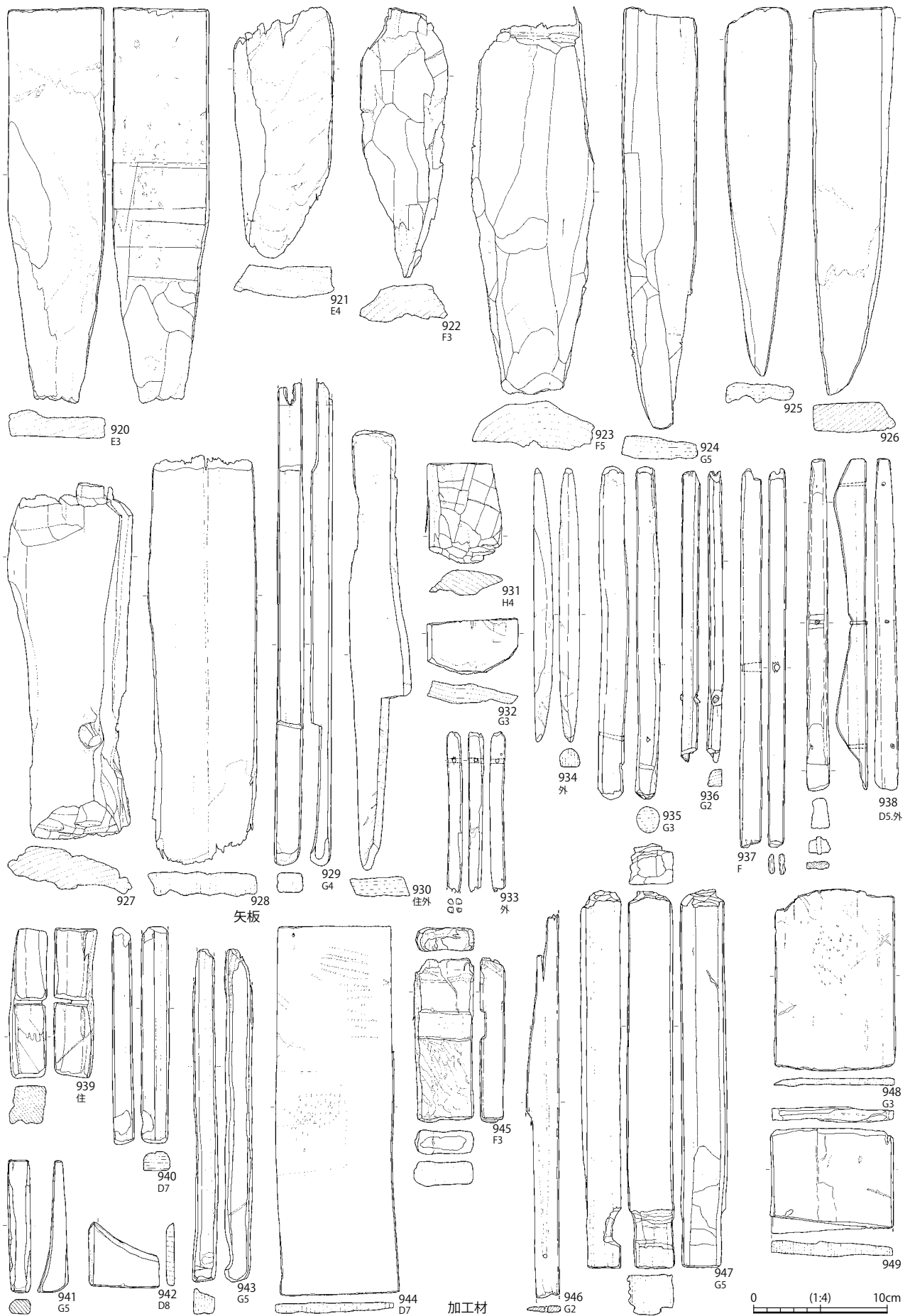


図33 木製品実測図（土木材、その他）

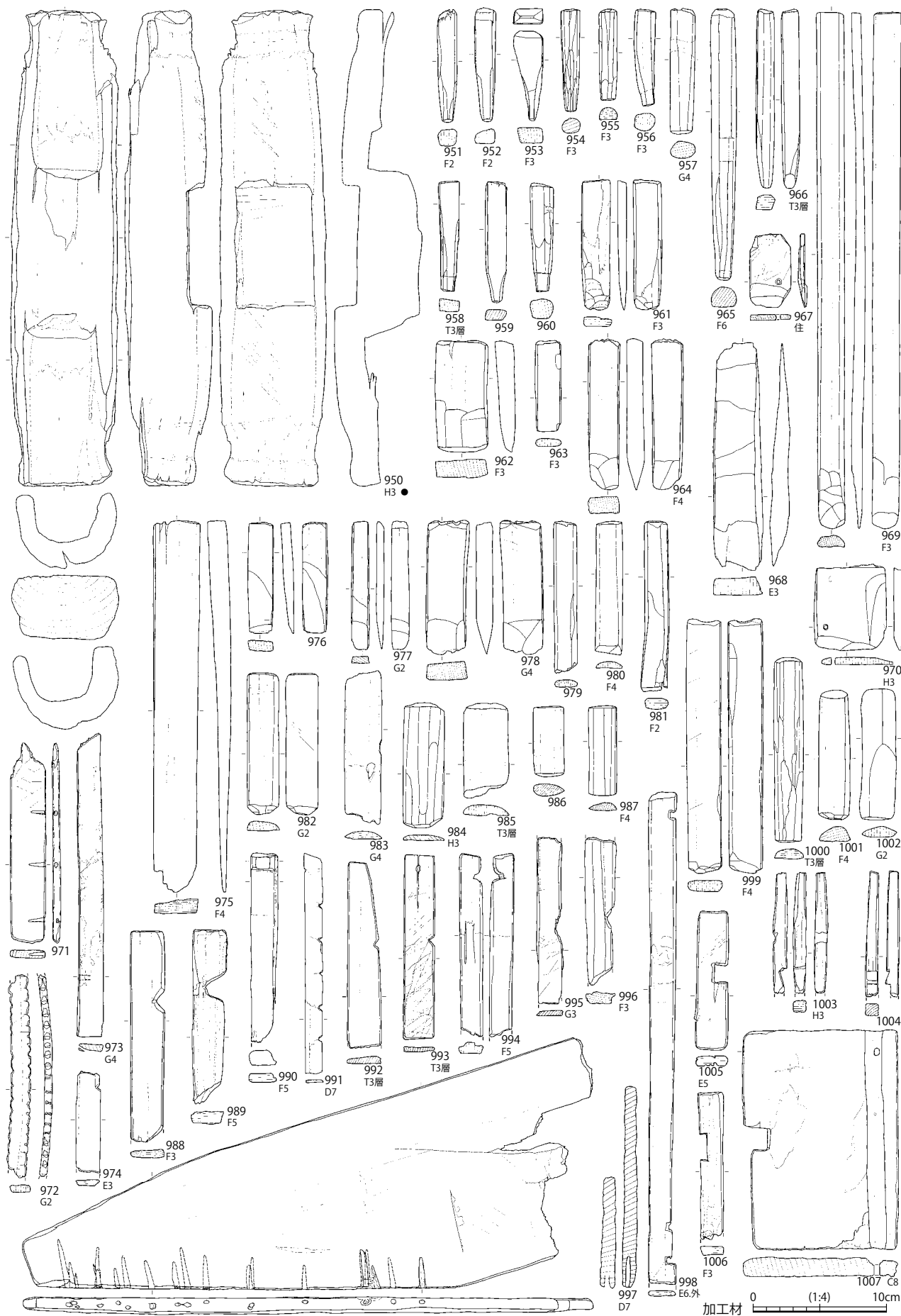


図34 木製品実測図 (その他)

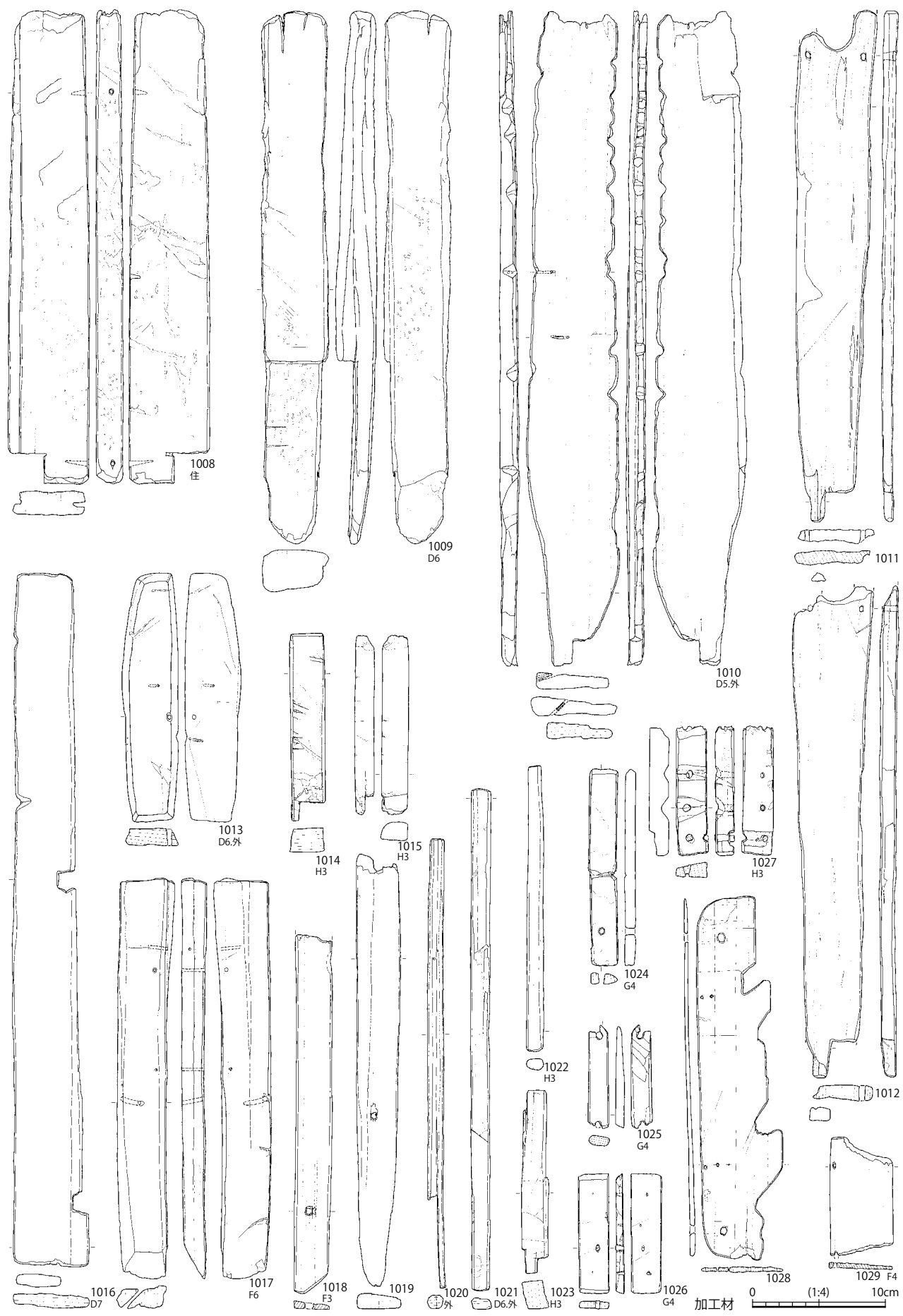


図35 木製品実測図 (その他)

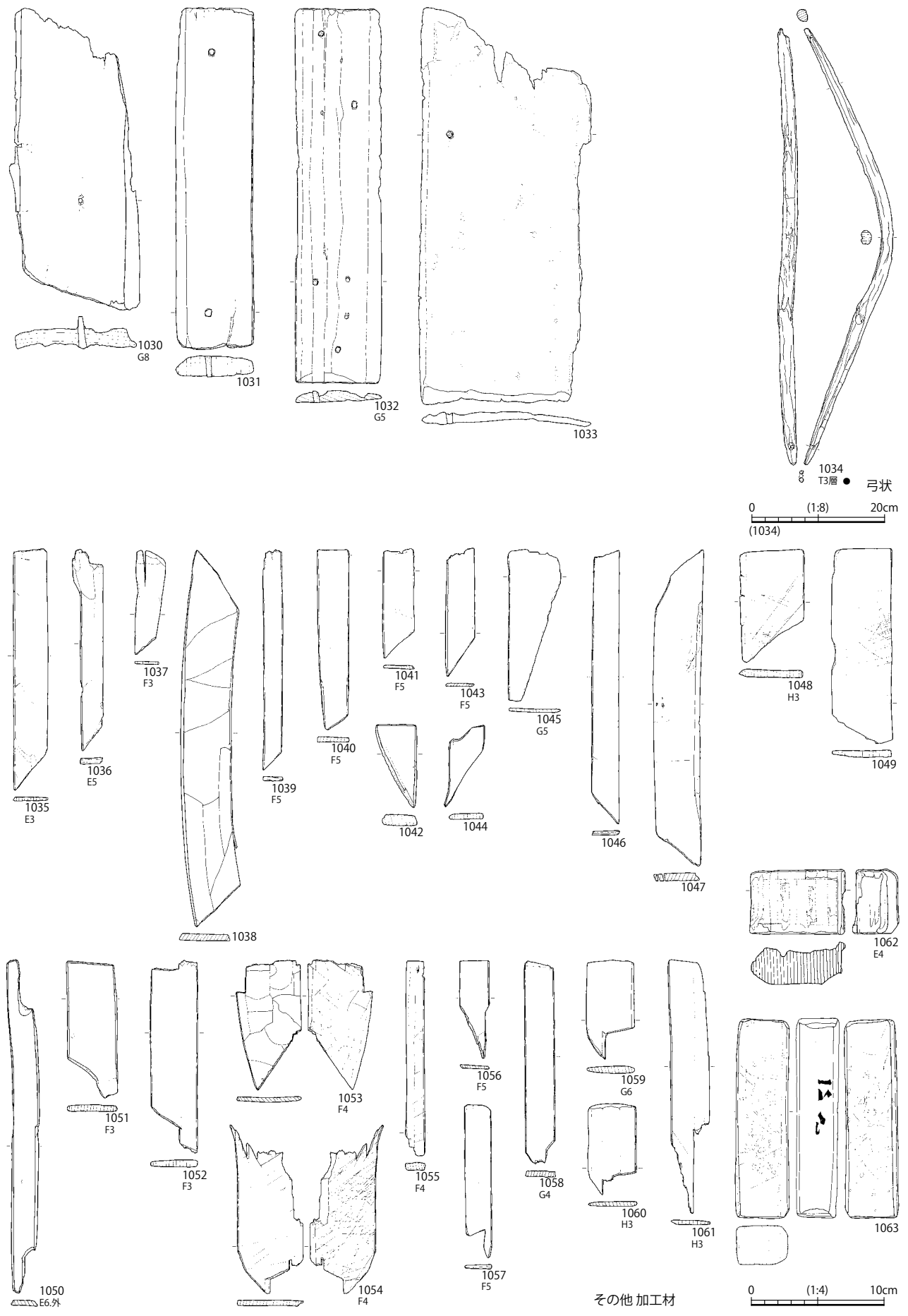


図36 木製品実測図 (その他)

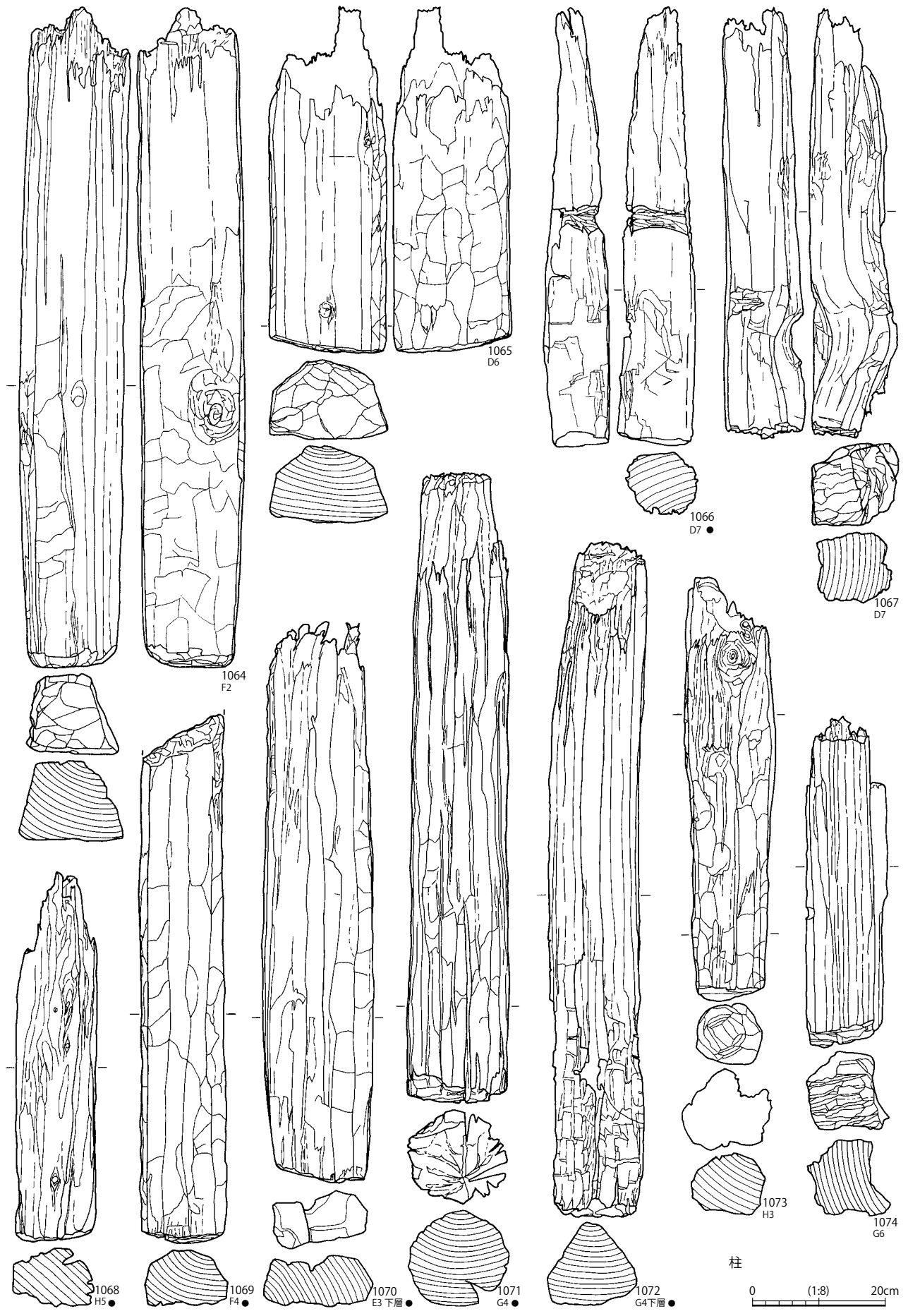


图37 木製品実測図 (建築部材)

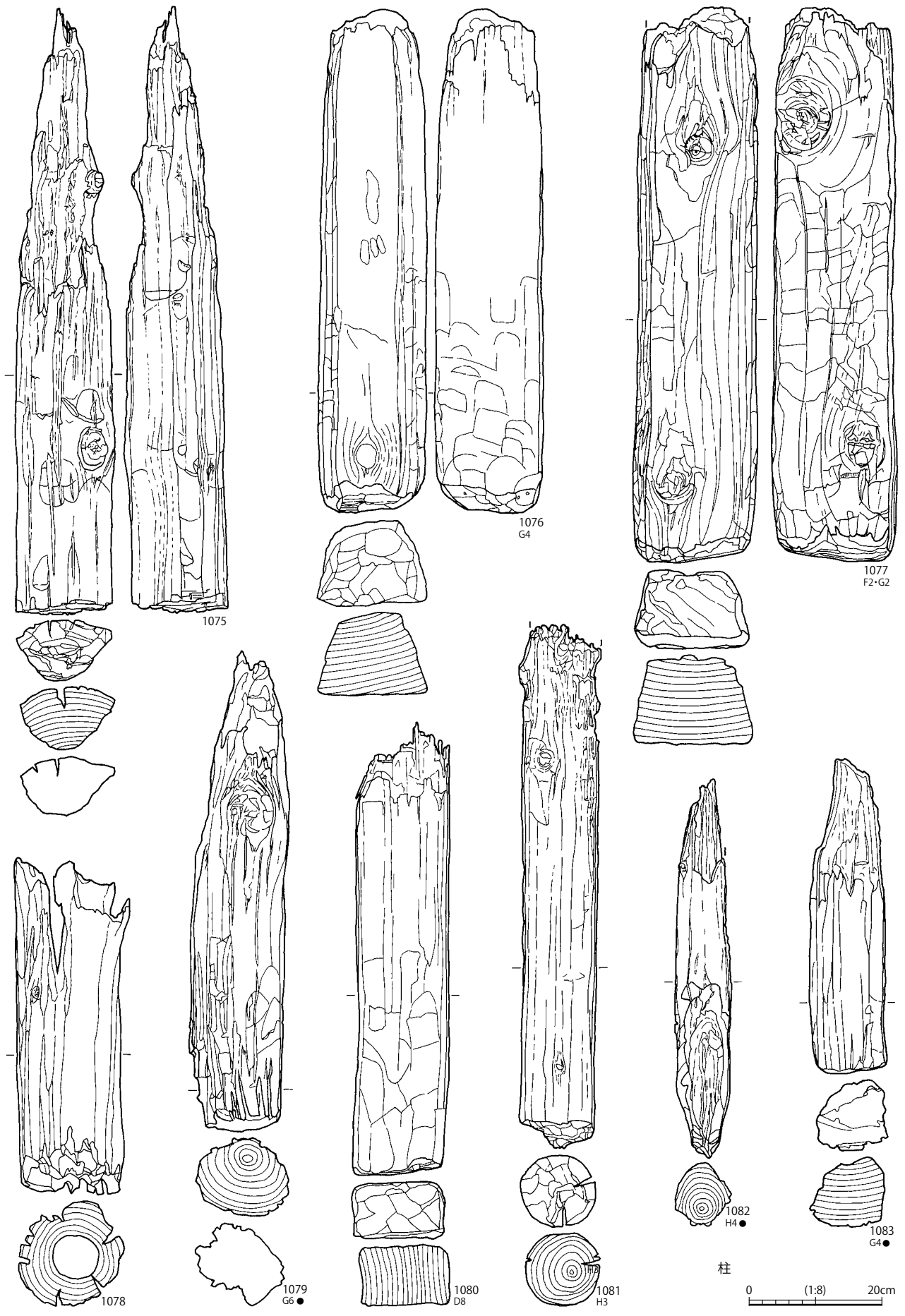


图38 木製品実測図 (建築部材)

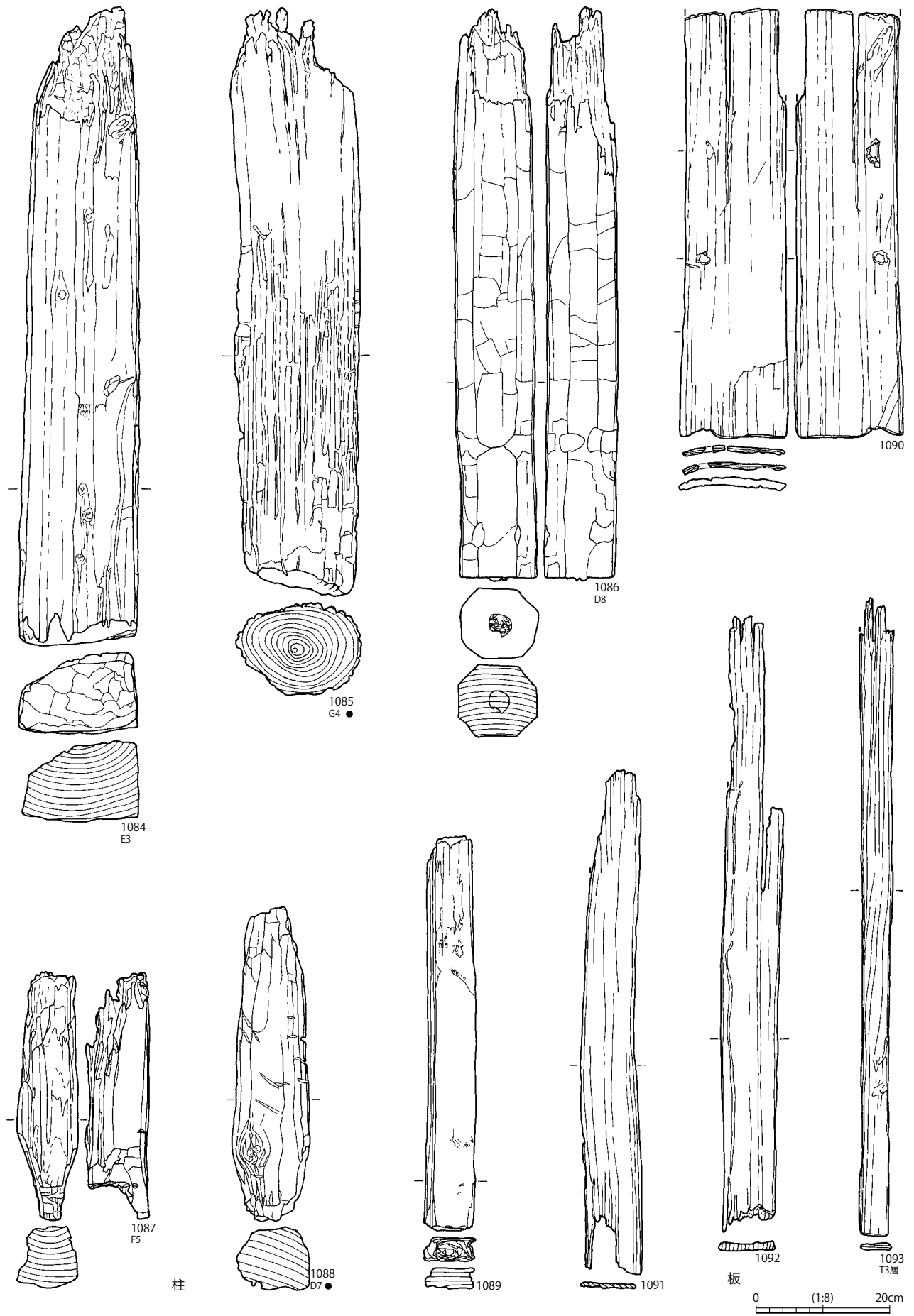


図39 木製品実測図 (建築部材・土木材)

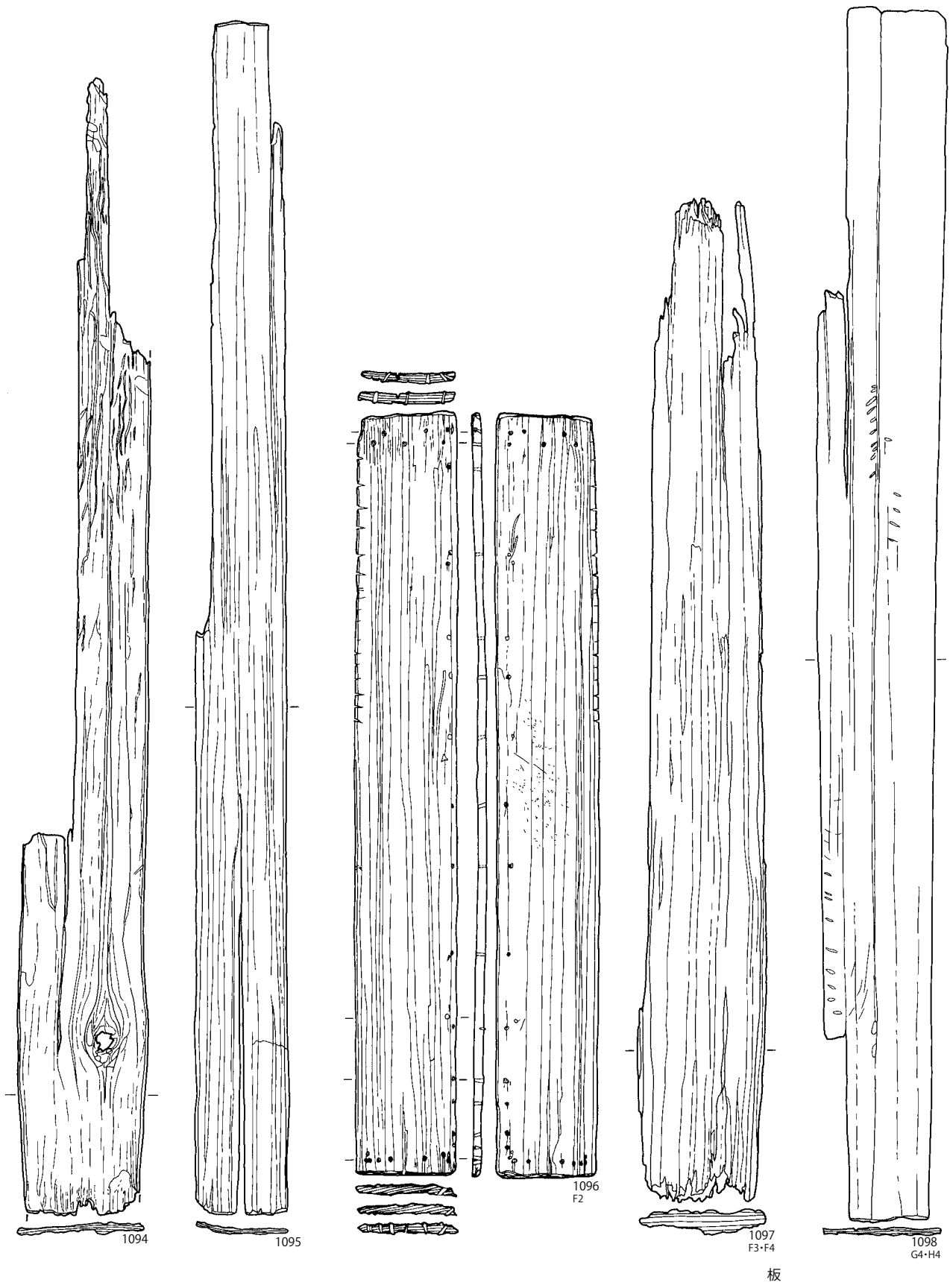


図40 木製品実測図 (施設材・器具材)

特殊遺構1(1099~1104)

特殊遺構2(1105~1136)

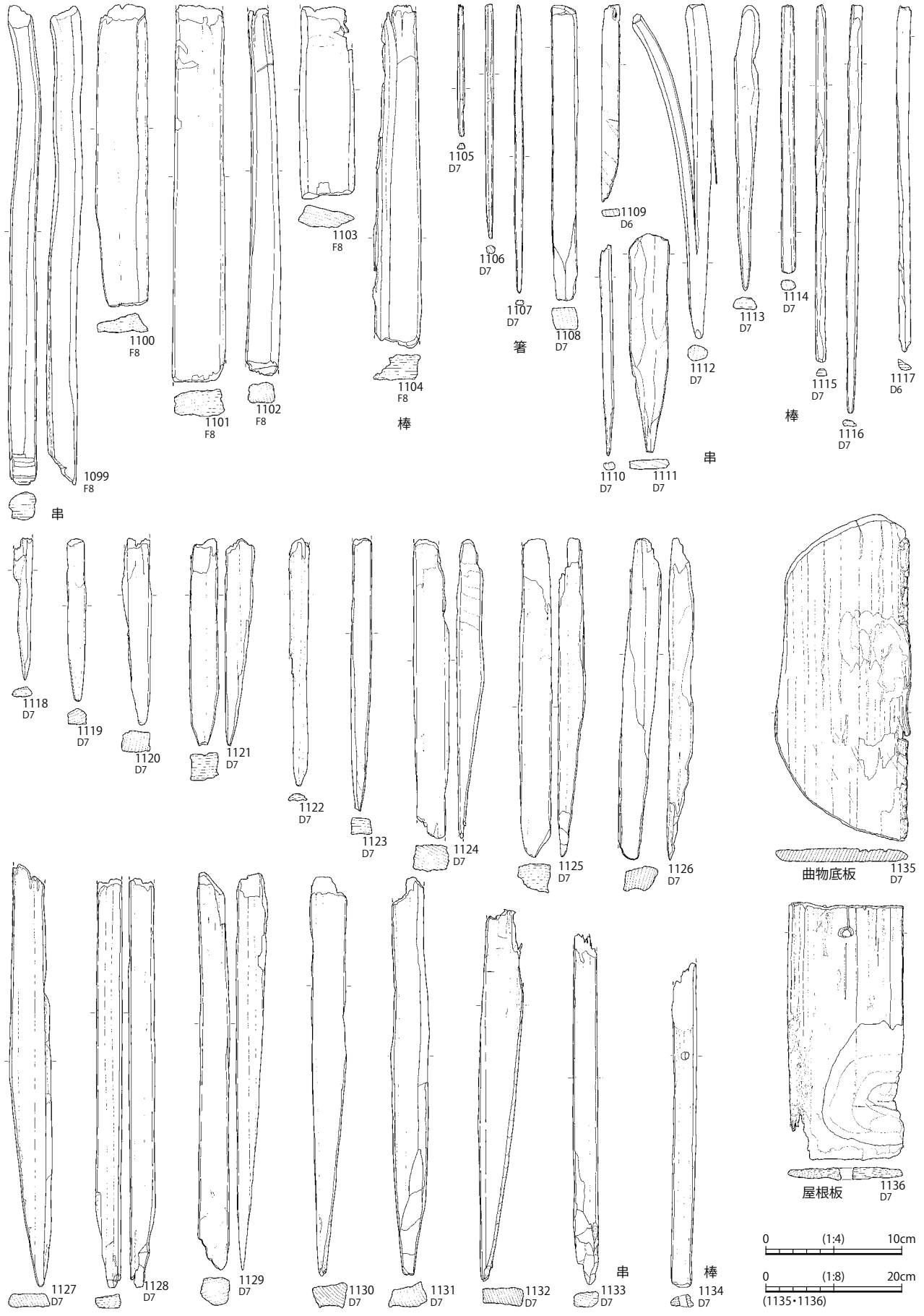
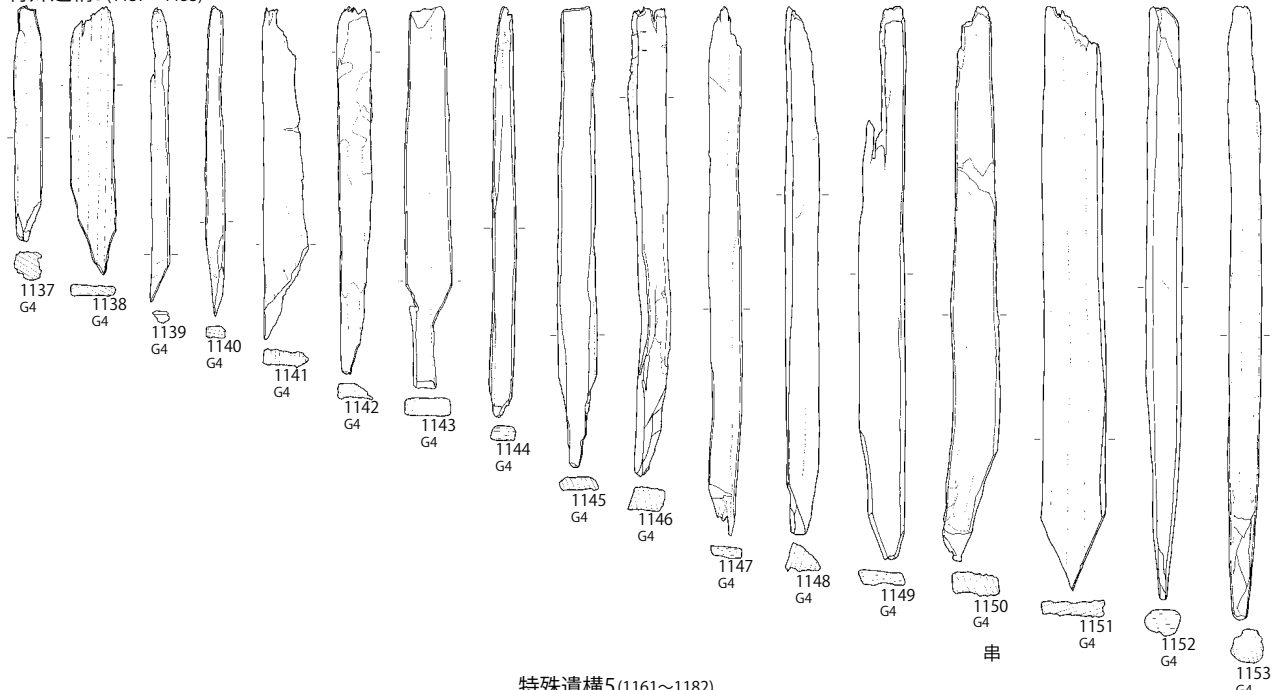
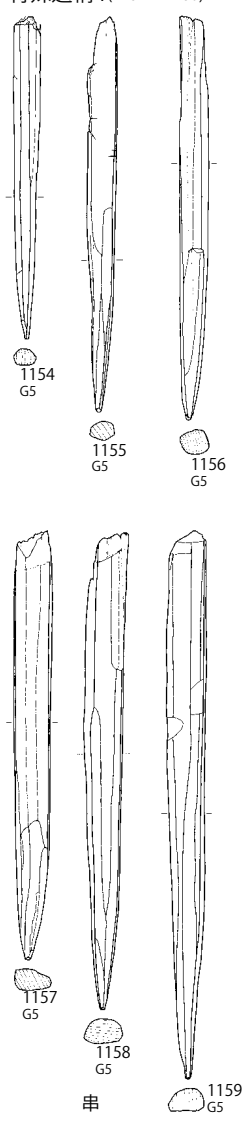


図41 木製品実測図 (特殊遺構1・2)

特殊遺構3(1137~1153)



特殊遺構4(1154~1160)



特殊遺構5(1161~1182)

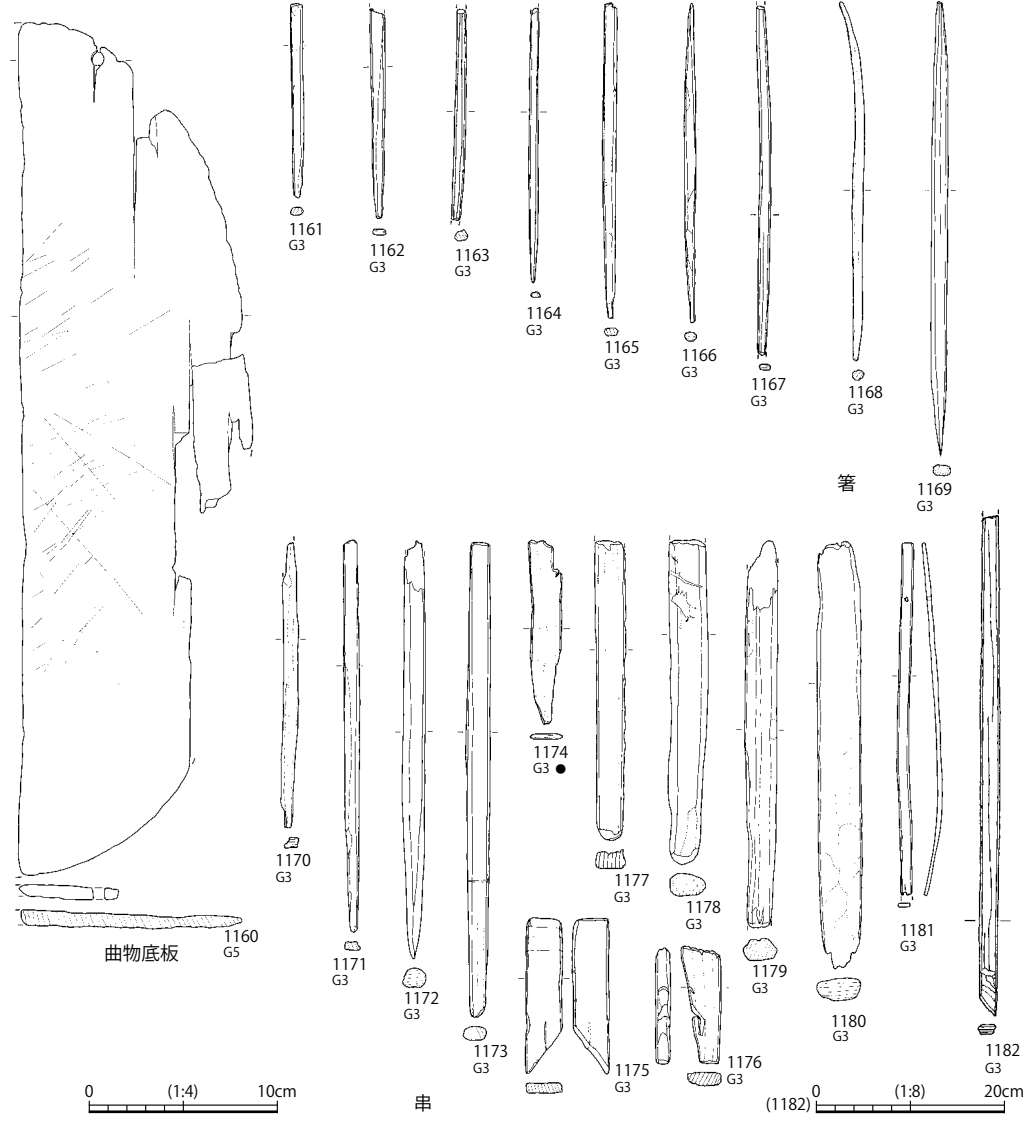


図42 木製品実測図 (特殊遺構 3・4・5)

特殊遺構5(1183~1195)

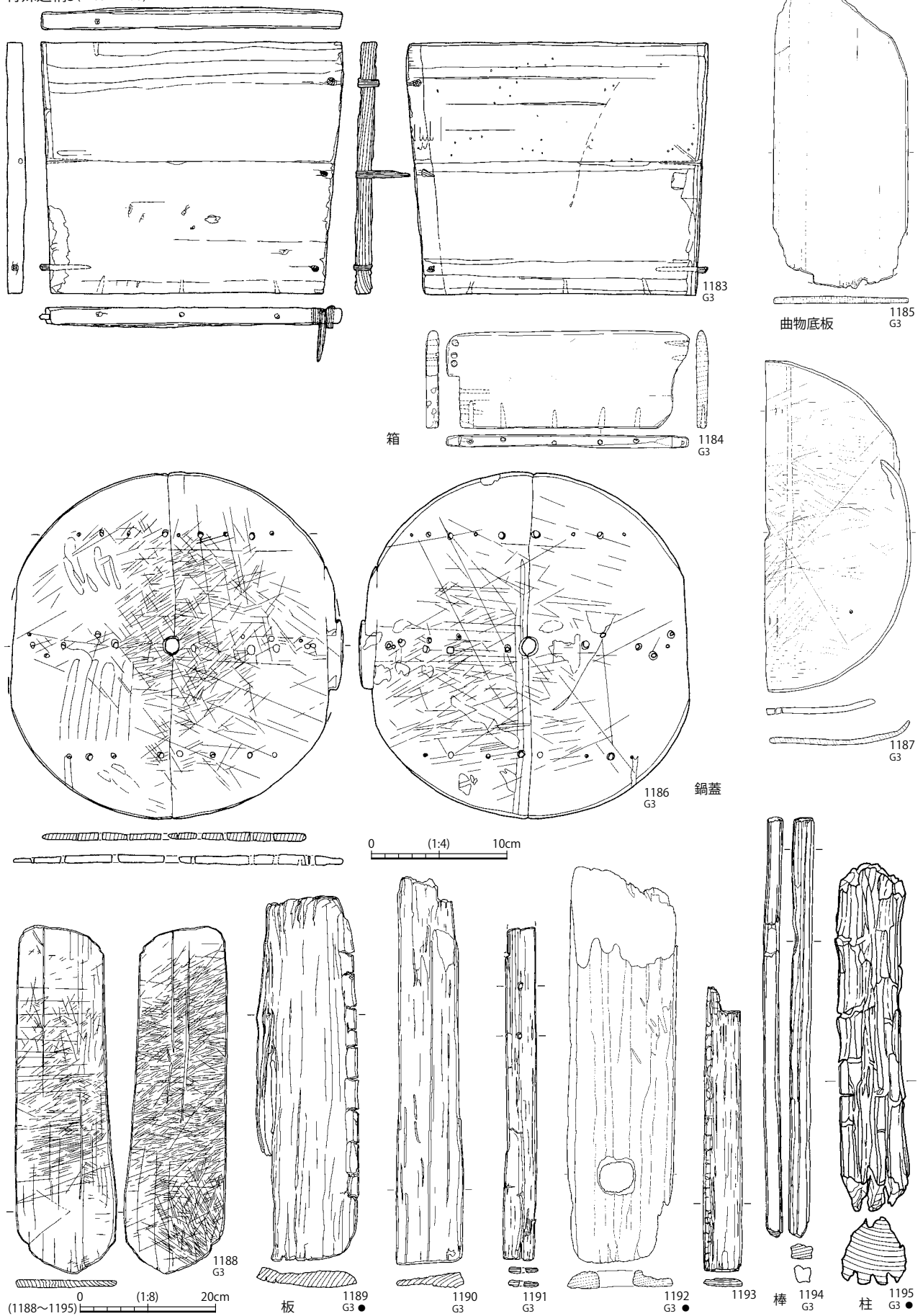
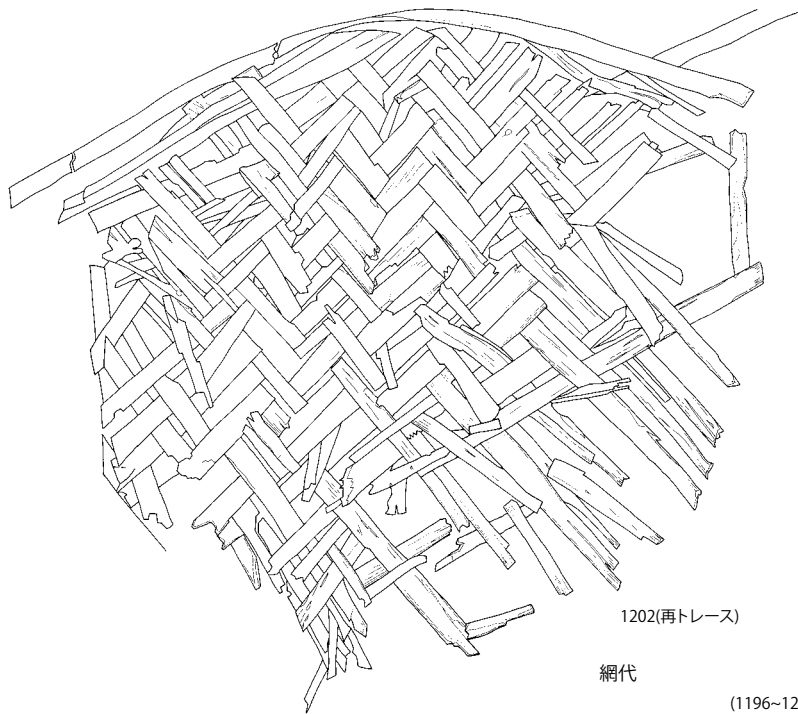
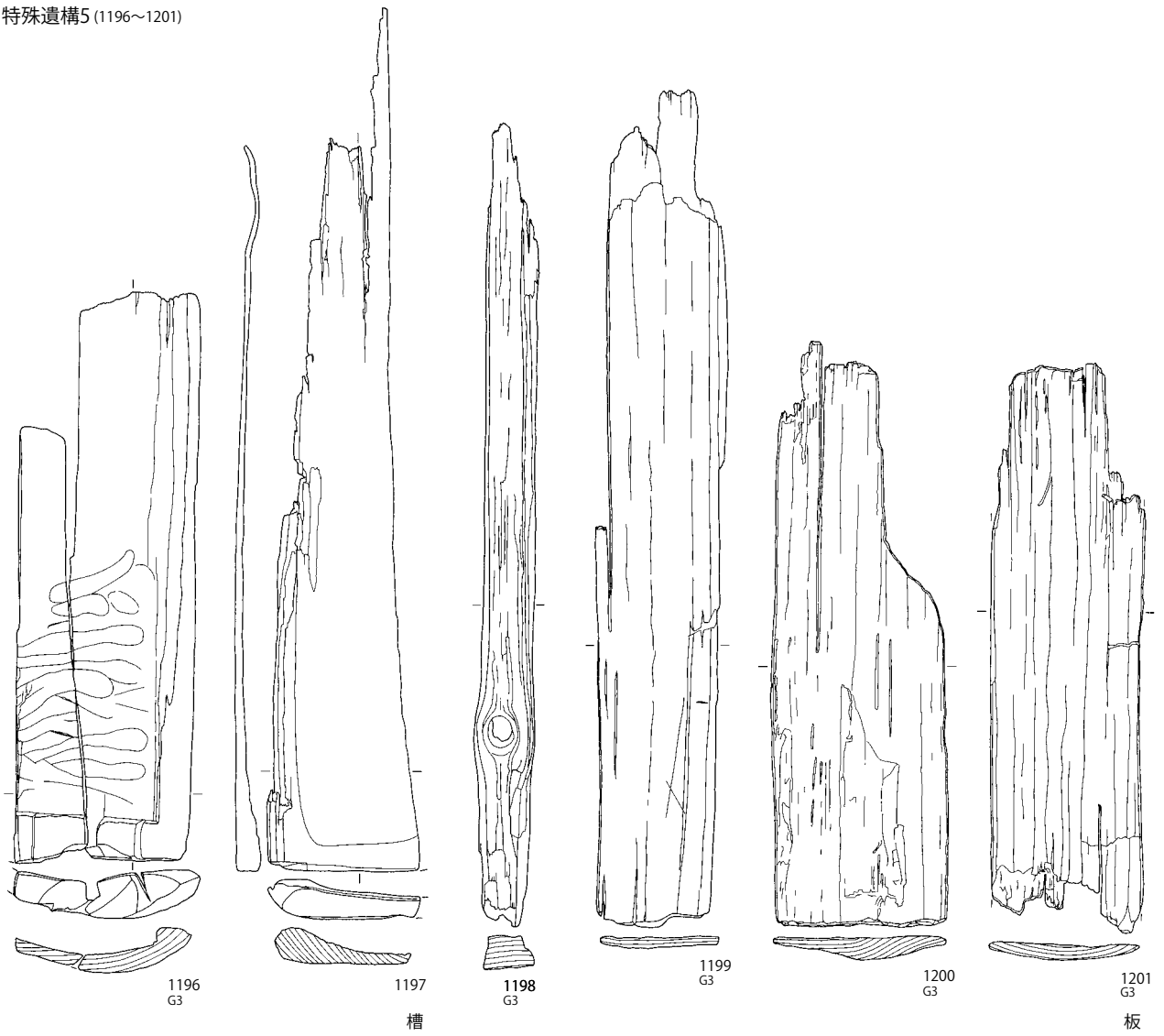


図43 木製品実測図 (特殊遺構5)



(1196~1202) 0 (1:8) 20cm

図44 木製品実測図 (特殊遺構5、建築部材)

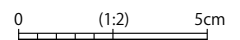
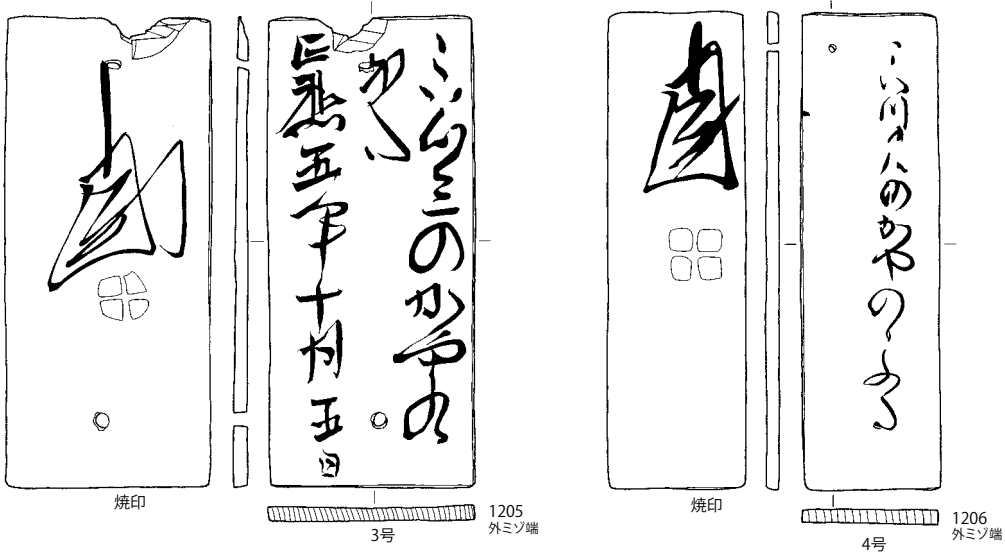
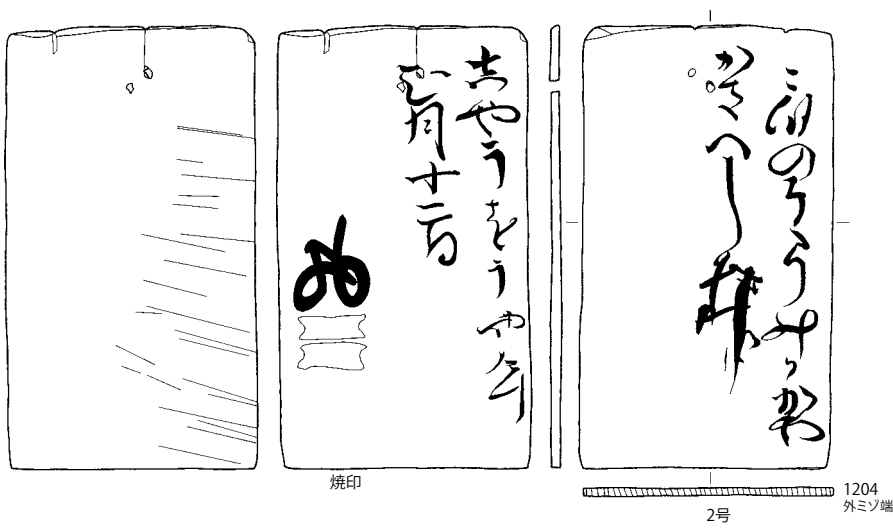
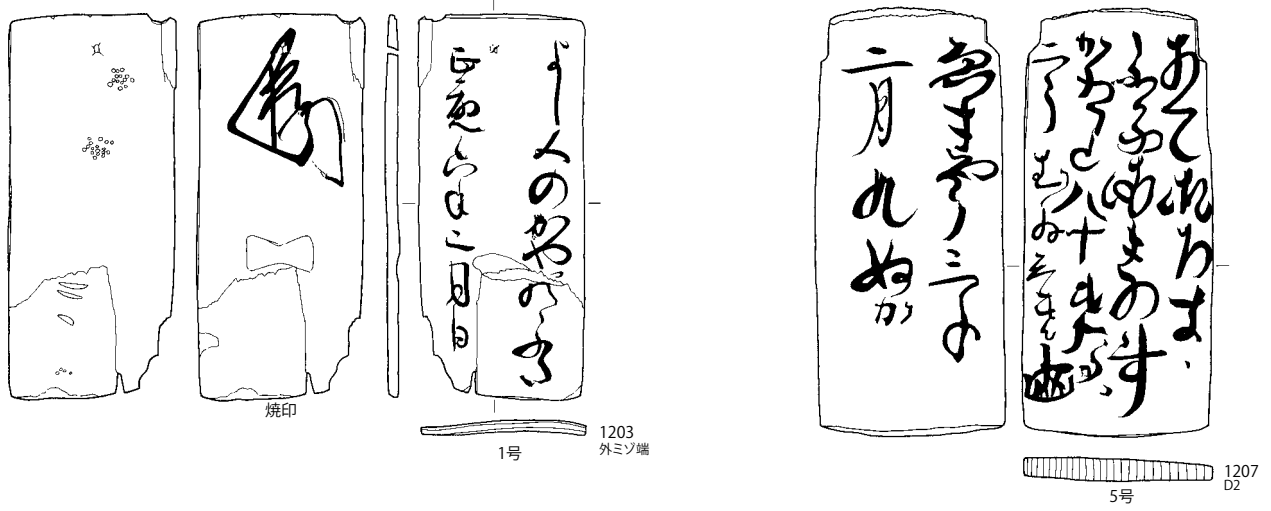


図45 木製品実測図 (木簡)



図46 木製品実測図 (木簡)

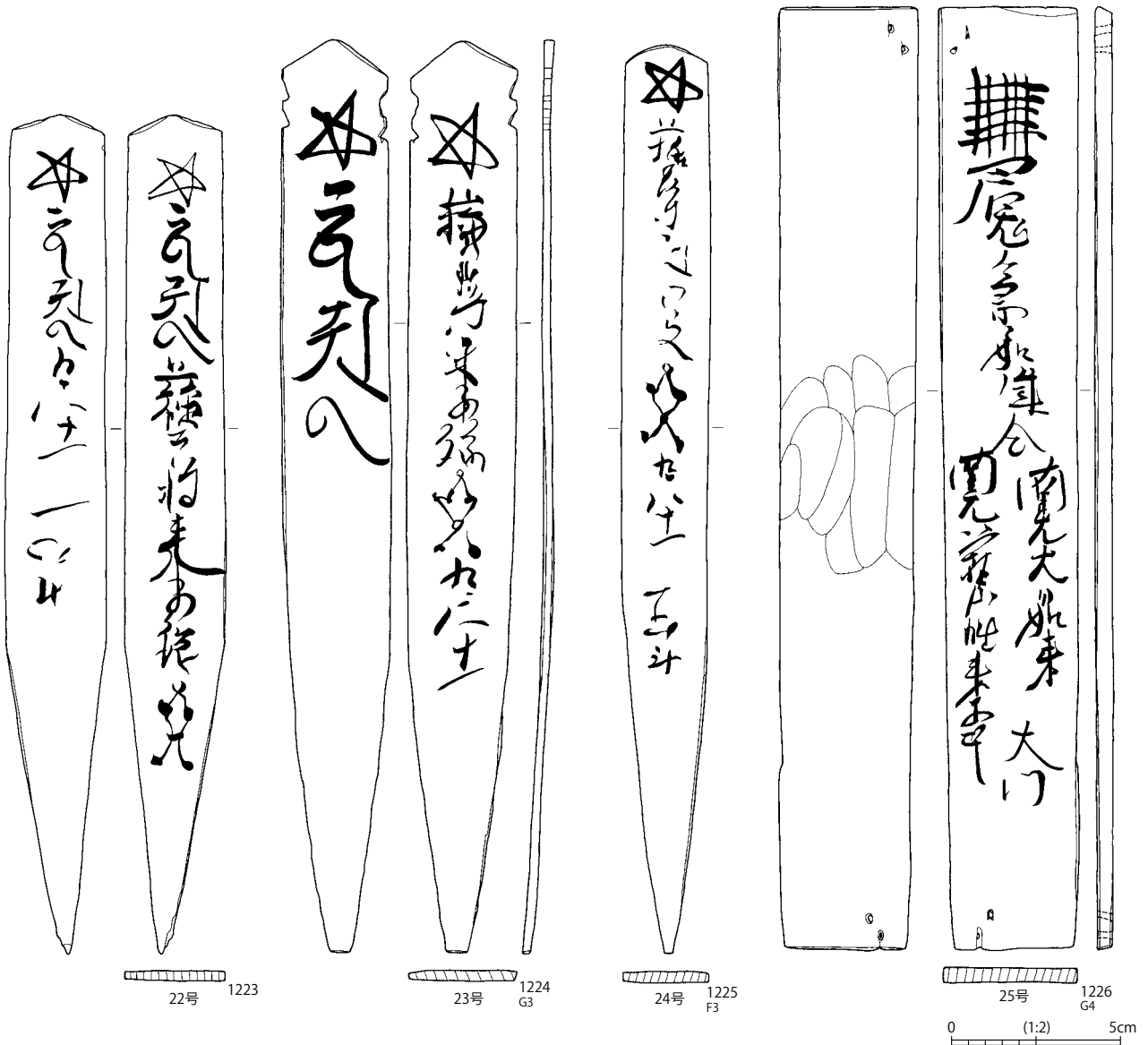
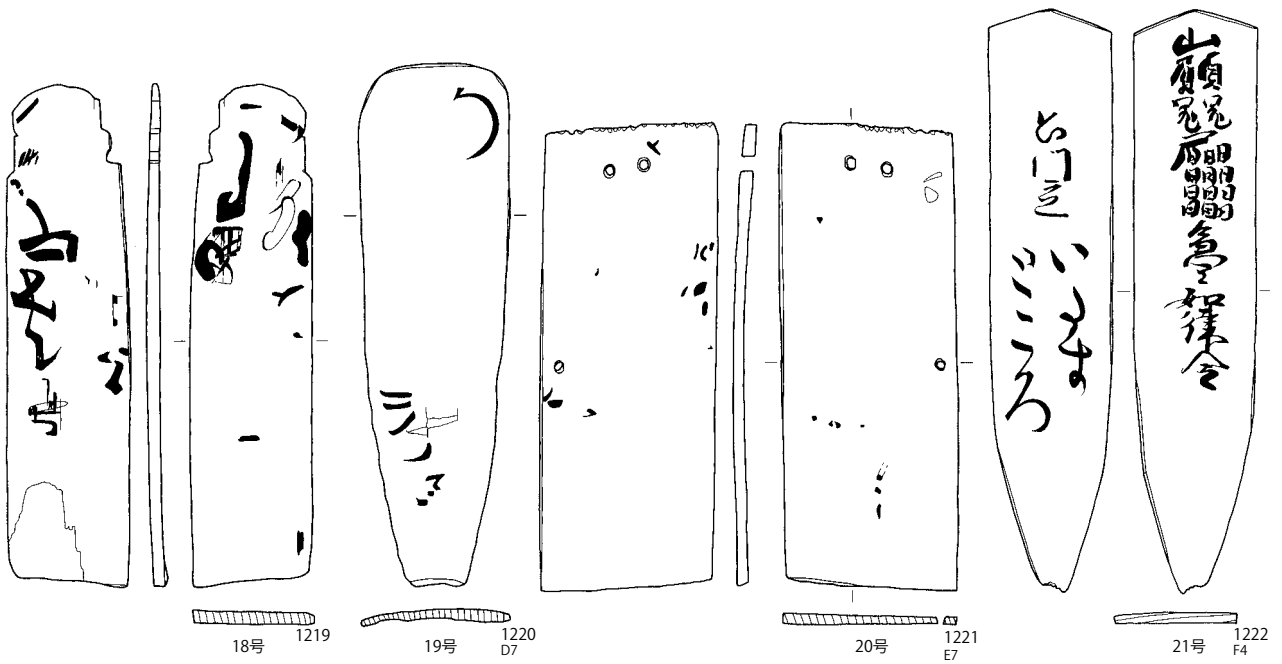


図47 木製品実測図 (木簡)

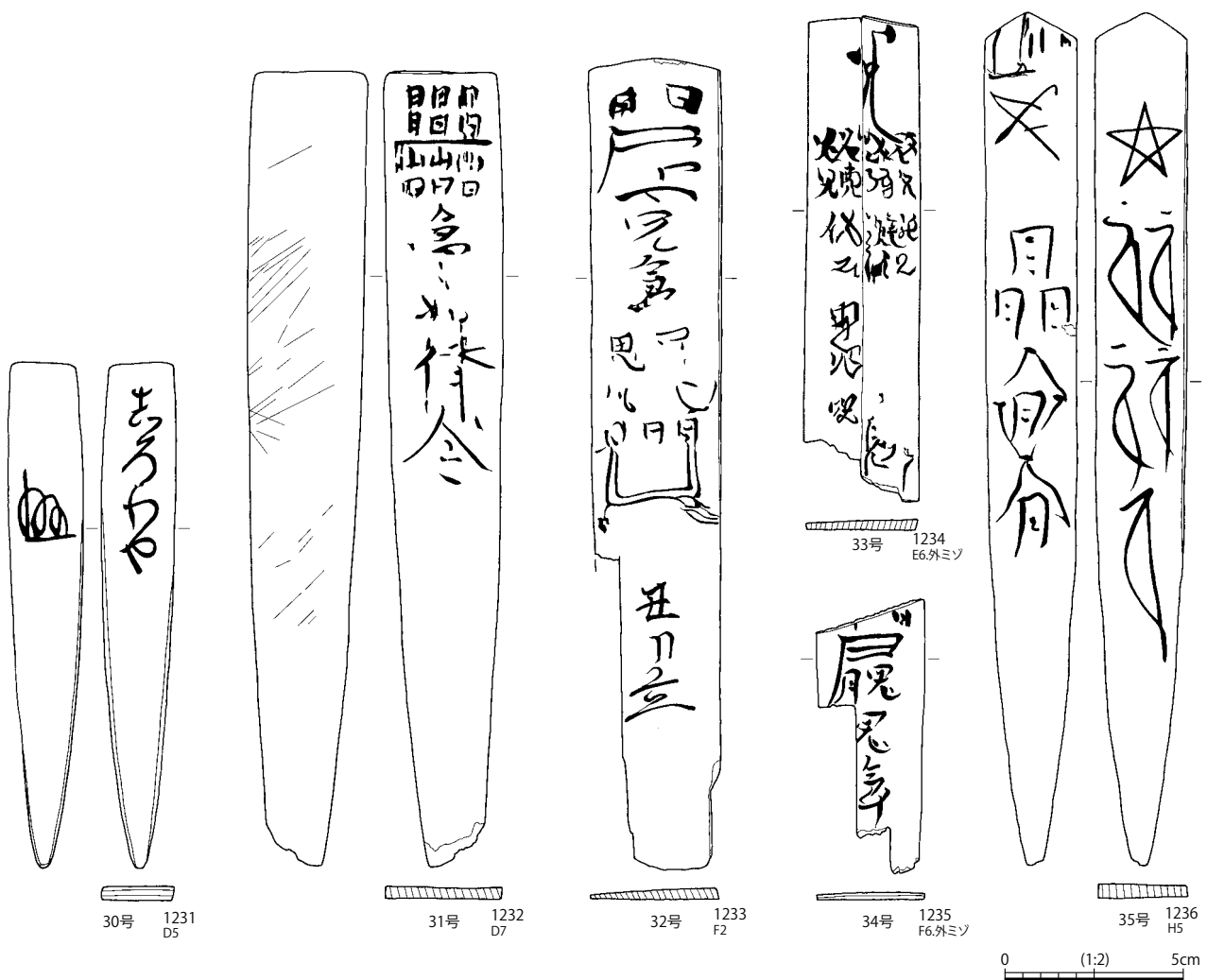
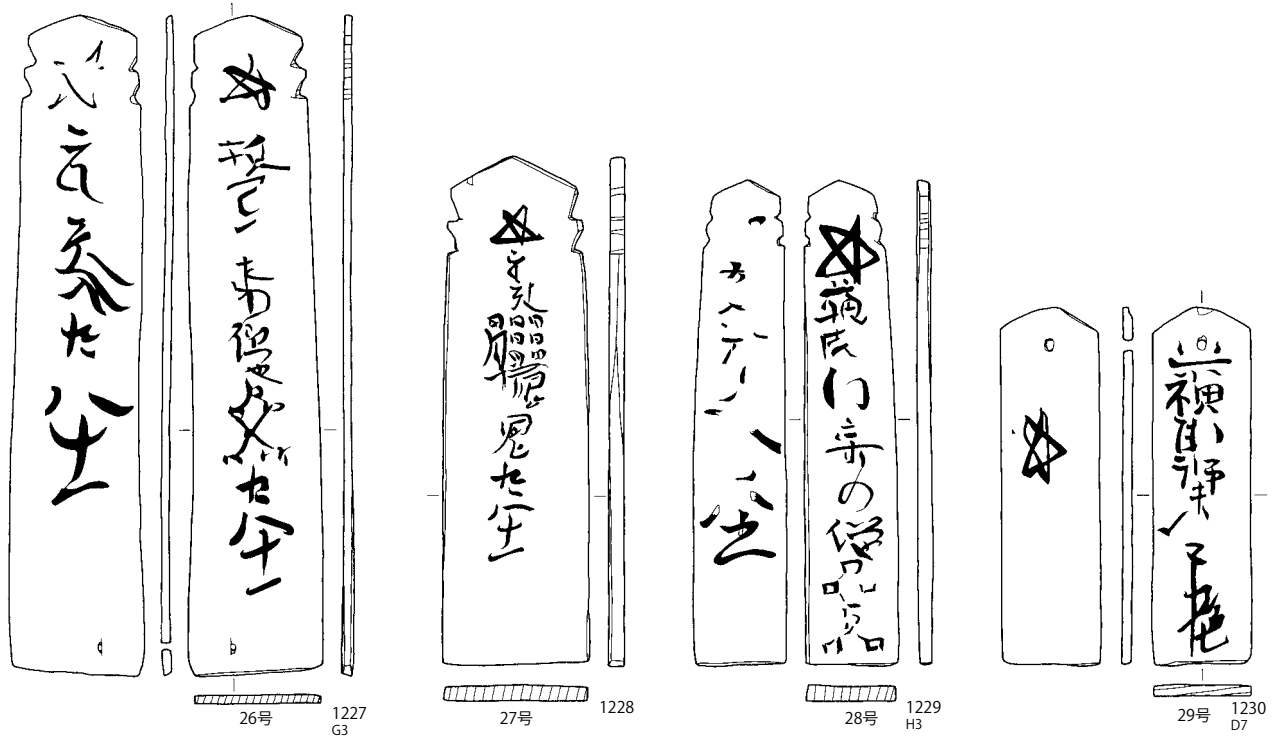


図48 木製品実測図 (木簡)

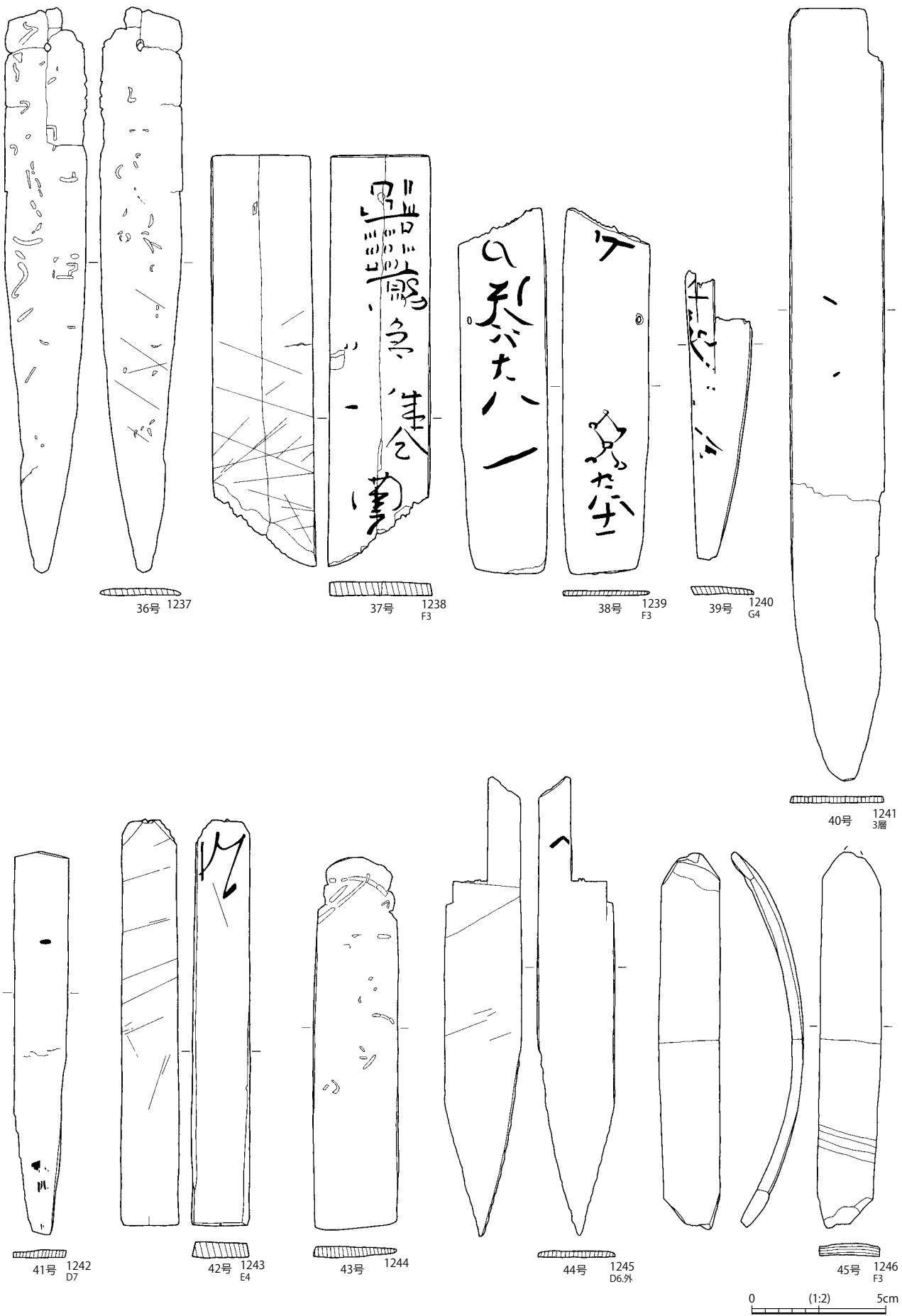


図49 木製品実測図 (木簡)



建物跡とSD1・SD2（南東から）



建物跡とSD1（東から）



建物跡の敷物



建物跡



特殊遺構 1



特殊遺構 2



特殊遺構 2 と縞状の堆積層



特殊遺構 2 東側の笹類出土状況



特殊遺構 3



特殊遺構 4



特殊遺構 5



遺物出土状況



遺物出土状況



遺物出土状況



遺物出土状況



網代 出土状況

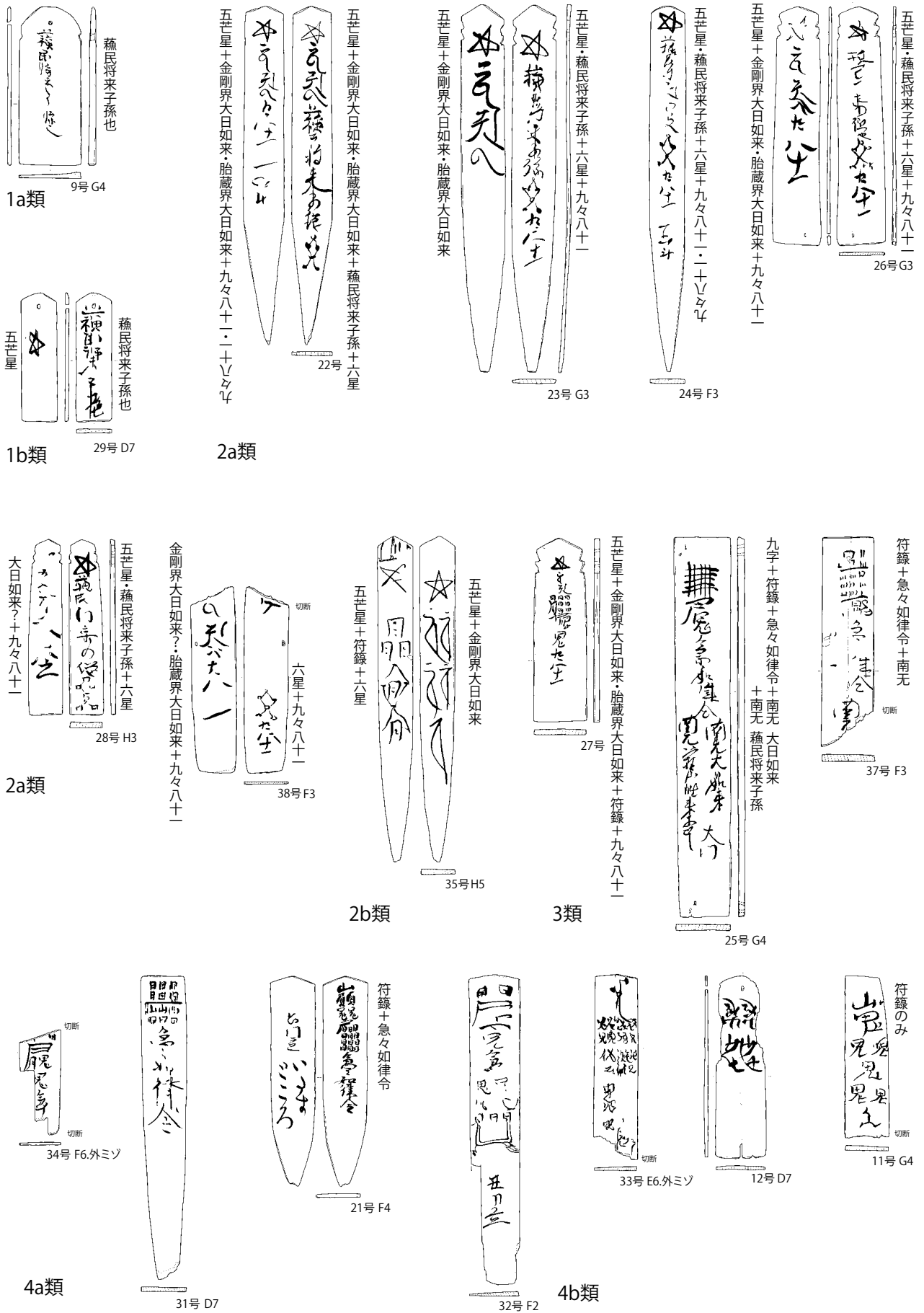


図50 馬場屋敷遺跡下層出土呪符木簡の分類 (S= 1 / 4)

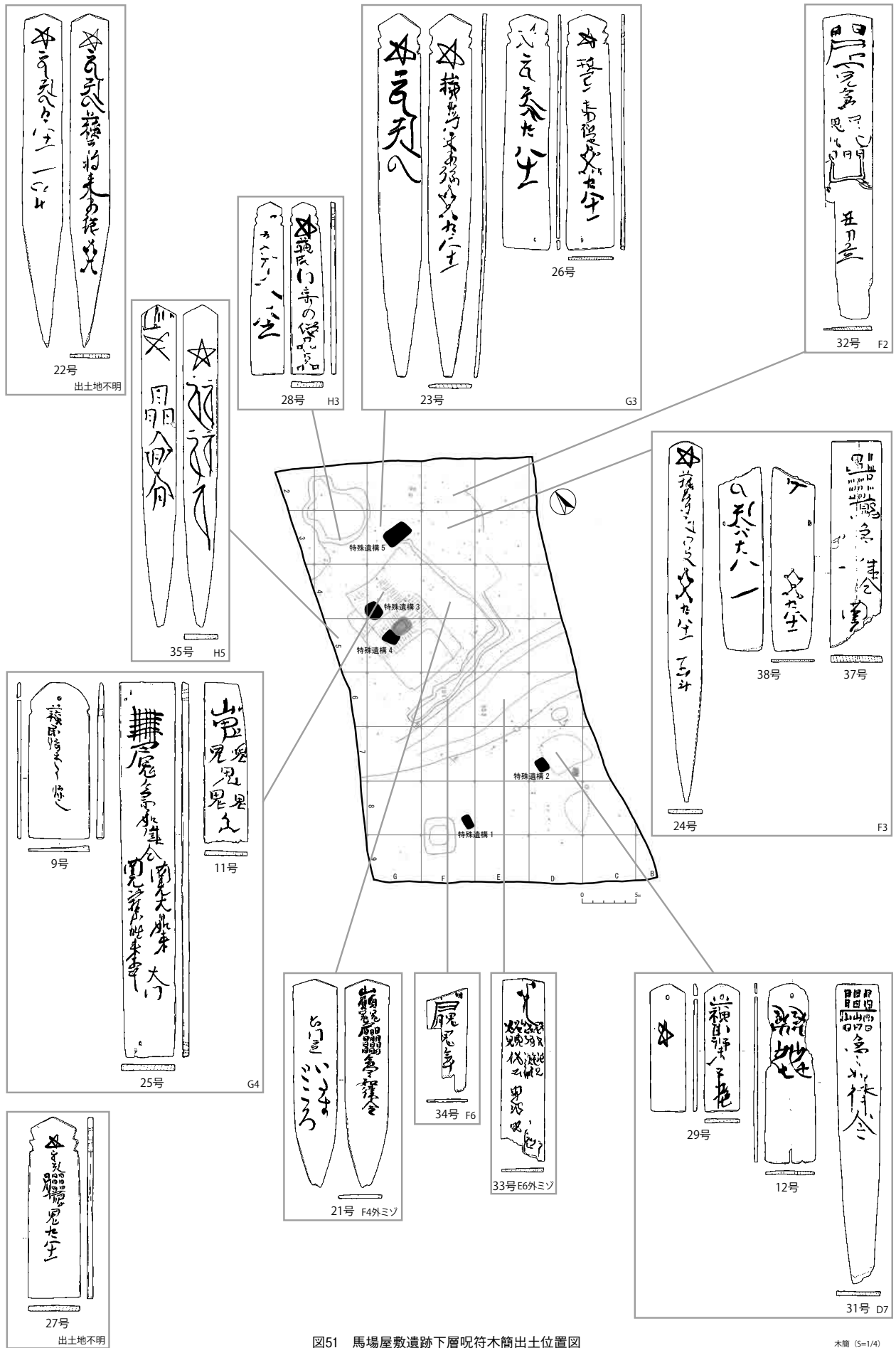


図51 馬場屋敷遺跡下層呪符木簡出土位置図

木簡 (S=1/4)

V

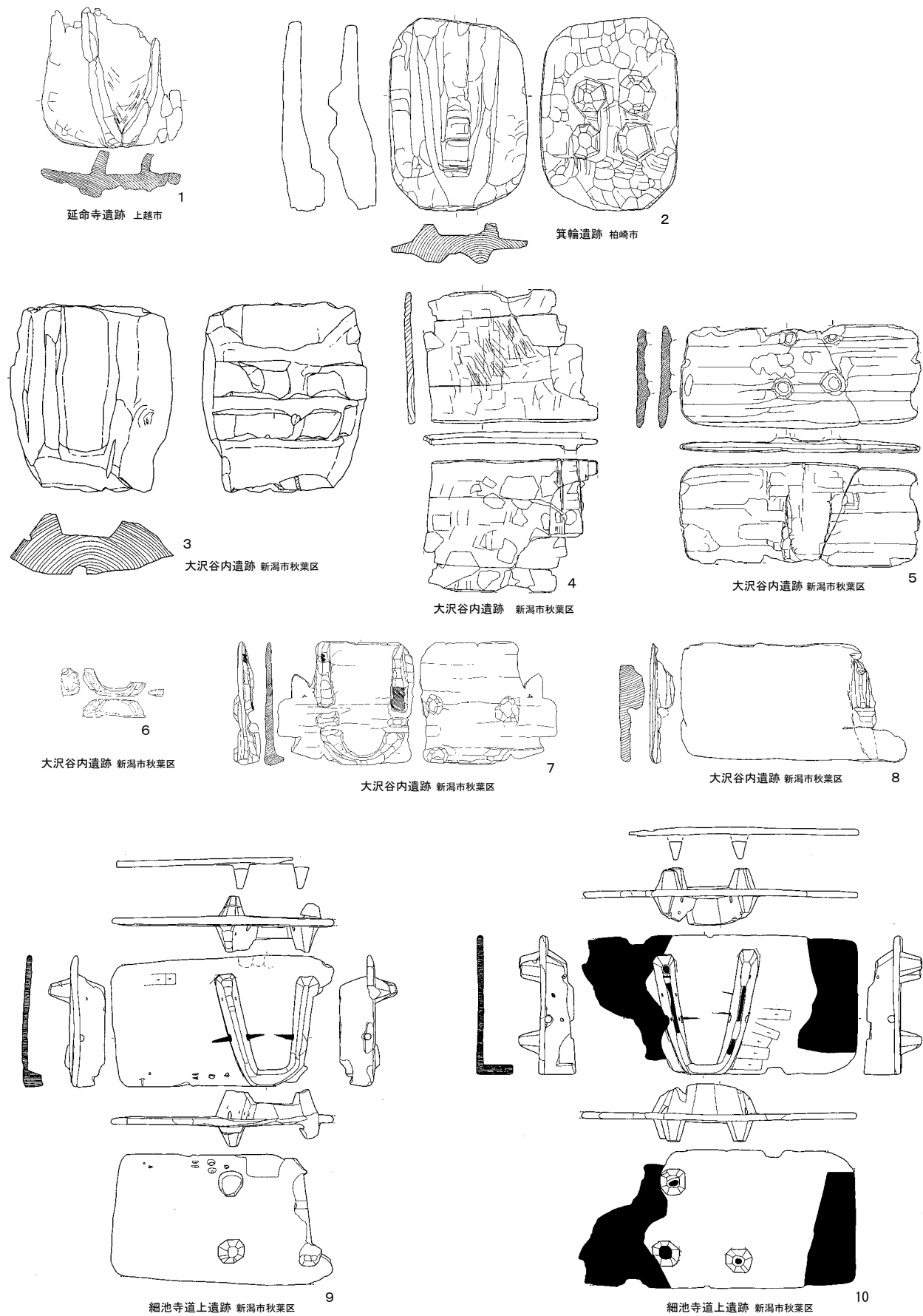


図52 新潟県内出土の「ナンバ」型田下駄1 (S=1/10)

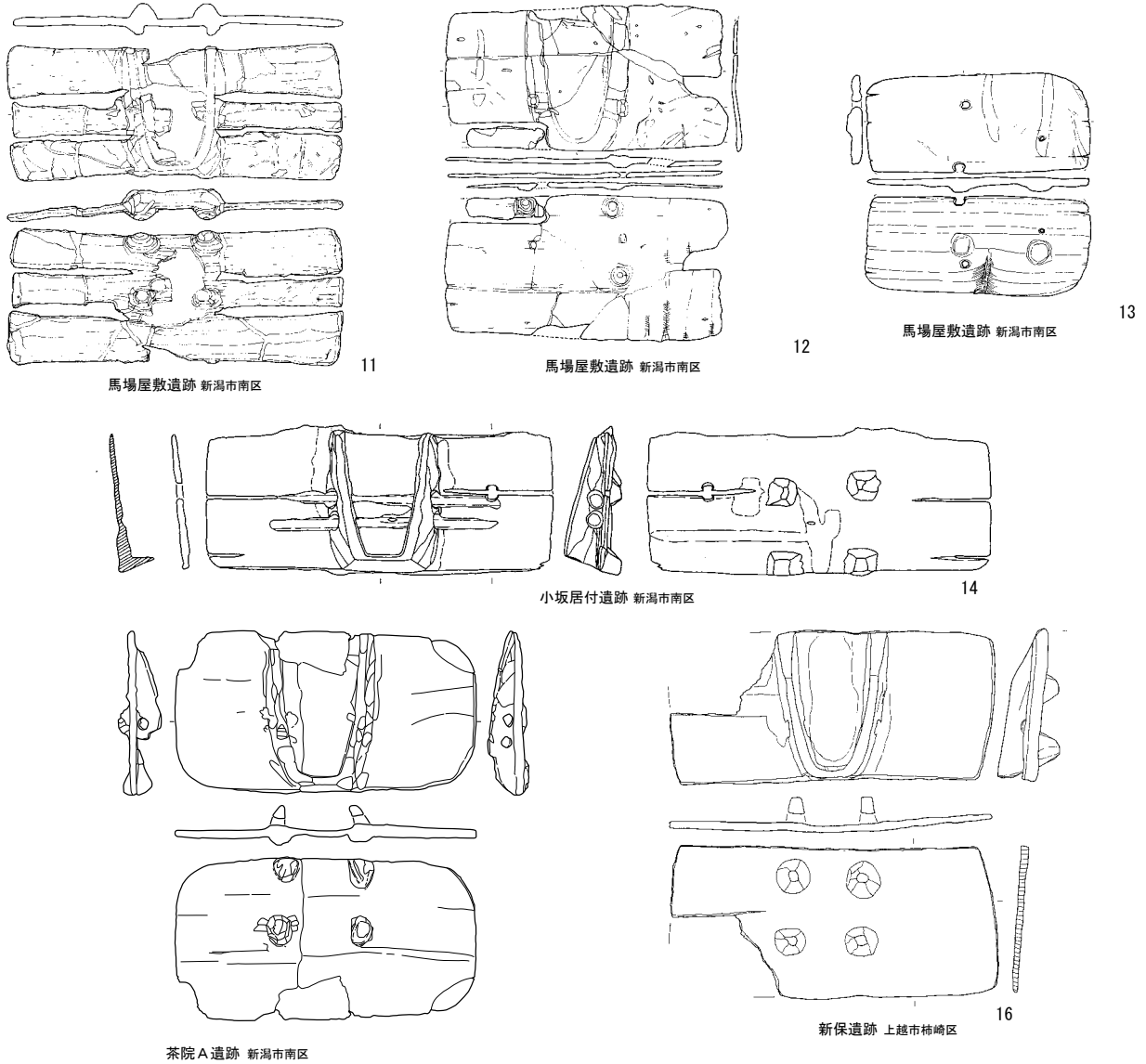


図53 新潟県内出土の「ナンバ」型田下駄2 (S=1/10)

表7 新潟県内出土のナンバ型田下駄

遺跡名	所在地	時代	年代	樹種	出土遺構	図版番号	遺物番号	形態	備考	文献
1 延命寺遺跡	上越市大字下田野字延命寺	奈良時代	8世紀前葉～中葉	ヤナギ属	SB008	図版81	707	短幅		新潟県埋蔵文化財調査報告書第201集 2008
2 箕輪遺跡	柏崎市枇杷島字箕輪	古代	8世紀後半～9世紀	トチノキ	流路14-下層	図版96	371	短幅	未成品	新潟県埋蔵文化財調査報告書第254集 2015
3 大沢谷内遺跡	新潟市秋葉区横川浜	古代?			SE3571	図版170	628	短幅	未成品	新潟市教育委員会2012
4 大沢谷内遺跡	新潟市秋葉区天ヶ沢字丸山	平安時代前期	8世紀末～9世紀前半	ケヤキ	SE183	図版339	64	長幅	突起なし?	新潟市教育委員会2012
5 大沢谷内遺跡	新潟市秋葉区天ヶ沢字丸山	平安時代前期	8世紀末～9世紀前半	ケヤキ	SE183	図版340	65	長幅		新潟市教育委員会2012
6 大沢谷内遺跡	新潟市秋葉区横川浜	中世			SE1871	図版149	276	足枠のみ		新潟市教育委員会2012
7 大沢谷内遺跡	新潟市秋葉区横川浜	中世	13世紀前後		SE32	図版166	578	長幅		新潟市教育委員会2012
8 大沢谷内遺跡	新潟市秋葉区横川浜	中世			SE2226	図版168	604	長幅	突起なし?	新潟市教育委員会2012
9 細池遺跡	新潟市秋葉区金屋字堤野	中世	11世紀中葉～13世紀中葉	ケヤキ	SE1139	図版188	14	長幅		新潟市教育委員会2021
10 細池遺跡	新潟市秋葉区金屋字堤野	中世	11世紀中葉～13世紀中葉	ケヤキ	SE1139	図版188	15	長幅		新潟市教育委員会2021
11 馬場屋敷遺跡	新潟市南区庄瀬字庄用	鎌倉時代末	13世紀末～14世紀			図2	35	長幅		新潟市文化財センター2021 本書
12 馬場屋敷遺跡	新潟市南区庄瀬字庄用	鎌倉時代末	13世紀末～14世紀			図3	38	長幅		新潟市文化財センター2021 本書
13 馬場屋敷遺跡	新潟市南区庄瀬字庄用	鎌倉時代末	13世紀末～14世紀			図3	39	長幅		新潟市文化財センター2021 本書
14 小坂居付遺跡	新潟市南区小坂字居付	中世	14世紀～15世紀	クリ	SR1 1層	図版69	50	長幅		新潟県埋蔵文化財調査報告書第238集 2012
15 茶院遺跡	新潟市西蒲区打越	中世				図8	35	長幅		新潟市文化財センター2021 本書
16 新保遺跡	上越市柿崎区上直海字新保	中世	14世紀～16世紀	クリ	SE729	図版110	65	長幅		新潟県埋蔵文化財調査報告書第103集 2001

馬場屋敷遺跡出土木簡綴文

1号

- ・「○よしのかやのふた
正徳六年二月」
- ・「○(花押)(焼印)」 100×45×4 011

2号

- ・「川の上のかや
かるし(花押)」
- ・「志やうきう四年
正月廿一日
(花押)(焼印)」 116×66×3 011

3号

- ・「りいしのかやの
ふた
正徳五年十月五日」
- ・「○(花押)(焼印)」 124×54×4 011

4号

- ・「りいしのかやのふた」
- ・「(花押)(焼印)」 125×(36)×4 081

5号

- ・「くあにおくす
ふ子満きの事
かわし出八十口事
一郎お三口(花押)
(字)
- ・「くまきやう三年
一月九ぬか」 113×50×4 032

6号

- ・「□□郎かや□事くたい
(字)
くし御□く□□□□
ほ□□□わんの事□
(字)(字)
- ・「し□□応四年
(印)
八月十八□」 128×44×3 011

7号

- ・「りいしのかや
ふた」
- ・「(花押)(焼印)」 129×(30)×4 081

8号

- ・「○[]
[]
(字)
□□□□年□□□」
- ・「○(花押)(焼印)」 87×44×4 022

9号

- ・「△○藤氏将来子孫也」 116×45×5 032

10号

- ・「平太郎かや□事□□
(字)
□□御すましくすく□
(字)
しくい御すく□ひ候」 132×41×2 011

11号

- ・「(符録) □ (119) × 32 × 4 019

12号

- ・「(符録) []」 133×37×2 011

13号 + 16号

- ・「□ふ□せか[]
か□ま[]
- ・「□
七月[]」 (116) × (25) × 2 081

14号

- ・「[]」 130 × (9) × 2 081

15号

- ・「[]」 (64) × (9) × 2 081

17号

- ・「○[]」 129×32×2 011

18号

- ・「[]」
- ・「[]」
- ・「[]」 131×32×3 061

19号

- ・「□ □□」 138×39×2 051

20号

- ・「○[]」 123×46×2 011

21号

- ・「(符録) 急々如律令
(字)
いたす
□門立 とろ (155) × 33 × 3 051

22号

- ・「☆(稗字)(稗字) 藤氏将来子孫 (六星図)」
- ・「☆(稗字)(稗字) 九々八十一 一十々々」 250×30×3 051

23号

- ・「☆藤氏将来子孫 (六星) 九々八十一」
- ・「☆(稗字)(稗字) 」 270×32×3 061

24号

- ・「☆藤氏将来子孫 (六星) 九々八十一 一十々々」 270×26×4 051

25号	「(九字) (符籙) 急急如律令 南无大日如来『大門』 南无觀世音菩薩 [孫]」 277×40×5 011
26号	・「(六星) 觀世音菩薩(六星) 九々八十一」 ・「☆ (稊字) (稊字) 九々八十一」 175×35×2 061
27号	「☆ (稊字) (稊字) (符籙) 九々八十一」 134×39×4 061
28号	・「(六星) 觀世音菩薩(六星)」 ・「[] (稊字) 九々八十一」 128×25×4 061
29号	・「○ 觀世音菩薩也」 ・「○ ☆」 95×26×3 022
30号	・「忘ろわせ」 ・「(左押)」 143×21×3 051
31号	「(符籙) 急急如律令」 (224) ×32×3 051
32号	「(符籙) 急(符籙) 丑丁立」 227×36×3 011
33号	「□ (符籙) []」 (135) ×31×3 019
34号	(符籙) 急 (77) ×30×2 081
35号	・「(稊字) (稊字) ☆ (稊字) (稊字) (稊字)」 ・「☆ (符籙) (六星)」 240×26×4 051
36号	・「[]」 ・「[]」 212×30×2 051
37号	「(符籙) 急急如律令 [] 南无」 (152) ×36×5 019
38号	・「□ (六星) 九々八十一」 (九々カニ一カ) ・「(稊字) (稊字) □□八□□」 (136) ×32×2 019
39号	□□也 □ (109) × (23) ×2 059

40号	「(符籙)」 288×34×2 051
41号	「[]」 143×20×2 051
42号	「□□」 150×21×5 011
43号	「[]」 138×31×3 061
44号	「[]」 171×28×2 051
45号	[] (146) ×21×3 011

【注】

馬場屋敷遺跡出土木簡釈文は、原則として相澤忠氏「相澤一〇一六「中世の香札と觀世音菩薩札 新潟市馬場屋敷遺跡出土木簡の再検討」『木簡研究』第三八号」に拠る。引用に際し、過誤があれば、渡邊の責任である。

相澤氏による釈文が報告された後に、いくつかの新知見があつた。

まず、再整理作業で13号木簡と16号木簡が接合したために、相澤氏の釈文も変更した。接合した状態での解説作業を行っていないので、今後釈文が変わる可能性がある。

また、6号木簡及び10号木簡は長谷川伸氏(新潟市歴史文化課)に依頼し、前嶋敏氏(新潟県立歴史博物館)・杉山巖氏(東京大学史料編纂所学術支援専門職員)と共同で解説した結果、6号木簡は新たに「かや」を記載した正応四年銘のある木簡であることが判明した。また、10号木簡については釈文に修正を加えた。

それから、38号は呪符木簡の分析結果から、裏裏が逆であると考え、釈文もそのように改めた。

2 資料報告 茶院A遺跡工事立会遺物

(1) 茶院A遺跡の概要

遺跡は、新潟市西蒲区打越（旧中之口村）に所在する。中ノ口川左岸の自然堤防上に立地する。現標高は2.1mを測り、現況は水田・畑である（図1）。遺跡の発見は昭和25（1950）年頃の真島衛氏らの分布調査による。その後、昭和48（1973）年北陸自動車道の建設に伴い新潟県教育委員会による本発掘調査が実施された（調査番号1973001）。これまでの調査の結果、遺跡の時代は古墳・古代・中世・近世の集落跡として登録されている。

遺跡が立地する同じ自然堤防上には北東に仲歩切遺跡・下新田遺跡など古代の遺跡が広く分布し、遺跡の東側の現在の集落内には中世の打越館跡がある。

(2) 工事立会の経緯と概要

所在地 西蒲区打越地内

調査の原因 圃場整備事業の用排水路工事（公共事業）

調査期間 令和元年6月3日～令和2年3月17日

調査面積 1,153㎡

調査担当 諫山えりか

平成27（2015）年から打越地区圃場整備事業に伴い確認調査が行われ、平成30（2018）年度の3次調査（調査番号2018170）において、遺跡の範囲が南北に大きく拡大した。令和元（2019）年、圃場整備事業（第7次工事）の用排水管工事に伴い、掘削の幅が1m以下のため工事立会（調査番号2019127）で対応した（図2・3）。

工事立会は7路線で行われた。路線に応じて1～7区と名称をつけ、西端の工事起点から工事進捗に応じた任意のグリッド（坑）を設定した（図4）。このためグリッドの長さは一定ではない。また3～5区については確認調査の結果から遺構の検出が予想されたため、事前に協議を行い工事に先行して掘削し記録をとった。この工事立会で出土した資料を紹介する。

(3) 層位と遺物

層位は確認調査に準じ、Ⅶ層の黒色腐植が土壌化した層が古代の包含層、ⅩⅢ層の灰色粘土質シルト層が古代の遺構確認面である。いずれも起点から60m付近を境に東へと傾斜する傾向にある（図5）。なお古代の遺物がグリッドあたり100点以上出土した地点は、3～5区の起点より30mから90mの範囲に集中しており、遺構もこの範囲で多く検出されたことから、古代の生活区域であったと考えられる。中世の遺物は散発的な出土であり、明確な出土の傾向は捉えられなかったが、現在の集落に近い6区のSE44やSE52では中世の遺物を伴った素掘りの井戸などの遺構が確認されている（図6）。

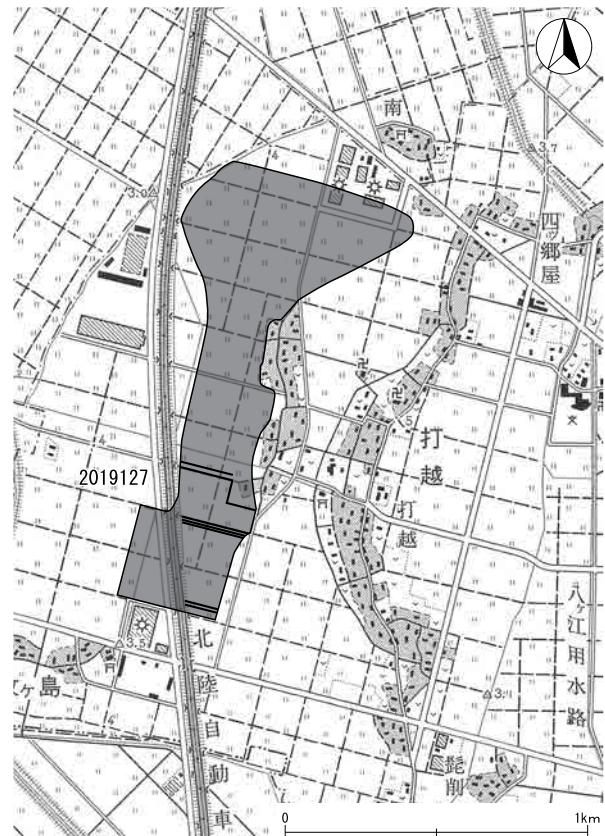


図1 茶院A遺跡範囲（1/25,000）



図2 工事立会位置図（1/5,000）

なお遺物の総出土量は破片数で須恵器777点、土師器（古代）4,494点（うち非ロクロ成形が40%）、黒色土器26点、中世土師器3点、珠洲焼4点、青磁1点、石製品6

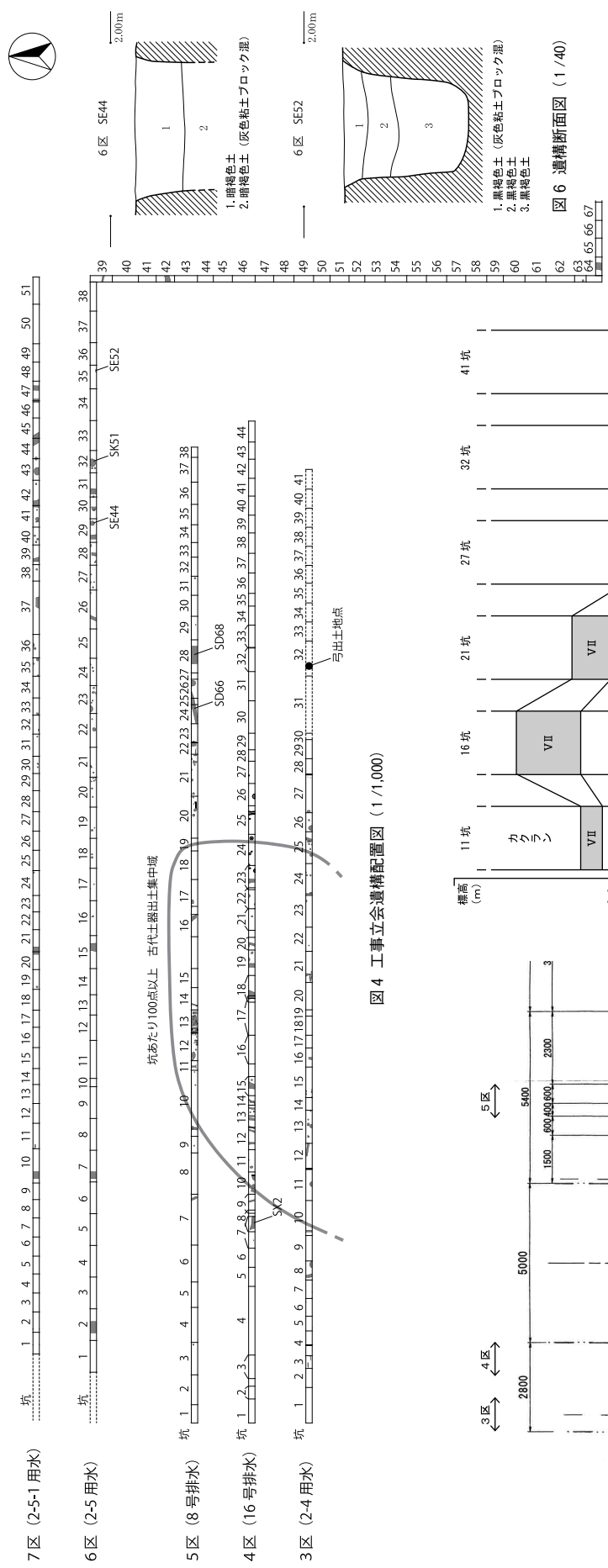


図4 工事立会遺構配置図 (1/1,000)

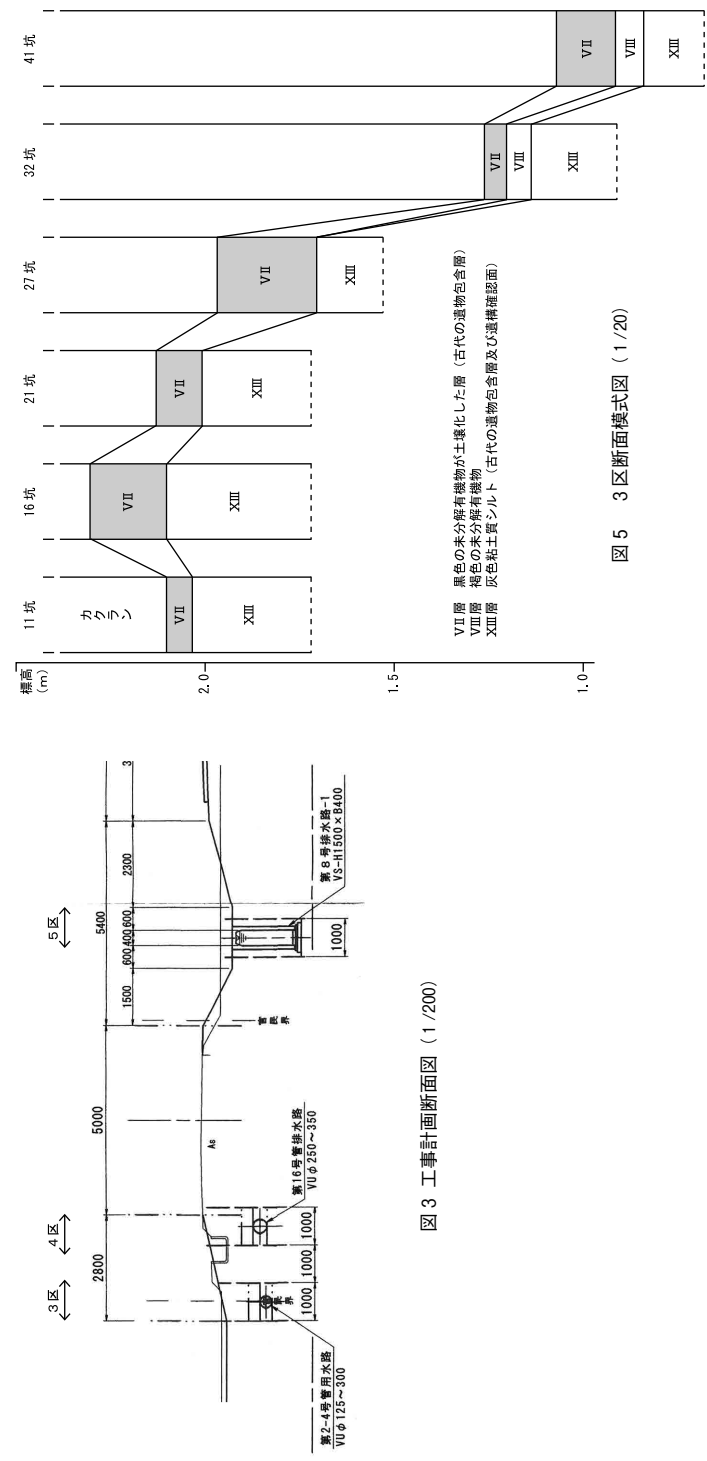


図3 工事計画断面図 (1/200)

図5 3区断面模式図 (1/20)

点、木製品217点、種子・炭化物28点が出土した。このうち35点を図化した(図7・8)。

土器 1～6は須恵器無台杯である。いずれも器壁が薄く佐渡小泊産と考えられる。4は底部が回転ヘラ切りされた後ヘラケズリ調整が行われている。5は底面に「宅□」の墨書がみられる。6も文字は判別できないものの底面に墨書がある。7は杯蓋である。胎土は石英を多く含みざらつきがある。表面は工具によるケズリが施され、飛びカンナ様の回転をかけながら硬い工具で跳ねながら削った痕跡が明瞭に残る。8～10は須恵器有台杯である。9は体部の中ほどに並行する2本の沈線が巡り内面底部には自然釉がかかる。10は小ぶりの器形で台部が剥離している。胎土が非常に緻密である。11は須恵器仏鉢形である。口縁部に沈線が1条巡る。12は須恵器短頸壺である。肩部に自然釉がかかり、重ね焼きの痕跡が残る。13は壺の高台部分である。14は須恵器大甕の頸部である。外面に波状文と太めの沈線が一条巡る。15～17は非ロクロの土師器長甕である。外面を縦位、内面を横位にハケメで調整する。16はハケメのあとにミガキ調整が行われている。18は甌の底部である。細い棒状の工具で開けた穴が8箇所確認できる。19・20はロクロ成形の長甕である。21は土師器椀である。底面に回転糸切痕が残る。22は手づくね土器である。内外面に指頭圧痕が残る。胎土に多くの海綿骨針が含まれる。同様のものが下新田遺跡でも出土している〔龍田ほか2015〕。23～25は中世土師器の皿である。23は柱状高台で高台の高さは1.3cmを測り、凹み線が2本見られる。24・25は手づくねの皿である。いずれも口縁内面にススが付着する。

土製品 板状土製品(26～30)と土製支脚(31)が出土している。板状土製品はカマドの構成部材で断面が四角形(26・27)のものと同様に片側がやや細くなったもの(29・30)に分かれる。28は片面が欠損しているため、断面形は不明である。いずれも全面がハケメ調整され、胎土に海綿骨針が含まれている。また、先端部分が遺存していないため、端部の受けの有無については不明である。土製支脚(31)は高さ12.6cmを測り、全面に指頭圧痕がよく残る。

木製品 丸木弓(32)と漆器皿(33・34)、田下駄(35)が確認された。丸木弓はイヌガヤ製で132cmを測り、完形である。弭には補強のために糸を巻いており、糸は残存しないものの漆塗りされていることにより糸の形状が観察できる。塗膜の断面観察によると漆は最大3層の膜があり、鉋物が若干混和されているものの褐色のクロメ漆と考えられる。糸の繊維については判別できなかった。弓の形状および長さから古代の弓と推察される。古代の

丸木弓は、市内では大沢谷内遺跡12次調査において祭祀具の弓形が出土している。削りだされた弭部分が残存するものの全長42.8cmで破損している〔細野・伊比ほか2012〕。また大沢谷内遺跡から南に近接する田上町行屋崎遺跡においても丸木弓が7点出土している。長いもので118.6cmであり茶院A遺跡のものよりやや小ぶりである。この他に弓と断定できない弓状木製品が11点出土している〔田畑ほか2015〕。両遺跡の弓はともに7世紀代に属する。漆器椀(33)は内外面に黒漆が塗られている。底部からの立ち上がりにはロクロ痕が残る。漆器皿(34)は、ロクロ成形されているが外面に荒型の痕跡が見られる。また内外面に黒漆が塗られ、底部外面に「十」の刻書がある。田下駄(35)は、ナンバ型田下駄と呼ばれるU字状の受けに踵をはめ紐で固定するタイプのものである。紐を通すための穴が左右それぞれ2か所ずつ開いていたと考えられるが、左側は欠損しているため穴は1つのみ残存する。穴の上部にはそれぞれ紐を通していた際についてと考えられる溝状の使用痕が見られ、この田下駄が長期間使用されていたことが想定される。裏面にはスパイクとなる突起が4か所削りだされている。表面の観察から広葉樹製と考えられるが、未同定のため樹種は不明である。市内出土の田下駄の多くは中世に属すると考えられ、茶院A遺跡出土の田下駄についても幅42cmの法量や漆器皿が相伴していることから中世と考える。

(4) まとめ

茶院A遺跡では、工事立会の取り扱いであったが貴重な遺物の出土に恵まれた。カマドの部材と甌がセットで出土したことは特筆すべき点の一つと考える。カマド部材と底部多孔の甌については、春日編年〔春日1999〕でいうところのⅡ期において頸城地域から城柵造営と関連し信濃川左岸へ波及している傾向があり〔春日2003〕、北に近接する仲歩切遺跡においても板状土製品、甌の把手が出土しており〔龍田2016〕、この地域が7世紀から居住されたことを裏付ける。

最後に墨書土器「宅」について記す。記された土器は小泊窯の須恵器であり9世紀のものと言えよう。「三宅」「庄」「荘」などは荘園に関連すると考えられている。一方で建物・施設に関する文字の可能性もある。茶院A遺跡から北東へ4kmの下新田遺跡では郷名と考えられる「日置」の墨書土器が出土し、茶院A遺跡から北へ3kmの林付遺跡においても「川合」「井庄」の墨書土器が出土していることから、信濃川左岸の西蒲原地域には幾種類もの荘園があったことが推察される〔相田ほか2012〕。

(今井さやか)

第3次調査に伴う工事立会 (1~25)

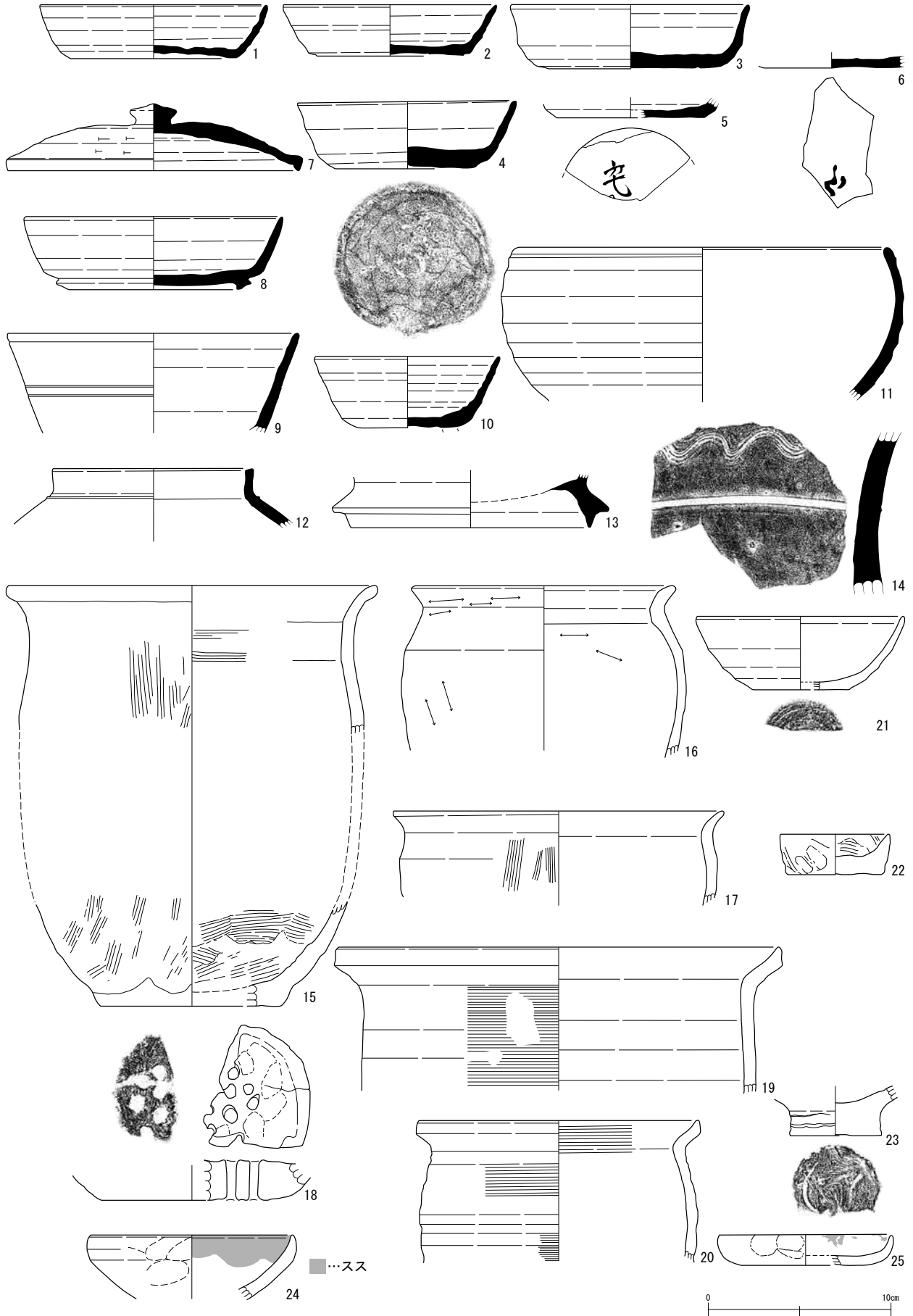


図7 遺物実測図 (1/3)

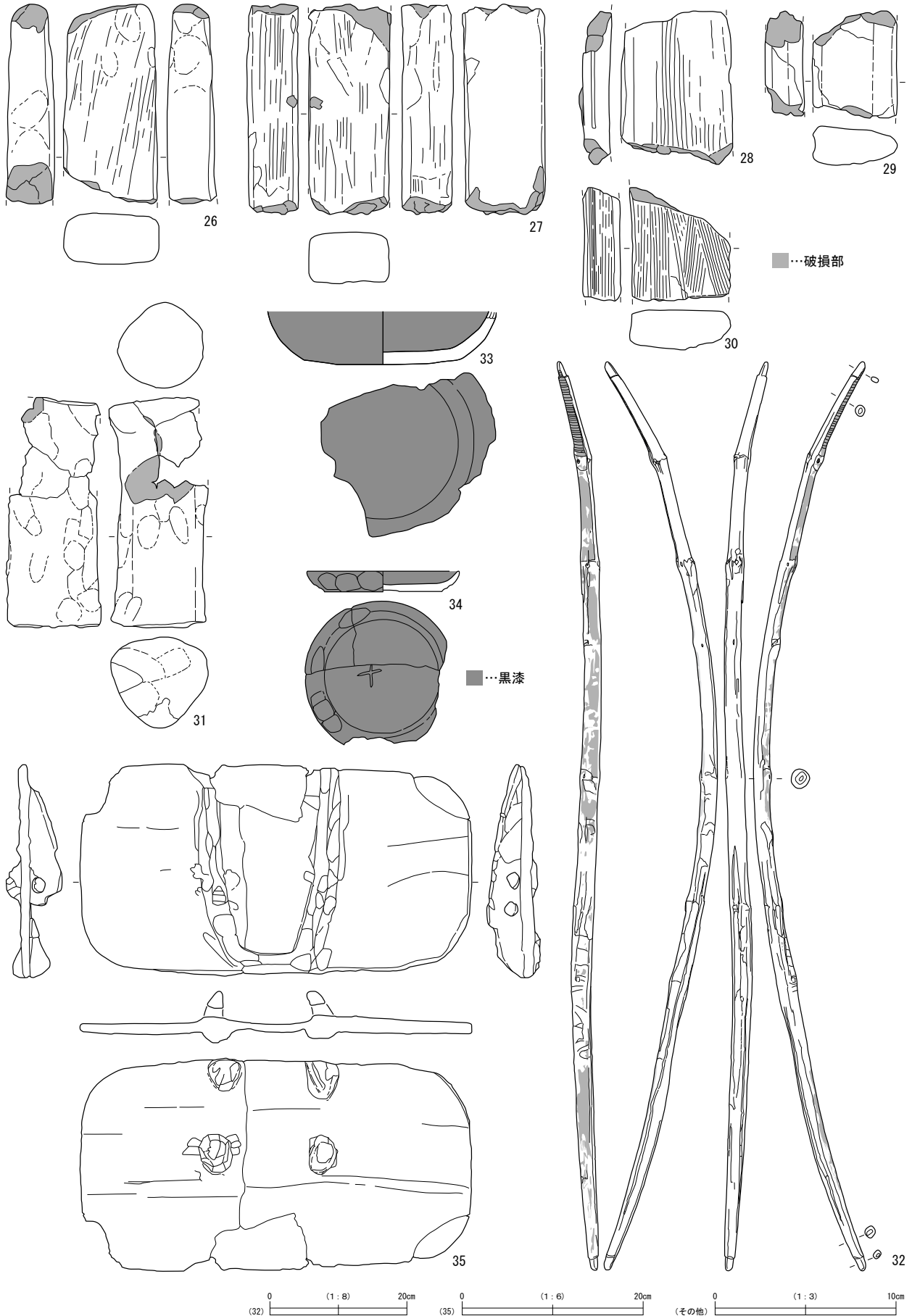


図8 遺物実測図

引用・参考文献

相田泰臣ほか 2012 『林付遺跡第2次調査-新潟市立湯東南小学校体育館建設工事に伴う林付遺跡第2次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
 春日真実 1999 「土器編年と地域性」『新潟県の考古学』高志書院
 春日真実 2003 「越後出土の円筒型土製品・板状土製品について」『富山大学考古学研究室論集 蜃気楼-秋山進午先生古稀記念-』秋山進午先生古稀をお祝いする会、六一書房
 龍田優子ほか 2015 『下新田遺跡 第6・8・9次調査 県営

ほ場整備事業(経営体育成基盤整備型)道上地区に伴う第3・5・6次発掘調査報告書』新潟市教育委員会
 龍田優子 2016 「仲歩切遺跡 第3次調査及び工事立会」『新潟市文化財センター年報』第3号 新潟市文化財センター
 田畑弘ほか 2015 『行屋崎遺跡 一般国道403号(小須戸田上バイパス)道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』田上町教育委員会
 細野高伯・伊比博和ほか 2012 『大沢谷内遺跡 第7・9・11・12・14次調査-一般国道403号小須戸田上バイパス整備工事に伴う大沢谷内遺跡第2・4・6・7・9次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会



3区 弓出土状況



4区 18坑北壁土層

表1 土器観察表

掲載No	出土位置					種別	器種	法量 (cm)			色調	調整・付着物等		遺存率 (/36)		備考
	路線名	区	坑	遺構	層位			口径	底径	器高		内面	外面	口縁部	底部	
1	2-4	3	15		Ⅶ	須恵器	無台杯	124	9.0	2.9	灰 (N6/)	ロクロナデ	ロクロナデ	20	36	
2	8	5	18		Ⅶ	須恵器	無台杯	117	8.0	2.8	黄灰 (2.5Y6/1)	スス付着	スス付着	6	20	
3	2-5	7	25		Ⅶ	須恵器	無台杯	130	9.0	3.5	灰 (N6/)	ロクロナデ	ロクロナデ	7	36	
4	8	5	18		Ⅶ	須恵器	無台杯	120	7.5	3.7	灰 (7.5Y6/1)	ロクロナデ	ロクロナデ	25	36	底面ヘラケズリ
5	8	5	28	SD68	1	須恵器	無台杯		8.0	(1.2)	灰 (N5/)				7	墨書「宅□」
6	2-5	6	53		Ⅶ	須恵器	無台杯		7.0		灰 (7.5Y6/)					墨書「□」
7	8	5	20		Ⅶ	須恵器	杯蓋	160		3.6	黄灰 (2.5Y6/)	ロクロナデ	ロクロナデ・ケズリ	36		
8	16	4	17	SD48		須恵器	有台杯	140	9.0	4.0	黄灰 (2.5Y6/1)	ロクロナデ	ロクロナデ	2	8	
9	2-4	3	16		Ⅶ	須恵器	有台杯	160		(5.5)	灰 (5Y4/1)	ロクロナデ	ロクロナデ	7		内面自然釉
10	2-5	6	72		Ⅶ	須恵器	有台杯	100			灰 (N6/)	ロクロナデ	ロクロナデ	6		
11	16	4	9		Ⅶ	須恵器	仏鉢形土器	200		(8.6)	灰白 (2.5Y8/)	ロクロナデ	ロクロナデ	3		
12	16	4	25	SD47	1	須恵器	短頸壺	110		(3.0)	灰 (5Y6/1)	ロクロナデ	ロクロナデ	4		外面自然釉
13	2-5	6	32	SK51		須恵器	壺		130		灰 (5Y5/1)	ロクロナデ	ロクロナデ		16	
14	2-5	6	21		Ⅶ~XIII	須恵器	大甕				黄灰 (2.5Y6/1)	ロクロナデ	ロクロナデ			
15	18	2	2			土師器	長甕	200	100	(23.0)	浅黄 (2.5Y7/4)	ハケメ・スス付着	ハケメ・スス付着	2	5	
16	8	5	19		Ⅶ	土師器	長甕	140		(9.2)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	ハケメ・ミガキ	ハケメ・ミガキ	9		
17	8	5	19		Ⅶ	土師器	長甕	180		(5.2)	明黄褐 (10YR6/6)	ハケメ・スス付着	ハケメ・ロクロナデ	4		
18	2-5	7	48		Ⅶ	土師器	瓶		8.4		にぶい黄橙 (10YR7/3)	指頭圧痕				
19	16	4	9		Ⅶ	土師器	長甕	242		(8.0)	黄橙 (10YR8/6)	カキメ		3		
20	16	4	8	SX2	1	土師器	長甕	153			にぶい黄橙 (10YR7/2)	カキメ	カキメ・スス付着	9		
21	2-5	6	21		XIII	土師器	無台碗	113	5.0	4.0	橙 (7.5YR7/6)	ロクロナデ	ロクロナデ	5	15	回転糸切
22	2-4	3	11		Ⅶ	土師器	手づくね	6.0	5.0	2.2	にぶい黄橙 (10YR7/4)	指頭圧痕	指頭圧痕	3	4	
23	8	5	24	SD66	1	中世土師器	手づくね皿	11.0		(3.5)	明黄褐 (10YR7/4)	ナデ・スス付着	ケズリ・ロクロナデ・スス付着	7		
24	2-5	6	35	SE52		中世土師器	柱状高台		5.0	(2.7)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	スス付着			21	回転糸切
25	2-4	3	26		Ⅶ	中世土師器	手づくね皿	9.4	7.0	1.7	にぶい橙 (7.5YR7/3)	ナデ・スス付着	指頭圧痕・スス付着	6	8	ヘラ切

表2 土製品観察表

掲載No	出土位置				器種	胎土含有物	法量				備考
	路線名	区割	遺構	層位			長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
26	2-4	3-10		Ⅶ	板状土製品	石・長・雲・海	10.9	5.2	2.8	179.0	ハケメ
27	2-4	3-12		Ⅶ	板状土製品	石・長・チ・角	11.5	4.4	2.8	217.0	ハケメ
28	2-4	3-16		Ⅶ	板状土製品	石・長・角	6.1	8.4	1.7	87.0	ハケメ
29	2-4	3-16		Ⅶ	板状土製品	石・長・雲・チ・海	4.7	5.8	2.2	57.0	ハケメ
30	8	5-18		Ⅶ	板状土製品	石・雲・チ・海	5.9	6.2	2.1	64.0	ハケメ
31	2-4	3-23		Ⅶ	土製支脚	石・長・チ	12.6	5.4	4.7	292.0	指頭圧痕

表3 木製品観察表

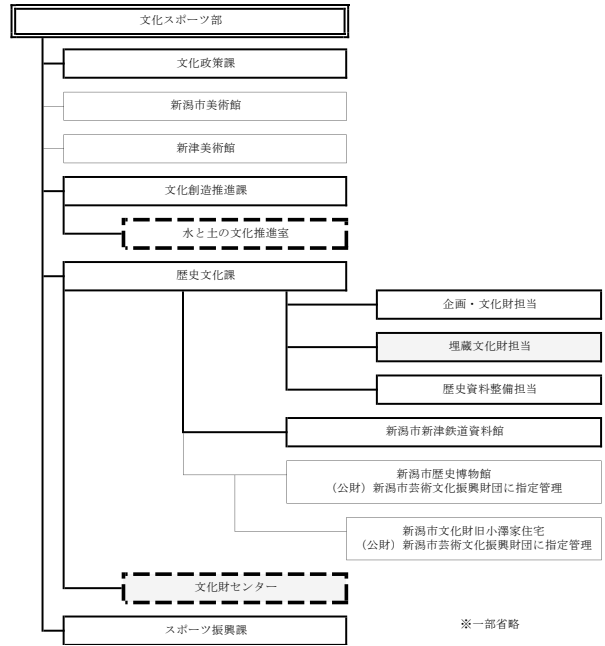
掲載No	出土位置					器種	樹種	木取り	法量			備考
	路線名	区	坑	遺構	層位				長さ/口径 (cm)	幅/底径 (cm)	厚さ/器高 (cm)	
32	2-4	3	32		Ⅶ	弓	イヌガヤ	丸木	132.9	2.8	-	
33	2-5	6	29	SE44		漆器柄	広葉樹	横木取		8.4		黒漆
34	2-5	6	29	SE44		漆器皿	広葉樹	横木取	8.4	6.4	1.1	黒漆
35	2-5	6	29	SE44		田下駄	広葉樹	板目	23.2	42.8	1.8	

【引用・参考文献】

- 相田泰臣・金田拓也^{ほか} 2017 『国史跡 古津八幡山遺跡 保存活用計画』 新潟市教育委員会
- 今井さやか 2014a 「Ⅲ 7 教育普及活動」『新潟市文化財センター年報－平成23（2011）年度・平成24（2012）年度版－』第1号 新潟市文化財センター
- 今井さやか 2014b 「Ⅲ 8 保存処理」『新潟市文化財センター年報－平成23（2011）年度・平成24（2012）年度版－』第1号 新潟市文化財センター
- 新潟市文化財センター 2020 『令和元年度 史跡古津八幡山 弥生の丘展示館 企画展関連講演会 記録集』
- 渡邊朋和 2014a 「Ⅰ 新潟市の埋蔵文化財保護行政について」『新潟市文化財センター年報－平成23（2011）年度・平成24（2012）年度版－』第1号 新潟市文化財センター
- 渡邊朋和 2014b 「Ⅲ 6 資料の収蔵・保管」『新潟市文化財センター年報－平成23（2011）年度・平成24（2012）年度版－』第1号 新潟市文化財センター
- 渡邊朋和 2014c 「Ⅴ 1 史跡古津八幡山遺跡保存活用事業の概要」『新潟市文化財センター年報－平成23（2011）年度・平成24（2012）年度版－』第1号 新潟市文化財センター
- 渡邊朋和・八藤後智人^{ほか} 2014 『新潟市文化財センター年報－平成23（2011）年度・平成24（2012）年度版－』第1号 新潟市文化財センター

令和元年度文化財センター・歴史文化課埋蔵文化財担当職員名簿

文化財センター		
所長 (学芸員)	渡邊 朋和	統括・埋蔵文化財
主幹	天野 泰伸	事務
主幹 (学芸員)	遠藤 恭雄	埋蔵文化財
主査 (学芸員)	立木 宏明	埋蔵文化財
主査	飯塚 和美	事務
主査 (文化財専門員)	今井 さやか	埋蔵文化財
主査 (学芸員)	相田 泰臣	埋蔵文化財
主査 (文化財専門員)	龍田 優子	埋蔵文化財
主査 (文化財専門員)	相澤 裕子	埋蔵文化財
主事	山縣 美春	事務
主事 (学芸員)	前山 精明	埋蔵文化財
主事 (文化財専門員)	小林 美土里	埋蔵文化財
非常勤職員	新井 順	弥生の丘展示館
非常勤職員	久住 直史	民俗文化財
非常勤職員	澤野 慶子	埋蔵文化財
非常勤職員	田中 耕作	弥生の丘展示館
非常勤職員	奈良 佳子	埋蔵文化財
非常勤職員	八藤後 智人	埋蔵文化財
歴史文化課埋蔵文化財担当		
主幹 (文化財専門員)	朝岡 政康	埋蔵文化財
主査 (文化財専門員)	諫山 えりか	埋蔵文化財
副主査 (文化財専門員)	金田 拓也	埋蔵文化財
副主査 (文化財専門員)	牧野 耕作	埋蔵文化財
主事	島 和幸	事務
非常勤嘱託	古澤 貴子	埋蔵文化財



文化スポーツ部の組織機構図 (令和元年度)

新潟市文化財センター年報 第8号
—令和元（2019）年度版—

2021年3月30日印刷・発行

編集・発行 新潟市文化財センター
〒950-1122 新潟市西区木場2748番地1
電話 025-378-0480

印刷 株式会社ウィザップ
〒950-0963 新潟市中央区南出来島2丁目1-25